

ドラゴンボール超アナ ザー

タカシユン

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

【紹介】

この物語は、宇宙サバイバルから数日後に起きた出来事である。時系列的にプロローグとモロ編の間ドラゴンボールアナザーストーリーなので原作のイメージを壊したくない人は観ない事をオススメします。

【オリジナルキャラクター】

悪の閻魔大王

死神様

悪の神（ダークマター）

サイヤ人キヤツ

サイヤ人レスタ

サダラ王4世

ウロタモモ (死神様になる前の人間)

マシラウ (ダークマターが取り込んだ人間)

ダーク (ダークマターになる前の悪の化身)

【他の作品】

『真・ドラゴンボールZ』 ←

<http://syosetu.org/novel/256605/>

【お知らせ】

YouTubeチャンネル暇つぶch様に小説が紙芝居化されました。下のリンクからチャンネルに飛べます。

暇つぶch ←

<https://www.youtube.com/@DragonBallZ>

紙芝居の再生リスト ←

<https://www.youtube.com/playlist?list=>

P
L
1
U
t
r
s
L
v
b
M
2
|
a
m
o
p
w
l
B
f
K
2
|
w
a
T
u
g
D
f
f
I
i

目次

第1章『あの世とこの世の秩序編』

- | | |
|----------------------------|----|
| 第1話『人造人間セル復活!』 | 1 |
| 第2話『閻魔大王と悪の閻魔大王!』 | 10 |
| 第3話『人造人間セルの進化!』 | 18 |
| 第4話『人造人間セルの挑戦!』 | 25 |
| 第5話『セルvsフリーザ!ゴールド
ン対決!』 | 34 |
| 第6話『フリーザの兄クウラ登場!』 | |
| 第7話『宇宙の2人の帝王!』 | 42 |
| 第8話『新たな宇宙の帝王!』 | 50 |
| 第9話『閻魔大王からの依頼!』 | 60 |
| 第10話『あの世とこの世の秩序!』 | 69 |
| 第11話『ベジータvsジャネンバ!』 | 78 |
| 第12話『スーパージャネンバの脅威
!』 | 85 |
| | 93 |

	第13話『暗黒魔界の誕生秘密!』				
101	第14話『ゴジータブルーvsスーパージャネンバ!』	108			
	第2章『スーパーナメック星人編』				
	第15話『ピッコロ大魔王復活計画!』	118			
	第16話『ピッコロ大魔王行動開始!』	125			
	第17話『ピッコロとピッコロ大魔王!』	133			
143	第18話『ピッコロ大魔王の企み!』				
	第19話『ピッコロvsピッコロ大魔王!』	151			
	第20話『目覚める悪のピッコロ!』	159			
	第21話『孫悟空vsピッコロ(前編)』	168			
	第22話『孫悟空vsピッコロ(後編)』	178			
	第23話『ベジータvsピッコロ!』	187			
	第24話『魔族3勢力による支配!』	197			
	第25話『セル第6宇宙から帰還!』	197			

- 206 第26話『魔族3勢力のガーリックJ
r! (前編)』————— 213
- 第27話『魔族3勢力のガーリックJ
r! (後編)』————— 221
- 229 第28話『魔族3勢力のスラッグ!』
- 第29話『因縁の戦い孫悟飯vsセル
! (前編)』————— 238
- 第30話『因縁の戦い孫悟飯vsセル
! (後編)』————— 248
- 第31話『悲しい師弟対決孫悟飯vs
ピッコロ! (前編)』————— 257
- 第32話『悲しい師弟対決孫悟飯vs
ピッコロ! (中編)』————— 266
- 第33話『悲しい師弟対決孫悟飯vs
ピッコロ! (後編)』————— 275
- 第3章『悪のサイヤ人登場編』
- 284 第34話『別世界からのサイヤ人!』
- 293 第35話『2人のブロリー!』
- 302 第36話『ブロリーvsブロリー!』
- 第37話『新惑星サダラのサイヤ人!』
————— 310

第38話『ベジータ軍との因縁!』

372

320

第39話『超サイヤ人ブルーと超サイ

第45話『ベジータvsクリーザ! (過
去編)』

381

ヤ人4!』

329

第40話『黄金の大猿カンバー!』

第46話『ベジータvsクウラ! (過去
編)』

391

338

第41話『小惑星バンパに帰還!』

第47話『悟空そっくりのサイヤ人!』

400

347

第42話『ブロリーvsカンバー!』

第48話『フリーザ兄弟の復讐! (前
編)』

411

356

第43話『ブロリーvsブロリー再び

第49話『フリーザ兄弟の復讐! (後
編)』

420

!』

364

第44話『ビルスvsブロリー!』

第50話『ベジータvsターレス!』

483	第56話『カカロットと家族!』	475	第55話『バーダックとギネ!』	429	第51話『復活のカカロット!』
				447	第52話『カカロットの両親!』
					第53話『カカロットの父親バーダック!』
					ク!』
					第54話『ベジータvsバーダック!』
		466		456	
					!
					第57話『バーダックvsカカロット
					!(前編)』
					第58話『バーダックvsカカロット
					!(中編)』
					第59話『バーダックvsカカロット
					!(後編)』
					第60話『バーダックとギネとの別れ
					!』
					第5章『復習の人造人間編』
					第61話『人造人間セルと人造人間2
					1号!』
					1号!』
534	第62話『人造人間の復讐開始!』	526			

第63話『人造人間合体13号!』

542

第64話『エイジ780年の並行世界

! (前編)』

550

第65話『エイジ780年の並行世界

! (中編)』

558

第66話『エイジ780年の並行世界

! (後編)』

565

第67話『人造人間合体13号の脅威

!』

572

第68話『人造人間21号のお菓子計

画! (前編)』

580

第69話『人造人間21号のお菓子計

画! (中編)』

588

第70話『人造人間21号のお菓子計

画! (後編)』

595

第71話『セル新たな進化! (前編)』

602

第72話『セル新たな進化! (後編)』

610

第6章『2人の宇宙の帝王編』

第73話『フリーザ軍新惑星サダラ襲

撃!』

619

第74話『新惑星サダラからのSOS

!』

627

第75話『ダークマター復活カウント

の始まり!』	636	第82話『2人のゴジータvsブ リー! (後編)』	693
第76話『新惑星サダラそれぞれの戦 い!』	643	第83話『惑星オアシスと新惑星サダ ラ!』	701
第77話『新惑星サダラの戦いブ ロ―登場!』	652	第7章『惑星ダークの戦い編』	
第78話『ゴールデンデスボール再び !』	660	第84話『遂に動き出すダークマター !』	708
第79話『新惑星サダラの戦いブ ロ―参戦!』	669	第85話『魔人ブウ(善)vs魔人ブウ (悪) !』	717
第80話『ブロリーvsゴールデンメ タルクウラ!』	677	第86話『ダークマターとは?』	725
第81話『2人のゴジータvsブ ロ―! (前編)』	685	第87話『フリーザ兄弟vs魔人ブウ ! (前編)』	733

- 第88話『フリーザ兄弟vs魔人ブウ
! (中編)』—— 741
- 第89話『フリーザ兄弟vs魔人ブウ
! (後編)』—— 750
- 第90話『魔人ブウ(純粋)の脅威!』
—— 757
- 第91話『ダークマターとの因縁!』
766
- 第92話『ダークマターとの決戦前夜
! (前編)』—— 773
- 第93話『ダークマターとの決戦前夜
! (後編)』—— 782
- 第94話『惑星ダークそれぞれの戦い
—— 843
- 第95話『惑星ダークそれぞれの戦い
! (前編)』—— 792
- 第96話『惑星ダークそれぞれの戦い
! (中編)』—— 801
- 第97話『惑星ダークそれぞれの戦い
! (後編)』—— 808
- 第98話『惑星ダークの戦いサイヤ人
戦!』—— 817
- 第99話『惑星ダークの戦い宇宙の帝
王!』—— 825
- 第100話『惑星ダークの戦いハツチ
!』—— 834
- 第101話『惑星ダークの戦いハツチ
ヒヤックベビー! (前編)』—— 843

- 第101話『惑星ダークの戦いハッチ
ヒヤックベビー! (中編)』 851
- 第102話『惑星ダークの戦いハッチ
ヒヤックベビー! (後編)』 859
- 第8章『惑星ダークの戦い邪悪龍編』
- 第103話『惑星ダークの最深部!』 868
- 第104話『ドラゴンボールの邪悪龍
誕生!』 876
- 第105話『ドラゴンボールの二星龍
と五星龍!』 884
- 第106話『ドラゴンボールの六星龍
と七星龍!』 893
- 第107話『ドラゴンボールの三星龍
と四星龍!』 901
- 第108話『ドラゴンボールの超一星
龍!』 910
- 第109話『ゴジータブルールvs超一
星龍!』 919
- 第110話『孫悟空と四星龍の作戦!』 928
- 第111話『身勝手の極意発動、一星龍
の最後!』 936
- 第9章『最終決戦ダークマターとの戦い
編』(最終章)
- 第112話『破壊神vsダークマター』

(前編)！』 945

第113話『破壊神vsダークマター』

(後編)！』 954

第114話『全王様vsダークマター』

！』 963

第115話『ザマスvsダークマター』

！(過去編)』 972

第116話『オーツキ星と死神様！(過去編)』

979

第117話『ダークマターのカラクリ』

！』 987

第118話『死神様とダークマター！』

995

第119話『ベジットvsダークジャ

ネンブウ(前編)！』 1003

第120話『ベジットvsダークジャ

ネンブウ(後編)！』最終回 1011

第1章 『あの世とこの世の秩序編』

第1話 『人造人間セル復活!』

あらすじ

「8つの宇宙の運命をかけた力の大会が終わり、

第七宇宙では平和が訪れたのであった。

しかし、あの世とこの世の世界ではとんでもないことが
今、起きようとしていた。」

——あの世の地獄——

セル

「また、妖精どものパレードか！

孫悟飯に倒され、

どれほど時間が経ったのか？」

※セルもフリーザ同様にミノムシ状態になっています。

謎の閻魔

「セルよ、地獄から出たいか？」

セル

「ん? 誰だ?

何者だ? . . . 気のせいかな!

謎の閻魔

「気のせいではない!」

セル

「どこに居る?

誰だ、私の心に話しかけるのは?」

謎の閻魔

「私の正体など、どうでも良い!

お前は質問に答えろ!」

セル

「あー、地獄から出て今度こそ、孫悟飯を倒す!」

謎の閻魔

「よかろう、地獄から出してやる!」

セル

「なんだと?」

貴様は何者だ？」

謎の閻魔

「お前は私の質問に答えた！

褒美に教えてやろう！

私は悪の閻魔大王だ！

お前の知る閻魔大王と対をなす存在だ！」

セル

「ほうー！」

悪の閻魔大王

「しかし、今のお前では、

孫悟飯どころか復活した

孫悟空やフリーザにすら勝てんだろう！」

セル

「孫悟空とフリーザだと？

奴らは死んだはずだ！

フリーザは未来からやって来たトランクスが倒し、

孫悟空はこの私が倒した！」

悪の閻魔大王

「確かにな！」

だが、お前が死んでいる間に孫悟空は、

老界王神様の命と交換して生き帰り、

フリーザは私が操ったフリーザ軍の残党を使い

ドラゴンボールを集め蘇らせた！

だが、お前はフリーザと違い生き返らせてくれる部下もいない！

セル

(私の部下か！そういえば、あの三体なら！)

悪の閻魔大王

「まあ、ドクターゲロに匹敵する科学者でもいたら、

セルよ貴様を超える人造人間だって作れるだろう！」

セル

「ドクターゲロに匹敵する科学者など

カプセルコーポレーションの

ブリーブ博士やブルマぐらいのもんだろう！」

悪の閻魔大王

「いや、ドクターゲロには孫をいて、

人造人間を作る技術がある！

いずれ、レッドリボン軍の復活を企む連中に接触するだろう！」

セル

「ゲロに孫が居たんだな！

まあ、どうでも良い事だ！」

悪の閻魔大王

「ああー！」

セル

「孫悟空はサイヤ人だ、だから修行をすれば私を超えるだろう！

しかし、フリーザが私より強いとはどういうことだ？」

悪の閻魔大王

「フリーザは、孫悟空への復讐のため、

トレーニングを積み新たな変身を身に付けた！

ゴールデンフリーザと言われている！」

セル

「ゴールデンフリーザ？」

なんだか安っぽいネーミングだな!

まるであの時のスーパーベジータみたいだな!

だが、私にもフリーザの細胞がある、

確かに奴がトレーニングをしたらヤバそうだ!

なら私もトレーニングをしたらフリーザを超えるはずだ!

悪の閻魔大王、ここから出せ!

悪の閻魔大王

「存分に暴れるが良い!」

セル

「待っているろ、孫悟飯!

必ず貴様を倒す!」

—— 界王神界 ——

老界王神

「悪の閻魔大王が動き出したか!」

老界王神

(だが、いつもと悪の閻魔大王の様子がおかしいのう!)

界王神

「ご先祖さま、悪の閻魔大王ってなんですか？」

老界王神

「近ごろの若いもんは、ホント勉強せんもう！」

界王神

「すいません！」

老界王神

「悪の閻魔大王とはな、

お前もよく知る閻魔大王と対をなす存在でな、

どちらも死神様に役目を与えられておるんじや！」

閻魔大王は死者の魂を天国か地獄に決める役目を与えられ、

悪の閻魔大王はな、あの世とこの世の秩序の為に、

あの世に維持できる悪の気が限界を超えると、

地獄の悪人をこの世に復活させる役目を与えらとるんじや！」

界王神

「死神様ってなんですか？」

老界王神

「最初に死んだどこかの惑星の神じやよ！」

界王よりは地位は低いが噂では

強さは魔人ブウ以上と言われとる!」

界王神

「そんな強い方なんですわね!」

老界王神

「話が逸れたが、悪の閻魔大王は先程、

悪人を誰か蘇らせたようじゃな!」

——地球のどこか——

セル

「ここは何処だ?」

そうか、私は生き返ったんだったな!

私にも仲間が欲しい!

まだヤツらは動いてないはずだ!」

セルは気を消しとある場所に向かう

——地球の北の都——

セル

「確かドクターゲロの研究所はこの辺にあったな!

ほう、随分とトランク스에壞されてるな！

この次元の私は誕生しないが、13号達なら！」

第2話 『閻魔大王と悪の閻魔大王!』

あらすじ

「かつての強敵セルが悪の閻魔大王に

導かれこの世に復活した。

そして、まだ起動していない人造人間を

起動させようとしていたのであった。」

——地球の北の都にあるドクターゲロの研究所——

セル

「気分はどうだ？」

13号、14号、15号!」

13号

「何者だアンタは?」

セル

「私は未来の世界からやって来た人造人間セルだ!」

13号

「なに？アナタが我らのリーダーのセル様？」

セル

「なるほど！」

確かお前たちには、孫悟空の抹殺以外に

私の命令を聞くという

プログラムも組み込まれていたな！」

13号

「はい！その通りです！」

セル

「では、孫悟空の抹殺は

しばらくやめて私の命令で動いてもらう！」

13号

「わかりました！」

14号、15号それで良いな！」

14号と15号

「はい！」

セル

「さてと、孫悟空達を偵察に…ん？」

悪の閻魔大王

「どうだセルよ！」

生き返った感想は！」

セル

「実に素晴らしい事だ！」

生き返るとは、こんなに気分が良いとはな！」

悪の閻魔大王

「で、セルよ！」

これからどうする？

私としてはせっかく生き返った悪人が

すぐに消されるのはいやでね！」

セル

「私はトレーニングを積んで真の進化を手に入れるつもりだ！」

しかし、強くなりすぎると戦いがつまらなくなる！」

だから、私達は今から奴らの力を確かめに偵察に行くつもりだ！」

その後、今後の目標を決めるつもりだ！」

悪の閻魔大王

「ほう！」

やはりお前を蘇らせて正解だった！

しかし、ドクターゲロの遺産である13号達を起動するとは思わなかった！」

セル

「しらじらしいことを！」

フリーザの部下の事を話したら

私が13号達を起動するとわかっていたんだらう？」

悪の閻魔大王

「ふん！」

セル

「まあ良い！」

それより孫悟空の気を感じないが？」

悪の閻魔大王

「神の気を使っているんだらう！」

セルよ、氷の大陸に行け！

孫悟空とフリーザが戦うやもしれん！

健闘を祈るさらばだ！」

セル

「氷の大陸かあ！」

行ってみるか！

お前たちも来るんだ！」

13号と14号と15号

「はい！」

——あの世の閻魔界——

閻魔大王

「悪の閻魔大王め！」

クウラに続き、セルまで！」

閻魔大王は、過去の回想シーンに入る

悟空が魔人ブウを倒した頃（エイジ774）

※この回想シーンの会話は第89話にてカギとなる話となります。

第89話 <https://syosetu.org/novel/240373/>

89.html

悪の閻魔大王

「久しぶりだな！善閻魔！」

閻魔大王

「もう起きたのか、悪閻魔！」

悪の閻魔大王

「また近いうちに、何人か地獄から悪人を出すぞ！」

閻魔大王

「もう一万年も経過したのか！」

悪の閻魔大王

「なんだね、不満そうだな！」

まあ、あの世の審判を下すお前からしたら

地獄の悪人をこの世に解放するのは気分の良い話ではないな！

だが、これはあの世とこの世の善悪の秩序の為だ！」

閻魔大王

「わかっておる！」

で、誰を復活させるつもりだ！」

悪の閻魔大王

「まだ、地獄を覗いてないからな！」

で、復活させてはいけない悪人は誰だ？」

閻魔大王

「魔人ブウだ！」

悪の閻魔大王

「なに、あの魔人ブウが死んだのか？」

倒せる人間が現れたのか！

まあ、魔人ブウは宇宙にとって危険な存在だから止めておこう！」

閻魔大王

「それに、魔人ブウは死の直前にこれまでの悪事を反省したのか、

もう少して魂が浄化され別の生命体に生まれ変わるところだ！」

悪の閻魔大王

「まさか魔人ブウを追い詰める者が現れるとはな！」

まあ、どうでも良い！地獄に行くてくる！」

その後、悪の閻魔大王はフリーザ軍の残党のリーダーであるソルベを操り、

ドラゴンボールでフリーザを蘇らせ、

そして現代、自らの能力でセルを蘇らせたのである

閻魔大王の回想シーン終わる

閻魔大王

「悟空に伝えるか？」

でも、これはあの世とこの世の秩序の為だし！

今は黙っておこう！」

——地球の氷の大陸——

※時を同じく氷の大陸に着いたセルは、孫悟空たちの戦いを見ていた！

映画ドラゴンボール超ブロリーのタイミング

セル

「あのサイヤ人はかなりの戦闘力だ！

はつきり言ってる私では勝てん！」

フリーザはあのサイヤ人を味方にしようと考えていたようだが、

まさかサイヤ人の生き残りがいるとはな！

そして、孫悟空とベジータの青いスーパーサイヤ人から気を感じなかった！

あれが悪の閻魔が言っていた神の気とやらか！

しかし孫悟空とベジータの合体した戦士はあれは厄介だ！

更なる強化が必要だな！」

第3話 『人造人間セルの進化!』

あらすじ

「悪の閻魔大王によって生き返ったセルは、

人造人間13号達を起動させ、

悟空やベジータの進化を見て

トレーニングに励むのだった。」

——宇宙のどこかの惑星——

セル

「あれから私は強くはなったが、

あのブロリーというサイヤ人には遠く及ばんな!

そして、孫悟空とベジータが使っていた気の感じないあの青い超サイヤ人、

恐らく今まで通りのトレーニングでは神の気とやらは身につかんか!

そしてフリーザの細胞も強くなったがゴールデンにはなれない!

やはり、私の中にあるサイヤ人とフリーザの細胞が拒絶反応を起こし

パワーアップの妨げになってるようだな!

ならどうする？

「過去に移動し17号達を再び吸収し私自身のパワーを上げるか？」

謎の天使

「時間の安易の移動は、いけませんよ！」

セル

「誰だ！」

謎の天使

「わたくし、ウイスと申します！」

破壊神ビルス様に命じられアナタを鍛えに来ました！」

セル

「お前は確か、氷の大陸で孫悟空達と一緒にいた

気を感じない謎の人物か！」

ウイス

「あの時、アナタの存在に気づいてたのは私と

地球で昼寝をしていたビルス様ぐらいでしょうね！」

セル

「この私を鍛えるとはどういう意味だ？」

ウイス

「言葉の通りですよ！」

「あなたは悟空さんやフリーザさんを超える素質を持ちながら、何故彼らを越えられないか理由はわかりますか？」

セル

「私には色んな細胞があつて、

細胞同士が拒否反応を起こしているからだ！」

ウイス

「そりゃ、そうでしょうね！」

「だって、あなた、サイヤ人用のトレーニングと

フリーザ用のトレーニングを両方してるからですよ！」

「彼らのマネをしても結局、偽物のあなたは絶対強くなれませんよ！」

セル

「ならどうすれば良い！」

ウイス

「私の下で修行すれば強くなれますよ！」

「彼らを超えるかはあなた次第ですが！」

セル

「良いだろう！」

私が強くなるまでお前の下で修行してやる！」

ビルスの星に移動

——ビルスの星——

ビルス

「キミがセルか！」

ホント面白いね！」

セル

（コイツが破壊神か！

初めて会ったのにこの私が恐怖？

そうか、私の細胞にあるベジータやフリーザの細胞が

コイツを危険と言っているのか！）

ビルス

「それにしてもホント面白いね！」

キミからは、悟空やベジータ、フリーザに父親のコルドの気を感じるよ！

お前が強くなればアイツらを超えるかもね！

ボクの暇つぶしの相手にもなるかも!」

ビルスとウイスは、数日前の回想シーンに入る

ビルス

「珍しいじゃないか、

キミ達からはボクに会いに来るなんて!

なんだい、面倒事はゴメンだよ!」

界王神

「ビルス様も気づいてますか?

悪の閻魔大王が動き出したのを!」

ビルス

「そしてみたいだね!

まあ、ボクには関係ないけどね!」

老界王神

「関係大ありじゃ!」

もしも、悪の閻魔大王が復活させた悪人を

ビルス様の機嫌次第で消されもしたら、

あの世とこの世は大変な事になってしまうから注意しに来たんじゃ!」

ビルス

「あの世とこの世がどうなるう知ったことか！

ボクは破壊神だ！」

ウイス

「でもビルス様、

あの世とこの世がむちゃくちゃになつた事を

全王様にバレたら即宇宙消滅もありえますよ！」

ビルス

「な、なに？

それは大変だ！

おい、界王神生き返つたのはどんな奴だ！」

界王神

「確か、悟空さん達が倒したセルという人物です！

といつても、どういった悪人がよく知らないんですよね！」

ビルス

「コイツか！

奴から色んな気を感じるね！

おい、ウイス奴の過去をさぐれ！」

ウイスの杖でセルの過去を探る

ビルス

「ほう！」

ビルスとウイスの回想シーンは終わる

ビルス

「流石は悟空やフリーザの細胞があるだけあつて飲み込みが早いね！」

今のキミなら悟空やフリーザといい戦いくんじやない！」

セル

「ビルス様とウイスさんには感謝する！」

まさか1週間ほどでここまで強くなれるとは思わなかった！」

では、孫悟空たちに挑む前にフリーザに戦いを挑もうと思う！」

第4話 『人造人間セルの挑戦！』

あらすじ

「ウイスの下でトレーニングをしていた

セルは新たな力を手に入れ、

自分の力を試すべく、フリーザそして孫悟空に
戦いを挑戦しようとしていたのである。」

—— ビルスの星 ——

セル

「ビルス様にウイスさん、

世話になったな！

では、行ってくる！」

セルは瞬間移動で移動

ウイス

「ビルス様、

セルさん行っちゃいましたね！」

ビルス

「ああ！アイツはもつと強くなる！」

しかし、セルだったか？

「そこまで悪人という訳ではなかったな！」

ウイス

「そうですね！」

しかし、ビルス様があの者を鍛えると仰った時は、驚きましたよ！」

ビルス

「ボクの気まぐれさ！」

—— 地球のどこか ——

13号

「セル様、おかえりなさいませ！」

セル

「孫悟空達の様子はどうか？」

13号

「急激なパワーアップは無いようです！」

セル

「そうか！」

私はこれからフリーザに会いに宇宙に行く！

お前たちも来い！

フリーザ軍の宇宙船に監視用スパイロボをセットしたい！」

——宇宙のどこか——

フリーザ

「どいつもこいつも私を」

チビだと馬鹿にしやがって！」

ベリブル

「フリーザ様、また、兵士を殺されましたね！」

フリーザ

「私のことをチビだと馬鹿にするからですよ！」

パパみたいには無理でも

クウラぐらいの身長が欲しかったですよ！」

キコノ

「フリーザ様！」

何者かがこちらにやって来ます！」

フリーザ

「ほう、まだボクに逆らう命知らずの馬鹿が居るようですね!

良いでしょう!

私は今虫の居所が悪いです!

自ら相手しましょう!」

セル

「お前がフリーザか?」

※ドラゴンボールZやGTやゲームなどではセルとフリーザが共演してましたが、

この世界線ではゲーム版ドラゴンボールファイターズのように初対面でございます

!

フリーザ

「何者です?」

セル

「私はお前の兄弟だ!」

フリーザ

「はあ?」

「何を言ってるんですか?」

セル

「私は地球のドクターゲロが使っていた

コンピュータが独自に作られた人造人間セルだ！

私にはお前やお前の親父に

孫悟空とベジータの細胞が含まれてる！」

フリーザ

「なるほど！」

兄弟とはそういう意味ですか！

17号さん達のお仲間ですか？」

セル

「仲間だと？」

そうとも言えるが違うな！

私には17号と18号の力が備わっている！

これは細胞では無いがね」

フリーザ

「ほう！」

地球にはベジータの妻のように天才的な科学者が他にも居たんですね！

しかしアナタみたいな醜い生物に私の細胞が含まれてるなんて気にいりませんね!

ですが、孫悟空とベジータの2人を同時に相手にするのは正直、

私にはキツイから、強い仲間が欲しいと思っていました!

セルさん、どうです?

私と手を組みませんか?」

セル

「手を組むだど? 断る!

お前から提案してくる場合、

相手が油断したところを狙って

後から必ず裏切るはずだ!

私にはお前の細胞があるんだ!」

フリーザ

「なるほど! バレましたか!

それは残念です!

では、ここに何しに来たのですか?」

セル

「決まっているだろ!

お前と戦いに来たのだ！

最も、この戦いたい気持ちは、サイヤ人の細胞による物だがな！」

フリーザ

「つまり、アナタは私だけでなく、

孫悟空とベジータの細胞がある為、

それぞれの弱点を知っていると？

それは素晴らしい戦い相手ですね！

喜んで相手しましょう！」

そして戦いが始まる

セル

「なるほど！」

私の中にあるお前の細胞はやはり古いようだな！」

フリーザ

「ん？アナタの中の細胞はいつの私ですか？」

セル

「お前が地球にやって来た時に、

未来からやって来たトランクスに殺られた時の細胞だ！」

フリーザ

「トランクス? あいつか?

ん、未来?

未来から来ただと?」

セルはタイムマシンの事などをフリーザに説明する
フリーザ

「つまり、私は未来からやって来た

ベジータの息子に殺されたんですね!

しかし、タイムマシンには興味がありますね!」

セル

「最も、お前は本来の歴史では

孫悟空に倒される運命だった!

しかし、私が未来から来た事で

お前を倒す相手が変わってしまった!

そして、私が未来から来た事で未来トランクスと

この世界のトランクスは別人になったようだがな!

まあ、どうでも良いことだ!

それより戦いの続きを始めろぞ！
フリーザ「良いでしょう！」

第5話 『セル v s フリーザ! ゴールデン対決!』

あらすじ

「ウイスの下で修行を終えたセルは、

セルは新たな力を手に入れ、

自分の力を試すべく、

フリーザに戦いを挑んだのであった。」

—— 宇宙のどこか ——

フリーザ

「やりますね！」

「もしやアナタも1度死んだんですか？」

セル

「それがどうした?」

フリーザ

「アナタからは私と似た物を感じましてね!

生き返ってトレーニングでもしましたね?」

セル

「せっかく地獄から生還したんだ！

二度とあの地獄に戻らないようにトレーニングしたんだ！

お前には想像できない地獄だ！

せいぜいお前の地獄は妖精のパレードぐらいがお似合いだろ！

私はお前が体験した地獄以外にも色んな地獄を体験させられた！

私には複数細胞がある為かそれぞれに対応した地獄をな！

複数細胞があることに後悔したぜ！」

フリーザ

「それはそれは、お互い大変な地獄でしたね！

ならこの私が、あなたを地獄に送り返してあげましょう！」

セル

「やれるものなら、やってみろ！

代わりに私がお前を地獄に

送り返してやろう！」

フリーザ

「アナタには無理です！」

さあ、お喋りはここまでです!

私の真のパワーを見るが良い!」

フリーザはゴールデンフリーザに変身する

セル

「それが噂のゴールデンフリーザか!

なら私も少し本気を出そう!」

セルは気を貯める

——地球のブルマの家——

孫悟飯

「この気はセル?」

孫悟空

「あいつ、復活したのか?」

しかもフリーザと戦ってるみたいだな!」

孫悟飯

「ボクが以前倒した時よりセルはパワーアップしてますね!」

孫悟空

「ああ、セルの奴もフリーザみたいに復活して修行したみたいだな!

ちよつと行つてみるか！」

ベジータ

「待てカカロット！」

セルはオレが倒す！

お前はセルところに案内しろ！」

孫悟空

「ベジータ気づいてたのか！」

ちよつと待つてくれ、セルはオラが倒す！

オラは前にセルに負けたんだぞ！」

ベジータ

「ふざけるなカカロット！」

セルはオレが倒す！あ

の時は悟飯に倒されたが、今度はこのオレが倒す！」

悟空とベジータはどつちがセルを倒すか揉めていた

——宇宙のどこか——

フリーザ

「セルさん、流石ですね！」

私と互角とは恐れ入ります!

しかし、勝つのはこのフリーザですよ!」

セル

「私がお前と互角?」

私がかこれで本気だと思っただか?

少し本気を出すと言っただが本気を出すとは一度も言っただがな!」

フリーザ

「なんだと?」

まだ力を隠してると?」

セル

「さっきも言っただが!」

私にはお前の細胞があると!」

フリーザ

「まさか、アナタも私と同じように、

ゴールデンになれるんですか?」

セル

「当たり前だ!」

一応、言っておこう！

孫悟空やベジータが使っているスーパーサイヤ人ブルーとやらも使うことができるが、

今回はゴールデン対決と行こうじゃないか！」

セルはゴールデンセルへと変身するを始める！

——地球のブルマの家——

孫悟空

「これはセルがゴールデンフリーザみたいな気になったぞ！」

ベジータ

「カカロット早く瞬間移動で連れて行け！」

孫悟空

「ああ！」

悟飯、ベジータ、オラに捕まれ！」

ビルス

「待て孫悟空！」

孫悟空

「ビルス様！」

——宇宙のどこか——

セル

「さて第2ラウンドと行くか！」

フリーザ

「同じゴールデンなら

オリジナルの私の方が強いはずです！

覚悟なさい！」

フリーザとセルのゴールデン対決が始まった
初めはフリーザの方が圧倒していた、しかし

フリーザ

「バカな！私が負けているだろ？」

セル

「お前では私には勝てん！」

フリーザ

「クソ！オレはフリーザだ！」

お前はオレに殺されるべきなんだ！」

フリーザは強力な気功波をセルに放った！

セル

「今のは、効いたぞ！」

だが、やはり私はお前より強くなったようだな！」

フリーザ

「ちくしょう！」

フリーザに似た男

「手こずってるようだな！」

フリーザ！」

フリーザ

「お前は？」

第6話『フリーザの兄クウラ登場!』

あらすじ

「セルとフリーザのゴールデン対決が

始まる中、フリーザの前に

突如フリーザそっくりの男が

現れるのであった。」

——宇宙のどこか——

セル

「貴様はフリーザの兄のクウラだな？」

フリーザ

「兄さん、どうしてここに？」

クウラ

「久しぶりにお前に会いたいと思ってな！」

それより、その貴様、なぜオレの名を知る？」

セル

「私にはフリーザの細胞があつてな！」

フリーザの細胞の記憶が

お前をフリーザの兄クウラと教えた！」

クウラ

「なるほど！強者の細胞を集めた生命体か！

しかし、このオレの細胞は無いようだな！」

セル

「ふん！貴様の細胞が無くても、

フリーザやお前の親父の細胞だけで十分だ！」

クウラ

「このオレも舐められたものだな！」

言つておくがオレは親父より強いぞ！

親父は第2形態までしか変身できないからな！」

フリーザ

「兄さん、貴方にはセルを倒せませんよ！

そこをどいてください！」

クウラ

「弟よ、このオレを舐めすぎだ！」

「見るが良い真のパワーを！」

クウラは第4形態から最終形態に変身する

セル

「真のパワーというから

ゴールデンになるのかと思ったら、

ただの変身か笑わせる！」

クウラ

「誰がこれで本気と言った？」

弟にできて兄のオレにできないことはない！」

クウラはゴールデン化に変身する

—— 地球のブルマの家 ——

孫悟空

「ビルス様なんで止めるんだ？」

ビルス

「セルとやらが復活したのは、

あの世とこの世の秩序の為に必要な復活だ！」

孫悟空

「ビルス様なにか知ってるな？」

ビルス

「お前は知らんで良い！」

お前に教えるところくな事がない！

良いか悟空それとベジータお前もセルに今は手を出すな！

もし手を出したらボクはキミたちを

破壊神として破壊しなければいけない！」

ベジータ

「セルの復活は、

神の世界と関係するのか？」

ウイス

「今は下手にこの件に関わらないでください！」

ここでセルさんを倒せば、

あの世とこの世の秩序は乱れ、

この世に死者が迷い込んで

大変な事になるとも言いますでしょうか？」

ビルス

「いいかお前達？」

もしも、あの世とこの世の秩序が乱れるような事があり、
全王様に知られたら即宇宙消滅もありうるんだぞ？」

孫悟空

「わかったよ！」

でもよ、セルはオラ達に恨みを持つてるはずだ？

セルが襲いかかって来たらどうするんだ？」

ウイス

「その時は、正当防衛として倒す事は許されます！」

孫悟空

「そうか！」

だったらセルが来るのを待つしかないな！」

ベジータ「ちっ！」

孫悟飯

「あれ？」

フリーザとセル以外に誰か現れたみたいですね！」

孫悟空

「ん？」

ホントだ！

フリーザに気が似てるがオラの知らない奴だ！」

——宇宙のどこか——

セル

「なるほど！」

フリーザの兄だけあって、パワーは桁違いだな！

これは面白そうだな！」

フリーザ

「兄さんいつからゴールデンに？」

クウラ

「この力を手に入れたのは随分と前だ！

お前の代わりにあのセルとかいう奴と、

そして地球に居るサイヤ人も始末してやる！

ありがたく思うんだな！」

フリーザ

「どいつもこいつも、

このフリーザ様をコケにしやがって!

良いだろう! もう手加減なしだ!

どっちが先にセルを倒すか勝負だクウラ!

クウラ

「よかろう!」

セル

「私は2人掛かりでも構わんぞ!」

フリーザとクウラ

「舐めやがって!」

—— 謎の空間 ——

悪の神

「遂にクウラがフリーザと再会したか!

これから面白くなりそうだ!

悪の閻魔よ、魔族共を復活させるんだ!

悪のエネルギーが足りん!

もつと悪のエネルギーを吸収しないと!」

——あの世の地獄——

悪の閻魔大王

「遂に見つけたぞ！」

よし、魔族の復活だ！」

第7話 『宇宙の2人の帝王!』

あらすじ

「フリーザとセルの戦いの前に現れた

フリーザの兄クウラ。

そしてクウラはゴールデン化して

セルに戦いを挑むのだった。」

——宇宙のどこか——

クウラ

「さあ、始めようか!」

セル

「いつでも掛かってこい!」

セルとクウラの戦いが始まる

クウラ

「なるほど!」

弟が勝てないわけだ!

だがオレは弟とは違うぞ！」

セル

「だと言いがな！」

フリーザ

「ヒューー！」

セルとクウラの戦いにフリーザが割り込む

クウラ

「フリーザ邪魔をするな！」

フリーザ

「邪魔はお前だクウラ！」

セル

「おやおや、

こんな時に喧嘩とは仲の良い兄弟だな！」

フリーザ

「先にセルを倒すのも地球のサイヤ人共を

倒すのはこのオレだ！」

クウラ

「戦いに入るのは勝手だが、

邪魔をすればセルごとお前を殺すぞ!」

フリーザ

「なら、ボクの邪魔をすれば

セルごと兄さんアナタを殺します!」

クウラ

「勝手にしろ!」

セル

「作戦会議は終わったか?」

セルとフリーザ&クウラの戦いはさらに激しく

——地球のブルマの家——

ベジータ

「この気は恐らくクウラだな!」

※映画はパラレルワールドなので悟空はクウラ of 存在を知りません

孫悟空

「クウラって誰だ?」

ベジータ

「フリーザの兄だ！」

孫悟空

「フリーザにアニキが居たのか？」

ベジータ

「ああ！15年ほど前にオレ様がぶっ殺した相手だがな！」

孫悟空

「いつの間に戦ったんだ！」

ベジータ

「人造人間に備えて宇宙で修行をしていた時、

スーパーサイヤ人になれたオレは、

本当に強くなったのか確かめるべく、

フリーザ軍の跡を継いだフリーザの兄クウラに戦いを挑んだ！

そしてぶっ殺した！

しかし、復活していたとはな！」

ウイス

「恐らく、悪の閻魔大王が復活させたのでしよう！」

孫悟空

「エンマのおっちゃんか?」

ウイス

「いえいえ!

悟空さんの知っている閻魔大王とは、違う存在ですよ!」

孫悟空

「え?」

ウイスは、悟空とベジータに閻魔大王と悪の閻魔大王について説明

孫悟空

「オラにはよくわからないけど、

あの世も色々あるんだなあ!」

——宇宙のどこか——

フリーザ

「無様な姿ですね、兄さん!」

クウラ

「貴様こそ!」

セル

「宇宙の帝王と言ってもこんな物か!

期待ハズレだ！」

クウラ

「フリーザ！」

フリーザ

「…」

クウラ

「やはり考えることは同じか！」

セル

「ん？」

フリーザ

「ここは協力して戦った方が良さそうですね！」

クウラ

「ああ！」

こんな奴を宇宙に野放ししたら、我が一族の恥だ！

弟よ協力してくれるな？」

フリーザ

「勿論だよ！兄さん！」

セル

「ほう?」

競走から共闘か!

まあ、どっちにしてもこの私には勝てんだろうが!

クウラ

「それはどうかな?」

フリーザとクウラの連携コンボがセルに炸裂

セル

「バカな?何が起きた!」

フリーザ

「アナタそろそろ本気を出した方が良いでしょう?」

クウラ

「フリーザ相変わらず甘いな!

相手が本気を出す前に倒す!

例えどんな手を使っても我が一族を超える存在は消せばならん!

フリーザ

「別に構わないじゃん!

ボク達兄弟に勝てる敵なんて居たりしないんだから！」
クウラ

「まあ、良いだろう！」

さつさと本気を出せ！」

セル

「後悔するなよ！」

セルは気を高め、かめはめ波の準備をする

セル

「フリーザ、クウラ、

お前たちとの戦いは楽しかったぞ！」

だがこれで終わりだ！かーめーはーめー」

フリーザ

「兄さんいくよ！」

クウラ

「ああ、弟よ！」

フリーザとクウラ

「ゴールデンデスボール！」

セル

「波——!」

それはフリーザたちフリーズ一族に伝わる

魔人ブウに匹敵するゴールデンスポールか!

だが、このかめはめ波には

銀河系を5つは壊せるほどのパワーがある!

いくら貴様ら兄弟でも勝てるわけ!」

かめはめ波とゴールデンスポールが撃ち合う

セル

「かーめーはーめー波——!」

お前たちは、いくら鍛えようと私は更に先に行き、

追い越すことはできないのだ!」

クウラ

「もう勝った気か?」

フリーザ

「ボク達兄弟を舐めない方が良いよ?」

セルは異変に気づく!

セル

「なんだと？」

かめはめ波が破壊されている！

どういふことだ？」

クウラ

「通常のデスボールは星を破壊する効果があるが、

ゴールデンデスボールの効果は気功波等の

タグいを破壊する効果を持つ！」

セル

「なに？」

第8話 『新たな宇宙の帝王!』

あらすじ

「フリーザ兄弟とセルの戦いは

終盤を迎えお互いの最強技の

打ち合いとなっていた。

果たして宇宙最強は誰なのか？」

—— 宇宙のどこか ——

フリーザ

「このゴールデンスボールに勝てるのは

破壊神たちの破壊技ぐらいだけだね！

過去にボクたちのご先祖様が破壊神に戦いを挑んだ時に

ゴールデンスボールを放ったみたいだけど

逆に返り討ちにあつたみたいだね！

だが、破壊神ではないアナタが相手ならその技を喰らった時点で、

もうアナタに勝ち目は無いけどね！ホーホホホ！」

セル

「どういうことだ？」

クウラ

「わからんか？」

「ゴールデンスポールから逃れるためにかめはめ波とやらを解除すればお前はゴールデンスポールの餌食になり、技をそのまま使い続けてもいずれお前はスタミナ切れでパワーがなくなりやはりデスポールの餌食になり死ぬ！つまりどの道、お前に勝ち目は無いという訳だ！」

セル

「おい？このワザに耐えた奴はいるのか？」

クウラ

「耐えた者か！」

「さつき貴様は魔人ブウに匹敵と言ったが、

魔人ブウは強力な再生能力で耐えたらしい！」

「この技が効かなかったのは破壊神を除けば魔人ブウだけだ！」

セル

「なるほどーなら破壊神を除けば」

この技に耐えるのは魔人ブウに続き私が2人目だ!」

セルはゴールデン化を解除し、スーパーサイヤ人ブルーの力を出す

※セルから青オーラが流れるイメージ

—— 地球のブルマの家 ——

孫悟空

「おい?」

これってセルが神の気を使ってるんじゃないか?」

ベジータ

「ああ!まさか奴がスーパーサイヤ人ゴツドの力に?」

—— 宇宙のどこか ——

フリーザ

「それは孫悟空とベジータのスーパーサイヤ人ブルーか?」

セル

「そうだ!」

私には孫悟空とベジータの細胞がある!

さつきも言ったはずだ!

私もスーパーサイヤ人ブルーになれるんでね！」
クウラ

「その青いオーラが噂のスーパーサイヤ人ブルーか！
だが、どんな変身をしようが

ゴールデンデスボールには勝てん！絶対にな！」

セル

「どうかな？界王拳10倍だ！はあー！」

フリーザ

「その技は孫悟空の！」

おのれ、無駄なあがきを！波ー！」

セル

「な、なに！押されてるー！」

ならば界王拳20倍だ！はあー！」

クウラ

「まだ、そんな力を残していたか！

だが、相手がどんなに強かろうと無駄だ！」

セル

「な、なんだと!」

スーパースイヤ人ブルーに界王拳を上乗せしたのに
押し返せないのか!

このままだとヤバイ!」

フリーザ

「どうやら、ここまでのようだね!

アナタみたいな強い戦士を失うのは勿体ないですね!

もう一度聞きますが、私の部下になりませんか?」

クウラ

「相変わらず甘いなフリーザ!」

セル

「断る!誰が貴様の部下になるか!」

フリーザ

「なら死になさい!波!」

セル

「ちくしょう!

フリーザごときに負けてたまるか!」

かめはめ波が消える！

ちくしょう！」

セルは粉々に吹き飛んだ

クウラ

「やったな、フリーザ！」

フリーザ

「ええ、兄さん！」

クウラ

「やはり、宇宙最強は我が一族しかありえん！」

フリーザとクウラ「ハハハハハ！」

——地球のブルマの家——

孫悟空

「セルの気が消えた！」

やられたのか？」

ベジータ

「パワーはフリーザ兄弟より

明らかに上だったはずだ！

なぜだ!」

——宇宙のどこか——

※フリーザ兄弟との戦いから1日後、セルの粉々だった体が再生する

ウイス

「生きていましたか!」

セル

「危なかった!死ぬかと思った!」

核も強度があがってるようだな!

死にかけてのだからサイヤ人の特性が発動してパワーアップしているはずだ!

しかし、あのゴールデンデスボールは、厄介な技だな!

しばらくは身を隠しながらトレーニングを再開するか!」

ウイス

「なら、他の宇宙に行きませんか?」

セル

「他の宇宙だと?」

ウイス

「宇宙は全部で12個あるんですよ!

因みに我々が居るこの宇宙は第7宇宙！

そうですね、セルさんには第6宇宙にでも行ってもらいましょうか？」

——あの世の地獄——

悪の閻魔大王

「思った通り、セルは負けたか！

だが、セルからフリーザ兄弟に対する憎しみ恨みといった

負のエネルギ―をたくさん回収できた！

もう時期ジャネンバが誕生する！

閻魔大王に伝えねばな！」

※ジャネンバの設定はかなり変えています。

——あの世の閻魔界——

悪の閻魔大王

「閻魔大王、もうすぐジャネンバが復活する！

恐らく、1万年前のジャネンバより強いはずだ！

だから強い戦士を用意しとけよ！」

閻魔大王

「そうか！

ジャネンバ復活か!

悟空達に伝えなければな!

—— 謎の空間 ——

悪の神

「今回のジャネンバは期待できそうだな!

我が力の復活にはまだ悪のエネルギーが足りない!」

第9話 『閻魔大王からの依頼！』

あらすじ

「セルがフリーザ兄弟に負けた頃、

あの世ではとてつもない事が起きようとしていた。

そんな中、戦いで生き残ったセルは

第6宇宙に来ていた。」

——第6宇宙の地球——

セル

「ここが第6宇宙の地球か！

似ているようで違うな！」

謎の殺し屋

「お前がセルか？」

悪いが死んでもらう！」

セル

「ほうっ？」

セル

(コイツ、かなりできるな!)

—— ビルスの星 ——

ビルス

「なあ、ウイス!

セルの奴はヒットに勝てるのか?」

ウイス

「さあ、どうでしょうね?

ですが、第6宇宙との武道大会を開いた頃の

ヒットさんになら勝てたでしょう!

しかし、ヒットさんは悟空さんに会ってから随分と変わったとか!

この前の力の大会ではジレンさんに圧倒的な力を見せつけられ、

それ以降ヒットさんは過酷なトレーニングをしていると

ヴァドス姉さんから聞いております!」

ビルス

「へえ!」

ウイス

「ですので、セルさんとヒットさん、

どっちが強いのかわからないです！」

——あの世の閻魔界——

孫悟空

「オラ達に頼みって何だ？」

閻魔大王

「来てくれたか！」

実はお前達に地獄に行つてほしいと思つてな！」

孫悟空

「え？」

それって？」

ベジータ

「ふざけるな！」

オレはあんな所に二度と行かんぞ！」

閻魔大王

「早とちりだ！」

誰も死ねとは言つとらん！」

お前達に退治してほしい化け物が居るから

地獄に行つてほしいだけだ!」

ベジータ

「脅かしやがって!」

孫悟空

「そうか、ベジータおめえ、

魔人ブウに殺されて

地獄にいったことあるんだっけ?」

ベジータ

「うるさい!」

貴様にはわからんだ、

地獄という場所の恐ろしさをな!」

孫悟飯

「閻魔様、地獄でいったい

何が起きてるんですか?」

※初めから悟飯は道着姿。

閻魔大王

「実は地獄では、約1万年を周期に

あの世とこの世の悪のバランスを保つため、

ジャネンバという化け物が復活して暴れ回り、

あの世とこの世を繋ぐトンネルを作ってしまうんじや！

だからトンネルができる前に退治してほしくてな！」

ベジータ

「なんでオレ達が退治せねばならんのだ？」

閻魔大王

「ジャネンバの復活はお前達にも責任があるからだ！」

孫悟飯

「どういう事ですか？」

閻魔大王

「ジャネンバは、地獄の悪人の悪のエネルギーを吸収して

約1万年ごとに復活するんだが、今回は1000年ほど復活が早くてな！

ここ最近、たくさん悪人が地獄に送られた！

中でもフリーザやセルといった極悪人のエネルギーを吸収した為、

復活が1000年早まったのだ！」

孫悟飯

「そういう事でしたか!」

ベジータ

「つまり、フリーザやセルを倒して

地獄に送り付けたオレ達に責任を取れという事か!」

閻魔大王

「そういう事になるが、

ジャンバはあの魔人ブウに匹敵するかそれ以上の強さを持ち、

あの世には恥ずかしい事にお前たちみたいな強い者がおらんくてな!」

孫悟空

「そういう事なら、仕方ねえな!」

閻魔大王

「頼んだぞ!案内人を付ける!」

—— あの世の地獄 ——

孫悟空

「()も地獄か!」

フリーザの所とは違うんだな!」

ベジータ

「オレが来た地獄とも違うな！」

案内人

「はい！」

地獄にも色々ありますので！」

ベジータ

「そういえば、セルの奴がまた地獄来たはずだ！」

何処にいるんだ？」

案内人

「セルですか？」

セルなら悪の閻魔大王様が復活させて

今はこの世に居ると思えますが？」

ベジータ

「その復活したセルをフリーザとクウラが倒したから、

また地獄に居るんじゃないのか？」

案内人

「いえ、セルは死んでないですよ！」

ベジータ

「なんだと？」

「どういう事だ？」

孫悟飯

「恐らく、体の一部が残ってて再生したんじゃないですか？」

セルにはピッコロさんのナメック星人の再生能力がありますから！」

ベジータ

「そういえば、そんな能力があつたな！」

案内人

「ここから先は危険なので、

私はここで失礼しますね！」

孫悟空

「ああ、サンキューな！」

ベジータ

「ん？誰だ？」

「そこに居るのは？」

悪の閻魔大王

「気づいていたか！」

第10話『あの世とこの世の秩序!』

あらすじ

「閻魔大王に頼まれジャネンバ退治で

地獄にやって来た悟空達。

そんな悟空たちの前に悪の閻魔大王が現れる。

果たして彼は敵なのか味方なのか?」

——あの世の地獄——

孫悟空

「閻魔のおっちゃんにそっくりだ!

アンタ何者だ?」

悪の閻魔大王

「ワシは、悪の閻魔大王!

似てて当然だな!

閻魔の奴とは双子の兄弟だからな!」

ベジータ

「で？」

悪の閻魔とやらはどういった事をするんだ？」

悪の閻魔大王

「地獄の極悪人をこの世に復活させる役目を

死神様より与えられている！」

ベジータ

「なるほど！」

ウイスさんが前に言ってた通り

アンタがセルを復活させたんだな？」

悪の閻魔大王

「ああ、そうだ！」

他にクウラを生き返らせたたり

1年ほど前にはフリーザ軍のソルベを操り、

ドラゴンボールでフリーザを生き返るように仕向けたりした！

でもフリーザがすぐ地獄に戻ってきた時には正直焦った！

だが、この前の力の大会の後、

天使のウイスさんがフリーザを復活させてくれて助かった！」

孫悟飯

「閻魔大王様やウイスさんから色々説明されたのですが、

ジャネンバは悪人から悪のエネルギーを吸収して力を蓄えるのはわかりました！
ですが、何故フリーザやセルを復活させる必要があるんですか？」

悪の閻魔大王

「簡単な話だ！

あの世とこの世には、善と悪のバランスがあり、

善と悪の保管できる量が決まっています、

単純にあの世に維持できる悪のエネルギーの量が水準を多く上回り、

逆にこの世に維持できる悪のエネルギーの量にかなり余裕があった！

だからこの世の者には恐怖を与える結果にはなるが

フリーザ達を蘇らせる必要があったのだ！」

孫悟飯

「そういう事だったんですね！」

悪の閻魔大王

「だから神々はあの世とこの世の秩序の為、

お前達にセルと戦うのを止めていたのだ！」

だが、ジャネンバを倒せば、

地獄で維持できる悪のエネルギーの量がかなり増えるはずだ！

つまり、ジャネンバを倒したあとならフリーザやセルを倒しても何の問題ない！」

ベジータ

「そうか！」

ならジャネンバとかいう化け物を倒すまでは、

フリーザ達をぶっ飛ばすのは我慢という訳だな！」

悪の閻魔大王

「そういう事だ！」

孫悟空

「オラにはよくわからないけど、

死神様って何だ？」

悪の閻魔大王

「死神様とは、宇宙で最初に死んだ惑星の神様であり、

今のあの世の世界を作られ、

ワシや閻魔大王にあの世の役割を授けたお方だ！

神の地位では界王様よりは下だが、

強さは魔人ブウに匹敵するほど強いお方だ!」

孫悟空

「へえー、そんなんか!」

あれ?でも閻魔のおっちゃんが

あの世には強い戦士は居ないって言ってたけど、

死神様が居るんじゃないか?」

悪の閻魔大王

「確かに死神様はジャネンバよりパワーは上かもしれない!

しかし、ジャネンバは破壊神でも無い限り

いくらパワーが上でも倒せない相手なのだ!」

孫悟空

「そんなにスゲーのか!

楽しみだな!」

悪の閻魔大王

「この道をまっすぐ進めば、ジャネンバが眠る玉があるはずだ!

ワシは遠くから観ておく!健闘を祈る!」

孫悟空

「オラ達に任せてくれ！」

ベジータ

「ん？何だこの気は？」

孫悟飯

「何だか嫌な感じの気ですね！」

ベジータ

「だが、倒せない相手ではないな！」

ジャネンバは、オレ様が始末してやる！

お前達は手を出すな！」

孫悟空

「そりやねえぞベジータ！」

ベジータ

「黙れカカロット！」

貴様はいつもおいしい所を取るだろうが！」

悟空とベジータはどつちがジャネンバを倒すか揉め出すが、悟飯が止めに入る。

孫悟飯

「お父さんとベジータさん

今は喧嘩してる場合じゃないですよ!」

孫悟空

「そうだな!」

ベジータ

「あれがジャネンバの玉か!」

第11話 『ベジータVSジャネンバ!』

あらすじ

「ジャネンバの所にたどり着いた悟空達。

まだ復活していないみたいだが

果たしてジャネンバの強さは如何に？

そして、ベジータは宣言通り1人で倒せるのか？」

——あの世の地獄——

孫悟空

「まだ、復活してねえみたいだが、

すげえ気を感じるぞ！」

孫悟飯

「この玉、まるで魔人ブウみたいだ？」

ベジータ

「何？それは本当か？」

孫悟飯

「はー！」

僕は目の前で魔人ブウの復活を目撃しているのだから間違いありません！」

ベジータ

「どつちにしろ！」

玉ごとにオレ様が消してやる！」

ベジータは超サイヤ人2に変身する

ベジータ

「ビックバンアタック！」

孫悟空

「いきなり何するんだベジータ？」

玉が真つ二つに！」

ジャネンバのタ玉は真つ二つになる

ベジータ

「ん？」

気が消えてないだど？」

孫悟空

「これって気が増えてるんじゃないか？」

孫悟飯

「魔人ブウの時と似てる！」

あの時も復活まじかの時、

僕は渾身のかめはめ波を放ったら今みたいに玉が割れ、

確か煙は上に…… あ、お父さん、

ベジータさん上を見てください！」

ベジータ

「玉から出てきた煙が集まっていく！」

煙は集まっていき、ジャネンバが誕生する。

ベジータ

「あれがジャネンバか？」

孫悟空

「しっかし、おかしなやつだなー！」

孫悟飯

「でも、確かに魔人ブウに匹敵する

ほどの気を持ってますね!」

ジャネンバ

「ジャネンバ、ジャネンバ!」

ベジータ

「ふざけやがって!」

カカロット、悟飯、オレがやる!

お前たちは絶対に手を出すな!」

孫悟空

「しょうがねえな!」

ベジータは気を溜めスーパーサイヤ人2から何かに変身しようとしていた!

ベジータ

「はぁー!」

孫悟空

「ベジータ、いったい何を?

まさか?」

ベジータ

「はぁー!」

ベジータはスーパーサイヤ人3に変身した！

ベジータ

「待たせたな！

まだこの変身になれてないんでな！」

孫悟空

「ベジータおめえ、

いつの間にスーパーサイヤ人3になれたんだ？」

ベジータ

「この変身になれるのはお前やゴテンクスだけと思うなよ！

オレも2年ほど前なれるようになっていた！

だが、変身時間が5分も無いから戦闘では使わず

ビルスが初めて地球に来た時も使わなかった！

だが、ウイスの下での修行や

この前の力の大会でスタミナも付いたはずだ！

今のオレなら30分はスーパーサイヤ人3に入れるはずだ！」

孫悟空

「やっぱ、すげえよ！おめえは！」

ベジータ

「ジャネンバはオレが倒す！」

喰らえファイナルフラッシュユ！」

ジャネンバ

「ジャネンバ、ジャネンバ、ジャネネ？」

ジャネンバはファイナルフラッシュをもろに受けた！

ベジータ

「どうだ？」

ジャネンバはバラバラになっていた！

ベジータ

「今のオレにとっては魔人ブウクラス敵など

もはや驚異ではない！ハハハハハ！」

調子に乗るベジータ、しかし！

孫悟飯

「ベジータさん、気をつけてくださいい！」

ベジータ

「なーに？」

コイツ、再生能力があるのか？

そうはさせせん！ビックバンアタック！」

孫悟空

「ダメだー！もう手遅れだ！」

ジャネンバのバラバラになった肉体はスーパージャネンバへと変身する！

ベジータ

「何だ？コイツは、姿が変わりやがった！」

—— 謎の空間 ——

悪の神

「意外と早くスーパージャネンバに変身したな！

これで我はさらにパワーアップできる！

もつと悪のエネルギーが欲しい！」

—— あの世の地獄のどこか ——

悪の閻魔大王

「もつともつとジャネンバよパワーアップするのだ！」

謎の人物

「なるほど！そういう事か！」

悪の閻魔大王

「誰だ?し、死神様?何故ここに?」

死神様

「この未熟者が!」

「まだが操られている事に気づかないとはな!」

悪の閻魔大王

「え?」

第12話 『スーパージャネンバの脅威!』

あらすじ

「悟空とゴテンクスしか使えないと思われた

スーパーサイヤ人3になったベジータであったが、

ジャネンバはより戦闘向きの姿へ変わるのであった。

果たしてベジータは勝てるのか？」

——あの世の地獄のどこか——

悪の閻魔大王

「何をおっしゃるのですか？」

ワシが誰かに操られるなどありえませんか！」

死神様

「なら、誰を復活させたか

悪人の名を全員言ってみろ？」

悪の閻魔大王

「フリーザ、クウラ、セルですよ！」

死神様だつて気づいてますよね？」

死神様

「他にもたくさん居るな？」

悪の閻魔大王

「居ませんよ誰も！」

死神様

「いくら雑魚の悪人でも、

力を貸せば大魔王を超えたり

大魔王強化だつてありえるんだぞ？」

悪の閻魔大王

「まったく話が見えませんか？」

死神様 「どうやら、奴の洗脳術の制度が

上がつてようだな！」

正気に戻すにはすまん眠れ！」

悪の閻魔大王

「死神様いったい何を？」

死神様は悪の閻魔大王に強烈な一撃を食らわし気絶させらる。

気絶した悪の閻魔大王はまるで操り人形のように動き話し出す！

悪の神

「まさか、悪の閻魔の洗脳に気づくとはな！

だがもう遅い！」

死神様

「どういう事だ？」

悪の神

「ジャンネンバが復活する前にあらかじめ

あの世とこの世のトンネルを作っておいた！

この意味がわかるか？」

死神様

「なんて事を！まずい！

彼らに伝えなければ！」

——あの世の地獄——

ベジータ

「パワーアップしたようだが

その程度ではスーパーサイヤ人3には勝てんぞ！」

スーパージャネンバ

「イギャギャギャギャギャギャー!」

ジャネンバは気を貯める

ベジータ

「少しは楽しめそうだな!」

ベジータとジャネンバの第2ラウンドが始まる!

しかし、徐々に押され始める!

孫悟飯

「お父さん?」

孫悟空

「悟飯、おめえも気づいたか?」

あのジャネンバって奴パワーが

だんだんアップしているみていだ!」

ベジータ

「なんだと?」

さつきよりパワーが上がっている!

カカロット、仙豆は持ってきているか?」

孫悟空

「持ってない！」

まさか、戦いになると思わなかったからな！」

ベジータ

「これは遊んでる暇はないな！」

ベジータはスーパーサイヤ人ブルーに変身する

ベジータ

「一気にカタをつけてやる！」

喰らえファイナルフラッシュュ！」

スーパージャネンバ

「イギャーーーーーーーーーーーーーーーー！」

ジャネンバはもろに特大ファイナルフラッシュュを喰らう

ベジータ

「どうだ？」

スーパージャネンバ

「イギャギャギャギャギャギャギャー！」

イギャギャギャギャギャギャー！」

ジャネンバはさらに気を貯める

ベジータ

「な、何？」

ジャネンバがベジータに攻撃を繰り返すと悟飯が加勢する

ベジータ

「ぐああー！」

孫悟飯

「波————！」

ベジータさん大丈夫ですか？」

ベジータ

「手を出すなと言ったはずだ！」

孫悟空

「そう言うなよ！」

悟飯が助けなかったらおめえ危なかっただろ？

こっからはオラ達も戦うぜ！」

ベジータ

「ふざけるなと昔のオレは言っていたが、

確かに奴は桁違いにパワーアップしている！

ちっ、仕方ないか！」

孫悟飯

「ベジータさんも丸くなりましたね！」

ベジータ

「うるさい！」

孫悟空

「いくぞベジータ！」

ベジータ「オレに命令するな！」

悟空はスーパーサイヤ人ブルーになり、悟飯はアルティメット化に変身する

3人はジャネンバに戦いを挑むがもう既に手遅れだった！

孫悟空

「なんつてこった！」

オラ達は全力のパワーを出してるのに

奴には全然効いてねえぞ！」

死神様

「それではジャネンバには勝てん！」

孫悟空

「誰だ？」

死神様

「私はあの世の護神の死神だ！」

孫悟空

「アンタが死神様？」

第13話 『暗黒魔界の誕生秘密!』

あらすじ

「悪の神によりパワーアップを続ける

ジャネンバに苦戦する悟空たちの前に死神様が現れる。

果たして悟空たちはジャネンバを

倒すことができるのか?」

——あの世の地獄——

死神様

「ジャネンバは悪の神によって強化されている!

だからお前達が一つになり戦わないとならん!」

ベジータ

「悪の神?」

「まだ他にも神が居るのか?」

死神様

「いや悪の神は正式な神ではない!

神の座になれなかったある人間が突然変異した存在だ!

しかも今ではあの世とこの世の悪意を利用している、

謎が多い神である!」

孫悟飯

「その悪の神は、

あの世とこの世の悪意を利用しているのはわかりましたが、

どうやってジャネンバを強化をしているのですか?」

死神様

「悪の神は、悪の閻魔を操りあの世とこの世を魂が通れる

トンネルを作りこの世の悪人から悪の気を強制的に吸い取って

ジャネンバはパワーアップしているんだ!」

ベジータ

「この世の悪人だと?」

まさかフリーザ達が!」

死神様

「ああ、今頃、悪の気をジャネンバに吸い取られ力が出ないはずだ!

原理としてはジャネンバは悪の固まり

つまり悪の元気玉のような存在だ！」

——宇宙の惑星フリーザ——

フリーザ

「なんなんだ？」

さつきから力が抜けるような感じは？」

クウラ「やはり、お前もかフリーザ！」

※クウラは第四形態の姿に戻ってます。次の大きな戦いまで第四形態のまま過ごします。

フリーザ

「兄さん、アナタもパワーが抜けているのですか？」

クウラ

「ああ、オレ達だけでなく部下たち、

いや、悪人と言われる者達が

このような状況になっているだろう！」

フリーザ

「まるで、あの忌々しい孫悟空が使っていた

あの技みたいに力を取られるようですね！」

クウラ

「力が抜けていく!」

フリーザ

「馬鹿なバリアーが効かない!」

フリーザやクウラを含む第7宇宙の悪人はジャネンバによつて

悪の気が吸い取られ苦しんでいる。

バリアをしようが逃れられないようである。

——あの世の地獄——

死神様

「今もこうしている間にもジャネンバはパワーアップしている!」

だが、さつきも言ったが、孫悟空とベジータが1つになれば勝てる!」

孫悟空

「オラ達が1つ?」

「そうか、合体か!」

ベジータ

「また、この野郎と合体しないといけないのか?」

「ふざけるな!」

死神様

「このままジャネンバを野放しにしたら

あの世とこの世は融合して

第2の暗黒魔界が誕生してしまう！」

ベジータ

「暗黒魔界だと？」

ダーブラの故郷のことか？」

死神様

「そうだ！暗黒魔界こそ、

大昔のあの世とこの世の成れの果ての姿だ！

ジャネンバを倒せず野放しにした結果、暗黒魔界が誕生した！

暗黒魔界は第7宇宙全土に広がったが

初代界王神様と初代破壊神様の力によって

暗黒魔界は第7宇宙の裏側に追いやる事ができた！

この事を知っているのは一部の神様ぐらいだ！」

ベジータ

「ちっ、仕方ないか！」

おい死神、ポタラあるか？」

死神様

「私は持つてない！」

ポタラは界王神様の宝だ！

界王様より地位の低い私が持つてるわけないだろ！」

ベジータ

「アンタは界王神より強いのに、

界王神どころか界王より下の神なのか！」

死神様

「そうだ！

神様の世界は強さではなく、

頭のレベルで地位が決まる！」

ベジータ

「するとあれか？」

またあのおかしなポーズで

合体しなければいけないのか？くそー！」

孫悟飯

「僕が時間を稼ぎます！お父さん達は

その間にフュージョンしてください！」

死神様

「私も力を貸そう！」

トンネルに気づかなかったのは私の失態だ！

少しは責任を取りたい！

孫悟空とベジータが合体した戦士なら現時点でジャネンバより上なはずだ！

合体したら遊ばずすぐに倒すんだ！

頼んだぞ孫悟空とベジータよ！」

孫悟空

「よし！ベジータいくぞ！」

スーパージャネンバ

「イギャギャギャギャー！」

イギャギャギャギャー！」

孫悟飯

「お前の相手はこの僕だ！」

第14話『ゴジータブルーvsスーパージャネンバ!』

あらすじ

「死神様の提案により

悟空とベジータはフュージョンを試みるのだった。

果たしてゴジータになり、

ジャネンバを倒すことができるのか？」

——あの世の地獄——

孫悟飯

「はぁー!」

悟飯はジャネンバに攻撃を繰り返す

スーパージャネンバ

「イギャギャギャギャー!」

「イギャギャギャギャー!」

孫悟飯

「お父さん達の邪魔はさせない!」

死神様

「な、なんだと！」

スーパージャネンバ

「イギャギャギャギャー！」

イギャギャギャギャー！」

スーパージャネンバは黒いスーパージャネンバに変化する

※ドラゴンボールヒーローズのプロモーションアニメに登場した姿に変化

孫悟飯

「姿が変わった！」

死神様

「この世にいるすべてのの

悪人から悪の気を吸い取り

姿が変化したんだ！」

しかし、あの黒い姿のジャネンバを見たのは初めてだ！」

だが、弱点は悪口のはずだ！」

孫悟飯、悪口を言うんだ！」

孫悟飯

「悪口を言うんですか?」

死神様

「ああ!こんな風にな!

この出来損ないのクソやろー!」

スーパージャネンバ

「イギヤアアアアアアアアアア!」

黒いジャネンバの体にヒビが入る。

孫悟飯

「効いてる?」

でも僕はあまり悪口を好きじゃないな!」

死神様

「何を言っている!」

子供の頃、サイヤ人のナツパに

悪口言つてたじゃないか?」

孫悟飯

「僕が?あ?」

悟飯はサイヤ人がやって来た頃を思い出す

——回想シーン——

ナツパ

「小僧！逃げ出す気か？」

まあ、その方が利口だな！

フハハハハハ！」

孫悟飯（幼少期）

「誰が逃げ出すか！」

お前のかーちゃん出ーべそ！」

ナツパ

「えええ！」

あのガキ、どうして知ってるんだ？

オレのかーちゃんが出べそだってことを！」

——回想シーン終わり——

孫悟飯

「そうだ思い出した！」

僕はナツパってサイヤ人に悪口を言ったんだ！

よし、お前のかーちゃん出ーべそ！」

スーパージャネンバ

「イギャアアアアアアアアアア!」

孫悟飯

「よし、効いてるぞ!」

このクソツタレのバカヤロウ!

スーパージャネンバ

「イギャー!」

ジャネンバに2度同じ手は喰わず、空間を移動して悟飯の背後に行く。

孫悟飯

「しまったー!」

同時刻

孫悟空&ベジータ

「フュージョン波!」

ゴジータ

「悟飯仇をとってやる!」

スーパージャネンバ

「グキユウー?」

ゴジータ

「オレは悟空でもベジータでもない、

オレはお前を倒す者だ！

ん？姿とパワーが変わっているな！

確かに本気で戦った方が良さそうだ！

これがゴジータブルーー！」

スーパージャネンバ

「ギャアアアアアア！」

ゴジータは、ジャネンバにパンチとキックを連続で繰り出す。

スーパージャネンバ

「ウギギギギギ！」

ゴジータ

「波——！」

ゴジータはジャネンバに「ソウルパニツシャー」を繰り出し、映画版の同じような決着する。

——宇宙の惑星フリーザ——

フリーザ

「はあはあはあ！」

収まったようですね！」

クウラ

「なんだったんだ？」

—— 謎の空間 ——

悪の神

「ジャネンバがやられてしまったか！」

ジャネンバを丸ごと取り込めなかったのは惜しいな！

孫悟空とベジータか！」

—— 第6宇宙の地球 ——

ヒット

「ここまでにしよう！」

オレもお前も今のままでは勝てん引き分けだ！」

セル

「その様だな！」

続きはお預けだな！」

ヒット

「だが、背後に気をつけろ！オレは殺し屋だ！
受けた依頼は必ずやる遂げる！じゃあな！」

セル

「宇宙は広いんだな！」

さて1度第7宇宙に戻るか！」

——あの世の閻魔界——

閻魔大王

「死神様、お久しぶりです！」

死神様

「ご苦労であった閻魔！」

それに比べ悪の閻魔と来たら！」

悪の閻魔大王

「申し訳ありません！」

気づかなかつたと言え、孫悟空、ベジータ

あなた方の邪魔してしまいました！」

孫悟空

「まあまあ！一旦落ち着こうぜ！」

死神様

「孫悟空、ベジータ、近いうちに

悪の神いやダークマターが復活し

宇宙を暗黒世界に変えようと動き出すだろう!」

孫悟飯

「ダークマター?」

「いったい何者なんですか?」

死神様

「ダークマターの事はわからない事が多い!」

だが、わかっていることは神の存在でもないのに

何故か神の力を持つてる謎多き存在!

だから神々の世界では謎の神と呼んでいる!

しかし、人間界ではダークマターという名前が相応しかろう!」

孫悟空

「意味はわかんねえけど、

なんかカツコイイ名前だな!」

死神様

「ダークマターは、あらかじめ作ったあの世とこの世を繋ぎ

トンネルでジャネンバを強化して

自分の取り込もうとしていたが失敗した！

しかし、ジャネンバ同様に悪の気を吸い取れるし、

魔導師バビデイ以上の魔術で人を洗脳できる！

今回の事で孫悟空とベジータは認知された筈だ！

身近な悪や元悪人には気をつけろ！」

孫悟空

「ああ、わかった！色々サンキューな！」

第2章 『スーパードナメツク星人編』

第15話 『ピッコロ大魔王復活計画!』

あらすじ

「悟空とベジータの合体ゴジータの

活躍によりジャネンバは倒れ、

あの世とこの世に平和が訪れたのである。

しかし、ダークマターの新たな計画が始まろうとしていた。」

時はジャネンバとの戦いの頃に遡り

——地球のキングキャッスル付近——

ダークマター

「目覚めよピアノ！」

目覚めるのだ！」

ピアノ

「私はいったい？」

そうだ、あの小僧にぶつ飛ばされた

ピッコロ様の下敷きになり死んだのでは？
ダークマター

「そうだ！お前は死んだのだ！

しかし、悪の閻魔を操りお前を復活させた！」

ピアノ

「私に話しかけるのは誰だ？」

ダークマター

「我はダークマター！」

悪魔、魔族の神と言ったところだ！」

ピアノ

「だ、ダークマター様？

そういえばピッコロ様から魔族の神様が存在すると以前に聞いたことが！

申し訳ありません！

まさか魔族の神様が直々に！」

ダークマター

「まあ、良い！」

「これからどうする？」

ピアノ

「我が主、ピッコロ様を復活させるつもりです!」

ダークマター

「そうか!」

「ならドラゴンボールを使え!」

ピアノ

「ドラゴンボールはピッコロ様が!」

ダークマター

「確かに昔、ピッコロはドラゴンボールから現れる神龍を殺した!」

「だがドラゴンボールが復活しているとしたら?」

ピアノ

「なんですと?」

ダークマター

「では健闘を祈る!」

——地球のブルマの家付近——

ピアノ

「確か、あのマヌケトリオのピラフが言っていたな!」

ドラゴンレージャーはこのカプセルコーポレーションの家の主ブルマとかいう娘が発明レージャーだったな！

上手く盗めたらが良いがブルマという娘は

ピッコロ様を倒した孫悟空の知り合いという話だ！

ん？あれは子供か？」

マイ

「ピラフ様、こつちですよ！」

ピアノ

「おい、お前達？」

聞きたいことがある！ん？

お前達に見覚えがあるな？

確かピッコロ様の封印を解いたマヌケトリオに似てるな！」

プラフ&マイ&シユウ

「ピッコロ大魔王ー！」

ピラフ一同は脅える。それもその筈だ。

ドラゴンボール無印時代にピッコロ大魔王の封印を解いた張本人だからである。

ピアノ

「そうか？」

お前たちマヌケトリオの子供かと思ったが本人だったか？

お前たちもピッコロ様みたいに若さでも手に入れたのか？」

ピラフ

「違います！」

神龍に若くしてくれって頼んだら

若くなり過ぎただけです！」

ピアノ

「やはりマヌケトリオだな！」

だが、やはりドラゴンボールは復活していたのか？

おい、お前達、ピッコロ様の復活を手伝って貰おうか？」

ピラフ

「手伝うも何も、

ピッコロ大魔王様って死んだんですか？」

ピアノ

「ピッコロ様が亡くなられたから

ドラゴンボールで復活させようとしているのではないか！」

ピラフ

「ですが、ピッコロ大魔王様なら、
ちよūdどあつちらに居ますよ？」

ピアノ

「バカを言うな！

な、なに？あれは、ピッコロ様に似ている？

そうか、ピッコロ様のジュニア様！

だが、しかし、魔族の力を感じないぞ！」

ピッコロはちよūdどブルマの家に來ていた。

そして悟天とトランクスの相手をしていた。

ピアノ

「おい？」

ピッコロ様がキングキャツスルを

攻めてからのくらくらい経った？」

ピラフ

「私達がドラゴンボールで若返った時に

赤ん坊に戻ったので正確な時間はわかりませんが、

恐らく20年は経過しているかと？」

ピアノ

「なるほど！」

ピッコロ様は、あの小僧に倒されそうになった時に
タマゴを残していった可能性があるな！

おい？お前達？

ピッコロ様が死なれて新しいピッコロ様が

現れたみたいな事件とかあったか？」

ピラフ

「そういえば、ピッコロ大魔王様がやられて

3年後におこなわれた天下一武道会でピッコロ大魔王様の

生まれ変わりと名乗る選手が現れて騒ぎなつたて聞いた事が？」

ピアノ

「そうか！」

そこでジュニア様はあの小僧に負けて、

悪の根を絶やしてしまったという事か？

やはりピッコロ様には蘇っていただき再び過去の栄光を！」

第16話 『ピッコロ大魔王行動開始!』

あらすじ

「悪の閻魔大王によって生き返った

ピッコロ大魔王の部下だったピアノは、

主であるピッコロ大魔王を

ドラゴンボールで蘇らせようとしていたのである。

——地球のどこか——

ピラフ

「ドラゴンボール7つ揃いましたよ!」

ピアノ

「ご苦労さま!」

ピラフ

「いでよ、神龍、そして願いを叶えたまえ!」

ドラゴンボールから神龍が現れた。

——「地球のブルマの家」——

孫悟天&トランクス

「あれ?暗くなつた?」

ピッコロ

「神龍か、どこだ?」

——地球のどこか——

ピラフ

「ではどうぞ!」

神龍

「さあ、願えを言うが良い、

どんな願いも叶えてやろう!」

ピアノ

「我が主、

ピッコロ様を蘇らせるのだ!」

神龍はピッコロ大魔王を蘇らせる

ピッコロ大魔王

「(ハッ)(ハッ)……」

ピアノ

「ピッコロ様！」

ピッコロ大魔王

「ピアノか？」

ピアノ

「はい！」

ドラゴンボールを使い

ピッコロ様を蘇らせたのです！」

ピッコロ大魔王

「ドラゴンボールだと？」

だが神龍はこの私が殺したはずだ！

そうか、やはり神様奴が作った物だったか！

私も昔、奴と分離する前にドラゴンボールを作った覚えがある！

分離した後も作っていたのか！」

ピッコロ大魔王は、半身である神がドラゴンボールを創造主だと理解し、

自分が破壊した神龍を復活させたのも神の仕業だとすぐ理解した。

※神と分離する前に作ったドラゴンボールとはドラゴンボールGTに登場した物で

ある

神龍

「願いを叶えてやった！」

さあ、2つ目の願いを言うが良い？」

ピッコロ大魔王

「何？まだ願いが叶うのか？」

なら、私を倒したあの小僧に今は大人か？

孫悟空を殺せ！」

神龍

「それは無理な願いだ！」

孫悟空は神の力を既に超えている！

神を超えた願いは叶えられん！」

ピッコロ大魔王

「そうか！孫悟空め！」

半身である神の力を超えたか！

なら、この私を不老不死にしろ！

年も取らず死なない体だ！」

神龍

「それなら可能だ！」

願いを叶えてやった、

ではさらばだ！」

ピッコロ大魔王

「そういう訳にはいかん！」

神龍、お前にはまた消えてもらうぞ！」

ピッコロ大魔王は、ドラゴンボール無印時代の様に神龍を殺した。

—— 地球の神様の神殿 ——

ミスター・ポポ

「大変！ピッコロ大魔王復活！」

さらに不老不死を手に入れた！」

デンデ

「ポポさん、神龍が壊されました！」

アイツは何者なんですか？」

ミスター・ポポ

「ピッコロ大魔王！」

今のピッコロの親であり

先代神様の半身!」

デンデ

「あれがピッコロさんの親!

なんか禍々しい気を感じます!」

ミスター・ポポ

「恐らくそれは、魔族の力!

昔のピッコロには魔族の力があつた!

魔族に殺されるとあの世行けない!

とつても危険!」

デンデ

「アイツを倒したらピッコロさん

死んでしまうんでしょうか?」

ミスター・ポポ

「ピッコロの中に神様居る!

だから大魔王死ねばピッコロの中の

神様が死にピッコロも死ぬ!

神様もピッコロもピッコロ大魔王と一心同体!

むやみに殺せない！

しかも不老不死を手にして倒せない！」

——地球のどこか——

ピッコロ大魔王は、ピアノが色々と事情を聞きました。

ピッコロ大魔王

「なるほど！我が子から魔族の力を感じなかった？」

孫悟空の甘さが移ったのか！

恐らく今の私では我が子には勝てんな！

だが、1つだけ手がある！

それは神の神殿にいる私の半身の神を我が身に取り込む事！」

ピアノ

「神を取り込むのですか？」

しかしピッコロ様は神を嫌ってましたよね？」

ピッコロ大魔王

「確かに神の奴を嫌っていた！」

だが、息子に負けるぐらいなら神を取り込んで息子に

父の威厳を見せようと思っただけだ！

久しぶりに神に会おうと思う!

ピアノ着いてこい!

※ピッコロ大魔王とピアノは、ピッコロが神様と同化した事を知りません。

ピッコロ大魔王

「神の城か、

かなり久しぶりだなあー!

私が半身と分離した以来か!」

ピアノ

「ピッコロ様、

どうせなら神の城を手

入れ我々魔族の根城にしましよ!」

ピッコロ大魔王

「それは面白そうだ!

神の城を魔族の城に変える

絶好のチャンスだ!」

第17話 『ピッコロとピッコロ大魔王！』

あらすじ

「ピッコロ大魔王が復活したのであった。

永遠の命を手に入れたピッコロ大魔王は

自分の願いが覆らないように再びシエンロンを殺し、

そして、神の神殿に向かおうとしていた。」

——地球のブルマの家——

トランクス

「マイちゃん、

マイちゃん大丈夫か？」

マイ

「ど、トランクス？」

トランクス

「良かった無事で！」

孫悟天

「トランクス君、

ピラフとシュウも気がついたよ!」

ピラフ

「ここはいつたい?」

トランクス

「俺ん家だよ!」

お前たち、ここに帰って来るなり

いきなり気絶したからびっくりしたぜ!」

マイ

「そうだ!」

ピッコロさんは、ピッコロさんはどこ?」

ピッコロ

「オレならここだ!」

シュウ

「大変です!

ピッコロ大魔王がドラゴンボールで生き返りました!」

ピッコロ

「な、何？ピッコロ大魔王いやオヤジが？

どういう事だ、詳しく話せ！」

ピラフ達は事情を話す。

ピッコロ

「なるほど！」

あのピアノが生きていたんだな！」

マイ

「ピッコロさんアイツを知ってたんだ？」

ピッコロ

「ああ！」

オレもタマゴからタンバリンたち同様に生まれた！」

マイ

「そうだったんだ！」

ピッコロ

「で、オヤジはどうした？」

ピラフ

「確か半身に会いに行くとか言ってました！」

ピッコロ

「半身だと?」

そうか、神と融合するつもりか!

だが、神は既に俺が同化している!

まずい、デンデ達が危ない!

トランクス

「ピッコロさん?」

ピッコロ

「ん?」

確かにあつちに妙に懐かしい気を感じるな!

間違いなくピッコロ大魔王の気だ!

今から行ってくる!」

トランクス

「俺たちも行くよ!

な、悟天?」

孫悟天

「うん、トランクス君!」

ピッコロ

「いや、これはオレの問題だ！

お前達は来るな！

それにピッコロ大魔王はオレより弱い！」

ピッコロは猛スピードで神の神殿に向かう。

孫悟天

「ああ、行っちゃったよ！

どうする、トランクス君？」

トランクス

「そうだな！

パパも悟空さんと一緒にどっか行っちゃったし！」

孫悟天

「お兄ちゃんもお父さんと出かけたよ！」

トランクス

「やっぱり、大人たちオレ達に何か隠してるな！」

——地球のどこか——

ピッコロ大魔王

「ん？我が子が私の存在に気づいたか！

だが、もう手遅れだ！

神と一つになり、1人の戦士となるのだ！

ハハハハハ！」

——地球の神様の神殿——

ミスター・ポポ

「ピッコロ大魔王がここに来る！

神様危ないから隠れて！」

デンデ

「はい、ポポさん！」

デンデは神殿に隠れた。

ミスター・ポポ

「ピッコロ大魔王をどうする？

永遠の命は厄介！

どうしよう！」

ピッコロ大魔王

「久しぶりだなミスターポポ！」

ミスター・ポポ

「神様いやピッコロ大魔王！」

ピッコロ大魔王

「私を半身の神の奴と間違えるとはな！

奴の付き人も大したことないな！」

ミスター・ポポ

「ポポ、挑発のらない！」

ピッコロ大魔王何しに来た？」

ピッコロ大魔王

「ここに来た理由は1つしかなかろう！」

神の奴を出せ！

私の半身がいるだろ？」

ミスター・ポポ

「お前の半身居ない！

さっさと帰れ！」

ピッコロ大魔王

「嘘を言うためにならんぞ！」

早く神の奴を出せ！」

神殿からデンデが逃げるように現れる

デンデ

「なんですか？」

あ、アナタは？」

ピアノ

「ピッコロ様、

この神殿の中には神は居ませんでした、

ピッコロ様そっくりなガキが居ます！」

ピッコロ大魔王

「それは神しか着れない神服か！

お前の様なガキが神様だと？

奴はどうした？」

ミスター・ポポ

「ここには居ない！」

ピッコロ大魔王

「本当に私の半身は居ないようだな！」

なら奴はどこにいる！」

ピッコロ

「神ならどこだ？」

ピッコロ大魔王

「お前は我が息子か？」

初めて見たが成長したな息子よ！

確かに奴の気を感じる！」

ピッコロ

「オヤジ、アンタの欲しがっていた神は

13年ほど前にオレが同化した！

つまり、お前は神とは同化できないという事だ！」

ピッコロ大魔王

「なるほど、

だから急激なパワーアップを遂げた訳か！

どうりでお前から魔族の力を感じない訳だ！

父は悲しいぞ！お前が正義に目覚めた事を！

目を覚ませ我が息子マジユニアよ！」

ピッコロ

「オヤジ、

アンタこそあの世に帰れ！」

ピッコロ大魔王

「私が死ねば、

お前も死ぬことになる！

だが、私は死なん！」

第18話 『ピッコロ大魔王の企み!』

あらすじ

「1人の戦士に戻るべく神様の神殿に

やって来たピッコロ大魔王であったが、

既に息子のピッコロによって神様は居なくなっていた。

そして、今、親子対決が始まろうとしていた。」

——地球の神様の神殿——

ピッコロ

「オヤジが死ぬとオレも死ぬ？」

「どういう事だ？」

ピッコロ大魔王

「我が子よ忘れたか？」

お前は私の生まれ変わりとして生み出したジュニアだ！

そして、お前が同化した神は私の半身である！

同化した時点でお前は神と同じ存在だ！

そして私が蘇った!」

ピッコロ

「そうか!

形は違うが昔の神とピッコロに戻ったという事か!

だが、なぜアンタは死なんののだ?」

ミスター・ポポ

「ピッコロ大魔王、

ドラゴンボールで永遠の命を手にした!」

ピッコロ

「な、何?ちつ、あのガキども

肝心な事を言い忘れてやがる!」

ピッコロ大魔王

「そういう事だ!

だが、いくら永遠の命があっても

今のお前には勝てなからう!

精神と時の部屋を使わせて貰おう!」

デンデ

「何故、神でもないアナタが

精神と時の部屋を知っているんですか？」

ピッコロ大魔王

「私は先代の神の半身だということを忘れたか？」

分離する前の私は、半身と同じ記憶を共有している！

私が神を目指した頃に当時の神から

精神と時の部屋を存在を聞かされていたから知っているのだ！」

デング

「アナタのような悪人に

精神と時の部屋を使わせるわけいきません！」

ミスター・ポポ

「神様の言う通り、さっさと帰れ！」

ピッコロ大魔王

「では無理やり行かせてもらおう！」

ピッコロ大魔王が攻撃を繰り返すが、ミスターポポにぶつ飛ばされる

ピッコロ大魔王

「強いなミスター・ポポ！」

お前と初めて手合わせした頃は、大したこと無かったが、

神の奴から色々とお戦い方を教わったようだな

戦い方が私と似ているぞ!」

ミスター・ポポ

「先代の神様からポポ色々教わった!」

ピッコロ大魔王

「だが新しい神の方は戦士というわけでもなく

強いわけではなさそうだな!

そして息子の子供でもなさそうだ!

だが同族のようだがどこで見つけた?」

デンデ

「僕たちはこの星の種族ではありません!

僕たちはナメック星人です!」

ピッコロ大魔王

「ナメック星人?」

なるほど、私は宇宙人だったのか?

つまり、ウンザビットの家はやはり宇宙船だったのか!

色々とおかしいと思つたがな！

なら何がなんでも強くなり地球征服したら

今度はナメツク星を征服し宇宙全土を支配しよう！

そこを退け！」

デンデ

「嫌です！」

ミスター・ポポ

「お前を精神と時の部屋に

行かせる訳にはいかない！」

ピッコロ

「デンデ、ミスターポポ、

オヤジを行かせてやれ！

オヤジが2年間修行した所でオレには到底追いつかん！」

ピッコロ大魔王

「言つてくれるな我が子よ！

後悔しても知らんぞ！」

ピッコロ大魔王は、精神と時の部屋に入る。

ピッコロ大魔王

「ここが精神と時の部屋か！」

2年後が楽しみだ！ハハハハハハ！」

デンデ

「ピッコロさん、良かったですか？」

ピッコロ

「デンデ、

オレは神以外にも同化した

ナメック星人が居ただろ！」

デンデ

「あ、ネイルさんか！」

そうか、ネイルさんの力の差を計算したという事ですね！」

ピッコロ

「そういう事だ！」

オヤジは神と同化した事を理解したが、

他の者と同化した事を知らない！」

孫悟空

「神様、戻ったぞ！」

悟空達は、瞬間移動であの世から戻ってきた。

デンデ

「悟空さんありがとうございます！」

孫悟飯

「ピッコロさん、来てたんですね！」

ピッコロ

「ああ！」

お前たちは何処に行ってたんだ？」

デンデ

「悟空さん達は、

閻魔大王様に頼まれ事をされて、

あの世に行ってもらってたんですねよ！」

ピッコロ

「そうだったのか！」

孫悟空

「ん、じゃあ、家に帰るわ！」

オラにつかまれ!」

ベジータ「離せこつからは

オレ1人で帰れる!」

孫悟飯

「僕も1人で帰ります!」

孫悟空

「そっか!じゃあな!」

悟空達は、それぞれ家に帰って行った。

ピッコロ

「相変わらず、騒がしい奴らだ!」

第19話 『ピッコロvsピッコロ大魔王!』

あらすじ

「ピッコロとの力の差を目の当たりした

ピッコロ大魔王は強さを求め精神と時の部屋に入り、

その頃、地球に帰って来た悟空たちであったが、

ピッコロは何も話そうとしなかったのである。」

——地球の神様の神殿——

デンデ

「ピッコロさん、悟空さん達に

話さなくて良かったですか?」

ピッコロ

「これは俺とオヤジの問題だからなあ!

何時までも孫に頼る訳にはいかんしな!」

——地球のどこか上空——

孫悟飯

(ピッコロさん、なんだか様子が変だったなあ!)

気のせいかな!

それより、早く家に戻らないと!

ビーデルさんが首を長くして僕の帰りを待つてる!

それにパンちゃんも!)

同時刻地上に3つの飛来物が現れる

13号

「久しぶりの地球だな!

惑星フリーザに大量のスパイロボを設置した!

セル様だけでなく我々も奴らのデータを元に

強化をしなければ!」

13号の回想シーン

セル

「私がフリーザと戦っている間にお前達は

惑星フリーザや宇宙船にスパイロボをセットしてその後地球に帰還したら、

ドクターゲロの研究所に戻りスパイロボのデータから自ら改造し強化するんだ!

お前達には私に相応しい部下になって貰うためにな!」

13号&14号&15号

「はい！」

回想シーン終わる

13号

「ん？あれは、孫悟空の息子の孫悟飯！

だが今の我々では勝てない戻るぞお前達！」

14号、15号

「はい！」

ピッコロ大魔王が精神と時の部屋入ってから2日が経とうとしていた。

——地球の神様の神殿——

ミスター・ポポ

「ピッコロ大魔王が精神と時の部屋に

入ってそろそろ2日目が経つ！」

ピッコロ

「心配するな！」

それにいざとなれば魔封波がある！」

ミスター・ポポ

「なるほどー!」

ピッコロ

「ん? どうやらオヤジ出てきたようだな!」

ピッコロ大魔王

「待たせたな息子よ!」

ピアノ

「ピッコロ様、

素晴らしいパワーを感じますぞ!」

ピッコロ

「かなり腕を上げたじゃないか!」

「だがその程度では俺には勝てん!」

ピッコロ大魔王

「やってみなければわかんたろう?」

ピッコロ

「なら試してみるか?」

「どうせ俺と戦いつもりなんだろう?」

ピッコロ大魔王

「そのつもりだ！」

いくぞ我が息子よ！」

ピッコロとピッコロ大魔王の親子対決が始まる。

ピッコロは戦いの中、分身技を使った。

ピッコロ

「やるなオヤジ！」

だがオレはアンタの弱点を知ってるんだ！

アンタに勝ち目は無い！」

ピッコロ大魔王

「息子よ親を舐めすぎだ！」

オレにはもう魔封波など効かん！

魔封波をさせる前に電子ジヤーを壊せば良い事だ！」

ピッコロ

「なるほじー！」

流石に3度も魔封波を見たら学習したという訳か！

だが魔封波など使うつもりは無い！

それとオヤジこれで終わりだ！」

ピッコロ大魔王の背後にいた分身技のピッコロが魔貫光殺砲を放つ。

ピッコロ

「魔貫光殺砲!」

ピッコロ大魔王

「な、何?」

ぐああ!」

ピッコロ大魔王はその場で倒れた。

ピッコロ

「いくら永遠の命があっても弱ければ意味は無い!

死ななくてもダメージは受ける!」

ピッコロ大魔王

「見事だ!

さすが我が子よ!

これ以上戦っても私は勝てん!

ピッコロ大魔王ここに敗れた事を宣言する!」

ピッコロ

「オヤジ、アンタは危険だ!

例え魔封波をしても誰かに解かれるリスクもある！
だから、このオレが取り込んでやる！」

ピッコロ大魔王

(ニヤリ！)

ピッコロはピッコロ大魔王と同化を始める。

ピッコロ

「はあ、はあ、はあ！」

なんて力だ？

オヤジと神様の力が1つなった感じだ！

恐らく今の俺は、

孫のスーパーサイヤ人3に匹敵する強さな筈だ！」

ピアノ

「ま、まさか？ピッコロ様が！」

ピッコロ

「悪いが俺様がピッコロだ！

くたばれピアノの兄貴！」

ピアノ

「ぎあああああ!」

ピッコロはピアノをあの世界に返した。

ピッコロ

「さて永遠の命をどうにかしたいものだな!」

——ピッコロの精神の中——

ピッコロ大魔王

「久しぶりだな神!」

神様

「お前とは会いたくなかったが

まさかこんな形で会うことになるとはな!」

ネイル

「お前がピッコロのオヤジか?」

ピッコロ大魔王

「誰だお前?」

第20話 『目覚める悪のピッコロ!』

あらずじ

「パワーアップしたピッコロ大魔王であったが、

ピッコロの敵ではなく、

ピッコロ大魔王を危険視したピッコロは同化して、
文字通りの1人のナメック星人に戻ったのである。」

——ピッコロの精神の中——

ネイル

「私はネイル!」

戦闘タイプのナメック星人だ!」

ピッコロ大魔王

「なるほど!」

我が子の急激なパワー源は

やはり神だけではなかったか!

まあ良い!お前達にはしばらく眠って貰う!」

ピッコロ大魔王は、神様とネイルに襲いかかる。
神様

「ぐはあ!」

ピッコロ大魔王

「トレーニングをサボったな!

お前と分離した際、パワーはほとんどお前に残った!

だが、今は私の方がパワーは上だ!」

神様

「この愚か者めが!」

ピッコロ大魔王

「続いてはお前だ!」

ネイル

「来い!」

ネイルとピッコロ大魔王の戦いが始まるが、パワーアップしたピッコロ大魔王が圧倒していた。

ネイル

「おのれ!」

神様とネイルは倒れてしまう。

ピッコロ大魔王

「トレーニングがここに役立つとはな！

以前の私ではネイルとやらお前の足元にも及ばなかっただろうな！
さてと、我が子の魔族の力を探さねば！」

——地球の悟飯の家——

ピッコロはパンのおもりをしていた。

孫悟飯

「ピッコロさん、いつもすいません！」

ビーデル

「パンちゃん！」

ピッコロさん優しかったでしょ！」

ピッコロ

「ふん！」

——ピッコロの精神の中——

ピッコロ大魔王

「あつたぞ、我が子の魔族の力が！」

だが、小さくなった魔族の力を

同化後に神が後から封印したと言ったところか!

だが、この程度の封印なら私でも解ける!」

ピッコロ大魔王は封印を解く。

ピッコロ大魔王

「目覚めるのだジュニアよ!

目覚めるのだ魔族マジニアよ!

いや2代目ピッコロ大魔王よ!」

——地球の悟飯の家

ピッコロ

「ぐはあ!」

何だ?この感じはまさか!」

ピッコロが急に倒れてしまう。

孫悟飯

「ピッコロさん、

ピッコロさーん!」

数十分経ち

孫悟空

「ピッコロの様子はどうか？」

悟空は瞬間移動で仙豆を持って来てくれた。

孫悟空

「お父さん、ありがとうございます！」

ピッコロ

「悟飯か？」

孫悟空

「ピッコロさん、

気が付いたんですね？」

孫悟空

「大丈夫かピッコロ？」

ほら仙豆だ食え！」

ピッコロ

「いらん！」

悟飯、オレを殺せ！」

孫悟空

「いきなりどうしたんですか？」

ピッコロ

「早くオレを殺さんと、

取り返しのつかない事になるぞ！

早く殺してくれー！」

孫悟空

「ピッコロの中から邪悪な気を感じるぞ！」

ピッコロ

「フハハハハ！波ー！」

ピッコロはいきなり悟飯の家を吹き飛ばす。

悟空と悟飯の対応が早く、ビーデルとパンは無事だった。

ピッコロ

「このオレ様の攻撃を防いだか！流石だな！」

孫悟空

「どうしたんですか？」

ピッコロさん？」

孫悟空

「ピッコロ?」

ピッコロ

「孫悟空このオレと戦え!

天下一武道会では負けたが今度はオレ様が勝つ!」

ピッコロは街を破壊する。

ピッコロ

「孫悟空、オレと戦わないとさらに死体の山が増えるぞ!」

孫悟空

「まさかおめえ、昔の悪いピッコロに戻ったっていうんか?」

ピッコロ

「オレ様はピッコロ大魔王だぞ!」

いつまでも貴様らと馴れ合ってられるか!」

孫悟空

「来いピッコロ!」

誰もいない場所に移動だ!」

悟空は悟飯に仙豆が入った袋を渡し、悟空とピッコロが街を離れた。

孫悟飯

「ピッコロさん!」

ビーデル

「悟飯君、お父さんとピッコロさんを助けてあげて!

助けられるのはきつと悟飯君だけだと思おうの!」

※悟飯は魔人ブウ編の道着に着替える。

サタン

「な、なんだこれは?」

サタンとブウがやってくる。

ビーデル

「パパ?」

孫悟飯

「お義父さん?」

魔人ブウ(善)

「なんで家壊れてるんだ?」

孫悟飯

「お義父さんとブウさん、

ビーデルさんとパンちゃんの事をお願いします!

僕はお父さんの所に向かいます！」

第21話『孫悟空vsピッコロ（前編）！』

あらすじ

「パンのお世話をしていたピッコロであったが、

突如倒れ目を覚ますと辺りを破壊し始めるのである。

ピッコロは昔のピッコロ大魔王に戻ったのか？

今、悟空とピッコロの戦いが始まろうとしていた。」

——地球のどこか——

孫悟空

「ここなら人も動物も居ないはずだ！

おめえホントにピッコロかあ？」

ピッコロ

「オレはホントのピッコロだ！

昨日までのピッコロは偽者のピッコロだ！

お前達親子の甘さが移ったようだ！

だが今は違う！

孫悟空貴様を倒し世界を支配する！」

孫悟空

「ピッコロ？」

本当に悪人に戻ってしまったのか？」

ピッコロ

「諦めろ孫悟空！」

オレはピッコロ大魔王様だ！

本気でかかって来い！」

孫悟空

「やるしかないのか？はぁー！！」

悟空はスーパーサイヤ人2に変身する。

——地球のどこか上空——

悟飯は悟空の元に向かっていた。

孫悟飯

「お父さんがスーパーサイヤ人2に？」

まさかピッコロさんと戦うんじゃない？」

デンデ

「悟飯さん、悟飯さん!」

孫悟飯

「デンデか!」

もしかしてピッコロさんの

変わりようを知ってるんですか?」

デンデ

「はい!実は...!」

デンデは、ピッコロの父ピッコロ大魔王が復活したなどの事情を話した。

デンデ

「というわけなんです!」

孫悟飯

「そういう事だったんですね!」

つまり、ピッコロ大魔王と同化した事でピッコロさんの中に

僅かに残っていた悪の心が目覚めてしまったという事か!」

デンデ

「だいたいそんな感じですよ!」

悟空とピッコロが戦いを始めようとしていた同時刻。

——宇宙のナメック星——

ナメック星人1

「なんだ隕石か？」

ナメック星人2

「ムーリ様、隕石が隕石が

ナメック星に向かって来てます！」

最長老ムーリ

「わかっておる！」

だが生命反応がある！

隕石を破壊する訳にはいかん！

隕石の軌道を変えるんだ！

戦闘タイプの名メック星人を集めてきなさい！」

ナメック星人1

「かしこまりました！」

戦闘タイプの名メック星人が集まる。

ナメック星人2

「ムーリ様、

戦闘タイプを集めてまいりました！」

最長老ムーリ

「() 苦労さまです！」

皆、気づいていると思うが、

隕石がナメック星に向かつておる！

しかし、生命反応があるから隕石は破壊できん！

だから皆の力で軌道を変えてこのナメック星を救うんだ！」

ナメック星人一同

「おー！」

戦闘タイプの名メック星人達は、隕石の軌道変えるべく飛び立つ。

戦闘タイプの名メック星人1

「アカイな！」

戦闘タイプの名メック星人2

「皆、いくぞー！」

皆は、気功波のたぐいを撃ち軌道を変えようとするが変わらない。

その頃、地球では。

——地球のどこか——

ピッコロ

「スーパーサイヤ人2か？」

オレ様も舐められた者だな！

本気を出させてやる！」

孫悟空

「ピッコロ、

おめえの目を覚まさせてやる！」

悟空とピッコロの殴り合いが始まる。

孫悟空

「強いなピッコロ！」

いつの間にそんなパワーを手に入れた？」

ピッコロ

「敵のお前に教えるわけないだろう！」

孫悟空

「それもそうだな！

やっぱオラは甘かったみたいだ！はあ——！」

悟空はスーパーサイヤ人3に変身する。

ピッコロ

「ちっ！」

スーパーサイヤ人ブルーにならないとはな！

やはり甘いな！

すぐに後悔させてやる！はあー！」

ピッコロはオレンジピッコロの姿が変わる

孫悟空

「なんだそれは？」

ピッコロがオレンジになったぞ！」

ピッコロ

「オレが今どんな姿か知らんが、

あえて言うならオレンジピッコロ大魔王

いやオレンジピッコロとも呼びやがれ！」

孫悟空

「オレンジピッコロか！」

やっばおめえとの闘いはワクワクするぜ！

ピッコロいくぞ！」

悟空とピッコロの戦いは互角であった。

ピッコロ大魔王と同化した

ピッコロはかつての強敵魔人ブウに匹敵する力を手に入れていた。

孫悟空

「そのオレンジピッコロすげえーな！

それに再生力も半端ないぜ！」

ピッコロ

「孫悟空！

何故本気を出さない？

スーパーサイヤ人ブルーになれば

簡単にオレを倒せるだろ！」

孫悟空

「おめえ、再生力まるで魔人ブウみたいな！

ピッコロ不死身になったんか？」

ピッコロ

「ああ、色々あつて不死身の体を手に入れた！」

孫悟空

「そうか！」

なら仕方ないな！はぁー！

悟空は遂にスーパーサイヤ人ブルーに変身する。

——トキトキ都——

時の界王神

「これは正しい歴史の流れじゃないわ！」

トランクス（ゼノ）

「どうしたんですか時の界王神様？」

時の界王神

「今、巻物を見てただけど、

ピッコロくんがピッコロ大魔王に戻って

悟空くんと戦う歴史があるんだけど、

本来の歴史より早い段階でピッコロくんが

オレンジピッコロに覚醒しちゃってて！」

トランクス（ゼノ）

「またトワとミラの仕業ですか？」

時の界王神

「恐らくね！」

いや、あるいは別の存在？」

第22話『孫悟空vsピッコロ（後編）!』

あらずじ

「ピッコロ大魔王と同化した影響かピッコロは

悪のピッコロに戻ってしまった。

そして、悟空は遂にスーパーサイヤ人ブルーに変身するのであった。

その頃、ピッコロの故郷のナメツク星では？」

——地球のどこか——

ピッコロ

「遂にスーパーサイヤ人ブルーになったか！」

確かにこのオレンジピッコロの力を持ってしても

お前の方がパワーは上だ！

だが、それではオレ様には勝てん！」

孫悟空

「不死身だからか？」

ピッコロ

「いや違う！」

孫悟空 「何を企んでいる？」

ピッコロ

「さあな！」

さつさとかかかって来やがれ！」

孫悟空

「んじゃ！」

遠慮なくいくぞ！」

悟空の攻撃をまともにくらいピッコロはぶっ飛ばされる。

ピッコロ

「うわー！」

孫悟空

「ピッコロ不死身の体に過信しすぎだ！」

ピッコロ

「果たしてそうかな？」

毘にかかったのはお前の方だ！」

孫悟空

「な、何？」

か、体が動かない！

どうなってるんだ？」

ピッコロ

「神封じの呪いだ！」

この技は魔族にしか使えない技だ！

だがオヤジもかつてのオレも

使うことのできなかった技だ！」

孫悟空

「神封じの呪い？」

ピッコロ

「その通りだ！」

名前の通り神を封じる技だ！

その気になれば界王神や破壊神にだって有効なはずだ！

だが人間相手には効かんのだ！

でもスーパーサイヤ人ゴッドには有効だったようだな！

思った通りだ！ハハハハハ！」

孫悟空

「そうか、だからこの技を仕掛けるため

オラをスーパースァイヤ人ブルーにさせようど？」

ピッコロ

「お前は厄介な相手だからな！

お前は甘いのだ！

あの時、天下第一武道会で負けたオレに

仙豆を食わせたのが間違いだったんだ！」

孫悟空

「ピ、ピッコロおめえ……！」

悟空は意識を失う。

ピッコロ

「孫悟空は虫の息だ！

あとはベジータだな！

ん？」

ピッコロに攻撃が飛んできた。

どうやら近くでベジータが修行をしていたようだ。

ベジータ

「貴様、ピッコロか？」

カカロットに何しやがった？」

ピッコロ

「ベジータか！」

ベジータ近くでも修行していたのか？

気を感じなつたぞ！

まあ良い、ベジータもいなくなればオレ様から敵が居なくなる！」

ベジータ

「どういう意味だ？」

ピッコロ

「お前がいなくなれば世界を征服できる！」

貴様らサイヤ人が現れなければ、

オレは孫悟空と倒し

今頃、世界はピッコロ大魔王の帝国ができていたはずだ！」

ベジータ

「随分と変わったな！」

ピッコロ

「昔の魔族だった頃に戻っただけだ！」

ベジータ

「カカロットは甘いからな！」

貴様もかつてはカカロットの敵の1人だったが、

いつの間にか仲間になっていたという事か！

カカロットの奴は仲間には本気を出せない！

だが、このベジータ様は仲間だろうと容赦はしない！」

ベジータはいきなりスーパーサイヤ人ブルーに変身する。

——宇宙のナメック星——

隕石が落ちたが星は無事だった。

最長老ムーリ

「あれは、宇宙船？」

宇宙人1

「ナメック星人の諸君、

お騒がせして済まない！

我が主スラッグ様がナメック星の

ドラゴンボールの力を借りに来た！」

最長老ムーリ

「ドラゴンボールだと？」

スラッグ

「お前が今の最長老とやらか？」

※映画超サイヤ人だ孫悟空同様にスラッグは年寄りの姿です。

映画はパラレルワールド扱いなので悟空達はスラッグの存在を知りません。

最長老ムーリ

「アナタはナメック星人か？」

まさか、カタツツの子以外にも生き残りが居るとはな！」

ナメック星人

「ムーリ様、この者から邪悪な気を感じます！」

最長老ムーリ

「ああわかっておる！」

スラッグとやら、ドラゴンボールで何を望む？」

スラッグ

「見ての通りワシは古い先短い年寄りです！」

「若さが欲しいのです！」

最長老ムーリ

「何故、若さを求めるのですか？」

スラッグ

「ワシたちは宇宙から争いを無くすべく、

平和な宇宙目指し宇宙統一のため活動しています！

しかし、ワシは歳を取りすぎた！

いつ死んでもおかしくない！」

最長老ムーリ

「なるほど、そういう事でしたか？」

わかりました！」

スラッグを案内しながらムーリは考え事をしていた。

最長老ムーリ

（コイツ、宇宙平和とか言つとるが宇宙侵略の間違いじゃろ？

だが、今のナメック星人でコイツに勝てる者はいなからう！

そうだ！）

最長老ムーリ

「スラッグさん、若さを手に入れましたら

地球に行かれてはいかがですか？」

スラッグ

「地球だと？」

最長老ムーリ

「はい！」

地球にもドラゴンボールがありまして、

そのせいなのか、いつも宇宙人の侵略が絶えません！

地球にはあなたと同じナメック星人の生き残りが

居ましてどうか力を貸してあげてください！」

最長老ムーリ

（地球にはフリーザを倒した悟空さんや仲間の方々がいる！

彼らならこのスラッグを倒せるはずだ！）

第23話 『ベジータVSピッコロ!』

あらすじ

「ピッコロに悟空が倒され

今、ベジータとピッコロの戦いが

始めようとしていた。

その頃、ナメック星では新たな脅威が生まれようとしていた。」

——宇宙のナメック星——

最長老ムーリ

「いでよポルンガー!」

ドラゴンボールからポルンガが現れる。

ポルンガ

「ドラゴンボールを集めし者よ!

願いを言うが良い!」

スラツグ

「このワシに永遠の若さを! (ナメック語)」

ポルンガ

「容易い事だ!」

スラッグは若さを手にして気がアップした。

最長老ムーリ

(やはり、戦闘タイプの名メック星人

最強のネイルの気を軽く超えている!

スラッグには恐らく束になっても勝てない!

ならどうする?ポルンガの願いはまだ2つある!)

スラッグ

「素晴らしい、若さとは素晴らしいぞ!

まずはこの星を拠点にしよう!」

名メック星人2

「やはり、我々を騙していたのか?」

スラッグ

「気づいていたのか?」

「そうだよこの俺は悪の名メック星人だ!」

ポルンガ

「2つ目の願いを言うが良い！」

スラッグ

「まだ叶うのか？」

——地球のどこか——

ピッコロ

「孫悟空とは違って最初から本気とは、

話が早くて助かるぜ！来いベジータ！」

ベジータ

「ピッコロ、ナメック星人はそんな

オレンジの姿に変身ができたんだな！」

ピッコロ

「さあな！」

この力は手に入れたばかりだが、

だが、スーパーサイヤ人ブルーには勝てない！」

ベジータ

（カカロットの奴は何故やられた？

確かにピッコロの戦闘力はパワーアップし

恐らく魔人ブウクラスの力はある!

だが、勝てない相手ではない!

しかし、あの余裕気に入らんな!

ピッコロ

「どうした?」

来ないのかベジータ?

ベジータ

「カカロットを倒した力、

オレ様が見極めてやる!」

ベジータはピッコロをぶっ飛ばす。

ピッコロ

「うあー!」

ベジータ

「ちっ!

やはりその程度か?

期待させやがって!」

ピッコロ

「確かにお前も孫もオレより強い！」

だが、それは神の気を使えばの話だ！」

ベジータ

「か、体が動かんだと！」

どうなってやがる？」

ピッコロ

「神封じの呪いだ！」

スーパーサイヤ人ブルーは

神の力を使う！」

ベジータ

「そうか、

カカロットはこの技を喰らい！」

クソツタレー！」

ベジータは意識を失い、

ピッコロはオレンジピッコロの変身を解く。

ピッコロ

「邪魔な孫悟空とベジータを倒せたのは大きい！」

ん? だれか来る!

悟飯か!」

孫悟飯

「ピ、ピッコロさーん!」

ピッコロ

「来たか悟飯!」

孫悟飯

「お父さん、それにベジータさんまで!

ピッコロさん、何を?」

ピッコロ

「オレは昨日までのピッコロではない!

ピッコロ大魔王に戻ったのだ!」

孫悟飯

「ピッコロさん、

ピッコロ大魔王なんかには負けないで!

ピッコロ

「ん?」

そうか、デンデにでも聞いたか？

そうだオレはオヤジと同化し

魔族ピッコロ様に戻ったのだ！

だから悟飯オレを早く倒せ！」

孫悟飯

「ん？」

ピッコロさんまだ微かに優しい心が残ってる！」

ピッコロ

「どうやら、

オレ様はまだ完全な魔族に戻ってないようだな！

だが、隙が多いぞ悟飯！」

孫悟飯

「ぐはあ！いつの間にか力を！」

ピッコロは隙をつきオレンジピッコロに変身して悟飯を気絶させた。

しかし、ピッコロは僅かに残った優しい心が邪魔をして悟飯にトドメをさせないよう
だ。

ピッコロは悟空とベジータを連れてどこかに飛び去る。

—— 謎の空間 ——

ダークマター

「ピッコロはまだ善の心が残ってるようだな！

だが、小さい分かつてのような分離は無いだろう！

もつともつと悪のエネルギーが欲しい！」

—— 地球のどこか ——

スラッグ

「ここは？」

宇宙人1

「スラッグ様、ここは地球かと思われませす！」

スラッグ

「そうか、あの最長老のジジイめ！」

回想シーン

最長老ムーリ

「スラッグとその一味を地球に転送してください（ナメック語）」

ポルンガ

「わかった！」

ここにいるスラッグとその一味を地球に転送しよう！」

回想シーン終わる

スラッグ

「ポルンガの力で地球に移動させられたようだ！」

まあ良い、部下たちよ地球を改造しろ！」

「ここは暑くてたまらん！」

宇宙人2

「かしこまりました！」

※映画ドラゴンボールZ 超サイヤ人だ孫悟空の様に地球の改造を始め、太陽を隠そうとする。

—— 地球の別の場所 ——

ガーリックJr

「ん？、私は確かデッドゾーンに再び吸い込まれ！」

ダークマター

「お前は我がデッドゾーンから出してやった！」

そして、お前のかつての仲間のガーリック3人衆と

魔族四天王を悪の閻魔大王が蘇らせていたはずだ！」

「誰だ？」
ガ
ー
リ
ツ
ク
J
r

第24話 『魔族3勢力による支配!』

あらすじ

「悟空とベジータがピッコロに倒され、

地球にピッコロ、スラッグ、ガーリックJrの

魔族3勢力が現れたのである。

そして、地球には戦える戦士が悟飯しかいないのである。」

——地球のどこか——

ガーリックJr

「私に話しかけるのは誰だ?」

ダークマター

「我は魔族の神、ダークマターだ!」

ガーリックJr

「だ、ダークマター様だと?」

父ガーリックから聞いたことがある!

我々魔族の神様が居ると!

何故、私などを助けたのですか？」

ダークマター

「魔族は皆、仲間だ！」

そして、今地球にはお前を含め3人の魔族が存在している！

更には魔族が快適に住める環境となりつつある！」

ガーリックJr

「確かに太陽が無いな！

力が溢れるようだ！」

ダークマター

「ガーリックJrよ、

お前は気が進まんだろうが

ピッコロ大魔王と手を組め！」

ガーリックJr

「私にピッコロ大魔王の手下になれと？」

ダークマター

「誰も仲間や手下になれとは言つとらん！」

ガーリックJr

「なるほど！」

対等の存在でいれるというわけですね！

かしこまりました！

しかし、魔凶星が復活しているとはな！」

ダークマター

「魔凶星には危機回避能力があり、

あの時、孫悟飯の攻撃で消されそうになった時、

破壊を逃れるため地球から遠い場所に緊急回避しただけだ！

我が地球の上空に持ってきた！

魔凶星は空が雲に隠れていても魔族には効果がある！」

※映画ドラゴンボールZ オラの悟飯をかえせッ!! 及びアニメオリジナルガーリツク Jr 編は正史扱いとなります。

—— 地球のどこか ——

スラッグ

「ん？何者だ？」

ピッコロ

「お前もナメック星人か？」

だが、オレと同じ魔族のようだな!

地球の太陽を隠したのは貴様か?」

スラッグ

「そうだが?」

お前が最長老が言っていたカタツツとかいう奴は息子か?」

ピッコロ

「知らんな!」

あいにくオレ様は記憶を失っているようだな!」

スラッグ

「実はこのスラッグもナメック星にいた頃の記憶が無くてな!」

ピッコロ

「お前は根っからの悪のナメック星人のようだな!」

スラッグ

「この星はお前の支配下だったか?」

ピッコロ

「いや、これから地球を支配するつもりだ!」

どうだ、同じナメック星人の好でオレと手を組まんか?」

スラッグ

(コイツ、かなりの戦闘力だな！)

まさか、こんなナメック星人が居ようとは！

隙を見て同化してオレ様の力にしてやる！)

ピッコロ

(コイツは、恐らくオレの隙を突き同化を狙ってくるはずだ！)

警戒しておこう！)

スラッグ

「良いだろ！」

だが、仲間でも無くあくまで対等な存在でな！」

ピッコロ

「ふん、仲間などになるつもりはないだろ！

魔族は利用して利用される者だからな！」

ガーリックJr

「久しぶりだなピッコロ！」

ピッコロ

「貴様はガーリックJr！」

何故、お前がここに？」

ガーリックJr

「ダークマター様力で蘇った！」

ところでお前はピッコロの分身か何かか？」

スラッグ

「オレ様はスラッグ！」

オレ様はピッコロの分身ではない！」

同じナメック星人なだけだ！」

ガーリックJr

「ナメック星人？なるほど宇宙人だったのか！」

ダークマター様の命令でピッコロお前と手を組むことになるとはな！」

ダークマター

「ピッコロ、スラッグ、ガーリックJrよ、聞こえるか？」

お前達は思う存分に地球を魔族の世界に変えるが良い！」

ピッコロ一同

「かしこまりました！」

——地球の神様の神殿——

孫悟飯

「ここは？」

デンデ

「悟飯さん気がつきましたか？」

「ここは神様の神殿です！」

孫悟飯

「ピッコロさんは？」

ミスターポポ

「ピッコロ、魔族の仲間作って地上で暴れてる！」

しかも、仲間にあのガーリックJrが居る！」

孫悟飯

「ガーリックJrが？」

ミスターポポ

「今、地球には戦える戦士悟飯しか居ない！」

敵は、ピッコロを含む3勢力が存在する！」

孫悟飯

「そんなにですか？」

それよりビーデルさんやお母さん達を神様の神殿に避難させないよ!」

ビーデル

「悟飯君、私はここよ!」

パンちゃんもね!」

チチ

「んだ!」

ブルマさんの飛行機で皆、ここに来ただ!」

孫悟飯

「お母さん!」

悟飯は辺りを見ると、ビーデル、パン、チチ、悟天、ブルマ、トランクス、18号、マローン、クリリン、ヤムチャ、亀仙人が居た。

※悟飯はピッコロの道着に着替える(マント無し)

孫悟飯

「ボク、ピッコロさんの所に行つてきます!」

ヤムチャ

「まて悟飯!」

クリリン

「悟空達が居ないんだオレたちも行くぜ！」

第25話 『セル第6宇宙から帰還!』

あらすじ

「地球は今、魔族の惑星になりかけていた。

悟空たちが倒れた今、

地球を救えるのは、

もはや悟飯だけとなっていた。」

——地球のどこか上空——

孫悟飯

「地球中に悪の気を感じます!」

クリリン

「ああ、確かにピッコロとガーリックJr以外に

ピッコロみたいな気を感じる!」

孫悟飯

「デンデの話によると悪のナメック星人が星を攻めてきたから、

お父さん達に倒してもらったためにポルンガの力で地球に連れて来たみたいですよ!

恐らく似た気はその悪のナメック星人だと思えます！」

※映画ドラゴンボールZ超サイヤ人だ孫悟空は

パラレルワールド扱いなので悟飯達もスラッグを知りません。

クリリン

「新最長老さんも人が悪いよな！」

「このタイミングで地球に連れてくるなんて！」

孫悟飯

「仕方ないですよ！」

「最長老さんも悪気あってやったわけではありませんし！」

クリリン

「そりやそうだが！」

天津飯

「悟飯！」

孫悟飯

「て、天津飯さん、無事だったんですね！」

天津飯

「ピッコロ大魔王が産み出したようなバケモノが

「いっぱい居ていたい地球では何が起きているんだ?」

「合流した天津飯ひ悟飯は今地球で起きている事を話す。」

天津飯

「なるほど!」

餃子は置いてきた!

悟空たち抜きでは、この戦いは厳しくなるだろう!

しかし、ピッコロの変わり様には驚いた!

いや元に戻ったというべきか?」

孫悟飯

「そんなー!」

ピッコロさんは悪い人じゃありません!

ピッコロさんはボクにとってももう一人のお父さんのような存在なんです!」

天津飯

「すまん!」

「そういつつもりで言ったんじゃ!」

クリリン

「そっだぜ悟飯!」

天津飯の奴は、昔の悪いピッコロを知ってて

口を滑っただけで今までの仲間だった

ピッコロを悪く言ったわけじゃないぞ！」

孫悟飯

「はい、わかつてるつもりです！」

ボクは話でしかピッコロさんが悪い人だったという事しか知りませんでした、
今度の戦い僕はピッコロさんを倒す覚悟を決めた方が良いでしょうか？」

クリリン

「それは！」

悟飯は考え事をしながら、地上で魔族から逃げた人達を見る。

そして、被害が酷いと思い、バラバラで行動する事を決意する。

孫悟飯

「皆さん、ここからは手分けして悪人を倒して行きましょう！」

天津飯

「そうだな！」

悪人が地球に散り散りに居るのにオレたちが固まって

事に当たるのは時間がかかり被害が増える一方だ！」

悟飯達は散り散りに行動を始めた。その頃。

——ビルスの星——

ウイス

「おかえりなさいませ!」

ビルス

「戻ってきたか!」

セル

「私は強くなった!」

だが、本当に強くなったのか?」

ウイス

「貴方は第6宇宙に行く前より随分強くなってますよ!」

ビルス

「そんなに強くなったのか気になるならまた戦えば良いじゃないか?」

セル

「確かにな!」

だが、私は戦闘力が上にも関わらず戦闘力が下の相手に2回負けた!

1度目は孫悟飯との戦い、2度目はフリーザ兄弟との戦いだっ!

「どちらも私の戦闘力が上だったのに勝てなかった！私に何が足りない？」

ビルス

「キミ、面白い奴と思ったけど、

随分つまらないんだね！

勝ち負けに理由なんて無いさ！

あるとしたらキミ自身だよ！」

ウイス

「セルさん、確か貴方は悟空さんやフリーザさん達の

細胞を集めた生物ですよね？」

セル

「そうだが？」

ウイス

「貴方は色んな細胞がありすぎて

自分という物つまり個性がありません！

それが戦闘力の差かと思われまます！」

セル

「個性？」

確かに私には私固有の個性という物が無いかもしれない！

私にあるのは悟空、ベジータ、ピッコロ、フリーザ達の細胞と
奴らの性格や過去の記憶や知識などだ！

私の個性はなんだ？」

ビルス

「まあ、個性なんて自分にしかわからん物だ！

他人に頼らず自分で考えな！」

セルは色々と考え、答えが出ないまま戦う事を決意する。

セル

「ビルス様とウイスさん、また世話になったな！

まだ自分の個性とやらがわからんが

とりあえず私には戦いがしように合ってるようだな！

地球に行き孫悟空もしくは孫悟飯に戦いを挑もうと思う！

では行ってくる！」

セルは瞬間移動で地球に移動。

第26話 『魔族3勢力のガーリックJr! (前編)』

あらすじ

「悟空たちが倒され、

地球では悟飯たちと魔族3勢力の

戦いが繰り広げられていた。

そんな中、セルが地球にやって来たのである。」

——地球のどこか——

セル

「ここが地球か？」

かなり町も壊されて太陽が隠れているな！

それに孫悟空とベジータの気を感じない！」

謎の戦闘員

「なんだ貴様はガーリックJr様の敵か？」

セル

「地球をこんな風にしたのは貴様らか？」

謎の戦闘員

「そうだ！」

魔族が住める環境にただけだ！

我々魔族は太陽の光が弱点だからな！」

セル

「ほう！」

太陽が弱点か！

ならこれでも喰らえ太陽拳！」

謎の戦闘員

「な、なんだこれは？」

謎の戦闘員は光に苦しむ。

セル

「つち！」

太陽が無い分、太陽拳の威力が落ちたか！

敵に弱点を教えるとはマヌケ目！

ん？あつちから大きな気を3つ感じる！

1つはピッコロか？行ってみるか！」

※ガーリックJrとスラッグはダークマターの力により、スーパーサイヤ人2以上の力を手にしてます。

—— 地球の別の場所① ——

クリリン

「はあはあはあ、

この辺の悪人はあらかた倒したかな？」

クリリンはガーリック3人衆のジンジャー、ニッキー、サンショと

魔族四天王のをガツシュ、ビネガー、タード、ゾルドを倒した。

ガーリックJr

「久しぶりだなハゲ頭！」

クリリン

「お前はガーリックJr！」

—— 地球の別の場所② ——

天津飯

「はあはあはあ、

かなり手こずったが全員倒したか？」

天津飯はスラッグの手下のアンギラ、ドロタボ、メダマツチャ、ゼエウンを倒した。

スラッグ

「強いなお前?..ん?」

その3つ目、今は無き宇宙の種族の三目人の末裔だな?」

天津飯

「俺が宇宙人? いやそんな事はどうでも良い!

お前が悪のナメック星人だな?」

——地球の別の場所③——

ヤムチャ

「はあはあはあ、何とか倒せたか!

しかし、コイツらまるでピッコロ大魔王の手下みたいなバケモノだったな!」

ヤムチャはピッコロ大魔王のタンバリンのようなバケモノを倒す。

なお、悪の閻魔大王はタンバリン、シンバル、ドラムを蘇らせていた。

ピッコロ

「ヤムチャ貴様だったか?」

ヤムチャ

「ピ、ピッコロ?」

いきなり当たりを引いてしまったぜ!」

——地球の別の場所④——

孫悟飯

「かめはめ波——！」

謎の戦闘員

「こゝ、コイツ強い！」

強すぎるぞ——！」

悟飯の強さを見て戦闘員達が逃げ出す。

孫悟飯

「ん？クリリンさん達の気が小さく？」

誰かと戦っているのか？

このままではまずい！

ここからならクリリンさんの所が近いな！」

悟飯はクリリンの元に向かう。

——地球の別の場所①——

クリリン

「うああ——！」

クリリンはガーリックJrに痛みつけられている。

ガーリックJr

「もっともっと私を楽しませてくれ！」

クリリン

「このバケモノめ！」

うああー！」

ガーリックJr

「ちっ！つまらんな！」

トドメだー！」

クリリンに向けた攻撃を悟飯が跳ね返す。

孫悟飯

「クリリンさん、大丈夫ですか？」

仙豆です！」

クリリン

「すまない悟飯！」

孫悟飯

「無事でよかったです！」

クリリンさん仙豆を預かっつといてください！」

クリリン

「わかった！」

悟飯は仙豆が入った袋をクリリンに渡す。

こっからクリリンは仙豆係となる。

ガーリックJr

「貴様は孫悟空？ いや孫悟飯か？」

随分と大きくなったな！」

孫悟飯

「ガーリックJrまさかお前が復活していたとは驚いたよ！」

お父さんは居ないんだボクが倒す！」

ガーリックJr

「強くなってるのは自分だけと思うなよ！」

孫悟飯

「はぁー！ー！」

悟飯は気を上げアルティメット化になる。

ガーリックJr

「な、なんだと？」

貴様、何故それほどのパワーが？

やはり、ガキの頃にお前を仲間にするべきだったな！

正直いって、パワーはお前が上だ！

だが、私には永遠の命がある事を忘れるな！」

ガーリックJrは本気を出しスーパーガーリックJrに変身する。

孫悟飯

（凄い気だ！）

これはかつてのセルやダーブラぐらいの強さか！

強さではボクの方が上だ！

しかし、ガーリックJrの言う通り永遠の命が厄介だ！）

ガーリックJr

「さて戦いを始めようか！」

第27話 『魔族3勢力のガーリックJr! (後編)』

あらすじ

「第6宇宙から帰還したセルは、

地球にやって来たのである。

そんな頃、悟飯は魔族3勢力の1人である

ガーリックJrと戦おうとしていた。」

——地球の別の場所①——

ガーリックJr

「孫悟飯、お前との戦いではデッドゾーンは使わんからな！

あれは自分が吸い込まれるリスクがある！」

孫悟飯

「勝手にしろ！」

いくら永遠の命があってもダメージは受けるはずだ！」

ガーリックJr

「なら、試してみろ！」

孫悟飯

「やるしかないのか？」

「はぁー！」

悟飯とガーリックJrの殴り合いが始まる。

だが、永遠の命がある分、ダメージが回復する。

ガーリックJr

「やはりパワーは上か！」

永遠の命がなければ危なかつたぞ！

仮に私を倒せたとして、

ピッコロと同族のスラッグとかいう奴を倒せても、

お前はピッコロには勝てんぞ！」

孫悟飯

「どういう事だ？」

ガーリックJr

「ピッコロの奴も永遠の命を手に行っているからだ！」

孫悟飯

「なんだって？」

ガーリックJrの回想シーン

ガーリックJr

「ピッコロよ貴様も永遠の命を手に行っているな？」

スラッグ

「な、なんだと？」

ピッコロ

「よくわかったなガーリックJr！」

ガーリックJr

「私にも永遠の命がある！」

「だからわかったのだ！」

ピッコロ

「なるほど！」

「まあ、オレというよりオレの中のヤツが永遠の命を手に行っただけだ！」

スラッグ

「そうか、

同化したナメック星人の誰かが

永遠の命を手に行っていたという事か？」

ピッコロ

「そんな所だ！」

ガーリックJrの回想シーン終わる

孫悟飯

「そうか、

ピッコロ大魔王は永遠の命を手にして、

それをピッコロさんが同化した事で

ピッコロさんに永遠の命が反映されたという事か！」

ガーリックJr

「察しが良いな！

話はここまでだ！

戦いの続きを始めよう！」

再び悟飯とガーリックJrの殴り合いが始まる。

しかし、ガーリックJrに異変が起きる。

ガーリックJr

（やはりパワーが上だとダメージの回復に時間がかかるな！

長時間は戦えないぞ！どうする？ん？）

ガーリックJrはクリリンを人質にする。
クリリン

「離せ、この野郎離せ！」

ガーリックJr

「動くな！」

動くとコイツの命が無いぞ！」

孫悟飯

「卑怯だぞガーリックJr！」

ガーリックJr

「卑怯でも勝てば良いのさ！ハハハハハ！」

クリリン

「悟飯！」

オレに構わずコイツをぶっ飛ばせ！」

ガーリックJr

「余計な事を言うな！」

動くなよ？」

孫悟飯

「くそー!」

「ガーリックJrが悟飯に攻撃しようとした時、

不意を疲れガーリックJrはゴテンクスの攻撃でぶっ飛んだ。

ゴテンクス

「正義の死神ゴテンクス様参上!

人質を使うなんて卑怯だぞ!」

孫悟飯

「悟天、トランクスなんで来た!

でも助かった!

だが、アイツはオレにやらせてくれ!

お前たちは手を出すな!」

ゴテンクス

「わかったよ!」

ガーリックJr

「まだ、仲間がいたのか!」

孫悟飯

「ガーリックJr、ボクは本気の本気で怒ってるぞ!」

悟飯の怒りが爆発し、アルティメット2に変身する。

※見た目はアルティメット化に超サイヤ人2のスパークが走ったような感じである

孫悟飯

「ガーリックJr、お前はもう終わりだ！」

ガーリックJr

「な、なに？」

「どういう事だ再生できないだと！」

「バカな——！」

ガーリックは悟飯の渾身な一撃で大ダメージを受け、再生が追いつかず倒れる。

ダークマター

「ガーリックJrよ、

お前はもう用済みだ！

与えた力を返して貰うぞ！

ついでに永遠の命の能力も貰っていくぞ！」

ガーリックJr「やめろ——！」

孫悟飯

「なんだあの黒いオーラは？」

ガーリックJrから出ていく！

あの黒いオーラがガーリックJrを復活させたのか？

どこに行くんだ！」

ゴテンクス

「アイツ、体が消滅してるぞ！」

孫悟飯

「いったい何が起きてるんだ？」

第28話 『魔族3勢力のスラッグ!』

あらすじ

「ガーリックJrを倒した悟飯だが、

残る魔族はスラッグとピッコロの2人となっていた。

ピッコロはホントに魔族に戻ってしまったのか？

そして悟飯は地球を守る事はできるのか？」

——地球の別の場所①——

孫悟飯

「お前たちは帰れ！」

孫悟天

「ボクたちも戦うよ！」

トランクス

「だってパパも悟空さんも居ないんだ！」

今戦えるのは悟飯さんとオレたちしか居ないじゃん！」

孫悟天

「お願いだよお兄ちゃんボクたちも連れてって!」

孫悟飯

「お前たちの気持ちはわかった!

ならお前たちにピッコロさんと戦う覚悟はできているか?」

孫悟天とトランクス

「それは?」

孫悟飯

「そんな覚悟もできてないなら、着いて来るな!

かえって邪魔だ!」

孫悟天

「お兄ちゃんだってピッコロさんと戦うの辛いくせに!」

孫悟飯

「ごちやごちやうるさい!

ボクを困らせたいか?」

孫悟天

「わかったよ!」

悟天とトランクスは去っていった

クリリン

「ご、悟飯！」

孫悟飯

「クリリンさん、気が付かれたんですね！」

無事でよかったです！

天津飯さんの所に向かいますよ！」

悟飯はクリリンと共に飛び経つ。

——地球の別の場所②——

天津飯

「ぐはあ！」

天津飯はスラッグに痛めつけられていた。

スラッグ

「三日人との戦いを楽しみにしていたが期待はずれだ！」

飽きたしトドメだ！」

天津飯に攻撃を繰り返すが、悟飯が跳ね返す。

スラッグ

「オレ様の攻撃を跳ね返しやがった！」

何者だ?」

孫悟飯

「お前が悪のナメック星人か?」

少し離れた所

クリリン

「天津飯は仙豆だ!」

天津飯

「すまないクリリン!」

—— 地球の別の場所③ ——

ヤムチャ

「やっぱ勝てないな!」

ピッコロ

「雑魚が!」

ヤムチャは気絶する

セル

「大きい気の正体はやはりピッコロだったか!」

ピッコロ

「ん？貴様はセル！

お前もダークマター様に復活させられていたか！」

セル

「ダークマター様？

誰だそいつは？

まあ、そんな事はどうでも良い！

ピッコロよ、どうやってそこまでのパワーを手に入れた？

感じるぞこれはピッコロ大魔王か？」

ピッコロ

「流石だなセル！

オレの細胞があるだけのことがあり、

オレの中のおヤジに気づくとはな！

で何しに来た？」

セル

「決まってるだろ！

孫親子に復讐する為だ！

だが孫悟飯より強い気を感じたから見に来ただけだ！」

ピッコロ

「そうか！」

ちつ厄介な野郎が復活したな！

邪魔だな！倒しておくか！はあー！」

ピッコロはオレンジピッコロに変身する。

セル

「いくらパワーが上がり姿がオレンジに

なったところで私には勝てんだろう！

さて、孫悟空とベジータの力を披露してやろう！」

セルはスーパーサイヤ人ブルーの力を使う。

ピッコロ

「貴様も神の力を扱えるとはな！

だが、オレには勝てん！」

セル

「それはどうかな？」

ピッコロ

「うああー！」

ピッコロは大ダメージを受けるもセルに神封じの呪いを使う。
セル

「やはり私の敵ではなかったか！

ん？か、体が動かない！

どうなっている！

セルが不思議な力で縛られている悟空たちの存在に気付く

セル

「ん？

あれは孫悟空とベジータか？

まさかピッコロお前が？」

ピッコロ

「神封じの呪いだ！」

——地球の別の場所②——

孫悟飯

「ボクはお前たち魔族を倒します！」

悟飯はアルティメット2に変身する。

スラッグ

「来い、サイヤ人！」

オレ様が倒してやる！」

悟飯とスラッグの戦いが始まるが悟飯が圧倒していた。

スラッグ

「馬鹿な！」

オレ様はダークマター様の力でパワーアップしてるんだ！

負けるはずはない！」

スラッグは最大限に気をあげるが悟飯の敵ではなかった。

孫悟飯

「これで終わりです！」

かめはめ波——！」

スラッグ

「まさか、サイヤ人にこのオレ様がやられるとは——！」

孫悟飯

「ん？ガリーリック Jr みたいにスラッグの体からあの黒いオーラが抜けていく！」

「いったいどこに？」

ダークマター

「まさかガーリックJrに続きスラッグまでも倒されるとはな！
いずれがはピッコロにスラッグを同化させるつもりだったが、
まあ、良いだろう！

スラッグから力は回収した！

もつともつと悪のエネルギーを！」

——地球の別の場所②——

孫悟飯

「あとはピッコロさんだけですわね！」

天津飯

「悟飯、本当にピッコロを倒すつもりなのか？」

孫悟飯

「正直わかりません！」

でも何とかしてみせます！」

クリリン

「そうか！」

悟飯には辛いな！」

第29話『因縁の戦い孫悟飯vsセル! (前編)』

あらすじ

「魔族の地球制服計画が開始されている中、

悟飯がガーリックJrとスラッグを倒した。

そんな頃、セルがピッコロと戦いを挑み、

ブルーの力を使ったセルは神封じの呪いを喰らっていた。」

——地球の別の場所③——

セル

「何をした？」

ピッコロ!」

ピッコロ

「神封じの呪いだ!」

お前は孫悟空と同じ神の力を使ったな?」

セル

「そういう事か!」

仲間の力でピッコロお前を倒そうと思ったが、まさか、こんな隠し玉を持っていたとはな！

くそ動かない！」

ピッコロ

「だが、お前には利用価値がありそうだな！」

セル

「どういう意味だ！」

ピッコロ

「孫悟飯に復讐するチャンスを与えてやる！」

このオレが孫悟飯を倒すことも可能だが、

お前に倒させてやる！

感謝するが良い！」

セル

「そういうえば、ピッコロお前にとって孫悟飯は特別な存在だったな！」

悪に堕ちても、なお微かに優しい心が残っていて孫悟飯を殺せないようだな！」

ピッコロ

「ちっ！勝手に言ってる！」

で、どうする?」

セル

「孫悟飯と戦えるチャンスをくれるなら、

ピッコロいやピッコロ大魔王、

お前の策にまんまと乗ってやろう!」

ピッコロ

「神封じの呪い解!」

セル

「やっとな動けるようになったか!

死ねーピッコロー!」

セルはピッコロに攻撃するがセルの動きが止まる。

セル

「な、なに?」

何故動けない?」

ピッコロ

「お前はパワーだけならオレより強い!

呪いを解いた瞬間オレに攻撃すると分かっていた!

だからオレに攻撃できないようにする呪いだけは残しておいた！
パワーがオレより上なのに残念だったな！

ハハハハハ！」

セル

「ちっ！」

仕方ないかお前の代わりに孫悟飯を倒してやるよ！」

セルは飛び立つ。

ピッコロ

（いくら永遠の命があろうと、

相手が強いと再生が追い付かない！

恐らく奴の中にあるオレの細胞は魔族の頃の細胞だ！

いずれは呪いを相殺できるかもしれない！

警戒しなければ！）

——地球のどこか上空——

孫悟飯

（ボクはピッコロさんと会ったら戦えるんだろうか？

悟天達には偉そうに言ったが！

ん?)

孫悟飯

「な、なんだ?

今の攻撃!」

クリリン

「ご、悟飯!

あそこを見ろ!」

孫悟飯

「セ、セル?

なぜ貴様が?

やっぱりフリーザに倒されてなかったんだな!」

セル

「ほう!

孫悟飯、私が復活していた事を知っていたか?」

孫悟飯

「ああ!

お父さんとベジータさんも知っている!」

クリリン

「悟飯どういう事だ？」

悟飯はクリリン達に事情を話す。

天津飯

「オレたちの知らない間にそんな事が！」

しかも、あのフリーザと戦っていたとはな！」

クリリン

「もともと強いやつだったが、

今のセルは前よりもパワーアップしているみたいだな！

どう考えてもオレたちは足手まといだ！

天津飯ここを離れるぞ！」

天津飯

「ああ！」

クリリンと天津飯は少し離れた場所に移動する。

セル

「孫悟飯！」

私はこの時を待っていたぞ！

私は嬉しいぞ!

また貴様と戦えることが!」

孫悟飯

「ボクもだ!

あの時はボクが調子に乗ってお父さんを死なせてしまった!

だから、今回は調子に乗らず最初から全力でお前を倒す!」

悟飯はアルティメット2に変身する。

セル

「ほう!

スーパーサイヤ人にはならないのか?」

孫悟飯

「ボクはスーパーサイヤ人にはならないさ!

ボクはお父さんと違った強さを求める!」

セル

「スーパーサイヤ人にならないで

ここまでのパワーを手に入れてるとはな!

やはりお前は特殊なサイヤ人のようだな!

お前の細胞があれば私も強くなっただろうにおいしいな！」

孫悟飯

「セル、お前も本気を出せ！」

セル

「良いだろう！」

はあー！

セルはスーパーサイヤ人ブルーに変身。

——宇宙のどこか——

ビルス

「おい、ウイス！」

地球までどのくらいだ？」

ウイス

「あと15分と言ったところですね！」

ビルス

「なんだよ！」

まだ、テレビアニメ1話の半分しか時間経ってないのかよ！

セルの奴、ボクたちを置いていきやがって！」

ウイス

「なんだか地球に嫌な空気が流れてますね!」

ビルス

「これは魔族の力だな!

相変わらず地球には敵が多いな!」

ウイス

「あら、悟空さんとベジータさんがやられてるみたいですよビルス様!」

ビルス

「へえー、今どきフリーザやセル以外に悟空達を苦しめる者が居たとはな!」

—— 地球のどこか ——

孫悟飯

「気を感じない!」

でもあの青いオーラは?

そうか、お父さん達と同じ神の力か?」

セル

「そうだ!

奴らのセンスに合わせるならスーパーサイヤ人ブルーだ!

もつとも私はサイヤ人の細胞があるだけでサイヤ人ではない！

髪の毛もないから見た目では区別はつかんだろうがな！」

孫悟飯

「もしも、お父さんと同じスーパーサイヤ人ブルーの力だとすると厄介だな！」

第30話『因縁の戦い孫悟飯vsセル! (後編)』

あらすじ

「魔族3勢力との戦いの中、

悟飯の前にかつての宿敵セルが現れる。

今、悟飯とセルの因縁の戦いが始まるうとしていた。

果たして悟飯は勝つことができるのか？」

——地球のどこか——

セル

「私は貴様と戦う日をどれだけ待ったか！」

あの地獄の苦しみを何倍にして貴様に返してやろう！」

孫悟飯

「お前が戦いを辞めないから地獄に行ったんだ！」

ボクはあの時に戦いは辞めようと言ったはずだ！

それなのにお前はボクの本気を見たくて、

そしてお前は殺られた！」

セル

「そうだったな！」

だが、今の私はあの時の私とは次元が違う！」

孫悟飯

「セルいくぞ！」

セル

「望むところだ孫悟飯！」

悟飯とセルの戦いが始まる。悟飯も強くはなっていたがセルの方が圧倒していた。

孫悟飯

「やっぱり、あの時のように簡単にはいかないか！」

このままでは勝てない！

奴はまだ本気じゃない！

どうすれば？」

—— 悟飯の回想シーン（力の大会が開始する前のピッコロとの特訓）——

孫悟飯

「ピッコロさんありがとうございますございました！」

ピッコロ

「いや、まだ特訓はこれからだ！」

悟飯、オレはお前の力はそんなものじゃないと思っっている！

お前ならまだまだ先に行けるはずだ！

見てみたくないか？

果たして自分がどこまで行けるのか？

どこまで強くなれるのか？

大会までまだ時間がある！

オレとやってみないか？」

地上から精神と時の部屋に移動（ベジータは精神と時の部屋を使用する前）

ピッコロ

「なんてパワーだ！」

孫悟飯

「これは？」

ピッコロ

「悟飯、凄いいじゃないか！だが、その力は長続きしないか！

でもアルティメットを超えたアルティメット2の力でも大したものだ！

自信を持って悟飯！お前なら悟空を超えるはずだ！」

孫悟飯

「ピッコロさん！」

—— 回想終わり ——

孫悟飯

（もう一度、あの時のピッコロさんとの特訓の力を出せば！

あの時みたいに集中するんだ！）

悟飯は精神を集中させ自分の中に眠る野獣の本能を解放しようとしていた。

孫悟飯

「はぁー！」

悟飯はアルティメット2から「悟飯ビースト」に変身する。

セル

「なんだその姿は？」

パワーも急激に上がった！

孫悟飯

「これが今のボクの限界です！

でもこれで貴様を倒す！」

悟飯はセルに2発のパンチを喰らわせる！

セル

「何故だ、パワーは私の方が上なのに何故勝てない？」

「それでは、まるであの時と同じではないか！」

孫悟飯

「お前は勝てんぜ！」

セル

「おのれー！」

クリリン

「セルの気は感じないがかなりのダメージを喰らってるみたいだぞ！」

天津飯

「悟飯の奴、悟空を超えたんじゃないか？」

セル

「このまま勝ったと思うなよ！」

孫悟飯は、この技を防げるか？

かーめーはーめー波ー！

このかめはめ波には銀河系を6つ破壊できる威力がある！」

孫悟飯

「そんなことしたって無駄だ！」

かーめーはーめー波ー！」

悟飯は自分の気を全て使いかめはめ波を繰り出す。

セル

「このかめはめ波をかめはめ波で食い止めるか！」

まるであの時の再現だな！

だが、私は負けん！波ーー！」

セルがもつと気を上げる。

孫悟飯

「少し押されているな！」

でもお父さんたちに頼ってばかりじゃいけないんだー！」

波ーーー！」

悟飯も自分の力を限界以上に引き出そうとする。

セル

「孫悟飯、しぶといな！」

孫悟飯

「セル、お前こそ！」

セル

「何故だ!」

何故、押し返せない?

「そうか、私はまだ自分の個性とやらの答えが出てないからパワーが上なのに勝てないのか!」

孫悟飯

「セルの雰囲気が変わった!」

何が起きてるんだ?」

セル

「私は孫悟空でもベジータでもピッコロでもフリーザでもない!」

私は究極の人造人間セルだ!」

セルは遂に自分の個性という物の答えを出し覚醒する。

孫悟飯

「セルのパワーが急激に上がった!」

でもボクは負けるわけにはいかない!

ボクは孫悟空の息子孫悟飯なんだ!」

悟飯とセルのかめはめ波は同じ力同士にぶつかり合い相殺され消滅した。

孫悟飯

「かめはめ波が消えた？」

セル

「孫悟飯、この戦いは貴様な勝ちだ！

だが、次は負けん！

ピッコロに感謝するんだな！」

セル

(ピッコロにかけられた呪いは邪魔だな！はぁー！)

セルはピッコロの細胞を使い自らピッコロの呪いを解く。

セル

「ピッコロの魔術は私の中のピッコロの気で相殺してやったわ！」

孫悟飯

「セル、いったいお前は？」

セル

「私はさつきピッコロと戦った！」

孫悟飯

「なんだって？」

セル

「ピッコロは魔族の力を自在に操り神の力を封じた!」

孫悟飯

「神の力を封じた?」

セル

「ピッコロの奴は神封じの呪いと言っていたがな!」

孫悟飯

「神封じの呪い?」

「そうか、それでお父さんとベジータさんを倒したのか!」

セル

「孫悟飯、ピッコロに神の力は使うな!」

「もつとも、お前は神の力は使えんか!」

「じゃあな!」

セルはどこかに飛び去った。

クリリン

「悟飯、仙豆だ!」

悟飯は仙豆を食べた。

第31話『悲しい師弟対決孫悟飯V Sピッコロ! (前編)』

あらすじ

「セルとの戦いは悟飯の勝ちに終わった。

だが地球では魔族3勢力の残党は

次々とピッコロの部下になっていた。

悟飯はピッコロに戦いを挑もうとしていた。」

——トキトキ都——

時の界王神

「どうなってるの?」

巻物を調べたら悟飯くんが力の大会が行う前から

ピーストに覚醒しっちゃってる!」

トランクス(ゼノ)

「実際は違うんですか?」

時の界王神

「本来の歴史ではエイジ783のセルマックスとの戦いの時に

悟飯ビーストに覚醒するはずなんだけど!

まあ、でも悟飯ビーストに関してはおもとも悟飯くんの

潜在能力が高いからいつ覚醒してもおかしくはないけど、

ピッコロくんに続き悟飯くんの覚醒も明らかにおかしいわ!

トランクス(ゼノ)

「オレ、原因を調べてきます!」

——地球のどこか——

ピッコロ

「来たか悟飯!」

孫悟飯

「ピッコロさん、ボクはあなたを助けます!」

ピッコロ

「オレを何から助けると言うんだ?

あれを見ろ!」

ピッコロは虫の息になっている悟空とベジータを見せた。

孫悟飯

「あれは、お父さんとベジータさん!」

ピッコロ

「死んではいけない安心しろ！」

かろうじて生きている！

だが見ての通り虫の息だ！」

クリリン「ヤムチャさん仙豆です！」

ヤムチャ「助かったぞクリリン！」

孫悟飯

「はぁー……！」

悟飯は「悟飯ビースト」ではなく「アルティメット」になる。悟飯には迷いがあつた。

ピッコロ

「貴様、セルと戦つた時にあの力を使つていたな！」

何故、あの力を出さない？」

孫悟飯

「ボクはピッコロさんを倒すんじゃないじゃなくて助けるんです！」

ピッコロ

「この期に及んでまだそんな事を言うのか？」

なら、お前に本気を出させてやる！」

はぁー!」

ピッコロは「オレンジピッコロ」に変身する。

孫悟飯

「ピッコロさんの姿がオレンジに？」

パワーも上がった!」

ピッコロ

「悟飯お前をその気にしてやる!」

見ておけ! 孫悟空とベジータの最後をな! 死ねー!」

ピッコロは虫の息だった悟空とベジータを殺した。

孫悟飯

「ピ、ピッコロさん、なんてことを!」

やっぱり、アナタはもうボクの知っているピッコロさんじゃないんですね?」

ピッコロ

「やっとその気になったか!

来い悟飯!」

孫悟飯

「はぁー!」

悟飯は怒りと悲しみでアルティメット2になる。

ピッコロ

「やる気にはなつたようだが、

アルティメット2の力か！

確かにアルティメット2でも十分オレよりパワーは上だ！

だが、オレには勝てん！」

悟飯とピッコロの戦いが始まる。戦闘力は悟飯の方が遥かに上だった。しかし、悟飯の中にまだ迷いが。

ピッコロ

「どうした？その程度か？

戦闘力と攻撃の大きさが違うぞ！」

孫悟飯

「ボクはどうしたら良いんだ？」

ビルス

「苦戦してるようだな悟飯！」

孫悟飯

「ビルス様、それにウイスさん！」

「どうしてここに?」

ウイス

「セルさんの戦いを見に来たんですよ!」

でもセルさんの戦いは終わったようですが!

どうやらセルさんは自分探しに答えを生み出したみたいですね!」

孫悟飯

「セルさん?」

「ってどういう事ですか?」

ウイス

「どういう事も何も、

セルさんがスーパーサイヤ人ブルーやゴールデン化できたのも

私がトレーニングを手伝ったからですよ!」

孫悟飯

「どうしてそんな事を?」

「奴は悪人ですよ!」

ウイス

「天使は、悪も正義も中立な立場で居ないといけないんです!」

それをやぶると罰を受けるんですよ！

それにビルス様が暇つぶしの相手にしたいから鍛えろってうるさいもんですから！」

ビルス

「ウイス余計なことは言わんで良い！」

孫悟飯

「そうだったんですか！」

ピッコロ

「そろそろ続きを始めるぞ悟飯！」

再び悟飯とピッコロの戦いが始まる。やはり、悟飯は手加減して戦っているようだ。

孫悟飯

「うああ！」

ピッコロの渾身な一撃が喰らう。

ピッコロ

「本気を出せ孫悟飯！」

孫悟飯

「ボクにはできない！」

ピッコロ

「なに?」

孫悟飯

「ボクにはピッコロさんと戦うなんてできない!」

ピッコロ

「そうか、ならば、くたばれ!」

悟飯は攻撃を受け倒れてしまう。

クリリン

「悟飯!」

ピッコロ

「さて、雑魚どもを掃除するか!」

神様達は手を出さないですよね?」

ウイス

「私は天使です!」

あくまで中立な立場ですので!」

ビルス

「ボクも破壊神だ!」

お前が何人を殺そうがボクには関係ない！

だが、美味しいものが食べられなくなるのは嫌だから地球は壊すな！
もしも、破ったらボクはキミ破壊するからね？」

ピッコロ

「そういうわけで悪いがクリリン、ヤムチャ、天津飯

お前たちには死んでもらう！」

クリリン

「くそつたれー！」

ヤムチャ

「くそー！」

天津飯

「すまん餃子！」

オレは死ぬかもしれん！」

クリリン達はピッコロに戦いを挑むのだった。

ピッコロ

「安心しろ、痛くないように楽にあの世に送ってやる！

ハハハハハ！ハハハハハ！」

第32話『悲しい師弟対決孫悟飯v sピッコロ! (中編)』

あらすじ

「悟空とベジータが倒され、

悟飯までもがピッコロに敗れてしまった。

果たして地球にはピッコロと

戦える戦士はいるのか？」

——地球のどこか——

クリリン達はピッコロと戦っていた。しかし、束になってもピッコロはダメージする
受けない。

ピッコロ

「雑魚が束になっても雑魚に変わらない！」

クリリン

「くそ——！」

「このまま負けてしまうのか？」

ヤムチャ

「なあ、天津飯！」

オレたちがフュージョンしたら勝てると思うか？」

天津飯

「多少はパワーアップするだろうが、

ピッコロは次元が違いすぎる！」

フュージョンしても勝てんだろう！」

ヤムチャ

「やっぱ、そう思うよな！」

だけどこのまま無様に負けるぐらいなら、

やるだけやって負けようぜ！」

天津飯

「それもそうだな！」

クリリン時間稼ぎを頼む！」

ピッコロ

「その必要は無い！」

待つてやる！」

だが、フュージョンしたところでオレに勝てるとは思えんがな！」

ハハハハハハ!

ヤムチャ

「舐めやがって!」

ヤムチャと天津飯

「フュージョン波ー!」

ヤムハン

「オレはヤムチャと天津飯が融合してヤムハンだ!」

クリリン

「す、すごい気だ!」

ヤムハン

「ドドハメ波ー!」

ピッコロ

「何かしたか?」

ヤムハン

「効いてないのか?」

ピッコロ

「当たり前だ!」

雑魚が合体しようが雑魚に変わりはない！

はあー！」

ピッコロはクリリンとヤムハンを吹き飛ばす。

ヤムハン

「やっぱり、

フュージョンしても勝てないか！」

悟飯は生きていた。悟飯はクリリン達の悲鳴を聞き起き上がる。

孫悟飯

「ピッコロさん、やめてください！」

ピッコロ

「ん？悟飯まだ生きていたか！

今度こそトドメだー！」

孫悟飯

「はあー！」

悟飯は遂に「悟飯ビースト」に変身する。

ピッコロ

「遂に本気になったか！」

ビルス

「なんだあれは？」

ウイス

「悟飯も殻を破ったようですね！」

悟飯さんから野獣の本能のような物を感じますね！

名づけるとしたら「悟飯ビースト」とでも言いましょうか！」

ピッコロ

「喰らいやがれ！」

波ー！」

悟飯はピッコロの攻撃を交わす。

ピッコロ

「なに？」

何故攻撃が当たらない！」

ビルス

「おい、ウイス！」

あれは身勝手の回避じゃないのか？」

悟飯は「悟飯ビースト」状態で身勝手の極意（兆）に似た姿になる。

ウイス

「はい！あれは身勝手の回避に間違いありません！

悟飯ビーストの姿が銀髪のせいなのか、

ぱつと見では悟空さんの身勝手の極意（極）に見間違えそうですね！」

クリリン

「ウイスさん身勝手の回避って何ですか？」

クリリンとヤムハンがビルスの所にやって来る

ビルス

「お前たちあのナメック星人の攻撃を受けて生きてたのか！」

クリリン

「はい！」

「なんとか！」

ウイス

「身勝手の回避とは、

身勝手の極意の半分の力の事です！」

クリリン

「じゃあ、悟飯はこのまま悟空みたいに

身勝手の極意になれるんでしょうか？」

ウイス

「それはどうでしょう！」

悟飯さんは、悟空さんと違って身勝手の極意（兆）すらなってますん！

「おや？」

孫悟飯

「はぁー！！」

悟飯はピッコロをぶっ飛ばす。

ピッコロ

「うぁぁー！！」

ビルス

「だが今、

悟飯の奴は身勝手の拳を使ったね！」

クリリン

「身勝手の拳？」

まさかそれも？」

ウイス

「はい！」

身勝手の拳もまた身勝手の極意の半分の力です！

つまり回避と拳が合わさった時、

初めて身勝手の極意（兆）そして身勝手の極意（極）になれるのです！
どうやら悟飯さんにも身勝手の極意になれる素質があるようですね！」

ピルス

「まったくなんて親子だ！」

だが、悟飯の癖なのかわからんが

身勝手の回避と身勝手の拳を無意識に使い分けている！

同時に使えれば身勝手の極意になれるのに勿体ないな！」

ピッコロ

「さっきからなんだ？」

悟飯のパワーが上がった！

孫悟空の身勝手の極意に似てるな！

つまり似たような力というわけか！」

孫悟飯

「ピッコロさん、

もう辞めにしませんか？」

ピッコロ

「なに？」

孫悟飯

「これ以上手加減できそうにありません！」

本当にピッコロさんを倒してしまいます！」

ピッコロ

「忘れたかオレには永遠の命がある！」

お前の真のパワーは知らんが、

その身勝手の極意擬きの技は神の力じゃないのか？

だったら神封じの呪いが有効なはずだ！

お前にオレは倒せない！」

孫悟飯

「もう何を言ってもダメなんですネ！」

ならボクも覚悟します！」

いや覚悟ならできていた！」

第33話『悲しい師弟対決孫悟飯VSピッコロ！（後編）』

あらすじ

「苦戦をしていたクリリン達であったが、

目を覚ました悟飯は悟飯ビーストの力を解放し、

さらに身勝手の回避と身勝手の拳を発動し、

ピッコロを圧倒し始めたのであった。」

——地球のどこか——

悟飯とピッコロの戦いは激しさを増していた。だが、悟飯はピッコロの攻撃を交わし続け攻撃し続ける。

ピッコロ

「おのれ！

泣き虫だった糞ガキがー！」

孫悟飯

（さっきからピッコロさんの気を禍々しくなっている。）

ビルス

「おい、ウイス!」

ウイス

「はい!」

先程からピッコロさんの魔族の力が強くなっていますね!
恐らくダークマターの色が強くなっているのでしょう!」

クリリン

「ダークマター?」

「なんですかそれは?」

ウイス

「今回の騒ぎの親玉と言ったところでしょうか?」

孫悟飯

「魔閃光!」

ピッコロ

「はあはあ!」

効かんその程度の攻撃ではオレ様は倒せないぞ悟飯!」

孫悟飯

「それはどうか?」

ピッコロさんはもう限界なはずだ！」

ピッコロ

「何訳のわからん事を言っている？」

ウイス

「悟飯さんも気づいてるようですね！」

ビルス

「ああ！」

あのナメック星人の中の悪を追い出そうとしているな！」

孫悟飯

「ピッコロさん、これで最後です！」

悟飯は身勝手の拳でピッコロに強烈な一撃を喰らわせる。

ピッコロ

「うああああ！バカな？」

悟飯、今の攻撃で目が覚めた！

早くオレにトドメを！」

孫悟飯

「はい、ピッコロさん！」

更に悟飯はピッコロに一撃を喰らわす。

ピッコロ

「おのれ孫悟飯!

ぶっ殺してやる!

強くなつたな悟飯!」

ヤムハン

「ピッコロの奴、

人格が壊れ始めてるな!」

クリリン

「ああ、悟飯の攻撃が効いてるんだらう!」

ピッコロ

「うあああ!」

ピッコロが突如苦しみ出す。

そして、悪のピッコロいやピッコロ大魔王がピッコロから分離する。

分離したことでオレンジピッコロも解ける。

クリリン

「ピッコロから別のナメック星人ができたぞ!」

ヤムハン

「あれはピッコロ大魔王だ！」

クリリン

「あいつがピッコロ大魔王か？」

初めて見たぞ！」

ヤムハン

「そうかクリリンお前、ピッコロ大魔王の部下に殺されて

ピッコロ大魔王本人を見たことがなかったんだったな！」

クリリンはタンバリンに殺されていた為ピッコロ大魔王を見るのが初めてである。

ピッコロ大魔王

「何故、我が子から分離した？」

おのれ孫悟飯を貴様許さんぞ！」

ピッコロ

「オヤジ、オレの体で好き勝手してくれたな！」

覚悟しろ！ぐはあ！」

ピッコロ大魔王

「無理をするな息子よ！」

お前は私を取り込む前の強さに戻ったはずだ!

まあ、私もだがな!

だが、私にはダークマター様の力がある限り無限に強くなれる!

ハハハハハ!

孫悟飯

「アナタを許しません!

ピッコロさんを良くも!」

ピッコロ大魔王

「ぐはあ! 良いのか?

私を倒せば、息子も死ぬぞ!」

孫悟飯

「な、なんだと?」

ウイス

「いえ、アナタは以前のようにピッコロさんとの命は共有してないはずです!

アナタはダークマターの影響で命の共有が無い

状態でピッコロさんから分離しましたはずです!」

ピッコロ大魔王

「な、なんだと？」

おのれ！」

孫悟飯

「かめはめー！」

ピッコロ大魔王

「や、やめろー！」

私を倒せば息子が死ぬぞ？」

孫悟飯

「波ー！」

ピッコロ大魔王

「このピッコロ様がやられるとはー！」

悟飯はピッコロ大魔王に怒りのかめはめ波を放つ。そして、ピッコロ大魔王が倒れる。

ピッコロ大魔王？

「まさかピッコロ大魔王まで倒されるとはな！」

孫悟空とベジータが居なければ事は簡単に進むと思っていた！」

孫悟飯

「お前は誰だ?」

ピッコロ大魔王?

「我か? 我はダークマターだ!

今我はこいつの体を使って話している!

孫悟飯、お前を覚えてぞ!

ピッコロ大魔王も用済みだ!

永遠の命は頂くぞ! ハハハハハ!

ピッコロ大魔王の体が消滅した。

ピッコロ

「悟飯すまなかつたな!」

孫悟飯

「ピッコロさんが戻って良かったです!

ウイスさん、ボクをナメック星に連れてつてくれませんか?」

ウイス

「ナメック星のドラゴンボールで悟空さん達を生き返らせるんですね!」

孫悟飯

「はい!」

悟飯はウイスさんの力を借りナメック星に行き、

ポルンガの残っていた3つ目の願いで今回の騒ぎで死んだ者を生き返らせ、悟空とベジータそして地球のドラゴンボールの神龍も生き返るのだった。

——宇宙のナメック星——

孫悟空

「悟飯、頑張ったな！」

ベジータ

「まさか、お前が今回の騒ぎを止めるとはな！

やればできるじゃないか！」

これからもトレーニングはしておけ！」

孫悟飯

「はい、ベジータさん！」

孫悟空

「悟飯の成長した姿、オラ近くで見たかったぞ！」

第3章 『悪のサイヤ人登場編』

第34話 『別世界からのサイヤ人!』

あらすじ

「地球の現れた魔族3勢力は

悟飯の活躍のより倒され

地球には平和が訪れていた。

だが、水面下ではダークマターが新たな野望を企んでいた。」

—— 謎の空間 ——

ダークマター

「サイヤ人という種族は厄介な奴らだな！」

このままでは私の宇宙暗黒化計画が進まん！」

ダークマター

（本来の歴史より弱いとはいえオレンジピッコロが負けるとはな！

だが、孫悟飯が早い段階で悟飯ピーストに覚醒したのは誤算だった！

力を蓄える方法を変えるしかないな！

我自ら、別の歴史から強い戦士を連れてきて
暴れさせることも可能だ！

だが長年貯めた力を使いたくない！
ならどうする？)

突如謎の空間に女と男が現れる

謎の女

「この異空間ならそうは追って来れないはずよ！」

アイツらホントしつこいわね！」

謎の男

「さっさと奴らを倒せば良い！」

謎の女

「それだとキリを奪えないわ！」

ダークマター

(ん?)

コイツらは確か暗黒魔界の王ダーブラの妹トワと人造人間ミラだったか？

コイツらを利用すれば私の力を使う必要もないか！)

トワ

「そろそろ別の歴史に行きましょ!」

トワは当たりの異変に気づく

トワ

「この球体はまさか?」

ダークマター

「ダーブラの妹トワよ!

我に力を貸してくれないか?」

トワとミラの前には4メートルの黒い球体があり、その球体がダークマターの正体である

トワ

「アナタ様はダークマター様では?

なぜこのような場所にいるのですか?」

ダークマター

「この異空間は神々の干渉も少ない場所だから身を隠しながら力を蓄えていたのだ!」

トワ

「初めてお会いしますが、

メチカブラ様より暗黒魔界に創造主であると聞いたことがあります！

ダークマター様に会えて光栄です！」

ダークマター

「なるほど！」

魔凶星の魔族共と違つて暗黒魔界の住民は我に對する忠誠心が強いようだな！

お前たちは我が創造した暗黒魔界を復活させようと頑張つてるみたいだな！

嬉しいぞ！」

トワ

「お褒めの言葉ありがとうございます!!」

ダークマター

「我が暗黒魔界復活のアドバイスをしてやる！」

トワ

「ホントです！」

ダークマター

「我が言う強い戦士を連れて来るんだ！」

そのものは洗脳などせずとも勝手にこの時代を荒らすだろうか？

お前たちはその者たちから強いキリを回収し、

「私も計画に一步近づくといいわけだ！」

トワ

「誰を呼び寄せましょう?」

ダークマター

「では言うぞ、

過去の世界から悪のサイヤ人カンバー、

並行世界から伝説のスーパーサイヤ人ブロリー、

並行世界の未来からハッチヒヤックベビーを連れてくるのだ！」

※ハッチヒヤックベビーは第93話まで登場しません。

第93話 <https://syosetu.org/novel/240373/>

93. htm

トワ

「かしこまりました！」

ダークマター

「私の計画にサイヤ人は邪魔な存在なのでなあ！」

サイヤ人にうってつけの相手だ！」

トワ

「お互いに頑張りましょう！」

ダークマター

「ん？」

タイムパトロールの者が近づいているぞ！

我はまだ神に知られたくない！

身を隠す！」

トワ

「お気を付けてくださいー！」

ダークマターは別の空間に移動する

トランクス（ゼノ）

「見つけたぞ！」

トワ、ミラ！」

トワ

「もう来たのね？」

しつこい男は嫌われるよ！」

謎の空間でタイムパトロールとトワ達が戦っていた頃。悟空とベジータはブローリーの星に来ていた。

——小惑星バンパ——

孫悟空

「よ、久しぶりだな!」

ベジータ

「随分、酷い星だな!」

悟空と一緒にベジータが瞬間移動でやって来た。

チライ

「お前は孫悟空、それにベジータ?」

「どっから現れたんだ?」

孫悟空

「瞬間移動してきたんだ!」

チライ

「アンタの言ってる事、またわかんないよ!」

レモ

「ここに何しに来た?」

孫悟空

「ブロリーに会いに来た!」

ところでブロリーはどこだ？」

チライ

「まさか、ブロリーと戦いに来たんじゃないだろうね？」

孫悟空

「ち、違うって！」

レモ

「ブロリーなら食料調達に行った！」

孫悟空

「そうか、ブロリーはあっちだな！」

「じゃあオラ達ブロリーのところに行ってくるよ！」

悟空とベジータはブロリーの元に向かう。

すると突如何者が悟空達に攻撃する。

ブロリー（悪魔）

「カカロット、ベジータ！」

孫悟空

「ブロリー！」

「いきなり何するんだよ？」

ブロリー（悪魔）

「カカロット、ベジータ、

お前たちはオレが血祭りにしたはずだが！

生きていたのか？」

悟空たちの前に現れたのは並行世界からやって来た伝説のスーパーサイヤ人ブ

リー（悪魔）であつた。

孫悟空

「何言ってるんだ？」

ベジータ

「お前、ホントにブロリーか？」

ブロリー

「2人ともこの星に来てたのか！」

孫悟空とベジータ

「ブ、ブロリーが2人？」

第35話 『2人のブロリー！』

あらすじ

「久しぶりにブロリー会うべく

小惑星バンパに來た悟空たちであつたが

突如超サイヤ人状態のブロリーに襲われ、

更にもう1人のブロリーが現れるのだった。」

——惑星ブロリーザ——

キコノ

「ブロリーザ様、

孫悟空とベジータがブロリーの星に來たようです！」

ブロリーザ

「それはいけませんね！」

万が一にも孫悟空の仲間にもなつたら厄介です！

この前、こちら側の世界と時間軸が異なる

面白い星を見つけてましたが、

その前にブロリーさんに会いに行きますか!

部下の皆さん小惑星バンパに向かいますよ!」

クウラ

「待てフリーザ!

ブロリーというのはサイヤ人の名前か?」

フリーザ

「そうです!

まだ兄さんには話してなかったね!

ブロリーというサイヤ人は

僕が惑星ベジータを破壊する数年前に

当時のベジータ3世によって

見知らぬ過酷な星に追放され今まで出られなくなり、

この前たまたま僕の部下が見つけてね!」

クウラ

「相変わらず甘いなお前は!

オヤジもそうだったが利用価値のある者を

すぐに部下にしたがるな!

だがオレは違う！

オレは気に入った奴を仲間に招き入れ、

従わない奴は力づくで従わせ

それでも逆らう者は殺す！」

フリーザ

「相変わらず、周りに厳しいですね！」

クウラ

「お前が甘すぎるのだ！」

惑星ベジータの破壊の時もサイヤ人の赤子を一人見逃し、

その赤子の成長したカカロットいや孫悟空というサイヤ人に

やられてしまう始末だ！

赤子とはいえ見逃したお前の不始末が招いた事だ！」

フリーザ

「言い返す言葉もありませんね！」

今回の口喧嘩は兄さんの勝ちです！」

クウラ

「だがオレもそのブロリーとかいう

強いサイヤ人を見てみたい!」

フリーザ

「なら、兄さんもおいでよ!」

——小惑星バンパ——

孫悟空

「ブロリーが2人もいるぞ?」

オラおかしくなったのか?」

ベジータ

「いや、お前がおかしくなったのではなく

ブロリーが2人いるんだ!」

ブロリー（悪魔）

「なんだ?お前は?」

ブロリー

「ブロリーです!」

ブロリー（悪魔）

「ブロリーはこのオレだ!」

孫悟空

「ブロリーおめえ双子だったのか？」

ベジータ

「いや、そんな感じじゃないぞ！」

孫悟空

「へえ？」

ベジータ

「恐らく、あのブロリーは別世界から来たんじゃないのか？」

あのブロリーはオレたちを殺した風な事を言ってたからな！」

孫悟空

「そうなんか！」

ベジータ

「おい、ブロリー！」

2人のブロリー

「なんだ？」

ベジータ

「ちっ！」

どっちもブロリーだったか！

「なら、オレたちに攻撃した方のプロリーに聞きたいことがある!」

プロリー（悪魔）

「なんだベジータ?」

ベジータ

「さつきお前はオレたちを殺した風な事を言っていたな?」

プロリー（悪魔）

「ああ、13年ほど前に新惑星ベジータで

お前たちを血祭りにして殺したはずだが?」

ベジータ

「13年前だと?」

ベジータ

（13年前か!）

その頃は確か人造人間やセルと戦っていた時期だな!

だが俺たちはプロリーを知ったのはつい最近の事だ!

つまり、コイツは平行世界からやって来たという事か!）

孫悟空

「どうした、ベジータ?」

ベジータ

「おい、お前は別世界からやって来たブロリーじゃないのか？」

「この世界のブロリーはここに居る奴だ！」

ブロリー（悪魔）

「なんだと？」

オレが別世界の住民だと？」

ベジータ

「そうだ！」

オレたちはお前に殺された覚えがない！」

ブロリー（悪魔）

「確かにお前とカカロットから感じる気の質は、

オレの知っているお前たちと違うな！」

だが別世界だろうと関係ない！」

お前たちはまたオレが血祭りしてやる！」

チライ

「なんださっきの爆発は？」

孫悟空お前またブロリーを怒らせたのか？」

プロリー

「ここに来たら行けない！」

チライ

「え？」

プロリー（悪魔）

「フハハハハ！」

プロリー（悪魔）はチライとレモに攻撃を撃つがプロリーがかばう。

プロリー

「あぶない！」

大丈夫かチライ、レモ？」

レモ

「お前こそ大丈夫か？」

プロリー

「オレは大丈夫！」

チライ

「なんでプロリーが2人も居るんだ？」

ベジータ

「アイツは別の世界からやって来たブロリーだ！」

ブロリー

「それよりここは危険だ！」

チライとレモは逃げるんだ！」

チライとレモ

「ああ！」

チライとレモは逃げ出す。

ブロリー（悪魔）

「何か文句でもありそうだな！」

ブロリー

「ある！」

第36話 『ブロリーvsブロリー!』

あらすじ

「別の世界からやって来たブロリーは

悟空たちに攻撃を仕掛ける。

ブロリーとブロリーの戦いが

始まろうとしていた。」

——小惑星バンパ——が

ブロリー

「あああああああああああ！」

ブロリー（悪魔）

「かかってこい！」

ブロリーとブロリーの戦いが始まり、激しさを増していた。

ブロリー（悪魔）

「さすが別世界のオレと褒めてやりたいところだ！

だが、その程度ではオレは倒せんぞ！」

孫悟空

「ブロリー！」

スーパーサイヤ人になるんだ？

なんでスーパーサイヤ人にならないんだ？」

ブロリー

「あれは変身の仕方がわからない！

それに自分がわからなくなる！」

ブロリー（悪魔）

「ほう、やはりオレだけあってお前も

スーパーサイヤ人に変身できるのか！

なら見せてみる！」

ブロリー

「嫌だ！」

ベジータ

「この世界のブロリーがスーパーサイヤ人になれたら、

異世界から来たあのブロリーよりパワーは上なはずだ！

だが、敵味方がわからなくなったら厄介でもある！」

孫悟空

「その時はまたゴジータになって何とかするだけさ!」

ベジータ

「ふざけるな!」

合体はやらんと言ったはずだ!」

悟空とベジータが言い合っている間に再びブロリー同士の戦いが始まる。

—— 謎の空間 ——

トランクス(ゼノ)

「申し訳ありません!」

トワに逃げられました!」

トランクス(ゼノ)はトキトキ都にいる時の界王神様と通信していた。

時の界王神

「仕方ないわね!」

トランクスはそのままトワの行方を探ってちょうだい!

トワが別の歴史から連れてきた悪人は他のメンバーに任せるから!」

トランクス(ゼノ)

「了解しました!」

トランクス（ゼノ）は再びトワを探し始める。

——トキトキ都——

時の界王神

「アナタたちはトワが連れて来た

3人の悪人を退治してちょうだい！」

孫悟空（ゼノ）

「わかった！」

ベジータ（ゼノ）

「さっさと行くぞカカロット！」

孫悟空（ゼノ）

「ああ！」

悟空（ゼノ）達は移動する。

——宇宙の小惑星バンパ——

ブロリー同士の戦いはややブロリー（悪魔）に押され気味だった。

ブロリー（悪魔）

「お前が戦う意志を見せなければ、

オレはこの星を破壊し尽くすだけだ！」

プロリー（悪魔）は星を無差別に攻撃する。

プロリー

「あああああああああああ！」

プロリーは星の様子を見て、怒りに我を忘れスーパーサイヤ人に変身する。

プロリー

「お前だけは許さない！」

プロリー（悪魔）

「やっとその気になったか？」

凄いパワーだ！

流石オレと褒めてやりたいところだ！

フハハハハハ！」

孫悟空

「なんて気だ！」

あの2人の気にオラ達が押しつぶされそうだ！」

ベジータ

「まったくだ！」

プロリー同士の戦いだからな！

相手が同じだけに強すぎる！」

ブロリーとブロリー（悪魔）の戦いは、ブロリーの方が戦闘力では上だった。

しかし、力をコントロールできてないせいかわろいブロリー（悪魔）と互角の戦いだった。

孫悟空

「おい、ベジータ！

なんだあれは？」

ベジータ

「あれは次元の穴じゃないのか？」

精神と時の部屋を出る時に見かけるからな！」

孫悟空

「ベジータおめえ、精神と時の部屋を時間通りに出たらどうなんだ？」

毎回壊してミスター・ポポがかなり怒ってたぞ！」

ベジータ

「ふん！今はそんなことどうでも良いだろう！」

それより、恐らくあの穴はアイツらの戦いで空間に穴が空いたんだろう！」

ここを離れるぞカカロット！

どこに吸い込まれるかわからんぞ？」

孫悟空

「ああ、わかってる!」

悟空とベジータは避難を試みるも間に合わず次元の穴に吸い込まれてしまう。

——宇宙のどこかの惑星——

孫悟空

「(ハ)は?」

おい、ベジータ、ベジータ!

ベジータ

「カカロットか?」

「ここはどこだ?」

孫悟空

「オラにもわかんねえ!」

どっかの星みたいだな!

ベジータ

「それより凄い気を感じないか?」

孫悟空

「ああ、大きい気だが、」

「この気はサイヤ人ほいな！」

謎のサイヤ人

「お前たち、オレと戦えー！」

孫悟空とベジータ

「なんだ、あいつは？」

第37話 『新惑星サダラのサイヤ人!』

あらすじ

「ブローリー同士の戦いで

できた次元の穴に巻き込まれた

悟空達はどこかの惑星にやって来た。

そして謎のオーラを放つサイヤ人。」

———どこかの惑星———

謎のサイヤ人

「お前たち、オレと戦えー!」

孫悟空

「やるしかないみたいだな!」

ベジータ

「ああ!」

悟空とベジータはスーパーサイヤ人ブルーに変身する。

謎のサイヤ人

「なんだ？」

その変身は？

赤い髪ではないがパワーを感じないぞ？

ゴッドのサイヤ人か？」

孫悟空

「スーパーサイヤ人ゴッドを知っているか？」

ベジータ

「この変身はスーパーサイヤ人ゴッドスーパーサイヤ人だ！

名前が長いからスーパーサイヤ人ブルーと

オレたちは呼んでいるがな！」

謎のサイヤ人

「神の力を使うサイヤ人は許さん！」

孫悟空

「来るぞベジータ！」

謎のサイヤ人との戦いが始まるが、悟空は謎のサイヤ人に触れると暴走した。

孫悟空？

「あああああああああ！」

悟空はベジータに攻撃する。

ベジータ

「どうしたカカロット？」

貴様、カカロットに何しやがった？」

ベジータはカンバーに殴り掛かろうとすると声が入る。

若いサイヤ人

「そこのお人サイヤ人ですか？」

カンバーに触ったらダメだ！」

ベジータ

「カンバー？」

奴の名前か？」

カンバー

「おとなしく隠れていれば良いものを馬鹿が！」

死ねー！」

カンバーが若いサイヤ人に気功波を放つがベジータが助ける。

ベジータ

「奴はカンバーって言うんだな？」

さつきカンバーに触るなと言ってたな？」

若いサイヤ人

「アイツに触るとサイヤ人は凶暴化し、

あなたの仲間みたいに暴れ回る！

強い衝撃を与えると元に戻ると言っていたけど！」

ベジータ

「そうか！」

なら話が早い！」

ベジータは悟空を正気に戻すため、思い切り悟空をぶつ飛ばす。

孫悟空

「痛たたた！」

ベジータ

「大丈夫か？カカロット！」

孫悟空

「ああ、何とかな！」

ベジータは悟空に事情を話す。

ベジータ

「それより貴様サイヤ人か？」

その服フリーザ軍に吸収される前のスタイルに似てるな！」

孫悟空

「そういえば、キャベの服が似てるな！」

若いサイヤ人

「はい！ボクはサイヤ人サダラ防衛軍のキャツといいます！」

ここは新惑星サダラといいます！」

元々は無人惑星の惑星オアシスと呼ばれていたようですが！」

ベジータ

「惑星オアシスだと？」

おとぎ話の惑星と思っていたが、

実在していたとはな！

なるほどそこをサイヤ人の惑星にしたのか！

確かに気を探ると他のサイヤ人がいるみたいだな！」

キャツ

「はい！」

ですが数週間前にあのカンバーが現れ、

サイヤ人は皆、暴走状態になり暴れまわっています。」
ベジータ

「なるほど！」

キャツ

「カンバーと戦っていた所を見ると仲間じゃなさそうだ？」

この新惑星サダラを助けてください！」

カンバー

「いつまで喋ってる？」

オレと戦えー！」

カンバーが襲いかかる。

孫悟空

「皆、目を閉じろ！太陽拳！」

カンバー

「な、なんだ？」

目が目がー！」

孫悟空

「オラに捕まれ！」

カンバーが目を眩んでいるうちに悟空達は瞬間移動する。

——新惑星サダラの王宮——

若いサイヤ人2

「貴様ら、どこから現れた？」

孫悟空

「ここはどこだ？」

若いサイヤ人2

「ここは新惑星サダラの宮殿だ！」

孫悟空

「すまねえな！」

カンバーから逃げるのに必死だったんだ？」

若いサイヤ人2

「カンバーだと？」

貴様、仲間か？」

キャツ

「レスタ兄さん違うよ！」

「この人達はボクを助けてくれたんです！」

レスタ

「そうだったのですか？」

キャツとレスタは双子の兄弟で王様の側近である

王様

「皆の者、この者は仲間を救った恩人だ！

剣を下ろせ！」

サイヤ人兵達はいっせいに武器を下ろした。

王様

「仲間を助けてくれた事を感謝するぞ！

だが、どうやってこの星に来た？」

孫悟空

「それがよー、オラ達にもわからなくて！」

ベジータ

「アンタがこの星な王様か？」

王様

「そうだ！」

私は新サダラ王4世だ！」

ベジータ

「サイヤ人はもうオレたち以外は居ないと思っていたが、他にも居たんだな!」

孫悟空

「なあベジータ、

オラ達は別世界に來ちまったんじゃねえーか?」

サダラ王4世

「そなた?

ベジータと申すか?」

ベジータ

「ああ、惑星ベジータのサイヤ人が滅びなかつたら、

オレもベジータ王4世だろう!

まあ、よろしくな!」

サイヤ人兵1

「ベジータ王だつてよ!」

サイヤ人兵2 「

ベジータ王は先祖の仇だ!

王よ、ご指示を？」

サダラ王4世

「皆、剣を下ろせと言ったはずだ！」

ベジータ

「オレの先祖が随分とお前たちに酷い目に合わせたようだな！」

第38話『ベジータ軍との因縁!』

あらすじ

「新惑星サダラにやって来た悟空達は

悪のサイヤ人カンバーの攻撃受け、

カンバーの攻撃から瞬間移動で逃げ

サダラ宮殿に来ていた。」

——新惑星サダラのサダラ宮殿——

サダラ王4世

「この新惑星サダラに住むサイヤ人は

惑星ベジータに住むベジータ軍のサイヤ人を恨んでいる!」

ベジータ

「なに?」

孫悟空

「いったい何があったんだ?」

サダラ王4世

「昔、ベジータ軍のサイヤ人に我々は裏切られ絶滅寸前まで追いやられた！」
孫悟空

「ベジータおめえ何をしたんだ？」

ベジータ

「オレが知るか！」

サダラ王4世

「その昔、サイヤ人には正義派と極悪派が存在し

正義派だった我々は後のベジータ軍になる極悪派に敗れ

ある者は人間も住めない過酷な星に追放されたり、

ある者は赤子も含め一族を滅ぼされたのだ！」

孫悟空

「ベジータひでえな！」

ベジータ

「これはオレの先祖の話だ！」

それにお前の先祖だって協力してるだろ！」

孫悟空

「へえ？」

そうか、オラも一応ベジータ軍のサイヤ人の生き残りか!」

ベジータ

「先祖たちがすまない事をしたな!」

サダラ王4世

「どうやら、今のベジータ軍が昔と違うようだ!」

ベジータ

「この野郎がオレ様を変えやがったのさ!」

孫悟空

「オラが?」

オラ、何もしてねえぞ!」

ベジータ

「つち!」

そういうところがいちいちムカつくんだよ!」

孫悟空

「おめえ

いつつもオラの事を怒ってねえか?」

オラの事が嫌いなんか?」

ベジータ

「サイヤ人超エリートのおれ様を

いつもいつも一歩先に行く

お前を好きになわけあるかあー！」

孫悟空

「そんなカリカリすんなよベジータ！」

ベジータ

「だまれ！」

サダラ王4世

「確かにそのサイヤ人は

サイヤ人らしからぬものを感じるな！

サイヤ人で間違いないと思うが！」

——新惑星サダラの都市——

カンバー

「オレと戦えー！」

サイヤ人戦士

「おのれ仲間の仇！」

カンバー

「お前、オレと戦う気か?」

サイヤ人戦士

「うああああああああ!」

カンバー

「つまらん!」

どこに隠れた? 青い髪に変身するサイヤ人オレと戦えー!」

カンバー

(青い髪のスーパーサイヤ人はゴツドの進化形態と言っていたな!)

あのシャロットやジブレットの双子もゴツドに変身していたが、あのまま戦っていれば青いゴツドになれたのか?

どこのどいつか知らんがオレの戦いを邪魔して見知らぬ世界に連れて来やがって! 元の世界に戻ったら必ずシャロットたちと決着をつけてやる!)

少し離れたところでゼノ世界の悟空とベジータが現れる

ベジータ(ゼノ)

「なんだこの星は?」

どこか惑星ベジータに似た懐かしい気分がするなあ!

それに何故この時代にサイヤ人があんなに生きている？

この世界ではサイヤ人はフリーザに滅ぼされなかったのか？

まあ良い！それより任務を始めるか！

ん？この気はなんだ？」

孫悟空（ゼノ）

「ベジータあそこ！

すげえー気を感じると！」

ベジータ（ゼノ）

「ああ、とてつもない禍々しい気を感じる！」

孫悟空（ゼノ）

「アイツがカンバーって奴か？」

ベジータ（ゼノ）

「恐らくな！

時の界王神が言っていた野郎に間違いない！

ん？あの宮殿からデカい気を2つ感じるな！」

孫悟空（ゼノ）

「ああ、これはこの世界のオラとベジータの気か？

行ってみるかベジータ?」

ベジータ(ゼノ)

「当然だ!」

——新惑星サダラのサダラ宮殿——

カンバーが街を襲撃してサイヤ人戦士たちが戦い宮殿が爆風で揺れだす
ベジータ

「な、何だこの揺れは!」

サイヤ人兵

「サダラ王、カンバーがまた街を襲撃してます!」

サダラ王4世

「またか!」

ベジータ

「カンバーとは何者だ?」

サダラ王4世

「わからんだ!」

1週間前に突如現れ、

オレと戦えと言いながら暴れ回っているだ!

今まであんなサイヤ人は居なかった！

恐らくベジータ軍の末裔だと思うが！」

ベジータ

「ベジータ軍のサイヤ人は残り僅かだ！

オレと俺の弟（ターブル）とここに居るカカロット

そして別の星にいるブロリーってサイヤ人の4人だけのはずだ！

カンバーというサイヤ人は知らん！」

サダラ王4世

「なるほど！

風の噂で宇宙の帝王フリーザに滅ぼされたと聞きましたが

本当だったのですね！」

ベジータ

「恐らくカンバーは別世界からやって来たサイヤ人だろう！

平行世界もしくは過去の世界からやって来たサイヤ人だと思う！

あの戦闘服はフリーザ軍に吸収される前の服装に似ているからなあ！」

ベジータ（ゼノ）

「お前の言う通り、

奴はこの世界のサイヤ人ではない!

ベジータ

「な、なに?」

孫悟空(ゼノ)

「オス!」

第39話 『超サイヤ人ブルーと超サイヤ人4!』

あらずじ

「悟空達はサダラ王4世からサイヤ人の歴史を聞かされ、

その頃再びカンバー暴れ出し、

悟空達の前にもう1人の悟空とベジータが現れたのである。」

——新惑星サダラ——

孫悟空

「オラとベジータが2人？」

ベジータ

「貴様ら何者だ？」

ベジータ（ゼノ）

「オレは別の次元のベジータだ！」

孫悟空（ゼノ）

「そしてオラも別の次元の孫悟空だ！」

オラ達は時空を超えて悪さをする奴を捕まえるため

「この星にやって来た!」

孫悟空

「おめえ達良い奴だったのか!」

ベジータ

「さつき、オレの推理が正しいと言っていたが?」

ベジータ(ゼノ)

「お前の言う通り、

あのカンバーというサイヤ人は平行世界ではなく

過去の世界からやって来た、

というよりは暗黒魔界の住民が連れてきたというべきか!」

ベジータ

「暗黒魔界だと?」

孫悟空

「ナントカ魔界?」

「どっかで聞いたことあるなあ!」

ベジータ

「暗黒魔界だ!」

ダーブラが住んでいた世界のことだ！」

孫悟空

「ダーブラ？」

石に変えるアイツか！」

孫悟空（ゼノ）

「ああ、

オラ達その暗黒魔界の悪い奴が時間を超えて

悪さをしているから悪い奴を探してるんだ！」

ベジータ（ゼノ）

「で、

あのカンバーを元の歴史に戻すため、

ここに来たわけだ！」

サダラ王4世

「同じ自分が現れたり時間を超えたりとか

何が何だかわかりませんが、

とにかくあのカンバーを倒してくれるならお願いします！

ですが、アイツに触れないよう気をつけてください！」

ベジータ（ゼノ）

「何故だ？」

サダラ王4世

「カンバーに触れると触れたサイヤ人の心が壊れ
破壊衝動に支配され暴走してしまうんだ！」

ベジータ（ゼノ）

「厄介な能力だが、

やるしかないか！」

孫悟空（ゼノ）

「行こうかベジータ！」

孫悟空

「オラたちも行っているか？」

ベジータ

「ダメだとしても着いて行くがな！」

ベジータ（ゼノ）

「勝手にしろ！」

孫悟空（ゼノ）

「よし、皆行くぞー！」

悟空達はカンバーの元に向かう。

——謎のエリア——

トワ

「流石はブロリー同士の戦いね！

かなりのキリが集まるわ！」

ミラ

「オレも随分強くなった！」

トワ

「そうね！」

貴方は私の最高傑作だからね！

もつともつと歴史を改変して

暗黒魔界を復活させてやるわー！」

トワ

（しかしダークマター様の計画っていったいなんなんだろう？）

ミラ

「ダークマター様を信用して良いのか？」

トワ

「わからないわ！」

でも、暗黒魔界の創造主様だから

例え裏切られても文句は言えないわ！」

—— 小惑星バンパ ——

チライ

「いつまでブロリー同士の戦いが続くんだ？」

レモ

「わからん！」

だが、別世界のブロリーはこの世界のブロリーと違ってバケモノだ！」

ブロリー（悪魔）

「オレがバケモノ？」

違うオレは悪魔だ！」

ブロリー

「チライとレモは、この星を離れるんだ！」

レモ

「ブロリー、お前オレたちの事がわかるのか？」

ブロリー

「今は自分が誰だかわかる！」

でもこのまま戦い続けると理性を失い2人を殺すかもしれない！

だからこの星から逃げて！」

チライとレモが逃げる準備をする。

——新惑星サダラ——

カンバー

「来たか！」

ん？

同じ顔が2人ずつ？」

孫悟空

「カンバーこれ以上悪さをさせないぞ！」

孫悟空（ゼノ）

「お前を元の時代に返す！」

悟空とベジータはスーパーサイヤ人ブルーになり、悟空（ゼノ）とベジータ（ゼノ）はスーパーサイヤ人4に変身する。

孫悟空

「な、なんだ？」

おめえ達のその変身は？」

孫悟空（ゼノ）

「おめえの変身こそなんだ？」

ベジータ（ゼノ）

「この変身はスーパーサイヤ人4だ！」

ベジータ

「これはスーパーサイヤ人ゴッドスーパーサイヤ人だ！」

長いからオレたちはスーパーサイヤ人ブルーと呼んでいるがな！」

孫悟空

「オラ達にそんな変身の可能性があるとは！」

神でもないのに凄い気だ！」

孫悟空（ゼノ）

「この変身は尻尾がないとできない変身だ！」

ベジータ

「スーパーサイヤ人4はブルーと

同じぐらいの強さがあるんじゃないか？」

カンバー

「どんな変身をしようとか関係ない！」

オレと戦えー！」

カンバーはスーパーサイヤ人3に変身する。

2人のベジータ

「なんて気だ？」

第40話『黄金の大猿カンバー!』

あらすじ

「悟空とベジータ、

そして悟空（ゼノ）とベジータ（ゼノ）は
カンバーと戦いに挑もうとしていた。」

—— 新惑星サダラ ——

孫悟空（ゼノ）

「スーパースーパーヤ人3なのに
オレたちを超えてないか？」

孫悟空

「ああ、確かに凄い気だ！」

ベジータ（ゼノ）

「やむ得ない、コイツを使うぞ！」

お前たちにもコレをやる！」

ベジータ（ゼノ）は悟空（ゼノ）に1つ、悟空に2つポタラを投げた。

孫悟空

「これポタラじゃねーか？」

ベジータどうする？」

ベジータ

「変なポーズで合体する

フュージョンよりマシだ！

よこせカカロット！」

2人の孫悟空

「合体嫌いだっただろ？」

2人のベジータ

「今回は特別だ！」

合体してベジットブルーとベジット4（ゼノ）が現れる。

※ベジット4は限界突破状態

カンバー

「合体するとはな面白い！」

ベジット（ゼノ）

「もう1人のオレわかってるよな？」

「奴には触れるなよ!」

ベジット

「ああ、わかつてるさ!」

2人のベジットは気のバリアを貼る。

ベジット(ゼノ)

「別の世界のオレたちだけあつてバリアを使えたか!」

ベジット

「おめえこそ!」

2人のベジット

「いくぞカンバー!」

カンバー

「来いお前たち!」

ベジット

「思った通り気のバリアは有効だった!

これなら奴に触れることができる!」

ベジット(ゼノ)

「ああ!」

ベジット達とカンバーの戦いは始まる。
カンバー

「やるなお前たち！」

ではオレにやられる栄誉をやろう！」

カンバーはパワーボールを作る。

カンバー

「弾けて、混ぜれ！」

2人のベジット

「まさか、あれは？」

カンバーは黄金の大猿に変身する。

ベジット(ゼノ)

「しまった！」

ベジット

「やりやがった！」

——宇宙の地球付近——

アモンド

「ターレス様、

地球に生命反応があります!」

ターレス

「まさか、

地球は確かカカロットが送られていた星のはず?

それに後からベジータ王子も来たはずだ、とつくに?

それにしては美しすぎるな!」

地球分析で神精樹が実ることを知る。

アモンド

「ん?」

ターレス様、お喜びください!

地球の土壌は神精樹を栽培するのに適してるようでつせい!」

※ドラゴンボールZ 地球まるごと超決戦はパラレルワールド扱いなのでクラッシュャー軍団は今回初めての地球です。ターレスは神精樹を食べ続けスーパーサイヤ人になれるようになってます。

—— 小惑星バンパ ——

未だ続くブロリー同士の戦い。その中チライとレモは宇宙船で星を出ようとしますが?

レモ

「ヤバイ！」

チライ

「どうした？」

レモ

「宇宙船のレーダーの反応で

フリーザー様がこの星に向かつて

来ていらっしやる事がわかった！」

チライ

「なんだって？」

レモ

「このまま飛び立つとフリーザー様に宇宙で殺されかねない！

恐らくオレたちはフリーザー軍の裏切り者になってるはずだ！

この宇宙船ではすぐにフリーザー軍に捕まってしまう！」

チライ

「じゃあ、

この星から出れないのか？」

レモ

「そういう事になるな!」

チライ

「どうしたら良いんだ?」

ブロリー（悪魔）

「このオレ強いな!

はあはあはあ!」

ブロリー

「アンタは元の世界に帰るんだ!」

ブロリー（悪魔）

「帰り方を知らんな!」

ブロリー同士は再び戦いが始まるとまた次元に穴が空く。

——新惑星サダラ——

ベジット（ゼノ）

「とりあえず、奴の尻尾を切るぞ!」

ベジット

「言われんでも、わかっている!」

カンバー

「何をコソコソと話してる？」

ベジット（ゼノ）

「ん？」

アイツ？ 理性があるのか？

だったらヤバいかもな！」

ベジット

「どういう事だ？」

ベジット（ゼノ）

「大猿とスーパーサイヤ人3の力をコントロールしたサイヤ人は

オレたちのようにスーパーサイヤ人4の力を手に入れる事ができる！

もしも、奴がスーパーサイヤ人4になったら厄介だ！

しかも、黄金の大猿は4に覚醒する1歩手前の姿だ！」

ベジット

「なるほど！

なら奴がスーパーサイヤ人4になる前に

大猿の変身を解除させないな！」

ベジット（ゼノ）

「そういう事だ！」

2人のベジットは界王拳を使い始める。

第41話 『小惑星バンパに帰還！』

あらすじ

「ブロリーとブロリーの戦いが続いていた頃、
2人のベジットと大猿カンバーとの戦いが
始まろうとしていた。」

——新惑星サダラ——

ベジット

「やっぱおめえも界王拳が使えるとはな！」

ベジット（ゼノ）

「当たり前だ！」

別世界でもオレの半分はカカロットが

合体してるんだからな！」

ベジット

「なるほどー！」

ベジット（ゼノ）

「それより、ここは協力して戦うぞ！」

奴の戦闘力はスーパーサイヤ人3の時点で

オレたち単体のスーパーサイヤ人4とブルーのパワーを上回っていた!

いくらオレたちが合体戦士とはいえ奴が

スーパーサイヤ人4に変身されたら厄介な相手になるはずだ!

そもそもスーパーサイヤ人3は

人間の時の400倍以上の戦闘力があると言われ、

そこに大猿の100倍パワーが加われば4000倍となり、

その力をコントロールするとスーパーサイヤ人4になるんだ!」

ベジット

「理性を保ってるから条件のほとんどは達成しているという事か!

共闘はあまり好きじゃないが、

合体してる時点である意味共闘か!」

ベジット(ゼノ)

「そういうことだ!」

カンバー

「波——!」

カンバーはエネルギー波をベジットに向けて放つ。

2人のベジット

「ファイナルかめはめ波ー！ー！」

カンバー

「オレの攻撃を受け止めるか？」

ならば波ー！ー！」

カンバーはパワーを上げ、エネルギー波の威力が上がる。

ベジット

「なんてパワーだ！ー！」

2人のベジット

「20倍界王拳！ー！」

カンバー「おのれ、押し返すか？」

だが、お前たちにはオレは倒せない！

絶対だ！ー！」

2人のベジット

「な、なんだと？」

2人のベジットは既に限界近くパワーを出していた。だが、カンバーのエネルギー波

を押し返せないでいた。だが、その時、カンバーに異変が起きる。

カンバー

「これで終わりだー!」

な、なに?

オレの尻尾がー!」

なんとカンバーの背後からサダラ王4世が回り込みカンバーの尻尾を切ったのだつた。

サダラ王4世

「よそ者のサイヤ人ばかりに任せて悪かったな!

だが、奴の隙を見つけ尻尾を切ることができた!

だが、ここからは我々は邪魔なようだ!」

カンバーは大猿から人間に戻る。

カンバー

「貴様!、

雑魚の王の分際でおれの尻尾を?」

カンバーがサダラ王4世に攻撃しようとした時、空に大きな穴が空く。

カンバー

「ん？」

「なんだー、あの穴は？」

ベジット

「あれは？」

オレたちが小惑星バンパで吸い込まれた穴じゃ？」

ブロリー 同士の戦いで空いた次元の穴によって悟空とベジータは新惑星サダラにやって来た。そして、閉じたはずの次元の穴がまた開いた。

ベジット

「ブロリー達の気を感じる！」

間違いないあの穴の向こうに小惑星バンパがある！」

次元の穴はその場に居た、ベジットとベジット（ゼノ）とカンバーの3人を吸い込み消えた。

サダラ王4世

「あの穴にあの者達が吸い込まれたのか？」

我々は助かったのか？」

——新惑星バンパ——

ブロリー（悪魔）

「お前達どこから現れた？」

何だその変身は？」

ブロリー

「誰だアンタたち？」

ベジット

「ここは小惑星バンパか？」

ブロリー！

ブロリー（悪魔）

「カカロット、ベジータ！

あああああああ！」

2人のベジット

「悪いがオレはカカロットでもベジータじゃない！

オレはスーパーベジットの！」

孫悟空「あれ？」

ベジータ

「ちっ！力を使い果たしたか？」

ベジータ（ゼノ）

「どうやらそのようだな！」

ベジットとベジット（ゼノ）は力を使い果たし、合体が解けてしまった。
ブロリー

「アンタ達だったのか！」

しかも、2人もいる！」

孫悟空（ゼノ）

「これ？ヤバくないか？」

ベジット（ゼノ）

「どう見てもヤバいだろ！」

この状況は！」

ブロリー（悪魔）

「カカロット、ベジット！ハハハハハ！」

カンバー

「オレと戦えー！」

お前たち、オレと戦えー！」

ベジット

「別世界のブロリーと悪のサイヤ人カンバーが相手とは骨が俺そうだぜ！」

孫悟空（ゼノ）

「ん？時の界王神様？」

ベジータ（ゼノ）

「時の界王神それは本当か？」

孫悟空

「もう1人のオラたち、

誰と話してるんだ？」

ベジータ

「さあな、

おおかたオレたちの知らない神様とかなんだらうぜ！」

カンバー

「お前強そうだな！」

ブロリー（悪魔）

「なんだお前は？」

カンバー

「答えるつもりはない！」

ブロリー（悪魔）

「なら血祭りにするだけだ！
あああああああ！」

第42話『ブロリーvsカンバー!』

あらずじ

「小惑星バンパに戻って来た悟空達。

するとベジットの合体が解けてしまいピンチを迎えるのだった。そして、今ブロリー（悪魔）とカンバーの悪のサイヤ人同士の戦いが始まろうとしていた。」

——小惑星バンパ——

カンバー

「いつでもかかって来い！」

ブロリー（悪魔）

「お前をぶち殺す！」

ブロリー（悪魔）とカンバーの戦いが始まる。ブロリー（悪魔）がカンバーに触れるが暴走しない。

ブロリー（悪魔）

「オレをこんな物では支配できん！」

ベジータ

「な、なに？」

あのブロリーにはカンバーのオーラが効かんのか？」

孫悟空

「あのブロリー凄いな！」

ブロリーとカンバーの戦いは激しさを増す。どちらもバケモノであったが戦いはカンバーが圧倒していた。

ブロリー（悪魔）

「久々に骨ある奴と戦えて嬉しいぞ！」

なら、オレも本気を出そう！

はぁー！！」

ブロリー（悪魔）はスーパーサイヤ人3に変身する。

カンバー

「ほう！」

やるではないか！

これでオレと互角だな！」

ベジータ（ゼノ）

「アイツらホントのバケモノだぜ！」

孫悟空（ゼノ）

「アイツらとはとてもじゃないが1対1では戦えないぞ！」

ベジータ（ゼノ）

「だが、アイツらがぶつかり合うことは無い！」

孫悟空（ゼノ）

「ああ！」

時の界王神様の準備ができたみたいだ！」

ベジータ

「何の準備だ？」

孫悟空（ゼノ）

「説明は後だ、ここから少し離れるぞ！」

おめえはこの世界のブロリーだったな！

ベジータ（ゼノ）

「あつちのブロリーと間違えると面倒だ！

オレたちに着いて来い！」

ブロリー

「わかった！」

悟空達は少し離れた場所に移動する。

ベジータ

「で？」

準備とは何の準備だ？」

ベジータ（ゼノ）

「アイツらを元の世界に戻す準備だ！」

ベジータ

「なに？」

孫悟空

「おめえ達にそんな能力があるんか？」

孫悟空（ゼノ）

「オレ達にそんな能力は無いさ！」

孫悟空

「へえ？」

ベジータ（ゼノ）

「オレたちタイムパトロールの上司である時の界王神がやるんだ？」

孫悟空

「時の界王神様？」

ベジータ

「名前に界王神があるって事は神だな？」

孫悟空（ゼノ）

「そうだ！」

カンバー

「なんだ？」

「さっきから体の自由が効かん！」

ブロリー（悪魔）

「お前もか？」

孫悟空

「なんか、

アイツら動きが鈍くなってないか？」

孫悟空（ゼノ）

「時の界王神様がカンバー達を

二元の世界に戻そうと技をかけてるんだ！」

孫悟空

「だが、この星にはオラ達以外誰もいないぞ？」

孫悟空（ゼノ）

「ここには居ないさ！」

トキトキ都から技をかけてるんだ！」

ベジータ

「あ、カンバーが消えていくぞ？」

ベジータ（ゼノ）

「もうすぐ元の世界に戻るんだろうぜ！」

カンバーは元の世界の戻ったが、ブロリーは謎の力により元の世界に戻らなかった。

孫悟空

「カンバーは居なくなつたが、

ブロリー（悪魔）は残ってるぞ？」

ベジータ（ゼノ）

「おい、時の界王神、どうなってやがる？

何？ 邪魔が入ったと？」

孫悟空（ゼノ）

「それってトワ達か?ええ?

違う?じゃ誰なんだ?」

ウイス

「それは恐らくダークマターの仕事かと?」

ウイスとビルスが小惑星バンパにやって来た。

孫悟空

「ウイスさん、それにビルス様まで!」

ビルス

「お前たちは時の界王神とところの別の次元の悟空とベジータだね?」

ベジータ(ゼノ)

「そうです!」

孫悟空

「なあ、ウイスさん、

ダークマターの仕事ってホントか?」

ウイス

「はい、間違いありません!

ピッコロさんが操られていた時と同じ力を僅かながら感じました!」

ベジータ（ゼノ）

「ダークマターとは何者だ？」

ビルス

「ボク達は破壊神ですら知らない謎の多き存在だ！」

孫悟空（ゼノ）

「そうなんか！」

孫悟空

「そういえば、

死神様も謎の多き存在って言ってたな！」

ブロリー（悪魔）

「さっきのサイヤ人が消えただと！

どうなってる？

今度はオレと戦えこの世界のオレよ！」

第43話 『ブロリーvsブロリー再び!』

あらすじ

「時の界王神様の力によりカンバーは元の世界に戻った。

しかし、ダークマターの力によりブロリー（悪魔）だけは残ってしまった。そして、ブロリー同士戦いが始まろうとしていた。」

—— 小惑星バンパ ——

ブロリー

「これ以上この星を荒らす奴は許さない！」

例えそれが別世界の自分であっても！

あああああああ！

ブロリーは怒りで完全に理性を失いブロリー（悪魔）と戦う。

ブロリー（悪魔）

「力に身を任せ理性を失うとは！

だが、やはりお前強いな！

倒しがいがあるぞ！」

ブロリーとブロリー（悪魔）の戦いは壮絶だった。
ビルス

「まったく！」

サイヤ人には限界はないのか？」

ウイス

「こつちの世界のブロリーさんはビルス様を超えますものね！」

ビルス

「そんな事ない！」

僕の方が上だ！」

チライ

「おいブロリー大変だー！」

孫悟空

「どうしたんだ？」

そんなに慌てて？」

レモ

「戻って来たのか孫悟空？」

それに人が増えてるし！」

チライ

「そんな事よりフリーザ様が

この星に向かって来てるんだよ!」

ベジータ

「フリーザだと?ん?」

確かにこれはフリーザの気?

そしてこれは、兄のクウラも居るな!」

ビルス

「フリーザのお兄さんか!

前に舐めた態度をしてたから破壊しちやおかな?」

ベジータ

「ビルス様、待ってください!

クウラはオレが倒します!」

ビルス

「そう!

面倒臭いから任せたよ!」

——トキトキ都——

時の界王神

「歴史の流れが無茶苦茶よ！」

本来の歴史ではチライちゃんとレモくんがビルス様と会うのは少し先の未来なのに！

早くトワたち、それにウイスさんが言ってたダークマターを止めないと歴史いや宇宙そのものが大変なことになってしまう！」

——小惑星バンパ——

ブロリー（悪魔）

「この世界のオレ強すぎるな！」

ん？

な、なんだこれは？」

ブロリー（悪魔）は突如、謎の光に消えた。

ベジータ

「ブロリーの奴が消えたぞ？」

ウイス

「恐らくダークマターが時の界王神に

元の世界に戻せないようにブロリー（悪魔）さんを

別の場所に移したんでしよう!」

孫悟空

「そうなんか?」

ウイス

「それよりあの暴走している

プロローグさんをどうにかしないとですね!」

孫悟空

「今のオラ達は力を使い果たしたから

ベジットにもゴジータにもなれねえぞ!」

孫悟空（ゼノ）

「同じくオレたちもだ!」

もうすぐで変身も解けそうだ!」

悟空とベジータのブルーが解け、悟空（ゼノ）とベジータ（ゼノ）は4が解けてノーマル状態に戻る。

ウイス

「やれやれ、

悟空さんたちは電池切れのようですね!」

ビルス

「アイツを止めるのは

ボクしか居ないようだね！」

孫悟空

「ビルス様、ブロリーは破壊しないでくれよ！」

ビルス

「それはあのサイヤ人の態度次第だね！

ん？」

時の界王神

「ビルス様待ってください！」

悟空くんの言う通りあのブロリーを破壊しないでください！」

ビルス

「誰かと思えば時の界王神じゃないか？」

孫悟空

「ん？」

ビルス様は誰と話してるんだ？」

孫悟空（ゼノ）

「時の界王神様と話してるのさ!」

時の界王神

「もしも、ビルス様がプロリーを破壊したり

なんてしたら歴史が変わっちゃいますよ!」

ビルス

「そんなの知らないね!」

時の界王神

「やめてくださいー!」

「やめないと全王様にビルス様が仕事の邪魔をしたって言いつけますよ?」

ビルス

「わかったよ!」

「じゃあ破壊しないでおくよ!」

時の界王神

「ビルス様!」

「ありがとうございます!」

ビルス

「さてと!」

あの暴れん坊をどうにかして押さえるとするか！」

ブロリーが悟空達に攻撃を仕掛けてくるが、ビルスがその攻撃を防ぐ。

ビルス

「キミの相手はボクだよ！」

ブロリー

「あああああああああ！」

—— 謎の空間 ——

ダークマター

「この世界のブロリーは、

別世界のブロリー（悪魔）より強いな！」

だが、例え別世界のブロリーでもブロリーに変わりはない、

ブロリー（悪魔）を強化してやる！」

もつともつと、悪のエネルギーが欲しい！」

ブロリー（悪魔）

「どっだっだっだっだっ！」

第44話『ビルスvsブロリー!』

あらすじ

「力を使い果たした悟空たちには暴走する

ブロリーと戦う力は残っていなかった。

暴走するブロリーを止めるべく

ビルスが動き出すのだった。」

——小惑星バンパ——

ブロリー

「あああああああああああ!」

ビルス

「それだけの強さを持っているのに

理性が無いなんて勿体ないよ!」

ビルスとブロリーの戦いは互角だった。しかし、ブロリーは確かにビルスより上かもしれない。だが、力をコントロールできてない為かブロリーはビルスと互角の戦いを繰り返す。

ウイス

「ビルス様が10の力を出すのを久しぶりに見ました！」

孫悟空

「やっぱ、ビルス様もブロリーも強いな！」

孫悟空（ゼノ）

「ああ！オラ、強さに自信があつたが

スーパーサイヤ人4でもカンバーには勝てなかつた！」

ベジータ（ゼノ）

「恐らくブロリーやビルス様にも勝てんだろう！」

ベジータ

「スーパーサイヤ人ブルーでも未だビルス様には勝てない！」

ウイス

「あなた達の変身、

スーパーサイヤ人ブルーとスーパーサイヤ人4は、

ビルス様の強さで比べるなら10のうち7〜8ぐらいだと思われます！」

孫悟空

「ビルス様との力の差は、

スーパーサイヤ人ゴツドの時でも6だったのに
まだそんなにあるんか!」

ウイス

「ですが、

この前の悟空さんが使った身勝手の極意でしたらビルス様を超えますよ!

それとベジータさんと合体した戦士のベジットさんやゴジータさんなら

何とかビルス様に勝てるでしょうね!」

孫悟空

「いや、合体はしない!

やっぱビルス様とは1対1で戦いたい!

身勝手の極意か、早く物にしたいな!」

ベジータ

「オレも必ず身勝手の極意を物にしてやる!」

ウイス

「ベジータさんには身勝手の極意は向かないかと!」

ベジータ

「な、なんだと?」

なら、オレは一先カカロットに勝てないのか？」

ウイス

「そうは言ってませんよ！」

ベジータさんには身勝手の極意の対をなす、我ま……！！

おや！ビルス様が決着を付けるようですね！」

ベジータ

「おい、ウイス！」

今何を言おうとしたんだ？」

ウイス

「今はビルス様の戦いに集中しましょう！」

きつと何かヒントを得られるかもしれせんよ！

ベジータさん！」

ベジータ

（ウイスは何を言おうとしたんだ？

「わがま」ってなんだ？気になる！

だが、今は目の前の敵に集中するんだオレ様！）

ビルス

「これで終わりにしよう!」

ビルスは不完全ではあるが身勝手の極意を使いプロリーに強烈な一撃を喰らわす。
ベジータ

「今のは身勝手の極意じゃないのか?」

ウイス

「ビルス様の身勝手の極意はまだまだ不完全ではありませんが」

プロリーさんには相当効いたようです!」

プロリー

「うがあ!」

プロリーはビルスの攻撃を受け気絶しスーパーサイヤ人が解ける。

チライ

「プロリー、プロリー大丈夫か?」

プロリー!」

ビルス

「安心しろ!」

気を失っているだけだ!

時期に目を覚ます!

それにしてもよく見るとキミ可愛いな！」
ウイス

「あら、ビルス様の好みのタイプがベタなの初めて知りました！」
ビルス

「うるさいぞウイス！」

それよりウイス悟空達の体力を治してやれ！」

ウイス

「はい！かしこまりました！」

ウイスは杖で悟空とベジータ、さらに悟空（ゼノ）とベジータ（ゼノ）の体力を回復した。

ビルス

「どうやら、フリーザ達が来たようだ！」

孫悟空

「助かったぞウイスさん！」

孫悟空（ゼノ）

「じゃあ、オラ達はそろそろ戻るぞ！」

ブロリー（悪魔）の奴を探さねえといけないし、

時空を超えて悪さする奴を捕まえるのが仕事だからな
!じゃあな、こっちのオラ!

孫悟空(ゼノ)とベジータ(ゼノ)は帰っていった。

ベジータ

「スーパーサイヤ人4か!

ブルー以外にも強い変身があつたんだな!」

チライ

「プロロー、気がついたか?」

プロロー

「チライ、レモ?

無事だったか?」

レモ

「ああ、だが、フリーザ様がこの星にやって来る!」

フリーザの宇宙船が小惑星バンパに降り立とうとしていた。

フリーザ

「ここがプロローさんの星ですか?

随分と酷い星ですね!」

クウラ

「そんな事はどうでもいい！」

強いサイヤ人はどこだ？」

戦闘員

「クウラ様、フリーザ様、

あちらに強い戦闘力の反応があります！」

フリーザ

「それじゃ行きますか！」

孫悟空

「フリーザ達がこっちに向かって来てるな！」

ベジータ

「おい、カカロット！」

お前はフリーザの野郎と相手しろ！

オレはクウラとやる！」

孫悟空

「あ、ずるいぞベジータ！」

オラもフリーザのアニキと戦ってみたいよ！」

ベジータ

「ふざけるな！」

クウラはオレの獲物だ！

それにクウラ自身もオレと戦いたいはずだ！」

孫悟空

「じゃあ、ジャンケンで決めようぜ！」

ベジータ

「やらん！」

第45話 『ベジータVSクリーザ! (過去編)』

あらすじ

「カンバー、ブロリーと強敵サイヤ人と

戦い続けた悟空達であったが、

フリーザ兄弟が小惑星バンパにやって来たのであった。」

——小惑星バンパ——

フリーザ

「見つけましたよ!」

孫悟空さん、ベジータさん!」

孫悟空

「フリーザここに何しに来た?」

フリーザ

「ブロリーさんの引き抜きを止めに来たんですよ!」

孫悟空

「引き抜き?」

別にブロリーを仲間にするつもりなんてねえぞ!」

クウラ

「ベジータ、

また会えて嬉しいぞ!」

ベジータ

「ふん!」

またオレ様に殺されに来たのか?」

フリーザ

「兄さん!」

もしかして兄さんはベジータに殺られたのかい?」

クウラ

「ああ、!

あれは、お前とオヤジが死んでから1年後くらいにベジータがやって来た!」

過去の回想シーン

今から16年前のエイジ764年、未来トランクスによってフリーザとコルド大王は倒され、Z戦士は未来トランクスから人造人間の事を聞かされ、それぞれ修行を始める。そして、1年後のエイジ765年頃、ベジータは過酷なトレーニングによってスーパー

サイヤ人になれるようになった。

——宇宙のどこか——

ベジータ

「やったぞ！」

遂にオレはスーパーサイヤ人に慣れたんだ！

これでオレはカカロットを超えたんだ！いや違う？

オレはカカロットと戦闘力が並んだだけだ！

そうだ、そういえば確かフリーザには兄貴がいたはずだ！」

——惑星フリーザ——

フリーザの部下1

「未確認の宇宙船がこの星に來ます！」

フリーザの部下2

「宇宙船にはベジータが乗っています！」

撃ち落としますか？」

フリーザの部下1

「辞めとけ、怒りをかうだけだ！」

宇宙船は惑星フリーザに降り立つ。

ベジータ

「よう！」

久しぶりだなお前たち!

今のこの星のリーダーは誰だ?」

フリーザの部下2

「今のリーダーは、

フリーザの息子のフリーザ様です!」

ベジータ

「ほう?」

フリーザにも息子が居たんだな?

案内しろ!」

フリーザの部下2

「はい!」

怯えながらフリーザの部下2はベジータをフリーザの元に案内する。

フリーザの部下3

「フリーザ様、申し上げます!」

サイヤ人のベジータがこの星に来ました!」

クリーザ

「なんですって？」

ここに連れて来なさい！」

フリーザの部下3

「いえ、別の部下がここに案内して居ます！」

クリーザ

「ほう！それは楽しみですね！」

ベジータ

「貴様がクリーザか？」

クリーザ

「キミがパパが言っていたベジータだね？」

ここに何しに来たんだい？」

ベジータ

「フリーザの兄の居場所を聞きに来た！」

クリーザ 「クウラおじさんの居場所を聞いてどうするんだい？」

ベジータ

「ぶっ殺すつもりだ！」

クリーザ

「そうかい!」

なら教える訳には行かないね!」

ベジータ

「なら!無理やり聞き出すまでだ!」

ベジータはスーパーサイヤ人に変身する。

クリーザ

「なんだ、その変身は?」

そうか、それがパパとグランパを倒した

噂のスーパーサイヤ人とやらか?

だったらボクも本気を出さないとね!」

クリーザは第一形態から最終形態に一気に変身した。

ベジータ

「やはり貴様もその変身ができるようだな!」

クリーザ

「言っておくけど、

ボクはパパより強いからね?」

ベジータ

「そうか？」

そいつは楽しみだ！」

ベジータとクリーザの戦いが始まるが、確かにクリーザはフリーザよりパワーが上だった。しかし、スーパーサイヤ人になったベジータの敵ではなかった。

クリーザ

「馬鹿な？」

ボクがこんな奴に？」

ベジータ

「もう一度聞く？」

フリーザの兄の居場所はどこだ？」

クリーザ

「教えてやるよ！」

どうせお前は勝てやしないんだ！

クウラおじさんは、2年前にこの星の近くに現れた魔凶星を今、攻めているんだ！」

ベジータ

「そうか？」

教えてくれてありがとな!

波ー!」

ベジータはエネルギー波を撃ちクリーザを殺す。

クリーザ

「おのれ!

ベジータ、クウラおじさんに殺られるが良い!」

ベジータ

「魔凶星か?

確か、魔族共が住む星だったな?

待てよ?

魔凶星は、地球の近くになかったか?

常に移動している星だと聞いたことがあったが、そういう事か!」

——魔凶星——

アニメガールリックJr編にて孫悟飯は地球に近づいた魔凶星を破壊しました。しかし、星は破壊されたのではなく破壊から逃れるため地球からかなり離れた場所へワープしたのであった。

クウラ

「この星の魔族共は骨があるな！」

サウザー

「はい、クウラ様！」

クウラ

「この星には危機回避能力があり、

星が破壊されるような危機が訪れると

破壊を免れようと遠い場所にワープすると言われている！

2年ほど前に突如、惑星フリーザの近く現れた！

恐らく別の場所で破壊されるような危機があつたんだろうな！」

サウザーのスカウターに連絡。

クウラ

「ん？」

「どうしたサウザー！」

サウザー

「惑星フリーザから報告が入り、

クリーザ様がベジータに殺られたようです！」

クウラ

「なんだと？」

第46話 『ベジータVSクウラ！』（過去編）

あらすじ

「小惑星バンパにやって来たフリーザ兄弟。

クウラはベジータを見て

過去を思い出していた。」

エイジ765年

——魔凶星——

クウラ

「フリーザとオヤジに続き、

クリーザも倒されたのか？」

サウザー

「はい！」

クウラ

「我が一族の恥さらしめ！」

やはり、サイヤ人は皆殺しにしないとないな！

この星を征服したら、

サイヤ人が居る地球とかいう星に向かうぞ!」

サウザー

「いえ、

部下の話によりますとベジータの奴が

この星に向かって居るとか!」

クウラ

「そうか、

クリーザを倒し次はこのオレの首を取りに来たというわけか?

で、ベジータはどのくらいでこの星に着くのだ?」

サウザー

「2日後には到着するかと思われます!」

クウラ

「なら、ベジータが来るまで待つてやる!」

2日後が経過。予定通りベジータは魔凶星に到着する。

ベジータ

「貴様がフリーザの兄のクウラか?

最初から最終形態になっているとはな？

一族が次々にオレたちサイヤ人に倒されるのを知って
随分と焦ってるようだな！」

クウラ

「ふん！」

オレは弟たちと違い普段からこの姿で過ごしている！

貴様の我が一族の見た目のイメージは

フリーザやクリーザの第一形態が強いんだろ？

オレの第一形態の姿を知る存在は母と親父だけだ！

ところでベジータよ、ここへ何しに来た？」

ベジータ

「貴様をぶっ殺しに来た！」

クウラ

「ほう？」

随分自信げだな！

だが、最初に言っておく！

オレのこの姿は最終形態ではない！」

ベジータ

「なんだと?」

クウラ

「オレは弟より多く変身できるのだ?

この意味がわかるか?」

ベジータ

「なら、貴様の最終形態を見せやがれ!」

クウラ

「なら、見せてやろう!」

この姿を見せるのは貴様が最初に最後だー!」

クウラは第四形態から最終形態に変身する。

クウラ

「さあ、始めようか!」

ベジータ

「なるほど!」

確かにフリーザやクリーザよりでかい気を感じる!

ならオレも見せてやろう! はあー!」

ベジータはスーパーサイヤ人に変身する。
クウラ

「それが噂に聞くスーパーサイヤ人か？

どれほどの力か、見せてもらおうぞ！」

ベジータとクウラの戦いが始まる。ベジータは圧倒してる感じだった。しかし、クウラは本気を出してなかった。

クウラ

「なるほど！」

弟が勝てないわけだ！」

ベジータ

「クウラ、本気を出しやがれ！」

クウラ

「良いだろう！」

ベジータ

「ほう！」

これは楽しめそうだ！」

再び、ベジータとクウラの戦いが始まる。そして戦いは互角だった。

クウラ

「このままだと決着がつかんな？」

ならこの星ごと貴様を消すまでだ！」

ベジータ

「な、なんだと？」

良いのか？」

この星が欲しかったんじゃないのか？」

クウラ

「残念だったな……この星が壊れることはない！」

破壊を免れるため別の場所にワープするだけだ！」

この意味がわかるか？」

星がワープする時、

星の中に居る外来種であるオレたち異星人は

宇宙空間に放り出されるのだ！」

宇宙空間で生きられないお前の負けだ！」

クウラはスーパーノヴァを撃つ。

ベジータ

「考えやがったな！」

クソツタレー！

ギャリック砲！」

ギャリック砲とスーパーノヴァの撃ち合いになる。

クウラ

「馬鹿な、このオレが押されてるだど？」

我が一族がサイヤ人なんぞに負けるなんて有り得ん！」

ベジータ

「寝言は寝て言いやがれ！」

波——！」

ベジータは最大パワーのギャリック砲でスーパーノヴァを押し返す。

クウラ

「このオレがサイヤ人なんぞに負けるとは！」

クウラはベジータによって倒された。

ベジータ

「やったぞ！」

遂にオレはクウラを倒したんだ！

これで間違いなくオレはカカロットを超えたはずだ！」

クウラ機甲戦隊一同

「ク、クウラ様が負けたー」

「逃げろー！」

ベジータ

「貴様ら、

逃げられると思うなよ！」

ベジータはクウラ機甲戦隊のサウザー、ドール、ネイズを倒していく。

因みにクウラが魔凶星を攻めていた理由は部下に何人か魔族がいた事。魔族を軍に

招待する事が目的であった。

過去の回想シーン終わる

現代

——小惑星バンパ——

クウラ

「今、思い出すだけでも腹が立つ！」

「それはあの世の地獄の世界はまさに悪夢だった！」

フリーザ

「兄さんも地獄に行つたんだね？」

クウラ

「ああ！」

オレは魔凶星で死んだ！

死んだ者はその星の地獄に落ちることになるが、

オレは魔凶星の地獄に落ちた！

ベジータ貴様だけは絶対許さんぞ！」

ベジータ

「もう一度、

お前を地獄に送り返してやる！」

クウラ

「フリーザ、

お前はあのサイヤ人と戦え！

オレはベジータと戦う！」

第47話 『悟空そっくりのサイヤ人!』

ナレーション

「悟空&ベジータとフリーザ兄弟のにらみ合いが続いていた。

そんな中、クウラはベジータとの戦いを思い出していた。

そして戦いが始まるうとしていた。」

—— 小惑星バンパ ——

クウラ

「オレたちのプライドに泥を塗った

サイヤ人への復讐の始まりだ!」

フリーザ

「ビルス様は私たちの復讐の邪魔をしないでしょかね?」

ビルス

「前にも言ったはずだ!

オレは破壊神だ!

復讐をやりたかったら勝手にしろ!

だが、地球を破壊しやがったら承知しないぞ！」
クウラ

「偉そうにしやがって！」

フリーザ

「兄さん抑えて抑えて！」

あの人は？」

クウラ

「知ってるさ！」

破壊神ビルス様だろ？

オヤジから何度か聞かされたよ！

それに1度だけ会ってる！」

ウイス

「あら？」

地球のブルマさんから着信ですわ！」

ベジータ

「ブルマからだど？」

孫悟空

「フリーザ達、

ちよつと待ってくれないか？」

フリーザ

「良いだろう！」

クウラ

「さつさと終わらせろ！」

孫悟空

「サンキューー！」

フリーザ達はビルスが居るため戦いを待つことにした。

ウイス

「もしもーし、ブルマさん！

どうかされたんですか？」

ブルマ

「ウイスさん、

そつちにはベジータと孫くんいたりするかな？」

ウイス

「ええ、ちようど2人ともいますよ！」

ブルマ

「今、地球は大変な事になってるの！」

ベジータ

「何があつた、

ブルマ？」

ブルマ

「宇宙人が地球にやって来て暴れてるのよ！」

しかもニューースの映像を見たら孫くんそっくりでさー！」

ベジータ

「何だと？」

まさかブラックが復活したのか？」

ブルマ

「うーん、多分違うと思うわ！」

だって戦闘服を着て尻尾があつたから！」

孫悟空

「ベジータ、それってオラ達やブロリー以外に

まだサイヤ人が生き残つてたつて事じゃないか？」

ベジータ

「ああ!だが、

戦闘服を着てたつて事は、

フリーザ軍のサイヤ人の可能性が高いな?」

ブルマ

「一応、

悟飯くんと悟天くんとトランクスが宇宙人退治に向かったけど

何か嫌な予感がするわ!

2人ともすぐ地球に戻って来て!」

孫悟空

「すまねえ!

地球に戻りたいけど、

今からオラもベジータもフリーザと戦うところでよ!

すぐには戻れそうにない!」

ブルマ

「そんな!

悟飯くんたちだけで大丈夫かしら?」

ウイスさん、孫くん達の戦いが終わったらすぐに連絡しようだい！

連絡してくれたら濃厚な味わいのアイスクリームをご馳走するから！」

ウイス

「それは楽しみですね！」

わかりました

！すぐ連絡しますね！」

ブルマ

「それじゃー！」

フリーザ

「仲間との通信は終わったのかな？」

孫悟空

「ああ！」

待たせて悪かったな！」

クウラ

「ではオレたちの復讐を始めようか！」

フリーザ

「ちよっと待って兄さん！」

クウラ

「なんだフリーザ？」

フリーザ

「さつき、チラツと会話が聞こえたけど、孫悟空そっくりの戦闘服を着たサイヤ人は、恐らくターレスのことだな！」

ベジータ

「ターレス？」

知らないぞ！

そんなサイヤ人は？」

フリーザ

「まあ、そうでしょうね！」

ベジータには教えなかったからね！

でも、クラツシャーターレス軍団って

名前は聞いたことあるんじゃない？」

ベジータ

「確かに耳にしたことがあるぞ？」

孫悟空

「知ってんのかベジータ？」

ベジータ

「名前だけだ！」

当時、ギニュー特戦隊とアボ&カドに肩を並べていた軍隊の名前だけだ！

だが何故サイヤ人が？」

フリーザ

「ターレスは、ベジータさんみたいに

サイヤ人の誇りとかプライドを持っていなかった！

だからベジータ王みたいに私に立てつかないと思い

自由にしていたんですよ！ホーホホホ！

では、話はここまですべて復讐を始めましょうか？」

フリーザとクウラはゴールドに変身する。

その頃、地球では？

——地球のどこか——

ターレス

「ん？」

オレの部下を倒したのは貴様たちか？」

悟飯達はクラッシュシャー軍団のアモンド、ダイーズ、カカオ、レズン&ラカセイを倒す。

孫悟飯

「ホントお父さんそっくりだ！」

孫悟天

「ややくっしいよー！」

ターレス

「そうか！」

貴様らカカロットの息子だな？

オレの名はターレス！

オレとカカロットが似ているのも無理もない！

オレ達使い捨ての下級戦士はタイプが少ないからな！」

ターレスはトランクスに気づく。

ターレス

「ん？」

「お前もサイヤ人のようだが誰の子だ？」

トランクス

「オレはトランクス！」

サイヤ人の王子ベジータの息子だ！」

ターレス

「カカロットもベジータ王子も地球で

ハーフの息子を作っていたとはな！

サイヤ人の面汚しどもが！」

トランクス

「アンタもサイヤ人なのか？」

ホント悟空さんに似てるな！」

ターレス

「ゴクウ？」

それはカカロットの地球の名前か？」

孫悟飯

「そうだ！」

ターレス

「なるほど！」

どうだお前たち？

オレと一緒に来る気はないか？

宇宙を気ままにさすらって、好きな星をぶっ壊し、
美味しいものを食い、旨い酒に酔う！

こんな楽しい生活はないぜ！」

第48話 『フリーザ兄弟の復讐！（前編）』

あらすじ

「小惑星バンパでは

悟空達とフリーザ兄弟との戦いが、

地球では悟飯達とターレスとの

戦いが始まろうとしていた。」

——地球のどこか——

孫悟飯

「誰がお前の仲間なんかになるもんか！」

ターレス

「そうか、

ならば死ねー！」

ターレスは悟飯にエネルギー波を撃つが悟飯は軽く跳ね返す。

ターレス

「ほう？

少しはやるようだな!

なら本気を出そう!」

孫悟飯

「なんだと?」

なんだその変身は?」

※ターレスは神精樹の実を食べ続けスーパーサイヤ人クラスのパワーアップができません。

ターレスのスーパーサイヤ人は髪が金色にならず髪が逆だったような感じになる。

ターレス

「お前たちのセンスに合わせるならスーパーサイヤ人だ!

さあ、戦いの始まりだ!」

孫悟天

「トランクス君!」

トランクス

「ああ、悟天!」

孫悟天&トランクス

「フュージョン波!」

ゴテンクス

「パッパカパー！」

正義の死神ゴテンクス様参上！」

ターレス

「ほう？」

合体とは面白そうだな！」

悟飯&ゴテンクスとターレスの戦いが始まる。

その頃、小惑星バンパでは？

——小惑星バンパ——

孫悟空

「オラ達も最初から本気で行くぜ！」

はあ——！」

悟空とベジータはスーパーサイヤ人ブルーに変身する。

クウラ

「なるほど、それが噂に聞く

スーパーサイヤ人ブルーとやらか？」

フリーザ

「そういえば、」

「兄さんはあの変身を見るのは初めてだったね?」

クウラ

「ああ、サイヤ人の変身はな!」

「あのセルとやらと同じ変身なんだろう?」

フリーザ

「まあ、そうなるね!」

フリーザは悟空に、クウラはベジータと戦いを始めた。

フリーザ

「ボクはまだキミと戦うつもりは無かった!」

「でも兄さんに逆らうと後が怖いからね!」

孫悟空

「やっぱアニキの方が強いのか?」

フリーザ

「さあ、どうだろうね?」

まあ、アナタとベジータさんを倒したら、

後でどっちが宇宙最強か決めるつもりだけどね!」

孫悟空

「そうなんか？」

ベジータとクウラの戦いは互角だった。

ベジータ

「随分と腕を上げたじゃないか？」

クウラさんよ！」

クウラ

「ふん！」

ベジータ、貴様こそ随分とパワーアップしたじゃないか？」

ベジータ

「ふん！サイヤ人に限界など無い！」

クウラ

「それが戦闘民族サイヤ人というわけか？」

嫌な言葉だな！」

ベジータとクウラはお互いのパンチやキックでかなりのダメージを喰らっている。

フリーザ

「悟空さんもあの力の大会から

随分と腕を上げてるようで!」

孫悟空

「フリーザ、おめえだってそうだろ?」

フリーザ

「まあねえ!

でもキミの身勝手の極意には流石のボクでも勝てないさ!

まあでも、この前、面白い修行場所を見つけたところだし、

この戦いが終わったらそこで修行して、

悟空さんあなたをワンパンでできるぐらいの強さを

身につけるつもりさ!」

孫悟空

「それは怖いな!

ところで面白い修行場所ってなんだよ?」

フリーザ

「ボクが敵である君に教えるわけないでしょ!

でもキミが今から身勝手の極意を

見せてくれるんだったら考えても良いけど!」

孫悟空

「すまねえなフリーザ！」

身勝手の極意、今のオラでは自由に変身できないんだ！」

フリーザ

「そうなんだ、それは残念！」

じゃあ、面白い修行場所の事も教えられないよ！」

孫悟空

「まあ、仕方ねえーか！」

ハハハ！」

悟空とフリーザの戦いも互角をしていた。しかし、フリーザは隙をつき悟空の頭を思い切り殴りつけた。

ウイス

「あらあら、

また悟空さん油断しましたね！」

ビルス

「アイツは何回同じ失敗を繰り返すんだ？」

ビルスとウイスは呆れていた。

孫悟空

「痛たたた!」

また少し油断してしまった!

おー痛た!」

フリーザ

「あの程度の攻撃でダメージを

受けるなんて思ってたよ!」

孫悟空

「悪いなフリーザ!

オラ、幼い頃に頭に大怪我したみたいだよ!

今の攻撃で頭のお傷が開いたようだ!

だが、この痛みにはもう慣れたから大丈夫だ!」

頭から血は出てないが悟空は相当痛むようだ。

フリーザ

「そうでしたか?

アナタが頭にそんな大怪我をしてたなんて知らず

頭を思いつき殴って悪かったね!

今度はもつと傷口が開くように殴って差し上げるのでご安心よ！」

孫悟空

「や、やめろって！」

フリーザ

「冗談ですよ！・ホーホホホ！」

でも兄さんなら、躊躇わず攻撃しただらうけど、

ボクはこんな勝ち方をしてもちっとも嬉しくないですよ！」

孫悟空

「おめえにもプライドってもんがあつたんだな？」

フリーザ

「まあねえ！」

だから兄さんには散々ボクのやり方はまだまだ甘いとか、

お前のプライドなど大したこと無いとか色々と言われますがね！」

第49話『フリーザ兄弟の復讐! (後編)』

あらすじ

「小惑星バンパにて

悟空とフリーザ、ベジータとクウラとの

戦いは激しさを増していた。」

——小惑星バンパ——

クウラ

「パワーが互角だと？」

「このままでは埒があかんぞ？」

ベジータ

「フリーザより強くて参ったぜ！」

クウラ

「当然だ！」

「オレはフリーザの兄なのだからな！」

クウラはスーパーノヴァの体勢に入る。

クウラ

「こうなれば、

この星ごと貴様を消し去るのみだ！」

ビルス

「アイツら兄弟、

ホント次から次へと星を破壊したがるな！」

ウイス

「ホントですね！」

破壊神泣かせですよ！」

ベジータ

「来いクウラ！」

オレ様が押し返してやる！

ギヤリック砲！」

クウラは魔凶星での再現を果たしベジータに勝ちたいようだ。

クウラ

「あの時のようにはいかんぞベジータ！」

ベジータ

「それはこっちのセリフだ!」

ベジータとクウラの技がぶつかり合うが、ベジータが優勢であった。

クウラ

「馬鹿な?」

押し返されるだど?

これではあの時と変わらぬではないか!

ベジータ

「クウラ、

貴様はオレには絶対勝てんのだ!」

クウラ

「おのれ!

ベジータごときにまたやられるのか!」

今度は耐えてやる!

あ?

なにー?」

ギャリック砲はスーパーノヴァを押し上げクウラごと太陽にぶつけようとする。

クウラ

「甘かったのは甘かったのは

フリーザだけではなかった！」

クウラの回想シーン

小惑星バンパに到着する直前の出来事。

フリーザ

「兄さん、

孫悟空とベジータはボクたちの

ゴールデンデスボールを使って倒しましょ！」

クウラ

「いやゴールデンデスボールは使わん！」

オレは1対1で戦う！」

オレたちのプライドに泥を塗ったサイヤ人を1人の手で倒す！」

フリーザ

「兄さん、サイヤ人を甘く見ない方が良いわよ？」

クウラ

「お前に意見される覚えはない！」

クウラの回想シーン終わる

クウラ

「あの時、

フリーザの言う通り、

ゴールデンデスボールを使って際いれば、こんな事には——!」
クウラは太陽に落ちて、ベジータはクウラに再び勝つ。

ベジータ

「はあはあはあ!」

いくら背伸びしようとも

お前の時代はとつくに終わってるんだよ!」

フリーザ

「まさか?」

兄さんが殺られるなんて!

ボクのプライドは大したこと無いとか言っておきながら

兄さんのプライドだって大したこと無いじゃないか!」

孫悟空

「どうするフリーザ?」

フリーザ

「この戦いは兄さんが仕掛けた物！」

私はブロリーさんの引き抜きを止めに来ただけです！

ですので今回の戦いは終わりにします！

ですが次に会った時は、それが本当の戦いになるでしょう！」

フリーザはチライとレモを見つける。

フリーザ

「お前たち、

ブロリーさんの事をよろしく頼みますよ！」

チライとレモ

「はい！」

かしこまりました！」

フリーザは宇宙船に戻り、小惑星バンパから出ていく。

チライ

「なんかフリーザ様から

ブロリーの事を頼まれちゃった！」

レモ

「オレたち、

まだ首じゃないみたいだぞ!」

悟空とベジータはスーパースァイヤ人ブルーを解く。

小惑星バンパは様々な戦いで荒れてしまった。

チライ

「それよりこの星どうしてくれるんだよ?」

チライは悟空に向かって言った。

孫悟空

「オラに言われても!

そうだドラゴンボールで治してもらうんだよ!」

チライ

「あの、龍が出る玉の事か?」

ビルス

「おいウイス!

星を治してやれ!」

ウイス

「かしこまりました!」

ウイスは杖を使い、荒れた小惑星バンパを元の状態に戻した。

孫悟空

「やっぱりウイスさん凄いな！」

神龍みたいな事ができるんか！」

ベジータ

「まっただ！」

アンタはなんでもアリだな！」

ビルス

「ふん！」

まさか、破壊神が星の破壊じゃなく、

星の修復をするとはな！」

ウイス

「たまには良いんじゃないですか？」

ビルス

「悟空たちと居るとおかしくなりそうだ！」

——トキトキ都——

時の界王神

「嘘、悟空くんの記憶が！」

また歴史がおかしくなってる!」

トランクス(ゼノ)

「時の界王神様、

悟空さんがどうかしたんですか?」

時の界王神

「悟空くんがサイヤ人の時の記憶を

本来の歴史より早い段階で思い出しちゃうのよ!

でも、本来の歴史とは違って

悟空くんが悪のサイヤ人に変っちゃってるのよ!」

トランクス(ゼノ)

「これもトワ達の仕業ですか?」

時の界王神

「いいえ!

ダークマターの仕事よ!」

第4章 『悪のサイヤ人カカロット編』 第50話 『ベジータvsターレス!』

あらすじ

「悟空&ベジータvsフリーザ&クウラの戦いが終わり、
ウイスの力により荒れた小惑星バンパは
元の姿に戻ったのだった。」

——小惑星バンパ——

ウイス

「ブルマさん、

悟空さんとベジータさんの戦い終わりましたよ!」

ブルマ

「やけに早かったわね!

まあ、そんな事はどうでも良いわ!

それより早く地球に戻って来て!」

孫悟空

「よしベジータ、オラに捕ま!

痛たた!」

悟空は再び頭が痛み出す。

ベジータ

「どうした、カカロット?」

ウイス

「悟空さんは、

フリーザさんとの戦いで頭の高傷の傷口が開いたんですよ!」

ベジータ

「なんだと?」

「治せないのか?」

ウイス

「さつき一応、

この杖で治したんですが、

何故かまだ痛むようですよ!

もしかしたら、他に原因があるかと?」

ベジータ

「そうか！」

だが、今は考えている暇は無いな！

カカロット、頑張つて瞬間移動するんだ！」

孫悟空

「ああ！」

悟飯達の気を見つけた！」

ビルス

「ボクたちも行こうか！」

ウイス

「そうですねなんだか面白そうですし！」

孫悟空

「じゃあなブロリー！」

悟空達は瞬間移動で地球に移動した。

レモ

「またアイツ、消えやがった！」

「いったい何者なんだ？」

——地球のどこか——

孫悟空

「着いたぞ！」

痛たたた！」

ベジータ

「本当に大丈夫か？」

孫悟空

「痛くないんだけど何故か痛いんだ！」

ベジータ

「戦えるか？」

カカロット！」

孫悟空

「すまねえ！」

ベジータ地球を頼む！」

悟空はその場で倒れてしまう。

ベジータ

「大丈夫かカカロット！」

お前は休め！」

ベジータは悟飯達の元に向かう。

ベジータ

「お前達、この程度の雑魚に何をてこずってやがる？

お前たちはカカロットになんでも頼りすぎだ！」

孫悟飯

「違うんですベジータさん！」

アイツは……」

ベジータ

「言い訳なんて見苦しいぞ悟飯！」

悪いがカカロットが戦い続きでお疲れだ！」

孫悟飯

「お父さんが？」

ターレス

「これはこれは、

お懐かしい方だ！」

このサイヤ人の面汚しめが！」

地球なんかに染まりやがって！」

ベジータ

「ホント、カカロットの奴に似てやがるな!」

ターレス

「オレの名はターレス!」

フリーザ軍のクラッシュ軍団のリーダーだ!

もつとも部下達はお前の息子達に倒されたがな!

それよりカカロットの奴は何故あそこで寝こんでいる?」

ベジータ

「カカロットは戦い続きで休んでいるんだ!」

ターレス

「カカロットは随分と身分が高いんだな!

戦いを王子様に任せるなんて!」

ベジータ

「お喋りはそのくらいにして戦いを始めるぞ!

はあー!」

ベジータはスーパーサイヤ人ブルーに変身する。

ターレス

「なんだ、その変身は？」

ベジータ

「コイツはスーパーサイヤ人ゴッドスーパーサイヤ人だ！
オレたちはスーパーサイヤ人ブルーと呼んでるがな！」

ターレス

「ほう！」

「そいつは面白いや！」

ターレスは神精樹の実を口にす。

孫悟飯

「ベジータさん、気をつけてください！」

「そいつは、その果実を食べるとパワーアップします！」

ベジータ

「なんだと？」

孫悟飯

「アイツは果実をすでにいくつか食べて、

かなりパワーアップしてます！」

※ターレスは悟飯との戦いの中、神精樹を食べ続けスーパーサイヤ人2になってい

た。

ベジータ

「ドーピングなんかには頼るとは、

貴様の方がサイヤ人の面汚しだ!

このベジータ様が果実の木を破壊してやる!

ビックバンアタックだ!

ベジータは神精樹にビックバンアタックを放つが。

ベジータ

「な、なに?

馬鹿な?

木が破壊されないだと?」

ターレス

「無駄だ!

神精樹はそんな攻撃では破壊できん!」

ビルス

「神精樹だと?」

それは神の果実ではないのか?

なら破壊神であるボクなら破壊できるって事だよね？」

ターレス

「な、なんだと？」

何故、破壊神が地球にいる？」

ビルス

「この星はね、

ボクにとって美味しいもの天国の惑星なんだよ！

そんなお気に入り惑星を破壊しようなんて見過ごせないよ！」

ターレス

「くっ！」

ビルス

「おい、ベジータ！

ボクが神精樹を破壊してやる！

後は好きにやってくれ！」

ベジータ

「すまないなビルス様！」

第51話 『復活のカカロット!』

あらすじ

「地球に戻って来た悟空とベジータであったが、

悟空は気絶してしまったのだった。

今、ベジータとターレスのサイヤ人対決が

始まろうとしていた。」

——地球のどこか——

ビルス

「神精樹、破壊!」

神精樹はビルスの力により破壊された。

ターレス

「おのれ破壊神め!

だが、これだけあれば十分だろう!

それに種だってあるんだ!」

ウイス

「まだ、隠し持っていたんですね！」

ビルス

「あのサイヤ人神に喧嘩をうるとはいい度胸だ！」

ベジータ

「サイヤ人はドーピングなんぞに頼らず

自分でトレーニングをして強くなりやがれ！」

ベジータはターレスを投げ飛ばす。

ターレス

「その変身かなり強いな！」

ターレスはまた神精樹の実を食べる。

ウイス

「また神精樹を食べましたよ！」

ビルス

「この罰当たりが！」

ベジータ

「またドーピングか？」

「どうやら貴様にはサイヤ人の誇りはないようだな？」

ターレス

「心配するな神精樹の実は今食べたので最後の1つだ！」

ベジータ

「ふざけやがって！」

ベジータは怒り狂いターレスを痛めつける。

ターレス

「馬鹿な？」

神精樹の実をあれだけ食べたのに差が埋まらない！」

ベジータ

「ドーピングに頼ったパワーアップは認めん！」

くたばれ、このクソやろがー！」

ベジータはターレスにエネルギー波を放つ。

すると謎の攻撃がエネルギー波を跳ね返す。

ベジータ

「誰だ？」

オレの攻撃の邪魔をしたのは？」

孫悟空？

「同じサイヤ人同士で殺し合うのは辞めようぜ？」
ベジータ

「カカロット、

貴様なんの真似だ？」

トランクス

「悟空さん、

どうしてパパの攻撃の邪魔をするんだよ？」

孫悟天

「そっだよお父さん！」

孫悟飯

「どうしたんですかお父さん？」

孫悟空？

「ゴクウ？」

違う、オレは戦闘民族サイヤ人の下級戦士カカロットだー！」

孫悟飯

「何言ってるんですか？」

お父さん！」

カカロット

「悟飯、悟天、

オレは昨日までのオレじゃない!

オレはサイヤ人のカカロットだー!」

ターレス

「ほう!

カカロットの奴、

サイヤ人の血が目覚めたか?

どうだカカロット、オレと手を組まないか?」

カカロット

「オレがお前と?」

ターレス

「そうだ、

オレと組めば、宇宙を気ままにさすらって、

好きな星をぶつ壊し、美味しいものを食い、旨い酒に酔う!

こんな楽しい生活はないぜ!」

カカロット「それは面白そうだ!

良いだろう！」

ベジータ

「カカロット、

何ふざけたこと言ってるやがる？」

カカロット

「うるさいなベジータ王子！」

ベジータ

「なんだと？」

ターレス

「オレの名はターレス！」

カカロット

「オレの名はカカロット！」

ターレス

「知ってるさ！」

バーダックの息子だろ？」

カカロット

「ああ！父ちゃんの事知ってるのか？」

ターレス

「ちよつとな!」

カカロット

「ベジータもオレたちと来ないか?」

ベジータ

「貴様なんかと組む気は無い!」

カカロット

「そうか!

仕方ねえな、くたばっちまえ!」

カカロットはスーパーサイヤ人ブルーになり隙だらけのベジータに強烈な一撃を喰らわず。

ベジータ

「いつものカカロットより強いだと?」

ベジータが倒れる。

トランクス

「パパ!」

孫悟天

「おじさん大丈夫?」

悟天とトランクスが倒れるベジータを心配する。

カカロット

「ターレス、

1日だけ時間をくれないか?」

ターレス

「良いだろう!」

カカロット

「悟飯、悟天!1日だけやる!」

オレたちと着いて来るか、

オレたちの敵になるか考えとけ!」

カカロットとターレスが飛び立ち、ベジータが目覚めます。

ビルス

「なんだか面白いことになってきたな?」

ベジータ

「ラディッツのスカウターで聞いたことがある!」

カカロットの奴は、幼い頃に頭に強い衝撃を受け

サイヤ人としての記憶を失った!

しかし、今、サイヤ人としての記憶が蘇ってしまったようだ!

孫悟飯

「いったいどうしたら?」

ベジータ

「ん?この声は確か界王の奴か?」

——トキトキ都——

時の界王神

「悟空くんが悪のサイヤ人になるなんて!」

本来の歴史でも悟空くんはシリアル星で

記憶を取り戻すけど悪のサイヤ人にはならなかった!」

トランクス(ゼノ)

「つまり、悟空さんもピッコロさんのように

何かの術で操られてるんでしょうか?」

時の界王神

「恐らくね!」

第52話 『カカロットの両親!』

あらすじ

「赤ん坊の時の頭の古傷の痛みが原因で

なんと悟空は悪のサイヤ人の記憶が目覚めてしまい

ターレスの仲間になってしまった。

悟空は元の悟空に戻るのか？」

——地球のどこか——

北の界王

「ピンホーン！」

大正解じゃ！

しかし、地球は何度も大変な事が起きるのう！」

ベジータ

「界王が何の用だ？」

北の界王

「悟空の事だよ！」

まさか、悟空の奴がサイヤ人の記憶が戻ってしまうとはもう!

だが、変なんじゃ!」

ベジータ

「変?」

何が変なんだ?」

北の界王

「悟空の奴は最初からホントに悪のサイヤ人だったのか?」

という疑問なんじゃ?」

ベジータ

「どういう事だ?」

北の界王

「悟空の家族は兄貴のラディッツを除けば、

父も母もそんなに悪いサイヤ人ではなかったんだ?」

ベジータ

「なに?」

地獄に行ったんじゃないのか?」

北の界王

「いや、どちらも地獄には行つたらん！」

母親のギネは天国に行き、

父親のバーダックは肉体が残され今では、大界王星で修行を続けとる！」

ベジータ

「なんだと言うんだ？」

北の界王

「ベジータよ、お前さんは悟空と戦うつもりか？」

ベジータ

「当然だ！」

北の界王

「あまり言いたくはないが、

今のお前さんでは悟空には勝てないと思うが？」

ベジータ

「なんだと？」

ウイス

「私もはつきり言つて

今のベジータさんでは悟空さんには勝てないでしょう！」

ベジータ

「つち！」

なら、どうするつもりだ？」

北の界王

「悟空の両親に事情を話して協力してもらい、

1日だけ現世に来てもらって一緒に悟空の悪さを止めてもらおうじゃよ？」

孫悟飯

「なるほど！」

今のお父さんはサイヤ人の頃の記憶があるから、

もしかしたら、親の言うことを聞いてもらえるかもしれませんね！」

ベジータ

「そんなに上手く行くとは思えんが？」

北の界王

「だが、一つだけ問題がある！」

悟空の母親のギネは天国に行き、

今から13年ほど前に別の生命体に生まれ変わっておる！

つまり、あの世には父親のバーダックしかいないんだ？」

孫悟飯

「母親が居ないんですか？」

北の界王

「転生しておるからドラゴンボールで生き返らせることも不可能じゃ！」

死神様

「一つだけ方法があります！」

ギネの転生者から魂を一時的に貸していただきギネを蘇らせるのです！」

北の界王

「なるほど！」

その手があつたか！」

死神様

「お久しぶりです！」

北の界王様！」

北の界王

「しかし、

悟空の母のギネの生まれ変わりとは誰なんだ？」

死神様

「ギネの転生者は、

孫悟空の息子である孫悟天でございます!」

孫悟天

「え?」

ボクがおばあちゃんの生まれ変わり?」

死神様

「そうだ!」

転生者とは血縁の近いものに男女ランダムに転生するんだ!」

孫悟天

「そうなんだ!」

死神様

「孫悟天よ!」

一時的にお前の魂を貸してくれないか?」

孫悟飯

「待ってください?」

魂を抜かれたら悟天はどうなるんですか?」

死神様

「仮死状態になり動かなくなるが、

1日で魂は元の体に戻るから安心してくれ！」

孫悟飯

「他に方法はないんですか？」

孫悟天

「お兄ちゃんボクやるよ！」

ボクの魂を死神様に貸してあげます！」

孫悟飯

「いいのか悟天？」

孫悟天

「お父さんを元の優しいお父さんに戻せるならなんだってやるよ！」

死神様お願いします！」

孫悟飯

「そうか！」

わかった、なら兄ちゃんはもう何も言わない！」

死神様、悟天をお願いします！」

死神様

「感謝する!」

孫悟飯、孫悟天、そしてベジータよ、神様の神殿に集合だ!

ベジータ

「え?」

オレも行くのか?」

北の界王

「当たり前じゃ!」

孫悟飯

「ベジータさんお願いします!」

ベジータ

「仕方ないか!」

カカロットの奴を元に戻すためだ!」

悟飯達は神様の神殿に向かうのだった。

ビルス

「ボクたちはそろそろ帰るか!」

ウイス

「そうですね!ビルス様!」

ビルスとウイスはビルス星に戻るのだった。

——トキトキ都——

時の界王神

「悟空くん、ちよつといい？」

孫悟空（ゼノ）

「なんだ？」

時の界王神様！」

時の界王神

「ちよつと試したいことがあるの？」

孫悟空（ゼノ）

「試したいこと？」

時の界王神

「アナタの記憶の時間を戻してみるのよ！」

孫悟空（ゼノ）

「記憶の時間を？」

第53話 『カカロットの父親バーダック!』

あらすじ

「悪のサイヤ人になってしまった悟空を元に戻すため

悟飯達は界王様や死神様の提案を受け

悟空の両親を復活させることにするのだった。」

——トキトキ都——

時の界王神

「どう?」

あなたの名前は?」

孫悟空(ゼノ)

「オラは孫悟空だ!」

でもカカロットでもある!」

トランクス(ゼノ)

「時の界王神様、

何をしたんですか?」

時の界王神

「悟空くんのサイヤ人の頃の記憶を戻したのよ！」

悟空くん、家族の名前は覚えてる？」

孫悟空（ゼノ）

「ああ、父ちゃんの名前はバーダックで、

母ちゃんの名前はギネだ！」

あと、兄ちゃんはラディッツだ！」

オラ、父ちゃんと母ちゃんのことを覚えてるぞ！」

丸っこい宇宙船で父ちゃんと母ちゃんと別れたんだっけ？」

そのあと地球でじっちゃんに育てられた。」

時の界王神

「聞きたいことがあるけど

星を支配したり、人を殺したりするの楽しいと思う？」

孫悟空（ゼノ）

「オラ、そんなこと思わねえし、しねえー！」

時の界王神

「やっぱり、本来の歴史同様にごつちの悟空くんも悪のサイヤ人にはならなかったわね

!」

——地球の神様の神殿——

死神様

「来てくれたか、孫悟飯とベジータ!」

孫悟飯

「はい!」

死神様

「時の界王神様の話から分かった事だが、

孫悟空はサイヤ人の記憶が戻った際にダークマターの洗脳術を受けたみたいだ!

奴の洗脳術は制度が上がっており、

悪の閻魔の時もそうだが、

かけられた本人も気づかないほどだ!」

ベジータ

「厄介な洗脳術だな!」

死神様

「キミが悟天君だね!」

孫悟天

「うん！」

死神様

「まずは、

孫悟飯とベジータをあの世に送り、

その後大界王星に向かってもらいバーダックに会いに行く！」

孫悟飯

「わかりました！」

死神様

「その間、

私は悟天君の魂を抜き取り孫悟空の母親のギネを蘇らせます！」

トランクス

「あの、

オレは悟天のそばにいます！」

死神様

「そうか！

キミは友達思いの良い子だ！

頼んだぞ！」

死神様は悟飯とベジータを閻魔界に移動させた。

死神様

「さつて、悟天君!

覚悟はいいね?」

孫悟天

「はい、お願いします!」

死神様

「転生解除!」

悟天から魂が抜ける。死神様は魔術でサイヤ人の女性を呼び出し、悟天の魂を入れ込む。

死神様

「転生輪廻!」

※転生解除は魂を抜き取る技であり、転生輪廻は魂を肉体に移す技である。

——あの世の閻魔界——

閻魔大王

「来たか、孫悟飯とベジータよ!」

ベジータ

「事情はわかっているようだな！」

閻魔大王

「死神様から話は聞いている！」

大界王星には北の界王様が案内してくれるそうだな！」

北の界王

「悟飯、ベジータこっちだ！」

孫悟飯

「貴方が界王様なんですね？」

北の界王

「そうだが！」

挨拶は後だ、ワシが大界王星に案内する、着いてきてくれ！」

悟飯とベジータは界王に案内され飛行船で大界王星に向かっていた。

※ドラゴンボールZアニメオ리지ナルあの世一武道会編は、悟空とパイカーハンが地獄でセルやフリーザ達を退治した話を除き武道大会は正史の扱いとします。

——大界王星——

北の界王

「……が大界王星だ！」

孫悟飯

「強い気をたくさん感じますよ!」

北の界王

「驚いただろ!

悟空の奴もセルに敗れた後ここで修行してスーパーサイヤ人3を身につけたんじゃない!」

孫悟飯

「そうだったんですね!」

ベジータ

「それよりカカロットのオヤジはどこにいるんだ?」

北の界王

「あっちだ!」

ベジータ

「ん?」

「僅かだがサイヤ人の気を感じるな!」

悟空そつくりのサイヤ人がトレーニングをしている。

ベジータ

「おい？」

「そのサイヤ人！」

「お前はカカロットの父親か？」

悟空そっくりのサイヤ人

「カカロット？」

「ああ、そうだ！」

「オレはバーダックってんだ！」

ベジータ

「やはりカカロットの父親で間違いないようだな！」

バーダック

「アンタ、ベジータ王子か？」

※バーダックの設定はドラゴンボール超プロローグがベースとなります。

ベジータ

「ああ、そうだ！」

孫悟飯

「ホント、お父さんにそっくりだ！」

バーダック

「お父さん？」

おめえ、カカロットの息子か？」

孫悟飯

「はい、ボクは孫悟飯と言います！」

バーダック

「見たところ、

おめえたち死人じゃ無さそうだな！

何しに来た？」

孫悟飯

「実はアナタに協力して欲しいことがあります！」

悟飯はバーダックに悟空（カカロット）の事を話した。

バーダック

「なるほど！」

カカロットはサイヤ人の記憶が戻った時に悪い奴に操られ地球で暴れていると？」

孫悟飯

「はい、だいたいそんな感じですよ！」

バーダック

「わかった！」

孫とベジータ王子の頼みだ！

協力してやる！」

ベジータ

「待て！」

その前にオレと戦え！

アンタ、力を隠してるだろ？」

バーダック

「元気な王子だな！」

まあ、良いだろう！

あの世には骨のある奴があまり居なくてつまらなかつたからな！」

第54話『ベジータvsバーダック!』

あらすじ

「大界王星にやって来た悟飯たちは

悟空の父バーダックを見つ協力してもらえなくなったのだが、
ベジータとバーダックが力試しをするのであった。」

——トキトキ都——

時の界王神

「悟空くんの記憶をそのままにして問題なさそうね!

あつちの悟空くんみたいにもう1つ人格はなさそうだし!

じゃあ任務に戻ってベジータくんと

一緒にブロリー(悪魔)を探してちょうだい!

孫悟空(ゼノ)

「わかった!

じゃあ、ベジータに合流してくんぞ!」

時の界王神

「いつてらっしやい！」

——大界王星——

ベジータ

「ここなら誰も居ないはずだ！」

バーダック

「ああ！」

孫悟飯

「ベジータさん、

本当に戦うんですか？」

ベジータ

「当たり前だ！」

退いてろ悟飯！」

北の界王

「まったく、どっちも仕方ない奴じゃのう！」

孫悟飯

「ホントですわね！」

でも実はボクもお父さんのお父さんがどんな戦いをするのか見てみたいという気持

ちもあります!

やっぱり、ボクにもサイヤ人の血が流れてるんですね!

バーダック

「始めようか!

はぁー!」

バーダックはスーパーサイヤ人に変身する。

ベジータ

「ほう?

カカロットの父親だけあってスーパーサイヤ人に変身したか!

ならオレも、はぁー!」

ベジータもスーパーサイヤ人に変身する。

バーダック

「流石はベジータ王子!

アンタまだ力を隠してんだろ?

オレに見せてみるよ?」

ベジータ

「アンタが隠してる力を見せてくれたら考えてやろう!」

バーダック

「仕方ないな！」

だっただら見せてやるよ！

はあー！」

バーダックはスーパーサイヤ人2に変身する。

孫悟飯

「あれはスーパーサイヤ人2！」

ベジータ

「いや、まだ変身の途中だ！」

バーダック

「はあー！」

待たせたな！

これがオレの全力だ！」

バーダックはスーパーサイヤ人3に変身した。

ベジータ

「隠してる力とはスーパーサイヤ人3だったか？

ならスーパーサイヤ人3対決といこうじゃないか？はあー！」

ベジータはスーパーサイヤ人3に変身する。

バーダック

「流石だぜベジータ王子!」

ベジータ

「いくぞバーダック!」

ベジータとバーダックのスーパーサイヤ人3対決が始まる?

ベジータ

「やるなバーダック!」

バーダック

「ベジータ王子こそ!」

ベジータ

「油断したなバーダック!」

ベジータはバーダックの隙をつき背後を取り攻撃体勢に入るが、

バーダック

「ベジータ王子甘ぞ!」

今度はバーダックがベジータの背後に回りベジータに攻撃する。

ベジータ

「なるほどな！」

隙があるように見えて本当に隙があるカカロットと違い、
バーダック貴様は隙があるように見えて全然隙がないな！」

バーダック

「久しぶりのサイヤ人対決は楽しかったぜ！」

さつきこれが全力と言ったがあれは嘘だ！

今からホントの本気を出す！」

ベジータ

「やはり本気じゃなかったな！」

バーダック

「気づいていたかベジータ王子！」

はあー！」

バーダックはスーパーサイヤ人4に変身する。

孫悟飯

「何だあの変身は？」

見た目は赤毛ザルだが凄い気だ！

これもスーパーサイヤ人なのか？」

ベジータ

「その変身には見覚えがあるぞ！」

確か別次元のオレとカカロットが使っていたな！

確かスーパーサイヤ人4だったか！」

※因みに悟空（ゼノ）とベジータ（ゼノ）と出会ってからまだ半日か1日しか時間が経ってないという。1日中ずっと色んな奴と戦っている状況です。

孫悟飯

「スーパーサイヤ人4？」

バーダック

「この変身を知っていたか？」

ベジータ

「なら、オレも本気を出そう！」

はぁー！

ベジータはスーパーサイヤ人ブルーに変身する。

バーダック

「何だその変身は？」

「戦闘力を感じないぞ？」

※バーダックは修行を経て気を感じ取れるようになってます。
孫悟飯

「ブルーは気を感じないから強さがわからない！」

だが4は凄い気を感じる！

いったいどつちが強いんだ？」

ベジータ

「今にわかるさー！」

バーダック

「そういう事だー！」

——地球の神様の神殿——

ギネ

「ここはどこだ？」

確か私はフリーザによる惑星ベジータの破壊攻撃の爆発で死んだはずじゃ？」

死神様

「ギネよ、

アンタは孫悟空いやカカロットの母親だな？」

ギネ

「そうだけど！」

「アンタは？」

「ギネは眠った悟天を見てカカロットと勘違いしてしまう。」

ギネ

「ちよつとカカロットに何したんだよ？」

第55話 『バーダックとギネ!』

あらすじ

「地球で悟空の母親ギネが復活していた頃

大界王星ではベジータとバーダックの

本気同士の戦いが始まろうとしていた。」

——地球の神様の神殿——

ギネ

「大丈夫か？」

カカロット、カカロット、カカロットー!」

ギネは動かないカカロット（孫悟天）を見て怒る。

ギネ

「カカロットを殺したのはお前か？」

お前か？お前か？私は許さないわよ!」

トランクス

「ねえ、おばさん!」

ギネ

「誰がおばさんだ？」

私はこう見えて若いんだぞ！」

トランクス

「ご、ごめんなさい！」

ギネ

「わかれば良いよ！」

それよりうちの息子のカカロットを殺した奴を知っているか？」

トランクス

「そこに倒れているの息子のカカロットさんじゃなくて

オレの友達の悟天って言うんだ！」

ギネ

「え？」

ギネは改めてカカロット（孫悟天）を確かめると、息子のカカロットではなく似た子供であった。

ギネ

「あ、ホントだ！」

良く見たら似てるけど全然違つたわ！」

トランクス

「でも、似てるのは当然かな！」

だて、悟空さんいやカカロットさんの息子だからね！」

ギネ

「え？」

じゃあ、この子つて私の孫つて事？」

トランクス

「そうなるね！」

ギネ

「けど、

この子全然動かないし、

段々体温が冷たくなつてるよ！」

死神様

「私が事情を全て話そう！」

死神様はギネにカカロットが悪のサイヤ人になってしまった事を話す。

ギネ

「なるほど!」

カカロットは地球に来てから記憶を失っていたけど、

サイヤ人の記憶を思い出したら悪い奴が

カカロットを操り悪のサイヤ人にしたんだね?」

死神様

「だいたいそんな感じだ!」

ギネ

「わかったわ!」

バーダックと合流したら一緒にカカロットの悪さを止めさせるわ!」

—— 大界王星 ——

ベジータとバーダックの異なるスーパーサイヤ人対決が行われていた。

ベジータ

「スーパーサイヤ人4やるじゃないか!」

バーダック

「そつちの青いスーパーサイヤ人もな!」

ベジータ

「スーパーサイヤ人ゴッドのパワーと持ったサイヤ人のスーパーサイヤ人だ!」

バーダック

「ゴツドのパワーを持ったサイヤ人のスーパーサイヤ人だと？」

ベジータ

「ああそつだ！」

俺たちは単純にスーパーサイヤ人ブルーと呼んでるがな！」

バーダック

「スーパーサイヤ人ブルーか！」

孫悟飯

「どつちも凄い戦いだ！」

ベジータ

「もう少し戦つてブルーと4の白黒を付けたいが

今はカカロットを元に戻す事が先だ！

戦いは止めましょう！」

バーダック

「そつだな！」

ベジータとバーダックはスーパーサイヤ人を解いた。

バーダック

「早く成長した我が子に会いたいな!」

ベジータ

「そんなに息子に会いたいのか?」

バーダック

「ああ!」

オレはフリーザの星を破壊する攻撃に巻き込まれ、

過去の惑星ベジータいや惑星プラントと呼ばれた時代に飛ばされたから、

オレは他の同期のサイヤ人と違いあの世にいる時間がかかり長い!」

※バーダックの設定はドラゴンボール超プロローグがベースですが、一部エピソードオ

ブバーダックの設定が含まれております。

ベジータ

「過去だと?」

バーダック

「そうだとツフル人やサイヤ人が

惑星プラントに住み着く前だからエイジ550年より前の時代だと思う!」

ベジータ

「なるほど!」

さつきアンタは他のサイヤ人よりあの世にいる時間が長いと言ったな？
そうか！

その分、たくさん修行ができる時間ができ、

スーパーサイヤ人4といった変身ができたわけだな！」

バーダック

「そういう事になる！」

だが、スーパーサイヤ人になれたのは過去に飛ばされてすぐの出来事だった！」

ベジータ

「なに？」

バーダック

「フリーザに似た種族、恐らくフリーザの先祖が惑星プラントに現れてな！」

オレはその戦いでボロボロにやられ、

サイヤ人の仲間を救えなかった怒りと自分の力の無さに対する怒りでオレはスーパーサイヤ人となった！」

ベジータ

「自分の力の無さに怒りか！」

オレもスーパーサイヤ人になったきっかけは、

自分の力の無さに対する怒りだったな！」

大界王星から閻魔界に帰る間、ベジータ達は色々と話していた。

——地球の神様の神殿——

死神様

「ん？」

孫悟飯達がバーダックを連れて閻魔界に戻って来たな！

よし！」

死神様は悟飯達を神様の神殿に移動させた。

ギネ

「バーダックー！」

バーダック

「ギネー！」

第56話 『カカロットと家族!』

あらすじ

「悟飯達はバーダックを見つけ、

死神様は悟天の魂を使いギネを蘇らせ、

神様の神殿で合流したのであった。」

——地球の神様の神殿——

ギネ

「バーダックやっぱり来てくれたんだね!」

バーダック

「ああ、カカロットの危機だったからな!

ん? そいつは?」

ギネ

「この子はカカロットの息子の孫悟天だ!」

バーダック

「なに?」

カカロットの奴め2人も子供が居たのか!」

ギネ

「2人?」

バーダック

「ああ、

ベジータ王子の隣にいるサイヤ人もカカロットの息子だ!」

ギネ

「確かにアンタ、カカロットの面影があるかも?」

何となくラディッツの面影も感じるよ!」

※悟飯を見てラディッツの面影を感じたのはギネ以外ではフリーザであった。

孫悟飯

「初めまして孫悟空いやカカロットの息子の孫悟飯です!」

ギネさん!」

ギネ

「別にカカロットのことを孫悟空って呼んで良いよ!」

孫悟飯

「そうですか!」

ありがとうございます！

ギネさん！」

ギネ

「私のことはおばあちゃんって呼んでもほしいな！」

バーダック

「ギネ、お前まだおばあちゃんって年じゃないだろ！」

ギネ

「そうだけど、孫（まご）にギネさんって呼ばれるのも変な感じがするよ！」

バーダック

「まあ、わからないでもないが！」

それより、カカロットのもう一人の息子は死んでるのか？」

ギネ

「そうじゃないんだよ！」

この子、私の生まれ変わりみたいで今回のカカロット件で

私を生き返らせるためにこの子の魂を一時的に貸してもらってるんだよ！

だからカカロットの事が済んだら魂を返さないといけないんだよ！」

バーダック

「そうか！」

ギネ、お前はカカロットの息子に生まれ変わったんだな！」
ギネ

「初めて聞いた時はびっくりしたよ！」

でも運命を感じたよ！」

バーダック

「ん？」

あつちから強い戦闘力を感じる！

カカロットか？」

ベジータ

「ああ、あつちの方角にカカロットが居る！」

バーダック

「ん？」

もう一人いやがるな！」

孫悟飯

「それは恐らくターレスだと思います！」

バーダック

「ターレスだと？」

あの野郎か？」

孫悟飯

「ターレスを知ってるんですか？」

バーダック

「ちよつとな！」

ターレスの奴は、オレとそっくりでよく間違えられることもあったからな！

それに遠い親戚でもあるからな！」

孫悟飯

「確かにボクもお父さんと間違えそうになりました！」

ベジータ

「ターレスはオレ様が倒す！」

ドーピングなんぞに頼るサイヤ人は認めん！」

バーダック

「ターレスの奴まだドーピングなんてしていやがるのか？」

昔からそうだった！」

ベジータ「カカロットの説得にターレスは邪魔だな！」

オレがターレスを引き離す!

その間にバーダックとギネはカカロットの説得を頼む!

バーダック

「すまないなベジータ王子!」

悟飯とベジータはバーダックとギネを連れて、悟空の元に向かうのだった。

——地球のどこか——

カカロット

「ん?」

こっちに悟飯達が来る!

オラ達と仲間になるつもりになったのか?

だが、別の気が2つ感じる!」

ターレス

「カカロット!」

お前のガキ共は仲間になるつもりなのか?」

カカロット

「わかんねえ!

だが、仲間にならないのならオレがケジメをつけ悟飯と悟天を殺すしかねえ!」

数分後

カカロット

「来たか、

悟飯とベジータ！」

ベジータ

「ターレス、オレと戦え！」

ターレス

「丁重にお断りする！」

ベジータ

「ふざけるな！」

「このクズ野郎！」

ベジータはターレスをぶっ飛ばし悟空から引き離す事に成功する。

カカロット

「悟飯、

ここに来たという事はオレたちの仲間になるつもりになったのか？」

孫悟飯

「いいえ、

お父さんを止めに来ました!」

カカロット

「お前がオレを止めに?」

前にも言つたはずだ!

オレは孫悟空じゃねえ!

オレは戦闘民族サイヤ人のカカロットだと!

お前にオレは止められん!」

孫悟飯

「ボクが止めるんじゃないやありません!」

カカロット

「なに?」

ギネ

「カカロット!」

カカロット

「ん?」

おま、あんた達は、母ちゃんと父ちゃん!」

バーダック

「大きくなつたな、カカロット！」

ギネ

「カカロット、

悪さを辞めておくれ！」

第57話『バーダックvsカカロット! (前編)』

あらすじ

「カカロットとターレスを引き離すのに成長したベジータ。

そして、ギネとバーダックは息子カカロットと

約40年ぶりの再会を果たすのであった。」

——地球のどこか①——

カカロット

「母ちゃんと父ちゃんは、

フリーザの惑星ベジータを破壊する攻撃に巻き込まれて死んだはずじゃ?」

ギネ

「確かに私達は死んだ!」

「だけど、アンタの息子が父親がおかしくなっちゃったって言うから

説教するために1日だけ帰ってきたんだ!」

カカロット

「悟飯、死人を利用するとは罰当たりな!」

バーダック

「カカロット、

お前が地球にやって来た理由はなんだ？」

カカロット

「この星の邪魔な人間どもを殺し、

星を異星人に売りつける事だ！

ラディッツの兄ちゃんが言っていた！」

バーダック

「ラディッツの奴がそう言ったのか？」

カカロット

「ああ！」

バーダック

「あのバカ息子め！

カカロットに嘘を言いやがって！

おい、カカロット！

お前はこの星を支配するために送り付けたのではない！

フリーザの魔の手からお前を救うため地球に避難させただけだ！」

カカロット

「え?」

ギネ

「そうだよ、カカロット!」

バーダックはアンタを守るため地球に送ったんだよ!

もしもバーダックの思い過ごしならすぐにも

カカロットお前を迎えに行くつもりだった!」

カカロット

「そうだったのか!」

だが、オレたち戦闘民族サイヤ人は星の地上げすることが仕事のはずだ!

地球を支配して異星人に売りつけるつもりだ!」

ギネ

「カカロット、あのフリーザも死んだことだし

星の地上げなんてやめてくれ!」

カカロット

「フリーザはいろいろあつて生き返ってる!」

バーダック

「なんだと？」

カカロット

「ああ、オレの中にいる孫悟空がフリーザを

復活させるきっかけを作りやがったんだ！

心の中で見ていたがもう一人の自分がここまで馬鹿だとは思わなかった！」

ギネ

「でも、今はフリーザの命令を聞いていないんだろう？」

ならー！」

カカロット

「うるさいぞ、母ちゃん！」

カカロットはギネにエネルギー波を放つが、バーダックが跳ね返す。

バーダック

「親に気功波を放つとは随分と悪に落ちたな？」

今度はオレがお前を力づくで止めてみせる！」

カカロット

「いくら父ちゃんでも今のオレには勝てねえ！」

バーダック

「オレも舐められたもんだな！」

「はぁー!」

バーダックはスーパーサイヤ人に変身する。

ギネ

「バーダックその変身はなんだい?」

バーダック

「ギネ、これがフリーザの恐れていたスーパーサイヤ人だ!」

カカロット

「父ちゃんもスーパーサイヤ人に慣れたんか!

だがオレだってスーパーサイヤ人になれるんだ!

はぁー!」

カカロットはスーパーサイヤ人2に変身する。

バーダック

「いきなり2か?」

「だつたらオレも、はぁー!」

バーダックも負けじとスーパーサイヤ人2に変身する。

ターレス

「ベジータ王子はどうしてもオレと決着をつけたいようだな！」

ベジータ

「ドーピングに頼るサイヤ人はオレは許さん！」

ターレス

「良いだろう！」

なら本気を出そう！

この前食べた神精樹の実でオレはまた強くなった！

はぁー！！」

ターレスはスーパーサイヤ人3に変身する。

※見た目はヒーローズアニメの黒髪の長い姿になる

ベジータ

「なんだその変身は？」

ターレス

「お前たちの表現に合わせるなら、

スーパーサイヤ人3だ！」

ベジータ

「3が貴様の本気か？」

「はぁー!」

ベジータもスーパーサイヤ人3に変身する。

ベジータ

「なら修行で身につけたスーパーサイヤ人3と

ドープングで手に入れたスーパーサイヤ人3は

どっちが強いか決めようじゃないか!」

ターレス

「あの青髪の変身はしないのか?」

ベジータ

「ブルーなら簡単に貴様なんて倒せる!」

だが本物のスーパーサイヤ人3で倒す!

サイヤ人の誇りにかけてな!」

——地球のどこか①——

カカロット

「父ちゃんもやるな!」

だが、この変身はできないだろう!

はぁー！」

カカロットはスーパーサイヤ人3に変身する。

バーダック

「父を舐めすぎだカカロット！」

はぁー！」

バーダックもスーパーサイヤ人3に変身する。

カカロット

「ならスーパーサイヤ人3対決といこうじゃないか！」

バーダック

「良いだろう！」

第58話『バーダック v s カカロット! (中編)』

あらすじ

「バーダックとカカロットの戦いは激しさを増していた

そしてそれぞれの戦いでスーパーサイヤ人3対決が

今始まろうとしていた。」

——地球のどこか②——

ベジータとターレスのスーパーサイヤ人3対決が行われていた。

ベジータ

「随分と息が上がってるじゃないか？」

ターレス

「何故だ？」

何故同じ変身のに貴様は息一つしない？」

ベジータ

「当然だ！」

この力はオレが修行で手に入れた力だからだ！」

修行をするということはスタミナも付くということだ！

だが、貴様は神精樹の実とかいうドーピングアイテムで手に入れた偽物の力だ！
戦闘力がパワーアップしてもスタミナが付くわけではない！

体とパワーのバランスが合っていないからスタミナが切れるんだ！

そんな奴にこのオレが負けるはずが無い！」

ターレス

「仕方ないか！

この手は使いたくなかったが、そうは言ってられんな！

負けそうなんぞな！」

ベジータ

「何をするつもりだ？」

ターレスはパワーボール作り出す。

ターレス

「弾けて、混ぜられ！」

ベジータ

「ちっ！」

またパワーボールか

「どいつもこいつもパワーボール使いやがて？」

「波ー!」

ベジータはパワーボールを壊す

ターレス

「な、なに!」

ベジータ

「大猿なんぞにさせんぞ!」

ターレス

「おのれーベジータ!」

ベジータ

「消えてなくなれ!」

ファイナルフラッシュ!」

ターレス

「うあああ!」

ベジータのファイナルフラッシュによりターレスは倒される

ベジータ

「雑魚が!」

さてとカカロットのところに向かうか！
ベジータは移動する。

——地球のどこか①——

カカロット

「父ちゃんやるな！」

バーダック

「お前もな、カカロット！」

カカロット

「波——！」

ギネ

「あの構えはバーダックの？」

バーダック

「やっぱりオレの子か！」

教えもせずその技を使うとはな！

波——！」

バーダックとカカロットはファイナルスピリットキャノンをぶつけ合う。

孫悟飯

「父さんが知らない技を？」

ギネ

「あれはバーダックのファイナルスピリットキャノンっていう技だ！」

孫悟飯

「でもどうしてお父さんがおじいちゃんの技を？」

ギネ

「多分、遺伝子の記憶が覚えてたりして使ったんじゃないかな！」

孫悟飯

「遺伝子の記憶ですか！」

カカロット

「やっぱり父ちゃんの攻撃は威力があるな！」

だが、オレは負けねえぞ！

波——！」

カカロットはバーダックのファイナルスピリットキャノンを押し返す。

バーダック

「やるな！」

だが、その程度では押し返せんぞ！

波——！」

今度はバーダックがカカロットのファイナルスピリットキャノンを押し返し、カカロットは押し負けてしまう。

しかし、カカロットは瞬間移動を使いファイナルスピリットキャノンギリギリ交わしていた。

カカロット

「危なかつたぜ！」

孫悟空が瞬間移動を覚えていなかったら

本気を出さないままオレは負けていた！」

バーダック

「カカロット！」

そろそろお互い本気でやろうぜ！」

カカロット

「なに？」

父ちゃんもまだ何か変身を隠していたのか！

ならオレも本気でいこう！

はあ——！」

カカロットはスーパーサイヤ人ブルーに変身する。

バーダック

「ベジータ王子と同じ変身か？」

ならオレも本気でいかせてもらおう! はあー!」

バーダックはスーパーサイヤ人4に変身する。

カカロット

「その変身は確か、別次元のオレいや孫悟空が使っていた変身か？」

こんなところでスーパーサイヤ人4と戦えるなんてワクワクするぜ!」

ベジータがやって来た。

カカロット

「ん？」

ベジータか!

ターレスはどうした?」

ベジータ

「オレがぶっ殺してやった!」

カカロット

「なんだと?」

数少ないサイヤ人を殺しやがって！」

ベジータ

「あんな奴、

オレはサイヤ人とは認めん！」

バーダック

「おい！」

カカロット、どこを見てる？

お前の相手はオレのはずだぞ！」

ベジータ

「遂にお互い本気で戦うようだな！」

孫悟飯

「はー！」

この戦い、

いったいどうなるんでしょうか？」

ベジータ

「わからん！」

スーパーサイヤ人4はまだわからん部分があるからな！」

第59話『バーダック v s カカロット! (後編)』

あらすじ

「ベジータのターレスにサイヤ人の本当の力を見せ戦いに勝ったのである。

そしてバーダックとカカロットの異なる最強形態のスーパーサイヤ人の戦いが始まろうとしていた。」

——地球のどこか——

カカロット

「二度スーパーサイヤ人ブルーと4の対決をやりたかった！」

だがそれは別次元の孫悟空とだ！

父ちゃんとの戦いは予行練習のような物だ！」

バーダック

「なら、この予行練習での戦いで

お前の目を覚まさせてやる！」

カカロット

「父ちゃん、おかしな事を言うな！」

今のオレが目を覚ましたオレであり、
今までのオレつまり孫悟空は父ちゃんと母ちゃんの
息子では無くなるぞ！」

ギネ「それは違うよカカロット！」

例え、孫悟空という地球人になっても

お前は私達の息子に変わりはない！」

バーダック

「ギネの言う通りだ！」

お前は地球人の孫悟空だろうと

オレたちの息子カカロットに変わりはない！」

カカロット

「オレは地球人の孫悟空？」

孫悟飯

「そうですお父さん！」

地球人かどうかはわかりませんが、

アナタは地球育ちのサイヤ人孫悟空なんです！」

カカロット

「地球育ちのサイヤ人孫悟空?」

カカロットは急に頭が痛み出す。

—— 悟空の精神の中 ——

孫悟空

「オラはいつたい?」

カカロット

「目覚めてしまったか?」

孫悟空

「おめえ誰だ?」

カカロット

「オレはカカロット!」

戦闘民族サイヤ人のカカロットだ!

孫悟空

「オラがカカロットだ!」

カカロット

「お前はカカロットではない!

お前は孫悟空だ!」

孫悟空

「何言ってんだオラは孫悟空だけどカカロットでもあるぞ！」

カカロット

「お前がカカロットとは認めん！」

悟空とカカロットが精神世界で会っていた。

——地球のどこか——

バーダック

「どうしたカカロット！」

お前動きが鈍くなつたんじゃないか？」

カカロット

「そうかもな！」

オレの中に居るもう1つの人格、

いや孫悟空というべきか！

目覚めて邪魔をしてきてな！」

孫悟飯

「お父さんが？」

カカロット

「そうだ！」

オレの体に乗っ取った頭の悪い馬鹿野郎で

戦い好きの周りの迷惑を考えないクソ野郎の孫悟空だ！」

孫悟飯

「お父さんをそんなに悪く言わなくても！」

バーダック

「なるほど！」

ならカカロットお前はオレたちの息子じゃない！

オレたちの息子は孫悟空だ！」

ギネ

「そうだよ！」

アンタみたいな悪人は私達の息子なんかじゃない！

本当の息子は孫悟空なんだ！」

カカロット

「オレは息子ではない？」

—— 悟空の精神の中 ——

孫悟空

「オラの中から出ていけ！」

カカロット

「ふぎけるな！」

「ここは元々オレの場所だ！」

孫悟空

「どういう事だ？」

カカロット

「お前はオレの不注意で頭を怪我した時に誕生したもう1つの人格だ！」

後から来たお前が出ていけ！」

孫悟空

「そんなの知らないぞ！」

カカロット

「今までオレを心の奥に閉じ込めといて、ふぎけるな！」

孫悟空

「そんなこと言っただってオラ知らないものは知らない！」

——地球のどこか——

カカロット

「両親に捨てられ、

自分の体にも捨てられ、

こうなれば死ぬしかない!」

孫悟飯

「父さん馬鹿なマネは辞めてください!」

カカロット

「うるさい!」

お前にオレの何がわかる!

今までオレは心の奥に閉じ込められていた!

やっと表に出られたと思ったたら両親に捨てられた!

オレは生きてることを否定された!

だから…」

バーダック

「隙が大きいなカカロット!」

眠れカカロット!」

バーダックは隙をつきカカロットの背後に回り頭に思い切り攻撃する。

カカロット

「何しやがるクソオヤジ！」

頭が痛い！

痛たたた！

あれ、オラは？」

孫悟飯

「オラ？」

お父さん、自分の名前はなんですか？」

カカロット？

「何言ってるんだ悟飯？」

オラは孫悟空に決まってるだろう！」

孫悟飯

「お父さん、元に戻ったんですね！」

孫悟空

「元？」

そういえば、さつきまで暗い場所に居たような？」

バーダック

「お前は今までサイヤ人の記憶を思い出し悪い奴に

操られたカカロットに体を支配されていた!」

孫悟空

「アンタは、もしかしてオラの父ちゃんか?」

初めて会ったけど懐かしい感じがするぞ!」

バーダック

「ああ、オレはお前の父であそこに居るのがお前の母のギネだ!」

ギネ

「カカロット!」

母ちゃんだよー!」

孫悟空

「アンタがオラの母ちゃん?」

第60話 『バーダックとギネとの別れ!』

あらすじ

「バーダックとギネの親子愛により

悟空は元に戻ることができたのだった。

そして両親との再会と別れが待っていた。」

——地球のどこか——

ギネ

「そうだよ！」

私はアンタの母ちゃんだ！」

ギネは悟空に抱きつき言う。

ギネ

「本当大きくなったわねカカロット！」

まあ、40年以上も経てば当たり前か！」

孫悟空

「なんか初めて会ったのに母ちゃんには

ずっと見られていた気がするんだよな!」

孫悟飯

「ハハハ!

お父さん、恐らく気のせいなんかじゃありませんよ!

おばあちゃんは、他のサイヤ人と違って天国に行つてからしばらくして、

悟天に生まれ変わつてたみたいなので!」

孫悟空

「悟天に?

そうだったのか!」

ギネ

「でも生まれ変わっていた時の記憶はないけどね!

そうだ、私の魂を孫(まご)の悟天ちゃんに返さないといけないんだ!」

孫悟空

「魂?」

ギネは悟空に自分が復活した経緯を説明した。

孫悟空

「そうか!

悟天にも迷惑かけてしまったみたいだな！
悟空は皆を連れ瞬間移動する。

——地球の神様の神殿——

死神様

「孫悟空、元に戻ったか！」

孫悟空

「死神様にも迷惑かけたな！」

死神様

「ダークマターの魔術も解けたようだな！」

ギネ

「死神様、早いところ魂を悟天ちゃんに返してあげて！」

死神様

「まだ、半日ほど時間があるけど良いのか？」

ギネ

「カカロットは元に戻ったんだ！」

「だから私も戻るべき場所に戻るだけだ！」

バーダック

「オレもまだ半日この世にいろみたいただが、

ギネと同じく戻るべき場所に戻る!

早いところあの世に返してくれ!」

死神様

「そうか!

2人ともわかった!」

ギネ

「元気でね、カカロット!」

バーダック

「カカロットいや孫悟空か!」

孫悟空

「カカロットつて呼んでくれていいぞ!」

バーダック

「オレは主に大界王星で修業をしている!

もし、死んだからまた会おう!

じゃあな、カカロット!」

孫悟空

「母ちゃん、父ちゃん色々ありがとう！」

バーダックはあの世に帰り、ギネの魂は悟天に戻っていく。

ベジータ

「カカロット、お前泣いているのか？」

孫悟空

「わかんねえ！」

——トキトキ都——

時の界王神

「悟空君とベジータ君、おかえりなさい！」

孫悟空（ゼノ）

「すまねえ、ブロリー（悪魔）には逃げられた！」

ベジータ（ゼノ）

「次は逃がさん！」

時の界王神

「ブロリー（悪魔）の居場所は私が探すわ！」

あなた達は戦い続きで疲れたでしょ？

休んでて良いわ！」

—— 第1宇宙 ——

セル

「お前がプライド・トルーパーズのリーダーのトツポか？」

トツポ

「貴様が仲間を次々と倒したという化け物だな？」

私に何の用だ？」

セル

「私は第7宇宙から来たセルという者だ！」

強いヤツを求めやって来た！」

トツポ

「第7宇宙？」

お前も孫悟空と同じように戦闘バカのような！」

セル

「私が戦闘バカか？」

確かにな！」

私には孫悟空とベジータの戦闘民族サイヤ人の細胞があるからな！」

謎の戦士

「侵入者よ何故お前は強さを求める？」

セル

「私にもわからん！」

「サイヤ人の細胞が強さを求めるのさ！」

トツポ

「ジレン、来てくれたのか？」

ジレン

「ああ！」

「面白い気を感じたからな！」

セル

「どうやら強いのはトツポお前ではないようだな！」

「ジレンと言ったか？」

「この私と戦え！」

ジレン

「良いだろう！」

「オレもお前に興味がある！」

セルとジレンの戦いが始まるが勝負にならなかつたのである。

セル

「まさかこれほどは!」

セルは瞬間移動にその場を去るのだった。

トツポ

「逃げたのか?」

ジレン

「ああ!」

——ビルスの星——

ウイス

「やはりジレンさんは強いですね!」

セル

「まさか、あんな奴がいるとは!」

だが、死にかけたことで私はまた強くなった!」

ビルス

「確かにセルお前はここに初めて来た時より見違えるぐらい強くなった!」

ウイス

「セルさん、これからどうするんですか?」

セル

「地球に戻り孫悟飯と決着をつけるつもりだ！

また、アンタ達には世話になったな！」

セルは瞬間移動で地球に向かった。

ビルス

「今度の今度は、悟空達もヤバいんじゃないか？」

ウイス

「さあ、どうなんでしょうかね？」

第5章 『復習の人造人間編』

第61話 『人造人間セルと人造人間21号!』

あらすじ

「悟空とベジータの様々なサイヤ人との出会いと戦いが終わり、地球に平和な時間が訪れようとしていた。

そんな中、新たな敵が現れようとしていたのだった。」

——宇宙のどこか——

宇宙船でフリーザは移動しています。

フリーザ

「兄さんが居なくなつたからまた強い味方が欲しいですね!」

キコノ

「大変です!フリーザ様!」

フリーザ

「どうしました、キコノ?」

キコノ

「こちらに変な星のような宇宙船がやって来ます！」

フリーザ

「そうですか！」

「なら私が破壊して差し上げましょう！」

フリーザは宇宙船から出て攻撃しようとする。すると声が聞こえる。

謎のメタル人間

「待て、フリーザ！」

フリーザ

「ん？この声はまさか？」

兄さん？」

メタルクウラ

「そうだ！」

「オレはクウラ！お前の兄のクウラだ！」

フリーザ

「兄さん、

無事だったんだね！」

フリーザ

(別に死んでくれてても良かったんですけどね!)

メタルクウラ

「いや、体のほとんどは太陽に消えた!

だが、運良く脳がビッグゲテスターに流れ着いた!」

フリーザ

「ビッグゲテスター?」

あの星みたいな宇宙船のことか?」

メタルクウラ

「そうだ!」

ビッグゲテスターとは、廃棄された人工衛星や宇宙船などが漂う宇宙の墓場にあつた、一つの小さなコンピューターチップに過ぎなかった!

だが、そのコンピューターチップは、周囲に存在するあらゆる物体やエネルギーを取り込む事で、

ついには独自のオーバーテクノロジーを編み出すまでに成長、

他の惑星を捕食する程まで肥大化した!

そこにオレの脳が流れ着き、

オレはビッグゲテスターのコアとなり、

ほとんど無かった肉体はメタルクウラとなり再生したのだ！」
フリーザ

「で、これからどうするつもりなんだい？」

メタルクウラ

「勿論、サイヤ人どもに復讐してやるつもりさ！」

お前もまだ復讐を諦めてないんだろ？オレも手伝ってやる！

だが、その前に面白い星を見つけたんでな！

お前も来ないか？」

——地球のドクターゲロの研究所——

謎のロボット

「待ってたぞセル、13号、14号、15号！」

ある方がお待ちだ！」

セル

「貴様は16号！」

何故生きている？

私が破壊したはずだ！」

16号

「それは別の16号だ!」

私は新しく作られた16号!

前の16号の記憶は反映しているが、お前に恨みはない!

オレについてこい!

セル「いいだろう!」

16号はセルたちを奥に案内する。そこに謎の女科学者が居た。

謎の女科学者

「アナタが人造人間セルね?

私は人造人間21号!」

セル

「私の知らない新しい人造人間が生まれているとは……まさか、ドクターゲロも蘇っているのか?」

21号

「いいえ、だって頼んでないもの、

あの人がいなくなつたって研究所があれば目的は達成できるしね!」

※21号は科学者の女の姿にいます。

セル

「目的だと？」

「なんだそれは？」

21号

「征服かしたら！」

セル

「ドクターゲロの考えそんな事だ、征服とは世界征服……いや、それ以上、宇宙征服、と
いったところか？」

「ふっ、くだらん！」

21号

「そうね、私もそう思うわ！」

ドクターゲロなんて正直どうでもいいけど、

宇宙征服ができると私も都合がいいの！

そのためにもアナタみたいな強い人造人間が必要なのよ！」

セル

「なるほど！」

「それでお前は16号を復元したのか？」

21号

「16号は違うわ!」

16号は私の息子をモデルにして作られた人造人間と聞いていたから私の世話をさせるために作ったのよ!

必要な人造人間はセルや13号達のアナタたちよ!

セル

「私が宇宙征服などに力を貸すと思うか?」

13号

「悪いがオレ達も断る!

オレ達は孫悟空抹殺とセル様の命令で動くように作られた!

アンタに力は貸すつもりはない!」

21号

「そう!

まあ、良いわ!

気が変わったらいつでも来てちようだい!」

セルと13号達は飛び立った。

16号

「奴らを逃がして良いのか?」

21号

「大丈夫よ！」

セルの新しい細胞データも手に入れたし、
これでセルのクローンも作れるわ！」

第62話 『人造人間の復讐開始!』

あらすじ

「宇宙でフリーザと兄クウラが再会していた頃、

地球では遂にセルと13号達が動き出し、

そして21号も何かを企んでいたのであった。」

——地球のドクターゲロの研究所——

21号

「できたはセルのクローンが！」

「これで私のおやつの種類も増えたわ！」

16号

「波動システムはまだ使わなくて良いのか？」

21号

「まだ使わなくて良いわ！」

「そんな事をしたら強い戦士は皆を動けなくなつて、

セルの強さがわからなくなつちやうもの！」

16号

「そうか！わかった！」

——地球のどこか——

孫悟空

「オラ達もスーパーサイヤ人4になれるかな？」

ベジータ

「無理だな！」

孫悟空

「へえ？なんでだ？」

ベジータ

「もう1人のオレたちが言っていたはずだ！」

大猿とスーパーサイヤ人の2つの力をコントロールしなければならぬ！」

だが、オレもお前も尻尾が無いだろ！」

孫悟空

「そうか、尻尾か！」

昔、神様に修行の時に尻尾を永久に生えなくさすられたからな——！

なってみたかったなあ、スーパーサイヤ人4に！

「そういえば、ベジータ!」

ベジータ

「なんだカカロット?」

孫悟空

「おめえの尻尾は生えないのか?」

別にオラみたいに永久に生えない訳じゃ無いだろ!」

ベジータ

「ああ、時々生えたら尻尾を切っている!」

孫悟空

「そうだったんか!」

突如何者かが攻撃する。

ベジータ

「ん?何者だ?」

13号

「孫悟空こんな所にいたか?」

孫悟空

「気を感じないぞ!」

「そうか、お前たちは人造人間だな？」

13号

「そうだ！」

ドクターゲロ様の使っていたコンピュータが独自にオレ達を作り上げた！」

ベジータ

「ふん！」

今更、人造人間か！

オレ様がスクラップにしてやる！」

13号

「オレたちは孫悟空、ベジータ、そしてフリーザのデータを分析して更に強くなった！」

ベジータ

「つまり、お前たちは最近のオレたちのデータがあるという事か！」

13号

「そういう事だ！」

ベジータ、孫悟空の邪魔だてするなら貴様も倒す！

14号と15号はベジータとやれ！」

14号と15号

「はいー!」

13号

「いくぞ、孫悟空!」

ベジータ

「オレ様は2人相手か?とんだハンデだな!」

悟空とベジータはスーパーサイヤ人ブルーに変身する。

——地球の悟飯の家——

孫悟飯

「お義父さん、家の修理代ありがとうございます!」

サタン

「いやいや!」

当然の事をしたままでですよ!

可愛い孫と娘をほったらかす親がどこにいる!」

いきなり付近で爆発が起きる。

サタン

「な、なんだ?」

今の爆発は?」

悟飯とサタンは家から外に出る。

セル

「見つけたぞ、孫悟飯！」

サタン

「お前はセル？」

悟空さん達が倒したんじゃないかなかったのか？」

セル

「ん？」

見覚えのある顔だと思えば、あの時セルゲームにいたバカの世界チャンピオンでは無

いか？」

サタン

「誰がバカの世界チャンピオンだ！」

孫悟飯

「お義父さん、セルはボクに戦いを挑みに来たんです！」

セル

「おとうさん？」

「お前、結婚でもしたのか？」

孫悟飯

「お前には関係ないだろう！」

それより場所を変えないか？」

セル

「良いだろう！」

悟飯は道着に着替えとセルは街を離れ人気のない場所に移動するのであった。

——地球のどこか——

孫悟空

「ん？」

悟飯のところにセルがいるのか？」

13号

「よそ見とは随分と余裕だな！」

そんなに孫悟飯とセル様が気になるか？」

孫悟空

「セル様だと？」

なんか知ってるな！」

13号

「オレたちはセル様と孫悟飯との戦いにお前達が邪魔できないように足止め係だ！
だが、可能であれば孫悟空を抹殺しても良いとセル様に命令されている！」

孫悟空

「おめえ達、オラ達や悟飯を甘く見過ぎだぞ！」

13号

「貴様たちこそ、我々やセル様を甘く見過ぎだ！」

第63話 『人造人間合体13号!』

あらすじ

「悟空とベジータは人造人間13号達と戦っていた。

そして、悟飯もセルと戦い因縁の対決が始まろうとしていたのであった。」

——地球のどこか①——

孫悟飯

「ここなら誰もいないはずだ!」

セル

「孫悟飯!」

「今度こそ貴様を倒す!」

孫悟飯 「ボクはそう簡単に倒されないぞ! はあ——!」

悟飯は「悟飯ビースト」に変身する。

セル

「また、その力か?」

「スーパーサイヤ人とは違った変身だな?」

孫悟飯

「前にも言ったはずだ！」

ボクはスーパーサイヤ人にはならないと！」

セル

「そうだったな、孫悟飯！」

なら、私も本気を出そう！

はぁー！」

セルはゴールデン化とスーパーサイヤ人ブルーの両方の力を出す。

※見た目のイメージは、ゴールデン化した状態に青いオーラを纏う感じ

孫悟飯

「セル！」

そこまでパワーアップしてたのか！

今回ばかりはヤバいかもな！

最初から全力でいかないと！」

セル

「いくぞ孫悟飯！」

——地球のどこか②——

孫悟空

「硬いなおめえ！」

13号

「オレたちは強化を図り自ら体を改造をしている時、

突如人造人間21号と名乗る者が現れ、

オレたちに宇宙一硬いと言われるカッチン鋼を体の素材として与えられ、オレたちの体の強度がアップしたのだ！」

孫悟空

「また、オラの知らない人造人間か？」

13号

「オレたちも21号の存在は知らなかった！」

だが、奴の技術力は素晴らしいものだった！

さすがはドクターゲロの奥さんがモデルとなった人造人間だけの事はある！」

孫悟空

「ドクターゲロの奥さんね！」

あんな奴でも奥さん居たんだな！」

ベジータ

「体が硬いなら、

撃ち込む一点にパワーを最大限にするまでだ！」

14号

「やってみろ！」

15号

「お前には無理だ！」

ベジータ

「後悔するなよ！はぁー！！」

ベジータは、14号と15号に体当たりして粉々になる。

ベジータ

「後は貴様だけだ！」

13号

「14号と15号が敗れたか！」

カッチン鋼はお前の攻撃には耐えられなかったか！

なら！」

13号は、14号と15号のパーツを集め合体する。

※映画ドラゴンボールZ 極限バトル!!三大超サイヤ人のように合体13号になる。

孫悟空

「合体しやがった!」

ベジータ

「面白くなってきたぜ!」

合体13号

「孫悟空、お前たちにもう勝ち目はない!」

孫悟空

「やってみないとわかんないぞ!」

合体13号

「ならば決着をつけよう!」

人造人間を舐めるな孫悟空!」

悟空とベジータは合体13号との戦いは悟空達が押され気味だった。

孫悟空

「強いでコイツ!」

ベジータ

「まさか、今更、人造人間なんぞに苦戦するとはな!」

孫悟空

「アイツは合体したんだ！」

オラ達も合体したいがフュージョンする隙すら無いぞ！」

合体13号

「孫悟空、お前たちに合体なんてさせるものか！」

ベジータ

「ふん！」

安心しろ！

オレは放つかからカカロットと合体なんぞするつもりはない！」

合体13号

「そうか！」

——地球のどこか①——

孫悟空

「魔閃光！」

セル

「魔閃光！」

悟飯とセルは魔閃光の撃ち合いをしていた。すると謎の攻撃が入る。そこにはクローンセルが立っていた。

セル

「なんだ今の攻撃は！」

孫悟飯

「セ、セルが2人？」

「どうなってるの？」

セル

「21号の仕業だな？」

偽者よ、くたばれー！」

セルはクローンセルにデスビームを撃つが跳ね返された。

セル

「馬鹿な？」

クローンとは言え私と力は同じか！

厄介だな！」

クローンセル

「：：」

セル

「孫悟飯よ！」

戦いを一時休戦する！

まずはこの偽者を倒す！

戦いの続きはその後だ！」

孫悟飯

「ボクは構わないけど！

さつき、セルが言ってた21号って何なんだ？」

セル

「私の知らない新しく生み出された人造人間だ！」

孫悟飯

「なんだって？」

第64話 『エイジ780年の並行世界! (前編)』

あらすじ

「悟空とベジータが合体13号に苦戦していた頃、

クローンセルの攻撃によって悟飯とセルの戦いは一時休戦となっていた。」

——地球のどこか①——

セル

「21号が何をしようとしているのかは知らんが、

さっさとこの偽者の私を倒す!」

孫悟飯

「ボクも手伝います!」

セル

「必要ない!」

偽者! とき私が始末する!

お前は手を出すな!」

クローンセル

「…」

セル

「いくぞ偽者！」

セルとクローンセルの戦いが始まる。

孫悟飯

「なんて気だ！」

セル

「ギャリック砲！」

セルとクローンセルのギャリック砲はぶつかり合う。そこに次元の穴が開く。

孫悟飯

「なんだあの穴は？」

す、吸い込まれる！

うああああ！」

悟飯は次元の穴に吸い込まれてしまう。

セル

「なに？」

孫悟飯が謎の穴に吸い込まれただと！」

セルは当たりを見てある事を思い出す。

セル

「そうか、確かこの場所はトランクス（未来）がタイムマシンで未来からやって来た場所だったな！」

なるほど、先程の私たちの攻撃で僅かに残っていた時空の乱れに穴ができたという事か！

詳しい理屈はわからんがつまり、孫悟飯は別の時代であるトランクス（未来）の世界もしくは並行世界に移動した可能性があるな！」

クローンセル

「…」

セル

「おのれ、孫悟飯との戦いの邪魔をしやがってこの偽者が！」

くたばれー！」

セルは自分の楽しみを奪ったクローンセルに怒りかめはめ波を繰り出す。そしてクローンセルは消滅。

——地球のどこか（並行世界）——

孫悟飯

「ここはいつたい？」

「そうかボクは変な穴に吸い込まれて！」

17号（未来）

「孫悟飯こんな所に居たのか？」

孫悟飯

「17号さん、18号さんも！」

18号（未来）

「今度は逃がさないよ！」

息の根を止める！」

17号と18号は悟飯に攻撃してくる。

孫悟飯

「なんでボクに攻撃してくるんだ？」

「そうか、ここはボクが居た世界じゃない！」

「恐らくここは未来トランクスさんの世界と似た世界なんだ！」

17号（未来）

「逃げるばかりでつまらないな！」

「いつもみたいにかかって来いよ！」

孫悟飯

「太陽拳!」

17号(未来)と18号(未来)

「目が!目が!」

悟飯はその場を去るのだった。

孫悟飯

「もしも、あのまま少しでも戦えば歴史が変わってしまったはずだ!

歴史が変わればトランクス(未来)さんがボク達の世界に来るとい

う歴史そのものが無くなった可能性もあったかもしれない!

まずは、今がいつの時代なのか知る必要があるな!」

——地球のブルマの家(並行世界)——

孫悟飯

「ここもかなり壊されてるな!

ブルマさんは居るかな?」

ブルマ(未来)

「だ、誰?」

孫悟飯

「ブルマさん！」

ブルマ（未来）

「もしかして悟飯くん？」

でも雰囲気が違うような？」

孫悟飯

「ボクはこの世界の孫悟飯じゃありません！」

ブルマ（未来）

「もしかして、人造人間を倒した世界の悟飯くん？」

孫悟飯

「そうです！」

ところで今はエイジ何年ですか？」

ブルマ（未来）

「今はエイジ780年だけど！」

孫悟飯

（エイジ780年！）

じゃあ、ボクはあの穴で並行世界に飛ばされたのか！

そういうえば、あの場所は初めてトランクスさんと出会った場所だったような！」

孫悟飯「ブルマさん、ボクは並行世界からやって来ました!」

ブルマ(未来)

「やつぱり、私はタイムマシンを完成させるんだね!

ところで悟飯くんはどうやってこの世界に?」

孫悟飯

「実は、」

悟飯はどうやってこの世界にやって来たかをブルマ(未来)に説明した。

孫悟飯

「という訳なんです!」

ブルマ(未来)

「なるほど!」

トランク스가通ったタイムマシンの通り穴が僅かに残ってて大きな力で穴が広がって吸い込まれてこの世界に落ちちゃったと?

タイムマシン無しで時間を移動しちゃうなんて不思議ね!

いや並行世界だったわね!」

孫悟飯

「ボクは元の世界に戻れるんでしょうか?」

ブルマ（未来）

「私には、わからないわ！」

第65話 『エイジ780年の並行世界! (中編)』

あらすじ

「セルとクローンセルの攻撃によって、

開いた謎の穴に吸い込まれた悟飯は、

並行世界のエイジ780に迷い込んでいたのであった。」

——地球のブルマの家 (並行世界) ——

ブルマ (未来)

「もしかして今の悟飯くんアナタなら人造人間17号と18号を簡単に倒せちゃったりする?」

孫悟飯

「それは…!」

ブルマ (未来)

「倒せるんだ!」

でもそんな事したら歴史が変わっちゃうものね!

良いのよ私たちの事を気にしなくて!」

孫悟飯

「ボクはこれから神様の神殿に行つてポポさんに会つてきます！」

もしかしたら、ポポさんなら元の世界に帰る方法を知っているかもしれないので！」

ブルマ（未来）

「ああ、あの黒い人の事ね！」

元の世界に戻れたらいいね！」

孫悟飯

「はいー」

悟飯は飛び立つ。

—— 地球のどこか（並行世界） ——

悟飯は神様の神殿を目指していた。

すると気を感じ何となくその場所に向かうのだった。

そこにはトランクスが倒れていた。

※ドラゴンボールZ 絶望への反抗!! 残された超戦士・悟飯とトランクスで悟飯がト

ランクスを気絶させた直後である。

孫悟飯

「トランクスさんが倒れてる！」

さつき感じた気の人がない!

ここでトランクスさんを起こして良いのだろうか?

いや、これがもし歴史通りの出来事なら辞めとこう!」

悟飯はトランクスをそのままに飛び立つ。

すると近くで爆発がして悟飯が向かうと悟飯(未来)と見知らぬ2人組が居た。

孫悟飯

「あれはこの世界のボクか?

なんだあの2人組は?

特にあの男の気の大きさは、この世界のボクでは勝てないぞ!

どうなってるんだ?」

孫悟飯

(まさか、あの2人組も別の世界の戦士じゃ?)

もし、そうだとしたらこの世界のボクを助けた方が良くないんじや?)

孫悟飯(未来)

「なんだお前ら?」

ミラ

「答えるつもりは無い!」

トワ

「この時代の孫悟飯ならミラの調整には良いはずよ！」

ミラ

「ああ！」

孫悟飯（未来）

「時代だと？」

「なんの事だ？」

トワ

「貴方には関係ないわ！」

「ミラさつさと倒しちやって！」

ミラ

「ああ！」

ミラは悟飯（未来）に攻撃を放つが、悟飯がミラの攻撃を受け止める。

ミラ

「な、なに？」

「オレの攻撃を受け止めただと？」

孫悟飯

「大丈夫ですか?」

孫悟飯 (未来)

「アナタはいつたい?」

孫悟飯

「はい!」

ボクは並行世界からやって来た孫悟飯です!」

孫悟飯 (未来)

「キミは別の世界のオレなんだね!」

トワ

「まさか、別世界の孫悟飯が現れるなんて計算外だわ!」

孫悟飯

「別世界だと?」

「やっぱり、お前たちも別の世界から来たのか?」

トワ

「そうよ!」

この時代の孫悟飯を殺せば歴史が変わり、

私達も動きやすくなるからね!

でも並行世界から魔人ブウより強い孫悟飯が現れたのは
予想外だったからここは大人しく引き上げるわ！

行きましよ、ミラ！」

ミラ

「ああ！」

トワとミラが消えていく。

孫悟飯（未来）

「まさか、別世界の自分に助けられるとはな！」

孫悟飯

「トランクスさんを気絶させたのはアナタですね！」

孫悟飯（未来）

「そうだ！」

人造人間が現れ、オレはこれから戦いに行くところだ！

トランクスは未来の希望だから死なせる訳には行かなかった！

だから、気絶させた！

そして、並行世界があるという事はブルマさんのタイムマシンが完成したという事！

つまりこの戦いにも何か意味はあるはずだ！

恐らくキミはボクより強はず、だけど！」

悟飯（未来）は悟飯の不意をつき殴る

孫悟飯

「な、なにを？」

孫悟飯（未来）

「キミは正義感が強い！」

だから、この戦いを止めようとするためにオレの前に現れたんだろ？

ボクはそういう人間だ！」

孫悟飯

「アナタは死ぬ気ですね！」

孫悟飯（未来）

「タダでは死なない！」

未来に希望を託すんだ！」

悟飯は気絶して、悟飯（未来）は人造人間の元に向かうのだった

第66話 『エイジ780年の並行世界! (後編)』

あらすじ

「並行世界に迷い込んだ悟飯はその世界の自分と出会っていた。

そして、未来悟飯は人造人間17号と18号に戦いを挑むのだった。」

——地球のどこか(並行世界)——

義絶した悟飯が目覚めます

孫悟飯

「痛たた!」

「この世界のボクと人造人間の戦いどうなったんだろう?」

悟飯は悟飯(未来)が向かった先に向かった。

しかし、現場に行くと既に悟飯(未来)は人造人間によって殺されていた。すると、トランクスの気を感じた悟飯は気を消し様子を見るのだった。

トランクス(未来)

「悟飯さん?」

「そんな、悟飯さーん!」

トランクス（未来）は悟飯の死体を見て、人造人間への怒りによりスーパーサイヤ人に覚醒する。

孫悟飯

「トランクスさん、こんな辛い経験をしてスーパーサイヤ人になったんだ!」

悟飯はトランクスがスーパーサイヤ人に覚醒するシーンを目撃。

その後、神様の神殿に向かうのであった。

——地球の神様の神殿（並行世界）——

孫悟飯

「ポポさん!」

ミスター・ポポ

「お前、並行世界の孫悟飯か?」

孫悟飯

「はい!」

ミスター・ポポ

「残念ながら、ポポにも元の世界に戻る方法わからない!」

孫悟飯

「そうですか!」

ボクはどうしたら?」

孫悟空（ゼノ）

「並行世界から迷い込んだ悟飯ていうのはおめえか?」

悟飯とミスター・ポポの前に悟空（ゼノ）が現れる。

ミスター・ポポ

「そ、孫悟空?」

孫悟空（ゼノ）

「ミスター・ポポ、久しぶりだな!」

ミスター・ポポ

「ああ!」

孫悟飯

「お、お父さん?」

いや違うアナタは?」

孫悟空（ゼノ）

「オラはおめえ所とは違う別の次元の孫悟空だ!」

時の界王神様の下、時空を超えて悪さをする奴を捕まえるのが仕事だ!」

孫悟飯

「そうだったんですね!」

孫悟空(ゼノ)

「時の界王神様の命令でおめえを元の世界に戻しに来た!」

孫悟飯

「へえ? ホントですか?」

「ありがとうございます!」

孫悟空(ゼノ)

「よし! オラに捕まれ!」

孫悟飯

「はい!」

孫悟空(ゼノ)

「元の世界に返す前に時の界王神様がおめえに会いたいと言ってたが!

来てくれるか?」

孫悟飯

「わかりました! お願いします!」

悟空(ゼノ)は悟飯を連れて消えた。

ミスター・ポポ

「まさか、孫悟空がタイムパトロールだったとは！」

——トキトキ都——

孫悟空（ゼノ）

「時の界王様、連れて来たぞ！」

時の界王神

「悟空くん、おかえりなさい！」

孫悟飯

「初めまして孫悟飯です！」

時の界王神

「私が時の界王神よ！」

「キミには感謝してるわ！」

孫悟飯

「へえ？」

時の界王神

「トワとミラから並行世界の孫悟飯くんを助けてくれた事よ！」

「アイツらは、あちこちで歴史改変を起こして困ってたの！」

「改変が起きたから歴史を修正しようと思ったけど人手不足で！」

でもアナタのおかげで助かったわ!」

孫悟飯

「でも、ボクも並行世界から移動したから、

少し歴史が変わったのでは?」

時の界王神

「アレぐらいなら大丈夫だわ!」

それにアナタは歴史を変えないように、17号達との戦いを避けたり、気絶したトラ

ンクスを起こそうとしなかったりと、

色々と注意して行動してたじゃん!

タイムパトロールの一員に欲しいぐらいだわ!」

孫悟飯

「ありがとうございます!」

ですが、ボクは!」

時の界王神

「わかってるわ!」

元の世界に戻りたいんですよ!」

孫悟飯

「はい！」

時の界王神

「ここに連れて来たのは、キミにお礼を言いたかっただけだから！」

悟空くん、悟飯くんを元の世界に送ってちょうだい！」

孫悟空（ゼノ）

「ああ、わかった！」

悟飯、オラに捕まれ！」

孫悟飯

「はい！」

悟空（ゼノ）は悟飯を連れて元の世界に送るのだった。

第67話 『人造人間合体13号の脅威!』

あらすじ

「並行世界に迷い込んだ悟飯であったが、

悟空（ゼノ）によって元の世界に戻ることができたのである。」

——地球のどこか②——

悟飯が次元の穴に吸い込まれ並行世界の行った頃。

孫悟空

「ん？悟飯の気が急に消えた！

セルに殺られちゃったのか？」

ベジータ

「いやそんな感じではなかったぞ！

どうなってやがる？」

合体13号

「お前たちに他人の心配をしているの余裕なんて無いんだぞ？

特に孫悟空貴様はオレたち人造人間が殺す！」

ベジータ

「バケモノめ！」

悟空はスーパーサイヤ人ブルーを解きベジータに頼み事をする。

孫悟空

「ベジータ、少し奴の相手頼めるか？」

ベジータ

「何をする気だ？」

あ、そうか、わかった！

だが、アイツ相手にそう長くは時間を稼げんぞ！」

孫悟空

「ああ、わかってる！」

合体13号

「何処に行く孫悟空？」

オレから逃げられると思うなよ！」

ベジータ

「おっと、カカロットを追いかけたのなら、

まずオレ様を倒してからにしろ！」

合体13号

「良いだろう!」

ベジータ

「はぁー!」

ベジータはスーパーサイヤ人ブルー（進化）に変身する

その頃、悟空は少し離れたところで元気玉の準備に入る

孫悟空

「大地よ、海よ、そして地球に生きている全てのみんな……このオラに、元気を分けてくれ……頼む!」

サタン

「悟空さんの声!」

あの悪い魔人ブウを倒した技をしようとしているのか!」

地球人1

「誰かが力を求めている! 正体のわからん奴に誰が力を貸すもんか!」

地球人2

「みんな騙されるなよ!」

サタン

(このままだと！)

そうだ、魔人ブウのときのようになに私が呼びかけたら！)

サタン

「地球のみんな！

今、ワシの弟子が悪者と戦っている！あのセルの仲間だ！

すまんが力を貸してやってくれないか！」

地球人1

「ミスター・サタンがそういうなら仕方ないか！」

地球人2

「分かったよサタン！」

悟空に地球上の元気が集まる。

ベジータ

「いくぜ人造人間！」

合体13号

「来いベジータ！」

ベジータ

「ちつ、カッチン鋼のせいで全然ダメージが入らない！」

合体13号

「かなりパワーアップしたようだがお前の攻撃など痛くも痒くもない!」

ベジータ

「クソツタレ!」

「これでも喰らいやがれ、ファイナルフラッシュ!」

合体13号

「こんな物、オレには効かんどベジータ!」

ベジータ

「放つから通用するとは思ってない!」

「カカロットの時間稼ぎができればそれで良い!」

合体13号

「なんだと?」

「合体13号はベジータのファイナルフラッシュを耐えきった。」

合体13号

「今のは聞いたぞベジータ!」

ベジータ

「ダメージほぼ無しか!」

孫悟空

「すまねえ、ベジータ！」

元氣玉の完成だ！」

ベジータ

「やっとか！」

孫悟空

「ベジータ離れてろ！」

悟空は合体13号に元氣玉を放つ。

合体13号

「それが元氣玉か？」

「これも耐えきってやる！」

合体13号は元氣玉を受け止め押し返す。

孫悟空

「そんな？」

元氣玉が押されてるぞ！

「はぁー！」

悟空は押される元氣玉を押し返そうとスーパーサイヤ人ブルーに変身する。

孫悟空

「押し返せねえー!」

くそー!」

悟空は合体13号に押し返された元気玉に巻き込まれてしまう。

ベジータ

「まさか?

カカロットが負けただと?」

合体13号

「遂に孫悟空を殺したぞ!ハハハハハ!」

セル

「まさか、孫悟空を倒すとはな?

私の楽しみが少し減ったがまあ良いか!」

合体13号

「アンタのところは終わったのか?」

ベジータ

「セル、良くも悟飯を殺しやがったな?」

セル

「ベジータ、それは侵害だな！

私は孫悟飯を倒してはいない！

孫悟飯は次元の穴に吸い込まれ消えたのだ！

恐らくこの次元にはいないはずだ！

それより、孫悟空が殺られた今、自分の心配をしたらどうなんだ？」

ベジータ

「クソツタレがー！」

孫悟空

「オラはまだ殺られてねえーぞー！」

悟空は身勝手の極意（兆）に変身する。

ベジータ

「まさか、あれは身勝手の極意か？」

セル

「なんだ？」

身勝手の極意とは？

「なんだがヤバそうな雰囲気だな！」

第68話 『人造人間21号のお菓子計画! (前編)』

あらすじ

「合体13号に元氣玉を放つ悟空であったが、

合体13号に跳ね返されて悟空は倒れるのであった。

しかし、悟空は起き上がるのだった。」

——地球のどこか——

合体13号

「なんだその変身は？」

だが、どんな変身をしようとお前に我々人造人間を倒せない！」

孫悟空

「……」

セル

「おい、合体13号、あの変身を甘く見ない方が良いでしょう！」

合体13号

「セル、オレは今やオレの方が強い！」

もうアンタの命令はもう聞かん！

オレは孫悟空を殺すだけだ！」

セル

「ちっ、故障でもしたか！

まあ良い！

勝手にするが良い！」

合体13号

「いっぞ孫悟空ー！」

合体13号は悟空に攻撃を出すのが全て悟空は交わっていた。

合体13号

「何故だ？」

何故だ攻撃が当たらん？

何をした？」

孫悟空

「オラは何も考えず無意識で攻撃を交わしているだけだ！」

セル

「ベジータ、さつき身勝手の極意とか言っていたな？」

何か知っているな!」

ベジータ

「気になるか、カカロットの変わりようが!」

セル

「まあな!」

ベジータ

「今、カカロットは無意識の状態で人造人間の攻撃を交わしている!」

だが、カカロットはまだ身勝手の極意を自由に使えるわけではない!

攻撃の瞬間にどうしても考えすぎてしまい威力が落ちてしまう!」

セル

「なるほど!」

それで回避と防御は凄いのになら攻撃の方は大したこと無かったのか!」

孫悟空

「かーめーはーめー波ー!」

合体13号の攻撃を交わしながら悟空はかめはめ波を繰り出す。

合体13号

「そんな技オレに聞くものかー!」

ん？馬鹿な押し返せないだー！」

合体13号は半壊して、悟空の身勝手の極意（兆）は解けてしまう。

孫悟空

「はあはあはあ！」

合体13号

「馬鹿な！」

オレが負けるとは！」

21号

「あらら、負けちゃったのね？」

鮮度が落ちる前にお菓子になーれ！」

突如21号が現れ半壊している合体13号をお菓子にして食べた。

孫悟空

「なんだおめえ？」

セル

「コイツは21号だ！」

ベジータ

「な、なに？」

まだ人造人間がいたのか?」

孫悟空

「さっきの技、魔人ブウが人をお菓子にする時の技じゃないのか?」

ベジータ

「恐らくセルのよう強い戦士の細胞があるんだろう!」

奴から魔人ブウの気を感じるぞ!」

孫悟空

「確かに!」

魔人ブウ以外にフリーザやセルの気、

オラやベジータの気もあるぞ!」

セル

「まさか貴様も私のように様々な細胞を組み込んだ人造人間だったとはな!」

しかも私と同じ生体エネルギー吸収タイプだったとはな!」

21号

「自分と同じタイプでびつくりした?」

ん・・・やっぱりロボットの味はイマイチね!

100点中7点つてところかしら!

アナタ達は、どんな味がするかしら？」

21号は科学者の姿から魔人21号の姿に変身する。

セル

「それがお前の真の姿という訳か！」

私がそう簡単に食べられると思うか？」

21号

「そうね！」

確かにアナタは私より強いわ！

だから、強い戦士を動けなくする波動システムを作ったの！」

セル

「なんだと？」

21号

「そろそろ、貴方たちに効いてくる頃じゃない？」

孫悟空

「か、体が動かねえ！」

ベジータ

「なんだこれは？」

セル

「おのれー!」

21号

「これで貴方たちは私のおやつよ!

まずはクローンを食べつくそうと!」

クローンの悟空、悟飯、ベジータ、フリーザ、クウラ、セルがぞろぞろ現れ、21号は次々とお菓子にして食べていく。

——地球の別の場所——

波動システムが発動する少し前。

孫悟飯

「お父さん、ありがとうございます!」

孫悟空 (ゼノ)

「元気でな悟飯!」

孫悟空 (ゼノ) はトキトキ都に帰って行く。

孫悟飯

「あつちでお父さんとセル気が!」

お父さん達のところに行こう!」

16号

「待て、孫悟飯！」

孫悟飯

「アナタは16号さん？」

「確かアナタはセルに壊されたはずじゃ？」

第69話 『人造人間21号のお菓子計画! (中編)』

あらすじ

「21号の波動システムにより悟空たちは力を出せなくなっていた。

その頃、並行世界から元の世界に戻って来た

悟飯の前に16号が現れたのである。」

——地球のどこか①——

孫悟飯

「16号さん、復活したんですか?」

16号

「いや違う!」

オレはお前の知っている16号では無い!」

孫悟飯

「へえ!」

どういうこと?」

16号

「オレはセルに破壊された16号をベースに21号によって新しく作られた16号だ！」

孫悟飯

「21号だつて？」

そういえばセルが言つてた人造人間の名前だ！

他にも居るなんてドクターゲロの奴はどれだけの人造人間を作つたんだ？」

16号

「21号はドクターゲロのコンピュータが独自に作り上げた人造人間だ！

セル同様に21号も孫悟空や魔人ブウなど様々な戦士の細胞を集めてできたバイオ

型人造人間だ！

しかし、その一部の細胞が暴走し21号は2つの人格が存在し、

捕食衝動の人格に支配されてしまった！

オレを作つた頃の21号の人格がもういない！

オレは21号を止めようとした！

だが、返り討ちに合い見ての通りボロボロされてしまい、

もう時期、オレは機能が停止してしまふだろう！」

孫悟飯

「そんな!」

16号

「孫悟飯、オレの言う場所に行つてくれ!

そこにドクターゲロの研究所がある!

そこには波動システムという物があり、そのシステムは強い戦士を動けなくしてしま
う効果があり、

動けなくなつた戦士を21号は捕食していきパワーアップしていくつもりだ!

早くしないと孫悟空たちも捕食されてしまうだろう!

もはや21号を助けることも叶わん!

21号を倒すしかも手が無い!

頼んだぞ そんごは…」

16号は機能が停止してしまい爆発してしまつた。

孫悟飯

「わかりました!

16号さんボクに任せてください!」

——地球のどこかのドクターゲロの研究所——

孫悟飯

「16号さんの言っていた研究所はここか！
あれだな？」

波動システムのアンテナは！

かーめーはーめー、ん？

か、体に力が入らない！

まさか、16号さんの言っていた波動システムが発動してしまったのか？今はボクが近いんだ、ボクが何とかしないと！」

悟飯は研究所の破壊を辞め、波動システムのコントロールシステムを探すため、研究所の中に入る事にした。

孫悟飯

「中は意外と広いな！」

どこだ？ここか？ここでもない？

あ、あつたぞここだ！」

悟飯は薄れそうな意識を我慢しながら、何とか波動システムのコントロール部屋にたどり着く事ができた。

——地球のどこか——

21号

「あらら、クローン戦士はこれでもう終わりかしたら？

、仕方ないわ、だったら今度は貴方たちの番だわ！」

孫悟空

「力が入らない！」

ベジータ

「今にも意識が飛びそうだぜ！」

セル

「パワーが上なのにまた私はパワーが下の奴に負けるのか？

ふざけやがってー！」

21号

「足掻いても無駄よ！」

セル次はアンタに決めた！

美味しくなーれ！」

21号はセルをお菓子にして食べたのである。そして、21号は体に黒い斑点模様が付く。しかし、同時に波動システム合体停止し出す。

21号

「すごく美味しいわ！」

なんて素晴らしいパワーなの？

もつともつと食べたいわ！

あれ？どういう事かしら！

波動システムが止まってる？

故障でもしたかしら？

まあ、良いわ！

究極の力を手に入れたんだから！」

孫悟空

「確かにおめえは凄いかもしれない！

だけど、オラとベジータが力を合わせれば勝てない相手ではない！」

ベジータ

「カカロットの言う通りだ！

今は1体1の戦いにこだわってる場合じゃないな！」

21号

「別に2人同時でも構わないわよ！」

孫悟空とベジータ

「はあ——！」

悟空とベジータはスーパーサイヤ人ブルーに変身する。

21号

「気は感じないけどその変身は強いんでしょ？」

貴方たちとの戦い楽しみだわ！」

第70話 『人造人間21号のお菓子計画！（後編）』

あらすじ

「波動システムの効果が切れ力を出せるようになった悟空たち。

セルを吸収してパワーアップした人造人間21号。

悟空達と21号の戦いが始まるうとしていた。」

——地球のどこかドクターゲロの研究所——

孫悟飯

「これで力を出せるようになったぞ！」

後は、外に出て研究所を破壊すれば！

ん？お父さんところですか？すごい気を感じるぞ！

急がなきゃ！」

悟飯は研究所を破壊して悟空達の元に向かうのだった。

——地球のどこかの——

孫悟空

「界王拳20倍だ！」

悟空はスーパーサイヤ人ブルーに界王拳を上乗せする。

ベジータ

「はぁー!」

ベジータは力の大会で使ったスーパーサイヤ人ブルー・進化に変身する。

21号

「それが貴方たちの本気なのね?

じゃ私も本気でいかないとね!」

悟空とベジータは21号と戦いを挑むが21号は圧倒的に強い。

ベジータ

「ちっ、色んな奴を食べてかなり強くなってやる!」

そもそもオレは納得いかなんだ!

吸収や融合や合体だってのは本来そいつの持つ力じゃない!

だが、オレもカカロットも相手の吸収や合体を解くような技は持ってない!

オレたちには勝てないのか?」

孫悟空

「ベジータ!」

今、合体に納得いかないと言ったばっかりだが、

もうコイツに勝つには合体しかないぞ！」

ベジータ

「ふざけるな、カカロット！」

最近、オレたちは合体ばかりじゃないか？

ブロリーやジャネンバやカンバーの時に散々合体しただろ？」

21号

「隙が大きいわね2人とも！」

21号は悟空のベジータにパンチを喰らわす。

ベジータ

「クソツタレがー」

孫悟空

「ベジッタ！」

ベジータと悟空が倒れてしまう。

21号

「あらまあ、もう終わりもう少し楽しめると思ったのに！」

仕方ないわ！

お菓子になー…」

21号がベジータをお菓子にしようとした時、悟空が起き上がり21号に攻撃する。

21号

「なに？」

それは、さつき合体13号との戦いで使ってた極意がナントカだっけ？」

孫悟空

「身勝手の極意だ！」

21号

「今度は楽しませてくれるでしょうね？」

ビルスとウイスは悟空の身勝手の極意の気に気づきやって来た。

ビルス

「悟空の奴はまた身勝手の極意“兆”になったようだね！」

ウイス

「ですが、まだ自由には使えないみたいですね！」

あらまあ、セルさんは21号さんの中に吸収されちゃってますわ！」

ビルス

「なに？」

21号

「どうして攻撃が当たらない！」

ちくしょう！

もつともつとお菓子を食べたい！」

孫悟空

「もう、おめえは終わりだ！」

悟空はいつの間にか身勝手の極意“兆”から身勝手の極意：完成形に変身を遂げている。

21号

「私は負けない！」

絶対、絶対にだ！」

孫悟空

「かーめーはーめー波ー！」

ビルス

「これで悟空の勝ちだね！」

ウイス

「ですが！」

ドクターゲロの研究所を破壊して悟飯がやって来る。

孫悟飯

「ビルス様にウイスさん来てたんですね!」

21号

「私がこんなところで、

こんなところで負けてたまるかー!」

孫悟空

「波ー!」

21号は悟空のかめはめ波によって消滅するのであった。

ウイス

「ほい!」

ウイスは杖を使い、吸収されていたセルを助ける。

セル

「私はいったい?」

孫悟飯

「セ、セル?」

ビルス

「お前、ウイスの奴が本気を出さないまま、

あの世に逆戻りするのには勿体ないって21号の吸収から助けたんだぞ！
孫悟飯と決着つきたいんだろ？」

ウイス

「お疲れ様です！」

悟空さん、ベジータさん！」

セル

「また、ビルス様とウイスさんには世話になったな！」

21号のやつには卑怯な手を使われ吸収され、

私の本気が疲労できないまま終わるところだった！」

だが、今度こそ、誰の邪魔も無く孫悟飯に決着を付けれる！」

孫悟飯

「ボクは負けないぞ！」

第71話『セル新たな進化! (前編)』

あらすじ

「悟空は身勝手の極意で21号を倒すことに成功するのだった。

ウイスは吸収されていたセルを助け、

今、悟飯とセルの戦いが再開しようとしていた。」

——地球のどこか——

ビルス

「ウイス、悟空とベジータを回復してやれ!」

ウイス

「かしこまりました!」

ウイスは杖を使い悟空達を回復させる。

孫悟空

「助かったぞウイスさん!」

ベジータ

「死ぬかと思っただぜ!」

セル

「また、誰かに邪魔されたくないんでね！」

今回は初めつから本気の本気でいかせてもらおう！」

はあー！」

セルは何かに変身しようとする。そして、セルはクリスタルに輝く姿へと変身する。

孫悟飯

「なんだその姿は？」

セル

「この姿か？」

フリーザのゴールデン化と悟空とベジータのスーパーサイヤ人ブルーの力を両方コントロールした姿というべきか？

わかりやすくクリスタルにしてみたが、

フリーザの名前のセンスに合わせるならクリスタルセルと言ったところか？
色が変わっただけではない事はわかってるな？」

孫悟空

「ベジータ、セルの気って？」

ベジータ

「ああ、セルから人間の気と神の気が合わさったような気を感じるぞ!」

孫悟空

「いくぞベジータ!」

ベジータ

「オレに命令するなカカロット!」

孫悟空とベジータ

「はぁー!」

悟空とベジータはスーパーサイヤ人ブルーに変身する。

孫悟飯

「ボクも本気でいかないと!」

はぁー!」

悟飯は「悟飯ビースト」に変身する。

セル

「始めるか、孫悟飯!」

だがその前に孫悟空とベジータ、お前たちは邪魔だ!

これでも喰らえ! 神封じの呪い!」

孫悟空

「体が動かねえ！」

ベジータ

「これは、まさかピッコロの？」

セル

「そうだ、ピッコロが魔族に戻った時に使った技だ！」

私も神封じの呪いを喰らってな！

だが、私にもピッコロの細胞があるんでな！

で試しに魔族の力を使ってみたが、戦闘力がある程度高くないと使えないみたいだな！」

ビルス

「まさか、お前も神封じの呪いを使えるようになるとはな！」

ウイス

「神封じの呪いはビルス様にとっても危険な技です物ね！」

ビルス

「余計なことを言うなウイス！」

孫悟飯

「お父さん、ベジータさん！」

大丈夫ですか？

セルやめろ！」

セル

「私はお前と1対1で戦いたいだけだ！」

孫悟空とベジータの命を奪うつもりはない！」

孫悟飯

「セル、お前も随分変わったな！」

悟飯とセルの戦いが始める。

孫悟飯

「前に戦った時より、かなりパワーアップしている！」

セル

「貴様もな！」

だが、もう少し手ごたえがあるといいんだがな！」

孫悟飯

「これでもボクも全力のパワーを出してるんだがな？」

セル

「そうか！」

「どうやら力の差が付きすぎたようだな！」

孫悟飯

「はぁー！ー！」

悟飯は最大限にパワー引き出す。

セル

「ほう！」

まだ結構上がるじゃないか？

お前の得意技で勝負してやる、魔閃光！」

孫悟飯

「さっきクローンセルに邪魔された、

戦いの続きという訳か！

行くぞセル！魔閃光！」

悟飯とセルの魔閃光がぶつかり合う。

孫悟飯

「くそー！押し返せない！」

セル

「どうした、孫悟飯！」

その程度か?」

「セルは魔閃光を押し返す。

孫悟飯

「くそー、くそー!」

悟飯は魔閃光のダメージを受け倒れてしまう。

セル

「フハハハハハ!」

遂に孫悟飯を倒したぞ!

トドメだ!」

セルは悟飯にデスビームを放つ。しかし、悟飯が起き上がり跳ね返す。

セル

「なに?」

お前はほぼ重症だったはず!」

ビルス

「ウイス、悟飯の奴!」

ウイス

「はい、ビルス様!」

あの時と同じように悟飯さんはまた殻を破ったようです！
身勝手の拳が発動したみたいですよ！」

孫悟飯

(この力は前に魔族に戻ったピッコロさんと戦った時に?)

第72話『セル新たな進化! (後編)』

あらすじ

「セルとの戦いで重症をおった悟飯であったが、再び殻を破り身勝手の拳が発動したのであった。」

——地球のどこか——

セル

「貴様のそれは、孫悟空の身勝手の極意とやらか?」

孫悟飯

「さあな、ボクにはわからない!」

だが、この力ならセルお前に勝てるはずだ!」

セル

「なるほど、お前のは未完成のようだな!」

喰らえ——!」

セルは悟飯に攻撃を繰り返すが全ては交わされてしまう。

セル

「何故当たらん？」

やはりこれも身勝手の極意の類いなのか？

ぐああー！」

悟飯はセルに強烈な一撃を1発喰らわせる。

ビルス

「この勝負は悟飯の勝ちだなー！」

孫悟空

「ん？オラは？」

セルがダメージを受けた事で神封じの呪いが弱まる

孫悟空

「ん？セルが殺られてるぞー！」

ベジータ

「悟飯が殺ったのか？」

ビルス

「悟空、ベジータ、お前たち気がついたのか？」

ウイス

「恐らく、セルさんが大ダメージを受け、

神封じの呪いが弱まったのでしよう!」

セル

「攻撃が見えなかった!」

こんな事があつてたまるか?

おのれー!」

孫悟空

「ウイスさん、悟飯のあれって身勝手の極意じゃねえーんか?」

ウイス

「いいえ!」

「悟飯さんは身勝手の極意”兆”すらなれてません!」

ですが、」

ビルス

「悟飯の奴は、身勝手の極意の半分の形態の身勝手の拳と身勝手の回避を無意識に使い分けて戦っている!」

「拳と回避を同時に使った時に初めて身勝手の極意”兆”もしくは完成形になれるんだ!」

孫悟空

「そうなんか！」

ベジータ

「悟飯の潜在能力が相変わらず凄いな！」

孫悟空

「ああ、悟飯は凄いさ！」

セル

「攻撃が当たらん、何故当たらん？」

孫悟飯

「セル、これで終わりだ！」

セル

「なんだと？」

ぐああー！」

悟飯はセルに2発目の攻撃を当ててる。

セル

「私がたった2発でこのダメージ？」

「これではあの時と変わらんではないか？」

「ちくしょう、ちくしょう！あ？」

クリスタルセルが解けてしまう。

孫悟空

「セルの奴、パワーダウンしたぞ！」

ベジータ

「ホントにまであの時の再現だな！」

ん? カカロット!」

孫悟空

「ああ、神封じの呪いが完全に解けたようだ！」

悟空とベジータは自由になる。

セル

「私はまた負けるのか？」

孫悟飯に?

「負けたくない、絶対に負けたく…ん?」

ダークマター

「セルよ、負けたくないか？」

「なら、我が力を少しわけてやろう！」

セル

「誰だか知らんが助かったぞ！」

「はあー！」

セルはクリスタルブラックセルに変身する。

セル

「孫悟飯、あの時の再現をするなら、最後まで付き合ってもらおうか！」

かーめーはーめー波ー！」

孫悟飯

「なんだって？」

かーめーはーめー波ー！」

ベジータ

「セルの気が急激に上がりやがった！」

孫悟空

「この気はダークマターだ？」

ベジータ

「なに？」

「ホントかカカロット？」

孫悟空

「ああ、前にオラがカカロットになった時にダークマターに操られてただろ？」

その時に感じた気だから間違えない！」

ウイス

「悟空さんの言ってることは本当です！」

セルさんはダークマターの力で強化されたみたいですよ！」

孫悟飯

「かめはめ波が押されてる！」

「このままだと！」

ベジータ

「カカロット、このままだと悟飯の奴が負けるぞ！」

孫悟空

「わかってる！」

悟空とベジータは悟飯の援護に向かい、スーパーサイヤ人ブルーに変身する。

孫悟空

「かめはめ波！」

ベジータ

「ファイナルフラッシュ！」

セル

「貴様ら邪魔を仕上がって！」

孫悟飯

「お父さん、ベジータさん！」

孫悟空

「悟飯もつとパワーを出せ！」

孫悟飯

「はい！」

波——！」

悟飯と悟空とベジータの3人の攻撃はセルのかめはめ波を押し返す。

セル

「馬鹿な？」

この私がまた孫親子に負けるとは——！」

遂にセルは倒れる。

孫悟空

「やったな悟飯！」

孫悟飯

「はい、お父さん！」

第6章 『2人の宇宙の帝王編』

第73話 『フリーザ軍新惑星サダラ襲撃！』

あらすじ

「悟空達の活躍により人造人間13号やセル、そして21号を倒したのであった。しかし、ダークマターの活動が活発になっていたのである。」

——あの世の地獄——

悟空達が合体13号、21号、セルと戦っていた頃、あの世では、あの男が復活しようとしていた。

ボージャツク

「ちっ、また妖精のパレードか？

いい加減にしてもらいたいな！

それもこれもあの孫悟飯のせいだ！

復活したら必ず復讐してやる！

ん？なんだ？」

ダークマター

「ボージャックよ！」

地獄から出たいか？

ならお前の望みを叶えてやろう！」

——宇宙のどこか——

ボージャック

「ん？」

ここは地獄じゃないのか？

そうだ、謎の声がして、

どうやったか知らんが生き返ったらしいな！

パワーも前と桁違いだ！」

ダークマター

「我が力を少しわけてやった！」

ボージャック

「誰だか知らんが何を企んでいる？」

ダークマター

「私の名はダークマター！」

私もお前と同じく孫悟飯に恨みを持つ者と言うべきか！」

ボージャック

「ダークマターだと？」

聞いたことがある！

なるほど、悪の神か！

孫悟飯の退治にこのボージャック様を利用するとはな！

まあ、良いだろう！

あの地獄から出したことに感謝するぞ！」

——あの世の閻魔界——

悪の閻魔大王

「死神様、ダークマターがボージャックを復活させた模様です！」

死神様

「なりふり構わず悪人を復活させているようだな！」

孫悟空たちの活躍により、

自分の強化に復活させる計画に相当焦っているとみる！」

閻魔大王

「ダークマターの奴め！」

また、ワシの仕事が増えるではないか！」

死神様

「孫悟空とベジータにダークマターの復活まじかである事を伝えねばな!」

——宇宙の新惑星サダラ付近——

メタルクウラ

「この星が伝説に語られた生き物が居ないのに、

生き物が住める環境があると言われた幻の惑星オアシスだ!」

フリーザ

「これが惑星オアシスですか?

ならここを私たちの新惑星に!」

キコノ

「クウラ様、フリーザ様、

この星に生命反応があります!」

メタルクウラ

「なんだと?」

既に先客が居たのか?」

キコノ

「偵察ロボの映像を写します!」

フリーザ

「これはサイヤ人？」

メタルクウラ

「ん？」

この格好は、コルド軍に吸収される前のスタイルだな！

確か、サイヤ人は惑星サダラという星に住み、

仲間割れで消滅し軍が2つに別れたと聞く！」

フリーザ

「つまり、コイツらはベジータ軍とは違うサイヤ人という事ですね！」

キコノ

「クウラ様、フリーザ様、どうされますか？」

メタルクウラ

「知れたことを！」

フリーザ

「どうするも何も奪うに決まってるじゃないですか？」

キコノ

「兵を進ませますか？」

メタルクウラ

「いや、オレがビッグゲテスターを使い、

惑星オアシスを手に入れる!」

メタルクウラのビッグゲテスターによる攻撃が始まる。そして、現在。

——地球のどこか——

キャツ

「ベジータ4世と孫悟空に伝えなければ!」

宇宙船が到着する。

孫悟空

「おい、ベジータこの気は?」

ベジータ

「新惑星サダラで出会ったサイヤ人の気だ!

弱々しいな!

何かあったのか?」

孫悟空

「行ってみようぜ!」

ベジータ

「ああ！」

キヤツが到着した場所に悟空達は向かった。しかし、キヤツは宇宙船の前で気を失っていた。

孫悟空

「おい、大丈夫か？」

ベジータ

「カカロット、ブルマの家に連れていくぞ！」

悟空達はブルマの家に瞬間移動で移動し、悟空はカリン塔から仙豆を持ってくる。

孫悟空

「ほら、食べてくれ！」

悟空はキヤツに仙豆を食べさせた。

キヤツ

「(トト)は？」

ベジータ

「地球だ！」

キヤツ

「ベジータ4世、孫悟空、

新惑星サダラを助けてください!」

第74話 『新惑星サダラからのSOS!』

あらすじ

「悟空親子の活躍によりセルは倒されたのであった。」

そんな頃、新惑星サダラにフリーザ軍が侵攻してきたのである。

サイヤ人キヤツは、悟空たちに助けを求めたのだった。」

——地球のブルマの家の庭——

孫悟空

「どうしたんだ?」

ベジータ

「何があつた?」

キヤツ

「実はオレたちの星にフリーザとクウラが軍を引き連れ暴れてるんです!

現サダラ精鋭部隊はスーパーサイヤ人2までなら変身できるのですが、

フリーザ兄弟が強すぎてほぼ全滅しました!

サダラ王に命じられアナタ達に助けを求めに来たのです!」

ベジータ

「情けない奴だ！」

孫悟空

「そんなこと言うけどよベジータ、

昔のフリーザならスーパーサイヤ人で十分だったけど、

今のフリーザ達はスーパーサイヤ人2でも倒せねえーだろ！」

ベジータ

「確かにな？」

ん、まて？

今はフリーザと誰が居ると言った？」

キャツ

「フリーザの兄クウラですが？」

ベジータ

「なんだと？」

この前、小惑星バンパの近くにある太陽に落とされたはずだ！

何故だ？」

キャツ

「そういえば、クウラの方は全身機械の体でした！」

ベジータ

「ちっ！」

しぶとい野郎だ！」

孫悟飯

「お父さん、ベジータさん何かあつたんですか？」

道着姿の悟飯がやって来る。

孫悟空

「実はな、

悟空とベジータは悟飯に事情を話す。

孫悟空

「つて訳なんだ！」

孫悟飯

「そうだったんですね！」

ボクも戦います！」

ベジータ

「悟飯お前も前に比べ少しはサイヤ人の顔になったじゃないか！」

孫悟飯

「そうですか？」

孫悟空

「オラもそう思うぞ！」

キャツ

「では皆さん、よろしくお願いします！」

孫悟空

「新惑星サダラまでどのくらいかかるんだ？」

キャツ

「オレが乗ってきた新型の宇宙船では1週間はかかります！」

孫悟飯

「そんなにですか？」

ベジータ

「おい！」

カカロットお前、瞬間移動で行けるんじゃないのか？」

孫悟空

「無理だ！」

さつきから気を探ってるんだが全然見つからないだ！

地球からはかなり遠いみたいだ！

そうだ！皆オラに捕まれ！」

悟空はどこかに瞬間移動する。

——北の界王星——

孫悟空

「よー界王様！」

北の界王

「なんじゃい悟空にベジータ、

それにお前さんはサイヤ人か?!」

キャツ

「はいー！」

北の界王

「しかし、悟空達以外にもサイヤ人が居たんだな！」

孫悟空

「界王様に聞きたいことがあってよ？」

北の界王

「ワシに聞かたいこと?」

孫悟空

「ああ!

あのさ、コイツの新惑星サダラが何処にあるか知らないか?」

北の界王

「新惑星サダラねえ聞いたことないな!

旧惑星サダラならお前達先祖のサイヤ人の故郷だというのは知ってるが!

まさか、惑星プラントのように星を侵略したんじやなかうな?」

キヤツ

「オレ達はベジータ軍と違ってそんな事はしてません!」

ベジータ

「ちっ!」

北の界王

「そうなのか!」

孫悟空

「やっぱり界王様にもわからないか!」

北の界王

「界王神様から新惑星サダラを作ったなんていう報告は無かったし！

ん？お前さん、新惑星サダラの元の名前はなんという星なんじゃ？」

キャツ

「確か、元の名は惑星オアシスとサダラ王から聞いた事があります！」

北の界王

「なんじゃと？」

惑星オアシスだど？」

孫悟空

「界王様、場所わかるんか？」

北の界王

「当たり前じゃ！」

これは、ちとまずいぞー！」

孫悟空

「どういふことだ？」

北の界王

「惑星オアシスは、故郷を失った宇宙種族のために、

創られる惑星なんじゃが、界王神様の許可なくに住むことが許されんのじゃが！」

北の界王

（界王様やビルス様はこの事実を知っているんじゃないだろうか？）

孫悟空

「界王神様の許可が無いと暮らせねーのか！

それより星はどこにあるんだ？」

北の界王

「方向はあっちだ！」

孫悟空

「サンキュー界王様！」

悟空は瞬間移動に入り気を探る。

孫悟空

「ん？フリーザやクウラ以外にもう一人強い気が他にも居るな？」

北の界王

「なんじゃと？」

ちつと惑星オアシスの様子を見てやろう！

ん？コイツはボージャック？」

孫悟飯

「なんですって？」

ボージャックが？」

ベジータ

「奴も悪の閻魔が復活させたのか？」

北の界王

「いや、悪の閻魔が復活させたのは、クウラ、セル、ピッコロ大魔王の手下、ガーリック Jr の手下と言った連中だけだ！」

孫悟飯

「では、どうしてボージャックが？」

老界王神

「それは恐らくダークマターの仕事じゃ！」

孫悟飯

「老界王神様！」

第75話 『ダークマター復活カウントの始まり!』

あらすじ

「新惑星サダラの方角を知るため界王様の元に来た悟空達であったが、

新惑星サダラではフリーザ兄弟以外に

ボージャックが暴れている事を知るのであった。」

——新惑星サダラ——

時は悟空達が界王星に行く前に遡る。

フリーザ

「何者です?」

ボージャック

「貴様らこそ何者だ?」

フリーザ

「私はフリーザ!

そしてこっちは兄の」

メタルクウラ

「クウラだ！」

ボージャック

「オレ様はボージャックだ！」

お前達強そうだな！

俺と一緒に来ないか？」

メタルクウラ

「ボージャックだと？」

フリーザ

「兄さんコイツを知ってるんですか？」

メタルクウラ

「ああ！」

昔、親父から聞いたことがある！

確か大昔に4人の界王に封印された宇宙海賊のリーダーがそんな名前だったはずだ
！」

ボージャック

「くっ、嫌なこと思い出させやがる！」

4人の界王共はいずれ殺してやるが、

それ以上に地球に住むサイヤ人が許せんのだ!」

フリーザ

「地球に住むサイヤ人だと？」

まさか、孫悟空か？」

ボージャツク

「孫悟空？」

確かアイツの親父の名前がそんな名前だったな!

オレの復讐相手は孫悟飯だ!」

フリーザ「ああ、孫悟空の息子の方ですか!」

ボージャツク

「そうだ!」

俺はこの星を拠点にして宇宙帝国を作り、

地球にいるサイヤ人を根絶やしにするつもりだ!」

メタルクウラ

「オレたちと同じでサイヤ人に恨みがあるようだな!」

フリーザ

「仲間にはありませんがアナタと手を組んでも構わないですよ!」

メタルクウラ

「相変わらずフリーザお前は甘いな！」

だが一応俺たちと目的は同じだ、良いだろう！」

ボージャック

「お互い利用し合おうじゃないか！」

—— 北の界王星 ——

界王神界からテレパシーで会話

老界王神

「ダークマターはかなり悪の気を吸い取ってパワーアップしとるようじゃ！」

ボージャックもフリーザ同様に地獄で魂が浄化されなかつた極悪人だ！」

恐らくあの世より気を吸い取りやすいこの世で悪の気を吸い取るため復活させたん

じやろう！」

良いか悟空、悟飯そしてベジータ、ダークマターが更にパワーアップする前にフリー

ザ兄弟やボージャックを倒すんじゃない！」

ベジータ

「言われるまでもない！」

孫悟飯

「ボージャックはボクが殺ります!」

ベジータ

「オレはクウラの野郎を殺る!」

孫悟空

「じゃあ、オラはフリーザか!」

北の界王

「悟空お前さんの周りはホントにいつまでも敵が居なくならんかう!」

老界王神

「同感じゃ!」

死神様が現れる。

死神様

「界王様、老界王神様、ご無沙汰してます!」

界王様あの説(カカロット事件)はお世話になりました!

老界王神様もダークマターが復活寸前である事をご存知だったのですね!

孫悟空達に伝える手間が省けました!」

老界王神

「ワシだけじゃないここに居る界王神も気づいておる!」

恐らく破壊神ビルス様もな！」

孫悟空

「死神様じゃねえか！」

死神様

「孫悟空、孫悟飯、ベジータよ！」

恐らく遅かれ早かれ今回のフリーザ兄弟とボージャックの戦いの後に

ダークマターが復活するだろう！」

孫悟空

「ダークマターってどんな奴なんだ？」

死神様

「それがわからんだ！」

ダークマターは色々な姿で語られているが、

本当の姿を見たのは初代界王神様と初代破壊神様だけなのだ！」

まあ、ダークマターの話はここまでにしてフリーザ兄弟達との戦いよろしく頼む！」

孫悟空

「ダークマターの事をもっと知りたいぞ！」

ベジータ

「カカロット、今はフリーザ達を倒すことに集中しろ！」

孫悟空

「ああ、そうだな！」

皆、オラに捕まれ！

界王様と死神様またな！」

悟空達は瞬間移動で新惑星サダラに移動。

—— 謎の空間 ——

ダークマター

「そろそろ奴を復活させよう！」

悪のエネルギーがもうすぐで溜まる！」

第76話 『新惑星サダラそれぞれの戦い!』

あらすじ

「悟空は新惑星サダラの方角を知るため界王星に来たのだが、界王様からフリーザ兄弟の他にボージャックが居ること、死神様からダークマター復活が近い事を知るのだった。」

——新惑星サダラ——

孫悟空

「こりや酷いな!」

キャツ

「おーい!」

皆無事か?」

レスタ

「おお、あなた方は!」

キャツ

「レスタ兄さんご無事でしたか?」

レスタ

「だが、仲間たちはあの変な宇宙船のような星に無理やり連れて行かれた!」

ベジータ

「あれか?」

突然攻撃が来る。

ボージャック

「貴様らサイヤ人だな?

ん?

お前は孫悟飯か?」

孫悟飯

「やっぱりボージャックだったのか?」

ベジータ

「貴様はどうやって復活した?」

ボージャック

「ダークマターとか言う奴が俺を復活させた!

復活したからにはオレを倒し孫悟飯に復讐してやる!」

孫悟飯

「老界王神様の言う通りだ！

お父さん、ベジータさん先に行ってください！」

孫悟空

「頼んだぞ悟飯！」

キヤツ

「悟飯さんお気をつけて！」

ベジータ

「オレとカカロットはフリーザ兄弟を殺る！」

お前達は仲間を助けに行け！」

レスタ

「すまない！」

悟空達は先に向かい、キヤツとレスタは別行動をする

ボージャツク

「オレ

は貴様を許さない！

貴様のおかげで俺はあの地獄にずっと居た！

お花畑で妖精のパレード！

孫悟飯次はお前が地獄に落ちる番だ!」

孫悟飯

「お前じゃボクには勝てんぜ!」

パワーアップはしているようだが!」

悟飯は通常アルテメット化に変身する。

——新惑星サダラのどこか——

フリーザ

「待ってましたよ、孫悟空とベジータ!」

孫悟空

「フリーザ相変わらず悪さしてるんだな!」

ベジータ

「クウラの野郎はどこにいる?」

メタルクウラ

「ここだ!」

ベジータ

「ほう?」

やはり機械の体か!」

メタルクウラ

「お前には感謝しているぞベジータ！」

ベジータ

「なんだと？」

メタルクウラ

「お前のおかげで俺の肉体はほぼ消滅した！」

だが、脳が運良くビッグゲテスターに流れ着きほとんど無かった肉体はメタルクウラとなり再生した！

最終形態は無理だがより素晴らしい肉体を手に入れることができた！

だから貴様には感謝している！」

ベジータ

「なら貴様をスクラップにしてやる！」

ビッグバンアタック！」

スーパーサイヤ人ブルーになり攻撃する。

メタルクウラ

「うおああ！」

メタルクウラは粉々になるが再生する。

メタルクウラ

「無駄だ!」

俺はビッグゲテスターのメインコンピュータにより再生されさらに強くなる!

そして、この姿を見よ!」

メタルクウラはゴールデン化する。

フリーザ

「ベジータさんも戦いを始めたみたいなのでボク達も戦いを始めるとしますか!」

孫悟空

「そうだな!」

悟空はスーパーサイヤ人ブルーに変身する。

フリーザ

「今度こそアナタを殺します!」

覚悟なさい!」

フリーザはゴールデン化する。

—— 謎の空間 ——

ブロリー（悪魔）

「出せ!」

「ここから出せ！」

ダークマター

「サイヤ人恐ろしい種族だ！」

まあ、良いだろう！ブロリー（悪魔）はかなり強化した！」

ブロリー（悪魔）

「フハハハハハ！」

何もかも血祭りにしてやる！

あああああああああああ！」

——宇宙の新惑星サダラ——

ブロリー（悪魔）

「どこだ？どこは？」

ダークマター

「カカロットが居る星にワープさせた！」

存分に暴れるが良い！」

——トキトキ都——

時の界王神

「ブロリー（悪魔）の居場所がわかったわ！」

新惑星サダラに現れたわ!」

ベジータ(ゼノ)

「あそこか!」

孫悟空(ゼノ)

「行くぞベジータ!」

時の界王神「頼んだわ2人とも!」

—— 謎のエリア ——

トワ

「この時代も随分とキリ(エネルギー)が集まったわ!」

ミラ

「オレもかなりパワーアップした!」

トランクス(ゼノ)

「見つけたぞ、トワ、ミラ!」

ミラ

「またお前か!」

トワ

「丁度いいわ、ミラの調整に付き合ってくれ?」

トランクス（ゼノ）

「ふざけるな！はぁー！！」

トランクス（ゼノ）はスーパーサイヤ人3に変身する。

第77話 『新惑星サダラの戦いブローリー登場!』

あらすじ

「悟空とフリーザの戦い、ベジータとクウラの戦い、

悟飯とボージャックの戦いとそれぞれの戦いが始まろうとしていた。

そんな頃、ダークマターによってロリー（悪魔）が解放されようとしていたのである。」

——新惑星サダラのどこか①——

ボージャック

「孫悟飯腕を上げたな!」

孫悟飯

「お前こそ随分パワーアップしたみたいだな!

でもお前は僕には勝てんぜ!」

ボージャック

「調子に乗るなよ!

これで本気だと思ったか?

なら本気を出そう!

はぁー！」

ボージャックはフルパワーボージャックに変身する。

孫悟飯

「なんだと？」

「ここまでパワーを上げていたか！

ならボクも本気でいきます！はぁー！」

悟飯はアルテメット化から悟飯ビースト変身する。

ボージャック

「なんだその姿は？」

「まだ力を隠していたか！もう隠してる力は無いのか？」

「あの時は貴様を舐めて戦ったが今回は最初から本気でいかせてもらう！」

「同じ失敗はしないのだ！」

孫悟飯

「好きにしろ！」

魔閃光！」

ボージャック

「波——！」

悟飯とボージャックの技のぶつかり合いになる。

——新惑星サダラのどこか②——

ベジータ

「まさかその体でゴールデンになるとはな？」

メタルクウラ

「ああ！」

だがこの体でのゴールデン化は不可能がかかるため他のメタルクウラでのゴールデン化の量産はできなかった！」

ベジータ

「他のメタルクウラだど？」

メタルクウラ

「この体はビッグ・ゲテスターによって作った量産型でね！」

あつちを見てみる！」

ベジータ

「な、なんだあの数は？」

メタルクウラ

「ゴールデンは無理だったがメタルクウラは100体以上は居るぞ！」

どこまでスタミナが持つかな？」

ベジータ

「ふざけやがって！」

機械なんぞに姿を変えやがって！」

メタルクウラ

「新たな力を手に入れたと言ってもらおうか！」

このオレがこんな姿にしたのはベジータ貴様自身だぞ！」

ベジータ

「ギャリック砲！」

メタルクウラ

「波——！」

ベジータとメタルクウラの技のぶつかり合いになる。

フリーザ

「兄さんも気合いが入ってますね！」

孫悟空

「よそ見してるんじゃないね！」

悟空はフリーザ殴り掛かる。

フリーザ

「そんなに慌てなくてもアナタとはゆっくりお相手しますからご安心を！」
悟空とフリーザの戦いが続いていた。

孫悟空

「また短時間で強くなってるじゃねえかフリーザ！」

フリーザ

「当然ですよ！」

私はアナタを倒すため復讐ため、トレーニングを続けているんですよ！

ホーホホホ！」

孫悟空

「オラだって誰にも負けないようにトレーニングを続けてるさ！」

フリーザ

「波——！」

孫悟空

「かめはめ波！」

悟空とフリーザの技のぶつかり合いになる。

——新惑星サダラのどこか①——

ボージャック

「やるな孫悟飯！」

「はあはあはあ！」

孫悟飯

「ボージャック、お前こそな！」

「はあはあはあ！」

「ただボクは負ける訳にはいかない！」

ブロリー（悪魔）

「流石はサイヤ人と褒めてやりたいところだ！」

孫悟飯

「ん？なんだお前は？」

ボージャック

「なんだ貴様、サイヤ人か？」

ブロリー（悪魔）

「だとしたらどうする？」

ボージャック

「サイヤ人は皆息の根を止める!」

プロロー（悪魔）

「殺ってみろ!」

お前にプレゼントだ!」

ボージャック

「な、なに?」

うあああ、馬鹿な!」

ボージャックはプロロー（悪魔）の攻撃を受けあっさり倒れる。

孫悟飯

「あのボージャックをあっさり倒すなんて!」

一体何者だ?」

プロロー（悪魔）

「次はお前が血祭りになる番だ!」

ん? お前カカロットの息子か?」

孫悟飯

「そうだ!」

お前、父さんをしてるのか?」

ブロリー（悪魔）

「お前の親父、俺の睡眠邪魔した！

オレに大ダメージを与えた！

うおおおおおおお！」

孫悟飯

（なんなんだこいつは？

まるで理性を保ててない！

いや、保ててるのか？）

ブロリー（悪魔）

「なるほど！

この世界のカカロットの息子か！」

孫悟飯

「この世界？」

第78話『ゴールデンデスボール再び!』

あらすじ

「悟空達とフリーザ兄弟の戦いは激しさを増していた。

そして、ダークマターによってプロローが解放され、
ボージャックが倒されてしまうのだった。」

——新惑星サダラ——

ベジータ

「互角な上に再生とは厄介だな！

はあはあはあ！」

メタルクウラ

「その上オレはスタミナが永久式だから疲れもない！

お前に俺はいや俺達は倒せないのだ！」

ベジータ

「勘違いするなよ！

このオレが気を全部使えば再生できないほどのダメージ与えられるんだぞ！」

メタルクウラ

「なら、オレが小惑星バンパで使わなかった我が一族の切り札の技を使おう！」

ベジータ

「なに？切り札だと？」

クウラは瞬間移動で消える。

ベジータ

「な、なに？」

クウラが消えた、あっちか！

奴も瞬間移動が使えるのか？」

フリーザ

「ん？兄さん、もうあの技を使うのかい？」

メタルクウラ

「ああ！」

今になってお前が前に言ったサイヤ人は甘く見ない方が良いという言葉、

まったくその通りだったよ！」

フリーザ

「まあ、良いでしょう！」

私もそろそろ孫悟空を倒したいと思ってましたし!」

孫悟空

「何を企んでいる!」

ベジータ

「クウラ、まさか瞬間移動が使えるとはな?」

フリーザと逃げる相談でもしに来たのか?」

メタルクウラ

「さっき言ったはずだ!」

我が一族の切り札の技を使うと!」

フリーザとメタルクウラ

「ゴールデンデスボール!」

ベジータ

「な、なに?」

フリーザとクウラはセルに使ったゴールデンデスボールを使う。

孫悟空

「なんて気だ?」

ベジータ

「ファイナル！」

孫悟空

「かめはめー！」

孫悟空とベジータ「波ー！」

かめはめ波&ファイナルフラッシュがゴールデンデスボールとぶつかり合う。

フリーザ

「ほう？この技を受け止めるか！」

メタルクウラ

「この技を耐えたものは未だに一人しかない！」

お前たちが倒したという魔人ブウだ！」

孫悟空

「魔人ブウ？」

メタルクウラ

「昔、我が一族が魔人ブウと戦った時にこのゴールデンデスボールを使った！」

しかし、魔人ブウには通用せず、その時から一族に魔人ブウには手を出すなどという掟ができたのだ！」

ベジータ

「そうか、魔人ブウはこの技を耐えたんだな？」

今のオレたちはその魔人ブウ以上だと言うことを忘れるなよ！」

孫悟空とベジータ

「波——！」

フリーザ

「やりますね？」

押し返しますか？」

フリーザとメタルクウラ

「波——！」

孫悟空

「クソー、また押されてるぞ！」

ベジータ、もつと気を出すんだ！」

ベジータ

「オレに命令するな！」

孫悟空

「その意気だ！」

もつと気を上げろ——！」

ベジータ

「俺に命令するなー！」

メタルクウラ

「まだそんな力が残っているか！」

だが俺たちもまだまだ本気じゃないんだ！

波ー！ー！」

メタルクウラに異変が起きる。

メタルクウラ

「ん？」

なんだこの違和感は？」

フリーザ

「どうしたんだい、兄さん？」

メタルクウラ

「まさか、ゴールデンに耐えきれずオーバーヒートを起こしたのか？」

パワーが上手く出せないぞ！」

メタルクウラは身体中にヒビが入り爆発が起こす。

メタルクウラ

「ちくしょう！」

今のメタルクウラではゴールデンデンは維持できないのかー!

ちくしょう！」

メタルクウラは爆発を起こす。

孫悟空

「今だベジータ！」

波——！」

ベジータ

「俺に命令するなど言ってるだろ！波——！」

悟空とベジータは威力が落ちたゴールデンデスボールを押し返す。

ベジータ

「ちっ！」

フリーザめ、ギリギリで交したか！

だが、クウラの方は体が耐えきれなかったか！」

フリーザ

「はあはあはあ！」

危なかつたですよ！

クウラはまだ死んでません！」

ベジータ

「だろうな！」

量産型メタルクウラはまだピンピンしてやがるしな！」

孫悟空

「あの、ビッグナントカって星を破壊しない限りクウラは倒せないって事だな！」

フリーザ

「そういう事になりますね！」

突然謎の攻撃が入る。

フリーザ

「な、なんだ、今の攻撃は？」

ん？アナタはブロリーさん？

いや雰囲気違いますね！」

ベジータ

「貴様は別世界のブロリーだな！」

ブロリー（悪魔）

「フハハハハハ！」

カカロット、コイツはお前の息子か？

孫悟空

「は、悟飯ー！」

第79話 『新惑星サダラの戦いブロリー参戦!』

あらすじ

「フリーザ兄弟によるゴールデンデスボールは、

メタルクウラのオーバーヒートによる動作不良により悟空達が勝利する。

しかし、別世界のブロリーが現れたのであった。」

——新惑星サダラ——

ブロリー（悪魔）

「今、目の前で血祭りにしてやる!」

孫悟空

「やめろー!」

ブロリー（悪魔）は悟飯を投げつけ気功波を放つが、悟空の瞬間移動で間一髪悟飯を助ける。

孫悟空

「危なかったな悟飯!

ほら仙豆だ!」

孫悟飯

「お父さんすいません！」

ブロリー（悪魔）

「カカロット今、何をした？」

孫悟空

「瞬間移動というやつだ！」

ブロリー（悪魔）

「なるほど！」

フリーザ

「ブロリーさん！」

ブロリー（悪魔）

「なんだお前は？」

フリーザ

「私の知っているブロリーさんでは無いようですが、

アナタも孫悟空を恨んでいるようですし、どうです？

私と手を……！」

ブロリー（悪魔）

「うるさい！」

フリーザ

「どああ！」

フリーザはブロリーのパンチを喰らい倒れてしまう。

ゴールデン化も解けてしまう。

ベジータ

「ちっ！バケモノめ！」

ブロリー（悪魔）

「オレがバケモノ？」

違うオレはあ……何だ？」

突如、スーパーサイヤ人4状態の悟空（ゼノ）とベジータ（ゼノ）が現れる。

孫悟空（ゼノ）

「見つけたぞブロリー！」

ベジータ（ゼノ）

「今度こそ貴様を元の世界に返す！」

孫悟空

「おめえ達は！」

——ビッグゲテスター——

メタルクウラ・コア

「おのれ、あのサイヤ人め！」

急に現れ次々とメタルクウラを倒した事に飽き足らずビッグゲテスターを随分と壊しやがって！

まあ良い、ビッグゲテスターは後々治すとして、

ゴールデンメタルクウラの製造だ！

だが、今のままではゴールデンデスボールに耐えられんどうする？ん？」

※あのサイヤ人とは別空間から現れたプロロー（悪魔）の事である

ダークマター

「クウラよ！」

強い肉体が欲しいか？

なら、力を貸そう！」

メタルクウラ・コア

「何者だ？」

ダークマター

「我は私はダークマター——！」

お前たち兄弟と同じくサイヤ人に恨みを持つものだ！

ブロリー（悪魔）の洗脳を企んだが完全には支配できず排除しようと思っていた！」

メタルクウラ・コア

「なるほど！」

あのブロリーとかいうサイヤ人退治にこのオレを利用するわけだな！

まあ、良いだろう！

流石に悪の神に逆らうつもりは無いさ！」

ダークマター

「これはカッチン鋼だ！

宇宙一硬い物質だ！

そして！」

メタルクウラ・コア

「な、なんだ？ パワーが溢れてくる！」

ダークマター

「お前自身のパワーを上げた！

今ならゴールデンメタルクウラを2体までなら可能だ！」

——新惑星サダラ——

プロロー（悪魔）

「またカカロットとベジータの2人か？」

孫悟飯

「アナタはタイムパトロールのお父さん！」

孫悟空（ゼノ）

「ああ！」

孫悟空

「悟飯、おめえ知ってるんか？」

孫悟飯

「はい！」

前に色々ありました！」

ベジータ（ゼノ）

「プロローの奴、前よりパワーアップしてやがるな！」

孫悟空（ゼノ）

「ああ！」

プロロー（悪魔）

「はあー！」

ブルリーはスーパーサイヤ人3に変身する。

孫悟空

「やっぱ、おめえすげえーな！」

ベジータ

「コイツはヤバいかもな！」

孫悟飯

「ボクは足手まといにしかならないかも？」

孫悟空

「悟飯、おめえはキャツの所に行つて一緒にサイヤ人を助け出すんだ！」

「ここはオラ達だけで十分だ！」

孫悟飯

「はー！」

「わかりました！」

悟飯はビッグゲテスターの方に向かっていく。

そして悟飯と行き違いで2体メタルクウラが現れる。

メタルクウラ1

「おいそのサイヤ人、さつきは良くもやってくれたな！」

メタルクウラ2

「今度はオレたちがお前達を倒す番だ！」

2体メタルクウラのゴールデンに変身。

ベジータ

「ゴールデンメタルクウラが2体だと？」

メタルクウラ

「コンピュータは日々進化しているのだ！」

プロロー（悪魔）

「さっきの奴と違うな！」

第80話 『ブロリーVSゴールデンメタルクウラ!』

あらすじ

「メタルクウラを倒した悟空達であったが、

別世界のブロリーが現れ、更に新たなメタルクウラが2体現れ、

メタルクウラとブロリーの戦いが始まるうとしていた。」

——新惑星サダラ——

メタルクウラ

「俺たちは他のメタルクウラよりは強いぞ!」

ブロリー（悪魔）

「お前を破壊してやる!」

メタルクウラ

「サイヤ人は皆殺しだ!」

ブロリー（悪魔）

「皆殺し?」

いいアイデアだな!

お前にプレゼントだ！」

ブロリー（悪魔）は気功波を放つ
メタルクウラ

「無駄だ！」

ブロリー（悪魔）

「そのようだな！本気を出してやる！」

はぁー！」

メタルクウラ

「それが貴様の本気か？」

なら、このオレも本気を出さないと！」

2体のメタルクウラ

「ゴールデンデスボール！」

ベジータ

「な、なに？」

またあの技だと！」

孫悟空

「さっきのよりデカイぞ！」

ブロリー（悪魔）

「フハハハハ！」

面白いぞ！波——！」

ブロリー（悪魔）の気功波とゴールデンデスボールの撃ち合いになる

孫悟空（ゼノ）

「なんて気だ！」

ベジータ（ゼノ）

「まっただ！」

メタルクウラ

「やるな貴様！」

だが、オレはまだ本気じゃ無いぞ！

波——！」

——ビッグゲテスター——

ロボット

「はい静かに静かに！」

一同静かに！

はい、これからあなた方をすり潰します！」

サイヤ人一同

「えー?」

ロボット

「出てきた生命エネルギーは全てこのビッグゲテスターのエネルギーとさせていただきます!

感謝するように!」

サダラ王4世

「ふざけんじゃねえ!」

サダラ王はロボットに殴りにかかる

サダラ王4世

「硬いな!」

ロボット

「はい、元気があつて良いですね!

まずはアナタから!」

サダラ王4世

「は、離せ!

この離しやがれ!」

キャツ

「王を離せ！」

この屑鉄が！

この野郎見た目に比べ硬いぞ！」

孫悟飯

「波——！」

ロボットが壊れる

孫悟飯

「大丈夫ですか？」

サダラ王4世

「助かったぞ！」

キャツ

「悟飯さん、ボージャックに勝ったんですか？」

——ビッグゲテスター心臓部——

メタルクウラ・コア

「何だアイツは？」

確かベジータと一緒に居た孫悟空の息子の孫悟飯というサイヤ人だったか！

ブロリー（悪魔）に3分の1を壊されたというのに更に孫悟飯も壊すか？
メタルクウラ部隊よビッグゲテスターを守れ！

孫悟飯を倒しに行け！

——新惑星サダラ——

ブロリー（悪魔）

「押されてるな！

だが、はぁー！」

ブロリー（悪魔）はスーパーサイヤ人4限界突破に変身する

メタルクウラ

「な、なに？

まだそんな変身を？」

フリーザ

「波——！」

瀕死だったフリーザは起き上がり、ブロリー（悪魔）の背後に攻撃を放つ

ブロリー（悪魔）

「なんなんだ？

今のは？」

フリーザ

「波——！」

波——！」

フリーザは効いてないことはわかっていたが技を出しまくる

メタルクウラ

「おのれ、何故押し返せない！

ちくしょう！」

2体のメタルクウラが押されたゴールデンデスポールの餌食になり消滅

フリーザ

「また兄さんがやられた！

悪夢だ！」

ベジータ（ゼノ）

「やはり、スーパーサイヤ人4になれるか！

しかも1人で限界突破してやがる！

おいカカロットとこの世界のカカロットにコレをやる！」

孫悟空

「これはポタラじゃねえか！」

孫悟空（ゼノ）

「恐らくアイツはカンバークラスの強さだ！

オラ達でベジットになって倒すぞ！」

——ビッグゲテスター心臓部——

メタルクウラ・コア

「ゴールデンメタルクウラが2体やられてしまったか！

忌々しいサイヤ人共が！」

孫悟飯

「見つけました！アナタがこのビッグゲテスターの主ですね！」

メタルクウラ・コア

「メタルクウラを倒してここまで来たか！」

——謎の空間——

ダークマター

「おのれープロリーめ！」

またしてもメタルクウラを！

だが、悪のエネルギーを吸収できれば何でもよい！

クウラからサイヤ人の恨みのエネルギーを吸収できた！」

第81話 『2人のゴジータvsブロリー!』 (前編)

あらずじ

「ゴールデンメタルクウラはブロリー(悪魔)に倒され、

今は悟空達とブロリー(悪魔)の戦いが始まろうとしていた。

そんな頃、悟飯はビッグゲテスターの最深部に着いていた。」

——新惑星サダラ——

ベジータ

「またオレはこの野郎と合体しないといけないのか?」

ベジータ(ゼノ)

「オレも合体は嫌いだ!」

だが、今のままでは奴に勝てないのも事実だ!」

2人の孫悟空

「いくぞベジータ!」

2人のベジータ

「オレに命令するな!」

—— 謎の空間 ——

ダークマター

「合体などさせんぞ!」

だがメタルクウラはブロリーに壊されフリーザもダメージを負っている! 仕方ない、私の力が減るがブロリーの洗脳制度をアツプだ!

気に入らないがブロリーを操ってやる!」

—— 新惑星サダラ ——

ブロリー (悪魔)

「さあ! 血祭りにしてやるぞ!

ハハハハハ!

うああああ!」

ダークマター

(ブロリーの洗脳に成功した!)

まずはポタラを壊してやる!

ダークブロリー

「合体などさせん! 波——!」

ブロリーは悟空達の手に持っていたポタラを壊す

孫悟空（ゼノ）

「しまったあ！

ポタラを壊された！

コレじやオレ達もおめえ達も合体できねえ！」

ダークブロリー

「お前たちのポタラは壊させて貰った！

ベジット2人は厄介なんでな！」

孫悟空（ゼノ）

「ん？ブロリー（悪魔）の中から別の気を感じるぞ！」

孫悟空

「ああ！

コイツはダークマターの気だ？

前にオラも操られたからオラにはわかる！」

ダークブロリー

「その通りだ！

我はこのブロリーを操っている！

お前たちに我の計画を壊されたくないからな！

ん?

なんて奴だ!

まだ理性を完全に支配できないか!

まあ良い!

お前達はブロリー(悪魔)に倒されるのだ!

孫悟空(ゼノ)

「ブロリー(悪魔)から別の気が消えた!」

ブロリー(悪魔)

「お前達を血祭りにしたら、今度はダークマターを血祭りにしてやる!

あああああああああ!」

——ビッグゲテスター心臓部——

孫悟飯

「それがアナタの本体ですか?」

メタルクウラ・コア

「そうだ!

お前やあのブロリーにビッグゲテスターを随分と壊されたがオレ自身のパワーはそれほど落ちてはいない!

孫悟飯、覚悟するんだな！」

孫悟飯

「なんてパワーだ！」

ただどお父さん達はブロリー（悪魔）との戦いに手一杯だ！

ボクが殺らなきゃ！はぁー！」

悟飯は悟飯ビーストに変身する

——新惑星サダラ——

孫悟空（ゼノ）

「くそー、ポタラがあれば！」

フリーザ

「あの耳飾りが合体アイテムだったのですか？」

孫悟空

「ああ、そうだ！」

あれが無いと合体できない！

力の大会で第6宇宙のカリフラとケールが合体したケルフラみたいに合体できない

！」

フリーザ

「確かにあの女サイヤ人は強かったですね!
なるほど!

合体しないと奴には勝てない!

この世界のブローラーさんも強かったですしね!

ホーホホホ!

孫悟空(ゼノ)

「合体方法は他にもあるが!」

フリーザ

「なんですって?」

孫悟空

「そうか、フュージョンか!」

ベジータ(ゼノ)

「いや無理だ!

奴がフュージョンが終わるまで待つわけがない!」

ベジータ

「確かにフュージョンには隙が多いからな!」

フリーザ

「なら、私が時間稼ぎをしましょう！」

ベジータ

「なんだと？」

貴様、何を企んでいる？」

フリーザ

「何も企んでませんよ！」

正直、奴には私があなた達5人に加わっても勝てるとは思ってませんよ！

しかし、あなた達が合体すれば勝機があるんでしよう？」

ベジータ（ゼノ）

「そうだ！」

あの合体ポーズが気に入らないが！」

2人の孫悟空

「すまねえな、フリーザ！」

フリーザ

「ブロリーさん、アナタの相手はこの私です！」

はぁー！」

フリーザ

（やはり、パワーがあまり残ってませんか！）

このフリーザ様が孫悟空共の時間稼ぎをすることなるなんて！

この戦いが終わったら必ず孫悟空に復讐してやる！

フリー（悪魔）

「面白い！来い！」

フリー（悪魔）とフリーザが戦いは、やはりフリーザには勝ち目がなかった

しかし、同時にゴジータブルーとゴジータ4が現れる

孫悟空とベジータ

「フュージョン波——！」

フリーザ

「このフリーザ様が体を張ったかいはありません！」

しかし、アナタ達に後を任せる事になったのは気にしませんかね！」

フリー（悪魔）

「また合体したか！」

カカロット、ベジータ！」

第82話 『2人のゴジータvsブロリー！』（後編）

あらずじ

「ポタラを壊され合体ができなくなった悟空達であったが、

フリーザの必死な時間稼ぎによってフュージョンが成功。

2人のゴジータとブロリーの戦いが始まるうとしていた。」

——新惑星サダラ——

ゴジータ

「オレはカカロットでもベジータでもない！」

俺は悟空とベジータが合体したゴジータだ！

そしてこれがゴジータブルーだあー！！」

ゴジータ（ゼノ）

「オレもカカロットでもベジータでもない！」

俺は貴様を倒す者だ！

そしてこれがゴジータ4だあー！！」

ブロリー（悪魔）

「カカロットとベジータが合体したところで雑魚は雑魚だ!」

2人のゴジータ

「それはどうかな? 試してみるか?」

ゴジータ

「オレが先にやる!」

ゴジータ(ゼノ)

「いやオレが先だ!」

ゴジータ

「いやオレがやると言ったらオレがやる!」

ゴジータ(ゼノ)

「おっと、フュージョンには時間制限があるだ!」

こんなくだらん喧嘩で時間を無駄にしている場合ではないな!」

ゴジータ

「ああ、そうだな!」

ゴジータ(ゼノ)

「お互い同じゴジータだ!」

協力して戦おうぜ!」

ゴジータ

「ああ！」

ブロリー（悪魔）

「あああああああああああ！」

——ビッグゲテスター心臓部——

悟飯とクウラの戦いは続いていた

孫悟飯

「やったか？」

メタルクウラ・コア

「無駄だ！」

オレはビッグゲテスターその物だ！

俺を倒すにはビッグゲテスターごと破壊しなければ倒せない！

だが、ビッグゲテスターはこの惑星オアシスにしがみついている！

つまり、この惑星ごと破壊しなければ俺は倒せない！」

孫悟飯

「なんだと？」

いったいどうしたら？

ん、あれは何だ？

波——！」

メタルクウラ・コア

「どこを狙っている？」

マトが外れたな！トドメだー！

ん？な、なぜ体が動けん！

まさか？

おのれ、さっきの攻撃は外れたのではなく、

心臓を狙ったのか？」

孫悟飯

「やっぱり、そうか！

あの奥にある球体の中にクウライやビッグゲテスターの心臓があつたんだな！」

メタルクウラ・コア

「おのれ！

サイヤ人め——！

これが最後の攻撃だ！

波——！」

ビッグゲテスターは心臓部のダメージにより制御を失い爆発を始める

——新惑星サダラ——

2人のゴジータとブロリー（悪魔）の戦いは激しさを増していた

ゴジータ

「ん？」

悟飯の方はクウラを倒したようだな！」

ゴジータ（ゼノ）「

オレたちもさっさと終わらせようぜ！」

ブロリー（悪魔）

「良いだろう！」

2人のゴジータ

「ビックバンかめはめ波——！」

ブロリー（悪魔）

「波——！」

ゴジータのビックバンかめはめ波とブロリー（悪魔）の気功波の撃ち合いが始まる

ブロリー（悪魔）

「フハハハハ！」

流石サイヤ人と褒めてやりたいところだ!

だが、はぁー!

ん、なんだ?」

ゴジータ

「アイツの動きが鈍くなってきたぞ!」

ゴジータ(ゼノ)

「時の界王神様がブロリー(悪魔)を元の時代に返そうと術をかけてるんだ!

こっちの俺、もう技をやめていいぞ!」

ゴジータ

「そうか!」

2人のゴジータはビックバンかめはめ波をやめた

ブロリー(悪魔)

「なんなんだ、これは?」

ブロリー(悪魔)は消えていく

ゴジータ(ゼノ)

「終わったか…ん?」

時の界王神

「ブロリー（悪魔）は無事に元の世界に転送できたわ！」

「これでミツシヨン完了ね！」

ゴジータ（ゼノ）

「わかった！時の界王神様！」

「こっちの俺、オレたちの任務は終わりだ！」

ゴジータ

「そうか！」

「で、フリーザお前は どうするつもりだ？」

「まだ戦いを続けるか？」

フリーザ

「いいえ戦いは辞めます！この星は諦めます！」

「ですが、孫悟空への復讐は辞めるつもりはありませんよ！」

「ん、これは？」

「フリーザは何かを拾い、星を立ち去った」

孫悟空（ゼノ）

「オラ達は帰る！」

「元気でな、こっちのオラ！」

孫悟空

「ああ、そっちのオラも元気でな！」

悟空（ゼノ）とベジータ（ゼノ）は帰っていく

界王神

「悟空さん、ベジータさん！」

孫悟空

「界王神様じゃねえーか！」

第83話 『惑星オアシスと新惑星サダラ!』

あらすじ

「時の界王神の力によってプロリー（悪魔）は元の時代に転送され、平和が訪れた新惑星サダラである。そこに界王神様が現れたのだった。」

——新惑星サダラ——

ベジータ

「界王神が何しに来たんだ!」

老界王神

「惑星サダラのサイヤ人の生き残りが

惑星オアシスを手にしたと聞いてこの星に来たんだ!」

界王神

「悟空さん、ベジータさん、よく聞いてください!」

「この惑星オアシスは、本来我々界王神の許可が無く

勝手に住むことを禁じられてるんです!」

孫悟空

「へえ?」

サダラ王4世

「そうだったのですか?」

ベジータ

「なるほど、それで界王の奴があの時驚いていたのか!」

孫悟空

「じゃあコイツらはどうなるんだ?」

老界王神

「神の禁じてを破った種族は破壊神に裁かれることになっている!」

「だがあいにくビルス様は今寝ておられこの事実は知らない!」

ベジータ

「じゃあ今回、神の禁じてを破ったのはサイヤ人だ!」

「オレやカカロットも破壊の対象って事か?」

界王神「いえ、悟空さんたちは惑星サダラのサイヤ人とは

離れた存在ですので対象には含まれません!」

対象に含まれるのは、彼ら惑星サダラのサイヤ人だけです!

しかし、今回は免除とします！」
ベジータ

「どういう事だ？」

老界王神

「この星は元々サイヤ人用に作られた新しい故郷となる惑星だった！」

しかし、こやつ（界王神）の手違いで惑星サダラのサイヤ人達に

惑星オアシスの存在が知らされるのが無く数百年の時間が経過した！

そもそも惑星オアシスとは星を失った種族の為に造られる第二の故郷となる惑星だ

！

だが、宇宙海賊の侵略が絶えずそこで神の許可無く惑星オアシスに入った者は破壊神によって種族ごと破壊されるという宇宙のルールができた！」

界王神

「惑星オアシスは他にもいくつかあり、

例えばナメック星人が今暮らしている惑星も惑星オアシスだったので！

ナメック星人はポルンガでしたがちゃんと私に許可を得てから移住しました！」

しかし、サイヤ人用の惑星オアシスは、今回の件を知るまで誰も住んでないと思って

ました！

ですが、他の種族ではなくサイヤ人が住んでいて安心しました!」

ベジータ

「つまり、こういうことか？」

サイヤ人用に造った惑星オアシスはサイヤ人に伝わることなく、
界王神の知らないうちにいつの間にかサイヤ人が住み着いたという事か？」

老界王神

「だいたいそんな感じじゃ！」

だが、もしも別の種族の為に造った惑星オアシスに例え
知らずとはいえサイヤ人が住んでいたら神の禁じてを破った

種族として破壊神に破壊されていただろう!」

界王神

「そもそも惑星オアシスの宇宙システムは、

過去にダークマターが様々な種族の惑星を

破壊して故郷を失った種族の為に

初代界王神様が作った宇宙制度だと聞いています!」

孫悟空

「オラには難しい事わからないぞ!」

サダラ王4世

「では、我々は今まで通りこの星に住んで良いと？」

界王神

「はい、大丈夫です！」

もともと私がしつかりとあなた達に惑星オアシスの事を伝えていれば
こんなことにならなかつたのです！」

老界王神

「ビルス様が寝てて良かったわい！」

界王神よこれからは気をつけるんじやな！」

界王神

「はい、ご先祖様！」

孫悟空

「なんだかよくわからねえーが、

この星にずっと住めるらしいな！

良かったなおめえ達！」

サダラ王4世

「はい！」

界王神

「私たちはそろそろ帰ります!カイカイ!」

界王神達は界王神界に帰っていく

孫悟空

「宇宙も色々あるんだな!」

サダラ王4世

「ベジータ4世、孫悟空、孫悟飯、あなた達に助けられました!」

感謝してます!

本当にありがとうございます!」

——謎の空間——

ダークマター

「あと少して我は復活できる!」

魔人ブウ(悪)とスーパージャネンバの復活だ!」

魔人ブウ(悪)

「オレは死んだはずだ!」

ダークマター

「そう、お前はベジータがデブのブウを切り離したから死んだのだ!」

だが、お前に復讐のチャンスをやろうと思つてな！」

魔人ブウ（悪）

「誰だか知らんが、オレを復活させた事に感謝するぞ！」

ジャネンバ

「イギャギャギャギャギャギャギャー！」

第7章 『惑星ダークの戦い編』

第84話 『遂に動き出すダークマター!』

あらすじ

「悟空達の新惑星サダラの戦いが終わった頃、

ダークマターの復活が近づき

新たな極悪人を復活させたのである。」

—— 謎の空間 ——

トランクス（ゼノ）

「あれ？」

オレはミラと戦っていたはず!

ここはどこだ?

そういえば前にも来たことがあったような?

トワ、ミラどこだ?」

トランクス（ゼノ）はスーパーサイヤ人3状態です

ダークマター

「お前はタイムパトロールの！」

トランクス（ゼノ）

「だ、誰だ？」

どこにいる？」

ダークマター

「我はお前の目の前に居る！」

トランクス（ゼノ）の前には4メートルの黒い球体が存在していた

トランクス（ゼノ）

「な、なに？うあああ！」

トランクス（ゼノ）はその場で倒れてしまう

トワ

「流石はダークマター様ね！」

ダークマター

「お前がトランクス（ゼノ）を連れて来たのか？」

トワ

「だって、コイツしつこいんだもん！」

だからダークマター様に倒してもらおうと連れて来たの！」

ダークマター

「まさか、暗黒魔界の住民に我が利用される日が来るとはな!

まあ良い!

我もお前たちを散々利用してたからな!

だが、今となつてはお前たちは不要だ!

我は暗黒魔界に変わる暗黒世界を作る!」

トワ

「いったいそれはどういう事ですか?」

ダークマター

「そのままの意味だ!

我は暗黒魔界の創造主だ!

創造主が世界を捨てようが壊そうが我の自由だ!

ハハハハハ!

トワ

「そ、そんな!」

ミラ

「こんな奴は倒せば良い!

はぁー！」

ミラはダークマターに攻撃する

トワ

「辞めるのよミラ！

ダークマター様には勝て…」

トワとミラはダークマターに倒される

ダークマター

「攻めてもの情けだ！

お前たちは暗黒魔界へ返してやる！

だが、近いうちに暗黒魔界も過去の物になるだろう！

暗黒魔界は私の黒歴史のその物だ！

私は界王神も破壊神も全王も存在しない世界を暗黒世界を創造する！」

トランクス（ゼノ）

「オレはいつたい？」

ダークマター

「ん？流石はサイヤ人だな！

死んでなかったか！」

トランクス（ゼノ）

「どこから声がするんだ？」

まさか、この黒い球体が話しているのか？」

ダークマター

「その通りだ！」

我はダークマター！

神無き暗黒世界を創造するものなり！」

トランクス（ゼノ）

「なんだって？」

——フリーザの宇宙船——

キコノ

「フリーザ様、もう時期クウラ様が回復します！」

フリーザ

「そうですか？」

それは良かった！」

新型再生装置から第1形態の姿でクウラが現れる

クウラ

「オレは生きてるのか？」

フリーザ

「ええ、ビッグゲテスターの爆発の爆風で

たまたま僕の所に兄さんの脳みそが飛んできてね！」

クウラ

「やはり、お前は甘いな！」

俺だったら脳みそを拾わなかったな！

だが、その甘さのおかげで俺は復活した！

感謝するぞ！」

フリーザ

「兄さんの第1形態の姿を初めて見ましたよ！」

クウラ

「だろうな！」

この姿を見たのはオヤジとおふくろぐらいだった！」

フリーザ

「ママですか？」

クウラ

「おふくろはオヤジより強くて凄かった!

まあ、おふくろは元界王神だったらしいがな!」

フリーザ

「元界王神?

創造神の事ですか?

それは初耳ですね!」

クウラ

「今の話はオヤジから聞いた話だ!

おふくろは魔人ブウに大怪我を負わされ、

界王神を辞め宇宙一の存在を求めていたそうだ!

おふくろから直接聞いたわけではない!」

フリーザ

「最近ママを見ないね!」

クウラ

「そうだな!

もう数十年もおふくろを見ていない!

はあー!」

クウラは第4形態に変身する
クウラ

「メタルクウラも良かったが、やっぱり、この姿が落ち着くな！」

——サタンの家付近——

魔人ブウ（悪）

「見つけたぞ、弱いオレ！」

魔人ブウ（善）

「お前は悪いオレ！」

「なんでお前ここに居る？」

魔人ブウ（悪）

「オレは生き返ったんだ！」

魔人ブウ（善）

「お前、ブウに何の用？」

魔人ブウ（悪）

「再び、オレと1つになれ？」

魔人ブウ（善）

「イヤだもん！」

「ブウ悪いことしないもん！」

第85話 『魔人ブウ（善） VS 魔人ブウ（悪）！』

あらすじ

「ダークマター復活の復活が近づいていること、

魔人ブウ（善）と魔人ブウ（悪）の戦いが始まろうとした。

そして、悟空は？」

——地球の悟空の畑——

孫悟空

「今日もひと仕事するかあ！」

回想シーン

チチ

「悟空さ、最近ずっと戦ってばかりで全然仕事してねえーだ！

しばらく戦いも修行も禁止だ！

しつかりと畑仕事するだ！」

孫悟空

「ちよつと待ってくれよ！」

もしかしたら、もうすぐ悪いヤツが現れて

地球や宇宙が大変なことになるかもしれないから

ビルス様の星に修行に行かせてくれー!」

チチ

「ダメだ!」

孫悟空

「そんなこと言わずに!

ちよつとだけ、ちよつとだけ!」

チチ

「ダメなもんはダメだ!

悟空さ、瞬間移動使ったら、

今後飯抜きだ!」

孫悟空

「そりゃねーよ!」

回想シーン終わる

孫悟空

「さっさと終わらせるかあ！」

2 時間経ち畑仕事終了

孫悟空

「やっつと、終わった！」

これだけ大きい大根があるとまた市場のおつちやんが喜ぶぞ！…ん？

あつちに大きな気を感じるぞ！行ってみるか！」

悟空は瞬間移動の準備をするが、チチの言葉を思い出しやめるのだった

孫悟空

「いや今、オラは戦いは禁止されてるんだった！」

もし約束破ったら、チチにご飯食わしてくれなくなっちゃう！」

—— 地球のどこか ——

魔人ブウ（善）

「ここなら誰も居ない！」

思いつきり戦えるぞ！」

魔人ブウ（善）と魔人ブウ（悪）の戦いが始まり、しばらくすると魔人ブウ（悪）は

お菓子になれ光線を放つ

魔人ブウ（悪）

「チョココになれ！」

魔人ブウ（善）はチョココになるが、元の姿になる

魔人ブウ（善）

「2度も同じ技に掛かり、食べられるもんかー！」

ベロベロベーだ！」

魔人ブウ（悪）

「ムカーー！」

少しはやるようだな！

だが、パワーはこのオレの方が強いぞ！」

魔人ブウ（善）

「サタンに本気出しちゃダメって約束した！

でもお前危険だから、ブウ本気出す！」

えいー！」

魔人ブウ（善）は魔人ブウ（悪）にたいあたりする

魔人ブウ（悪）

「今のは少し効いたぞ！」

だが、それではオレには勝てない！」

魔人ブウ（善）

「この体だと動きにくいな！

ブウー！」

魔人ブウ（善）はシエイプアップする

魔人ブウ（悪）

「なんだその姿は？

戦闘向きの姿に変わり、パワーも上がったか？

ますます、お前を我が身に取りみたくなつたぞ！」

魔人ブウ（善）

「逆にブウがお前を取り込むもん！」

魔人ブウ（善）と魔人ブウ（悪）の戦いが始まる

魔人ブウ（善）が不利かと思われていたが魔人ブウ（悪）を押ししていた

魔人ブウ（悪）

「馬鹿な！

俺が弱いオレに負けてるだと？」

魔人ブウ（善）

「弱いのはお前の方じゃないか？」

最後に戦ったお前じゃないオレ（魔人ブウ（純粹））は強かったぞ！
お前はオレより弱い！」

魔人ブウ（悪）

「オレはオレより強い奴を許せない！」

それがオレ自身であつてもだ！

こうなれば地球をぶつ壊してやる！」

魔人ブウ（悪）が超巨大な光弾を放とうとした時、謎の攻撃が入る

魔人ブウ（悪）

「誰だ？」

今邪魔したのは？

ん？お前は？」

ベジータ

「感じた覚えの気だと思つて来てみれば、

やっぱり魔人ブウだったか？」

魔人ブウ（悪）

「早くもお前に復讐できるとはな！」

ベジータ

「オレに復讐だと？」

お前を倒したのはカカロットだろうが！」

魔人ブウ（悪）

「カカロット？孫悟空の事か！

孫悟空が倒したのは、恐らくオレじゃないオレの事じゃないか？

オレはお前にそのデブを切り離しオレは死んだ！」

ベジータ

「そうか！

お前は色んな戦士を吸収した魔人ブウだったな！

お前にはあの時、散々やられたからな！

だが、今のオレはあの時とは違うぞ！

今度こそ粉々にしてやる！」

魔人ブウ（悪）

「良いだろう！

なら、かかってこい！」

魔人ブウ（悪）は突然その場から姿を消した

魔人ブウ（善）

「ん？」

「アイツの居なくなっちゃったぞ？」

ベジータ

「魔人ブウの復活はダークマターが絡んでるな！」

第86話 『ダークマターとは?』

あらすじ

「ダークマターはジャンペンバと魔人ブウ（悪）を復活させ、

新たな悪のエネルギーと負のエネルギーを集め

自身のパワーアップを企んでいた。」

—— 謎の空間 ——

魔人ブウ（悪）

「何故戻した？」

ベジータと戦わせろ！

ダークマター何処だ？

出てこい！」

ダークマター

「我はずっとここに居る！」

魔人ブウ（悪）

「なんだと？」

「ジャネンバお前がダークマターか？」

「ジャネンバ」

「ギャア？」

「魔人ブウ（悪）」

「ちっ！」

「こいつに知能は無かったか！」

「ダークマター」

「我は目の前に居る！」

「ここだ？」

「魔人ブウ（悪）」

「どこにも居ないぞ！」

「魔人ブウ（悪）」とジャネンバの目の前には、4メートル以上の巨大な黒い球体があるだけである

「ダークマター」

「我、ダークマターは暗黒物質！」

「我には肉体は存在しない！」

「言うならこの黒い球体こそが我の肉体だ！」

そして、この場所は悪の力が最大限に発揮できる！

そう、惑星ダークだ！」

魔人ブウ（悪）

「この球体がダークマターの本体か？」

オレはベジータと戦いたい！

戦わせろ！」

ダークマター

「はっきりと言おう！」

今のお前ではベジータや孫悟空には勝てない！」

魔人ブウ（悪）

「さっきベジータに会ったが、確かに気は前より高かった！

だが、まだオレの方が強いぞ！」

ダークマター

「確かに表面に出ている気ならお前の方が強いだろう！

だが、内側にあるつまり神の気を使えば、

お前など簡単に倒すことができる！

信じられんか？

なら、お前が本当にベジータより強いかテストしてやる！」

魔人ブウ（悪）

「なんだと？」

ダークマター（悪）

「もう時期、この惑星ダークに宇宙の帝王と恐れられた兄弟がやって来る！」

「それ以外は、今のベジータに匹敵する力を持つ！」

魔人ブウ（悪）

「つまり、宇宙の帝王を倒せばベジータと戦っていいんだな？」

ダークマター

「そうだ！」

—— 惑星ダーク付近 ——

宇宙船でフリーザとクウラは移動していた

フリーザ

「兄さん、こんな所にホントにボクたちを利用した

黒幕ダークマターが居るのかい？」

クウラ

「さあな！」

だが、一族や親父から惑星ダークは絶対に近づくなと言われていた！
怪しいとは思わないか？」

フリーザ

「確かにそれは怪しいですね！」

フリーザとクウラは宇宙船が出てくる

クウラ

「間違いないな！」

近くで見るとこの星は禍々しい感じな色だな！」

フリーザ

「どうだっといういよ！」

さっさとこの星を破壊しましょ！」

どんな綺麗な花火になるでしょうね？」

楽しみですね！ホーホホホ！」

クウラ

「ダークマターよ、俺達を散々利用した事にあの世で後悔するだな！」

フリーザとクウラ

「波——！」

フリーザとクウラがデスボールを使おうとした時、攻撃が入る

フリーザ

「なんだ？」

クウラ

「貴様、何者だ？」

ダークマターの手下か？」

魔人ブウ（悪）

「ダークマターの手下？ 違うな！

オレは魔人ブウだ！

貴様らこそ何者だ？」

クウラ

「オレはクウラ！」

フリーザ

「私はフリーザ！」

クウラ

「そうか、貴様が親父が絶対に手を出すなど言っていた魔人か！」

フリーザ

「でもアナタは、孫悟空さんに殺られたんじゃ無かったですか?」

魔人ブウ（悪）

「それはオレじゃないオレだ!」

フリーザ

「自分じゃない自分?」

「どういふことですか?」

魔人ブウ（悪）

「お前に話してもわからん!」

フリーザ

「そうですか!」

クウラ

「魔人ブウとはオレが戦う!」

「最近まで機械の体で動いていたから生身の体に慣れるためのリハビリだ!」

フリーザ

「魔人ブウとはボクが戦いたかったですよ!」

「でも、仕方ないですね!」

魔人ブウ（悪）

「1人で良いのか?」

クウラ

「はぁー!」

クウラは最終形態に変身する

魔人ブウ(悪)

「お前、変身型宇宙人か?

少しは楽しめそうだ!」

——あの世の閻魔界——

閻魔大王

「天国行き、地獄行き、天国行き…」

悪の閻魔大王

「おい閻魔大王、また地獄から悪人が1人復活したみたいだ!

ダークマターの力が強すぎて対処できない!」

閻魔大王

「いったい誰が復活したんじや?」

死神様

「セルだ?」

第87話 『フリーザ兄弟VS魔人ブウ! (前編)』

あらすじ

「惑星ダークに着いたフリーザ兄弟の前に魔人ブウが現れる。

その頃、あの世の地獄ではまた極悪人が復活していたのであった。」

——惑星ダーク付近——

クウラと魔人ブウ(悪)の戦いが始まり、最初は魔人ブウ(悪)が圧倒していたが、持ち直し互角の戦いを繰り広げる

魔人ブウ(悪)

「オレと互角か？」

クウラ

「互角だと？」

オレはまだ本気じゃないぞ！」

魔人ブウ(悪)

「なんだと？」

クウラ

「はぁー!」

クウラはゴルドンクウラに変身する

クウラ

「この姿を見るが良い!」

あえて言うなら、ゴルドンクウラ!

さあ、始めようか!」

ゴルドンクウラになったクウラは魔人ブウ(悪)を圧倒していた

クウラ

「貴様はその再生能力が自慢のようだが、

それではオレには勝てん!」

魔人ブウ(悪)

「ゴルドンになったぐらいで調子に乗りやがって!」

魔人ブウ(悪)

(だがどうする?)

このままでは勝てないぞ!

今のベジータはクウラみたいに強いのか? ん?

確かアイツは弟のフリーザだったよな? そうだ!

そうだ、奴を取り込めばオレはもっと強くなる！

やはり、宇宙最強はこのオレだ！

クウラ

「そろそろ終わりにしようか？」

魔人ブウ（悪）

「終わるのは貴様の方だ！」

フリーザ

「な、なんだ？これは？」

魔人ブウ（悪）はクウラとの戦いで切れた体の破片を使いフリーザを吸収する

魔人ブウ（悪）はゲーム版「ドラゴンボールZ2」の姿になる

魔人ブウ（悪）

「ハハハハハ！」

強い戦士を手に入れたぞ！」

クウラ

「貴様、何をした？」

魔人ブウ（悪）

「お前の弟を吸収したのさ！」

クウラ

「なんだと?」

魔人ブウ(悪)

「死になさい!」

クウラ

「今の技は?」

魔人ブウ(悪)

「そうだ?」

お前や弟が使っているデスビームという技だ!

こんな事もできるぞ!

今度は死ぬかもね?」

クウラ

「これは弟の技!

そうか、貴様は吸収した相手の能力をそのまま使えるようだな!

まさに魔人か!」

魔人ブウ(悪)

「仲間の技で死ぬんだ!喜べ!」

クウラ

「どうせ宇宙一になるなら、

弟より強いオレを吸収すれば良かったのに貴様は馬鹿な魔人だな！」

魔人ブウ（悪）

「敵が居ないのに何故頂点になる必要がある？」

さて、第2ラウンドを始めるか！」

クウラと魔人ブウ（悪）の第2ラウンドが始まり、戦いは互角だった

魔人ブウ（悪）

「何故だ？」

何故、互角なんだ？

オレはお前に匹敵する弟を吸収したんだぞ？

何故ゴールデンに慣れない？」

—— 魔人ブウ（悪）の体の中 ——

フリーザ

「私がアナタに力を全部与えるわけじゃないでしょう！」

フリーザは、魔人ブウ編の悟飯達のように拘束状態になっています

魔人ブウ（悪）

「貴様、何故起きている?」

吸収された者は、吸収されている限り永遠の眠りに着くはずだ?」

フリーザ

「どうやら、ギリギリセーフだったようですね!」

魔人ブウに吸収能力がある事は知っていました!

しかし、あんな風に吸収するとは思いませんでしたがね!

バリアが間に合わなければアナタの言う通り永遠の眠りに

着いていたかもしれませんね?

さあ、私をここから出しなさい?」

魔人ブウ (悪)

「せっかく吸収したんだ!」

出すわけなからう!

今お前は身動きが取れないはずだ!

動けないサンドバッグを気絶させるだけでいい!」

フリーザ

「ボクはあまり舐めないほうが良い!」

魔人ブウ (悪)

「おのれ！」

——惑星ダーク付近——

フリーザ

「どうやら、出れたようですね！」

魔人ブウ（悪）

「クソツタレー！」

クウラ

「残念だったな魔人ブウよ！」

フリーザ

「今度はこのボクが魔人ブウと戦います！」

クウラ

「良いだろう！」

フリーザ

「はあ——！」

フリーザはゴールデンフリーザに変身する

フリーザ

「魔人ブウ覚悟するんですね！」

波——！」

魔人ブウ（悪）に向けたフリーザのデスビームに謎の攻撃が入る

フリーザ

「なんだ？」

魔人ブウ（悪）

「貴様は？」

セル

「久しぶりだな？」

フリーザとクウラ！

お前が噂に聞く魔人ブウか？

21号に似ているな！」

第88話 『フリーザ兄弟VS魔人ブウ! (中編)』

あらすじ

「フリーザ吸収に失敗した魔人ブウ（悪）、

再び始まるフリーザ兄弟と魔人ブウ（悪）との戦いの中、

セルが現れたのであった。」

——惑星ダーク付近——

クウラ

「セル貴様も復活していたとはな!」

セル

「半分正解だが半分違うな!」

フリーザ

「なに?」

セル

「お前たちは私がゴールデンボールで殺られたと思っているな?

だが私は耐えきったぞ!」

フリーザ&クウラ

「なんだと?」

セル

「私が殺られたのは別の理由だ!

私は孫親子にまた負けたのだ!」

魔人ブウ (悪)

(あのセルとか言う奴、かなりの戦闘力を持っているな!

アイツは私に吸収能力がある事を知らないはずだ!

幸いアイツは油断している!)

セル

「この戦い、私も混ぜて貰おう!」

魔人ブウ (悪)

「オレは構わんぞ!

だが、お前が戦うまでもない!」

セル

「どういう意味だ!

な、なんだ?」

これは？」

魔人ブウ（悪）はセルを吸収する

魔人ブウ（悪）はゲーム版「ドラゴンボールZ2」の姿になる

魔人ブウ（悪）

「ハハハハハ！形成逆転だな！

今度こそ強い戦士を手に入れたぞ！」

フリーザ

「あんな簡単に吸収されるとは！

無様な！」

クウラ

「お前もさつき吸収されたな！」

フリーザ

「あれは吸収されたとは言わん！

現に奴はゴールデンにはなれなかったじゃないか！」

魔人ブウ（悪）

「こんな時に兄弟喧嘩か？」

まあ、これが最後の喧嘩になるだろう！

この力、素晴らしい!はぁー!」

魔人ブウ(悪)はセルの力を使いゴールデン化する

魔人ブウ(悪)

「このセルという体は、

フリーザお前や孫悟空とベジータの力も併せ持っているようだな!

ファイナルかめはめ波ー!」

——地球の悟飯の家——

孫悟飯

「この気は、魔人ブウ?」

それにセルやフリーザ達まで?

どうなってるんだ!

とにかくお父さんの所に!」

悟飯は道着に着替え悟空の元に向かう

——地球のどこか——

ベジータ

「おいブウ?」

魔人ブウ(善)

「なんだ？」

魔人ブウ（善）はシエイプアップから元の姿に戻っていた
ベジータ

「あの魔人ブウ（悪）は何故お前の前に現れた？」

魔人ブウ（善）

「アイツ、ブウと一つになろうとしてた！」

ベジータ

「なるほど、そういう事か！」

確かあの魔人ブウ（悪）からお前を引きちぎりチビのブウになった！

取り返しに来たというわけか！

いや、待てよ？

なら、現れるのは奴ではなくチビのブウのはずだ？

まだ魔人ブウには未知数な部分があるという訳か！」

——地球の悟空の家——

孫悟空

「なあ、チチ頼むよ！」

ちよつとだけ、ちよつとだけ！」

チチ

「何度言ってもダメなものはダメだ！」

悟飯が現れる

孫悟飯

「お父さん、お母さん！」

孫悟空

「おー悟飯！」

チチ

「あら悟飯ちゃん！」

ん？なんで道着なんかに着てるんだ？」

孫悟飯

「運動ですよ！」

それよりお父さんに戦いの許可をお願いします！」

チチ

「いきなりなんだべ？」

孫悟飯

「今、宇宙いや地球は大変な事が起きようとしてるんです！」

その為にはお父さんの力が必要になるんです！」
チチ

「宇宙や地球がどうなろうとオラの知った事ねえべ！」

孫悟飯

「そんなあ！」

チチ

「ダメなものはダメだ！」

ビーデル

「そんなこと言わないで私からもお願いします！」

お義母さん！」

孫悟飯

「あれ？」

ビーデルさん何でここに？」

ビーデル

「悟飯くんこそ！」

「私はお義母さんに用事で！」

チチ

「ビーデルさんがそういうなら仕方ねえべ！」

わかっただ、今回はビーデルさんに免じて悟空さの戦闘を許可するだ！
ただし、宇宙や地球を救ったら今度こそちゃんと働いて貰うだ！」

孫悟空

「ああ、わかった！」

悟空は道着に着替える

孫悟空

「悟飯、ベジータの所に向かうぞ！」

オラに捕まれ！」

悟空は瞬間移動する

——惑星ダーク付近——

フリーザと魔人ブウ（悪）の戦いが続いていた

しかし、魔人ブウ（悪）は追い込まれていた

魔人ブウ（悪）

「何故だ？」

「ゴルドンなのに何故勝てない？」

フリーザ

「魔人と言つても大した事ありませんね！
まだセルの方が強かったですよ！」

第89話『フリーザ兄弟 v s 魔人ブウ! (後編)』

あらすじ

「フリーザ兄弟との戦いの中、

魔人ブウ（悪）は戦いに乱入したセルを吸収するが、

魔人ブウ（悪）はフリーザとの戦いのに苦戦していた。」

——地球のどこか——

孫悟空

「よーベジータ！」

ベジータ

「やっぱり来たか！」

孫悟飯

「ブウさんも居たんですね！」

孫悟空

「なんで悪の魔人ブウが復活してるんだ？」

ベジータ

「それはオレが聞かたいぐらいだぜ！」

——惑星ダーク付近——

魔人ブウ（悪）

「オレが大した事ないだど？」

調子に乗りやがって！

俺は宇宙最強の魔人ブウだ！」

フリーザ

「寝言は寝て言うんですね！」

魔人ブウ（悪）

「おのれ——！」

——魔人ブウ（悪）の体の中——

セル

「私がわざと吸収された事にまだ気づかないとはな！」

魔人ブウ（悪）

「フリーザに続き貴様もか！」

貴様もオレに吸収能力がある事を知っていたようだな！」

セル

「いや、知らんな!」

魔人ブウ(悪)

「なんだと?」

セル

「前にお前と似た戦士と戦った事があつてな!

その時、私はお菓子にされ吸収された!

少し吸収のやり方は違つたが私に2度は同じ手を喰わん!

私はここから出させてもらうぞ!

——惑星ダーク——

セル

「どうやら、出れたようだな!」

フリーザ

「やはり、アナタも完全に吸収されなかつたみたいですね!」

魔人ブウ(悪)

「最近はどうも吸収に失敗する!

貴様らもあのベジットも!ん?」

——魔人ブウ(悪)の体の中——

魔人ブウ（悪）

「お前はジャネンバ？」

「どうやってここに入ったか知らんがちようど良い！オレの一部になれ！
ん？どこに行く？」

ジャネンバはとある場所に向かう

魔人ブウ（悪）

「あ、それは？」

「やめろ、それに迂闊に触るな！」

ジャネンバ

「イギヤギヤギヤギヤー！」

魔人ブウ（悪）

「頼む、それを切り離したらまたオレがオレじゃなくなる！」

「やめろー！」

ジャネンバは魔人ブウ（悪）の中にあつたデブのブウを切り離す

——地球のどこか——

魔人ブウ（善）

「ん？」

遠いところでブウと同じブウを感じる!」

ベジータ

「な、なんだと?」

孫悟空

「そうだよ!」

オラもこの気に覚えがあるぞ!」

ベジータ

「どうなつてやがる?」

あの魔人ブウ(悪)の中にはお前と同じ魔人ブウ(善)が居たのか?」

——惑星ダーク付近——

フリーザ

「なんだ?」

クウラ

「何が起きているんだ?」

セル

「奴の中から別の気を感じる!」

魔人ブウ(悪)

「ギャー……！」

魔人ブウ（悪）は苦しんでいた

—— 惑星ダーク ——

ダークマター

「やはり、悪ブウの中にはデブブウが居たか！

そもそもおかしいと思っていたのだ！

我が悪の閻魔を操りあの世の情報を探っていた時、

閻魔はおかしな発言をしていた！」

アナザー第2話の回想シーンの出来事（エイジ774の閻魔界）

ダークマター

「悪の閻魔が閻魔に復活させてはいけない悪人は誰と聞いた時に魔人ブウと言った！

だが、次にこんな発言をする！

魔人ブウは地獄に落ちた時にこれまでの行いに反省して魂が浄化され別の生命体に

転生しようとしているとの事だ！

閻魔の発言には矛盾があった！

復活させてはいけない悪人の名前を聞いたのに、

なぜ転生する悪人の名前を出したのか？

その時、ある仮説ができ、地獄に落ちた魔人ブウは1人ではなく2人だったという事だ!

整理しよう、魔人ブウは確かに孫悟空に倒された!

だが、それはチビブウであり、チビブウが死ぬより前に別の魔人ブウが死んでいた事が後からわかった!

それが様々な戦士を吸収しまくった悪ブウである!

悪ブウはベジータが体内にあつたデブブウを切り離れた時に悪ブウは死に、

チビブウに姿を変えた!

つまり、魔人ブウはチビブウと悪ブウの2人がそれぞれ死んだ事になる!

チビブウは魂が浄化され別の生命体に転生したが、

悪ブウは魂が浄化されずフリーザのように地獄に残っていた!

この事から閻魔大王のあの発言にも納得がいく!

その後、悪の閻魔の洗脳を続けるも死神様に気づかれてしまったが、

色んな悪人から情報を聞き出し、遂に地獄に居る悪ブウの居場所を突き止めることに成功した!」

第90話『魔人ブウ（純粹）の脅威！』

あらすじ

「ジャネンバは魔人ブウ（悪）は体内にいた

デブのブウを切り離した事で変身を始め

魔人ブウ（純粹）になろうとしていた。」

——惑星ダーク——

ダークマター

「面白いことに悪ブウの体内には何故かデブブウが入っている！

つまり、デブブウを切り離せばまた悪ブウは死に、チビブウに変身するという事だ！

それを繰り返せば、魔人ブウを量産できるといふ事がわかった！

これほど魔人ブウの体の仕組みが面白いとは思わなかったぞ！」

——惑星ダーク付近——

フリーザ

「なんか姿が変わっているな！」

クウラ

「だんだんごつい姿になってるな！」

セル

「いや、まだ変身の途中だ！」

魔人ブウ（悪）は姿が変わり魔人ブウ（純粹）へと変わる

魔人ブウ（純粹）

「はあはあはあ！」

フリーザ

「子供になったみたいだね、兄さん！」

クウラ

「ああ！」

セル

「だが、さっきの奴と違いより厄介な感じがするな！」

フリーザ

「へえ、あんなのにビビってるのかい？」

セル

「いや違うな！」

パワーだけなら私やお前たち兄弟の方が魔人ブウより上だ！

だが？」

魔人ブウ（純粹）

「ギャー——！」

ウイー——！」

魔人ブウ（純粹）はフリーザ、クウラ、セルと戦いを始める

セルの言う通り魔人ブウ（純粹）のパワー大した事がなかった
しかし、魔人ブウ（純粹）はフリーザ達を圧倒していた

フリーザ

「馬鹿な！」

クウラ

「さっきのやつの方が可愛かったぐらいだ！」

セル

「パワーだけなら、私達3人の方が上だ！」

だが、戦いのセンスだけで私達の差をひっくり返しやがる！」

フリーザ

「兄さん！」

クウラ

「ああ、あの技しか無さそうだな！」

フリーザとクウラ

「ゴールデンデスボール！」

魔人ブウ（純粹）

「ギャー！」

フリーザ兄弟はゴールデンデスボールを魔人ブウ（純粹）に放つ

魔人ブウ（純粹）

「ギャー！」

魔人ブウ（純粹）はゴールデンデスボールを押し返し始める

フリーザ

「な、なに？」

クウラ

「フリーザ、もっと力を出せ！」

フリーザ

「もう限界以上出してるよ！」

クウラ

「押されるー！」

セル

「あのチビの魔人ブウ、パワーはそれほど無いが、恐ろしいポテンシャルを秘めている！」

これは魔人ブウ（純粹）の勝ちだな！」

フリーザとクウラ

「馬鹿な？」

フリーザ

「ゴールデンデスボールが負けた！」

クウラ

「これでは一族の伝説と変わらんじゃないか？」

フリーザ

「ボクたちがもつと強ければ、ゴールデンデスボールを超える
ブラックデスボールを使えただろうに！」

クウラ

「ああ！」

もつと鍛えて俺たちがゴールデンからブラックに変身できるようにならないといけないがな！」

フリーザ

「やはり、パパの言ったとおり、

魔人ブウには手を出すべきじゃなかった!」

フリーザとクウラとセル

「しまった!」

魔人ブウ（純粹）

「ウイー!」

魔人ブウ（純粹）はフリーザ兄弟とセルを一瞬で倒していく

魔人ブウ（純粹）

「ホーホホー!ホーホホー!」

——惑星ダーク——

魔人ブウ（悪）

「さつきはよくもやってくれたな!」

ダークマター

「試してみたかったのだ!」

それより、今もお前の体内にはデブのブウはいるのか?」

魔人ブウ（悪）

「ああ！」

魔人ブウ（純粹）

「ウギャギャギャギャー！」

魔人ブウ（悪）

「お前は俺じゃない俺？」

ダークマター

「さっきジャンペンバがデブブウを切り離れた時に変身した魔人ブウだ！

ほう、随分と派手にフリーザ達を倒したな魔人ブウ（純粹）！」

フリーザ達が目を覚ます

フリーザ

「ここは？」

クウラ

「ダークマター何処にいる？

出てこい？」

ダークマター

「我はここに居る！」

セル

「まさか？」

「このでかい球体がダークマターの本体か？」

ダークマター

「その通りだ！」

「どうだ、フリーザ、クウラ、セルよ！」

「我に協力しないか？」

「勿論、孫悟空達を倒すただそれだけだ！」

フリーザ

「アンタの誘いに乗りましたよ！」

「ですが、決してアナタの部下になった訳では無いので！」

クウラ

「オレはオレの意思で戦うだけだ！」

セル

「私も今は孫悟空も孫悟飯もどうでも良い！」

「ただ強さを求めるだけだ！」

「そして……！」

ダークマター

「好きにするが良い！」

第91話 『ダークマターとの因縁!』

ナレーション

「ダークマターとの戦いが近くなり、

悟空達は界王神様に呼ばれ、

界王神界に来ていた。」

—— 界王神界 ——

界王神

「悟空さん達、来てくれましたか!」

孫悟空

「オス!」

老界王神

「お前たちにワシら界王神とダークマターとの因縁について話しておこうと思ってな

!」

孫悟飯

「因縁ですか?」

老界王神

「お前たちは初代界王神と初代破壊神がダークマターと戦った事は聞いているな！」

孫悟飯

「はい、死神様が言っていました！」

老界王神 「ダークマターとの戦いが始まる前の世界について話しておこう！」

当時のあの世には閻魔や悪の閻魔は勿論、死神さえ居ない場所だった！」

言ってみれば天国と地獄という物がなくただ善人と悪人が同じ場所に集められていた無法地帯！

そこにとある惑星の神が死にあの世にやって来る！

あの世の様子を見たその神は初代界王神にあの世の神になる事の許可を取り、死神となり今のあの世の仕組みを作った！」

ベジータ

「なるほど！」

だが、それとダークマターとどういう関係があるんだ？」

老界王神

「お前さんらは死神と初めて会った時、

あやつからジャンペンバを野放しにしたから暗黒魔界が誕生すると聞いたのであろう

！」

孫悟飯

「そういえば、言ってみました！」

老界王神

「死神はあの世を今の仕組みに作り変えることに成功するが、

まだ天国と地獄に裁けてない魂がたくさん存在した！」

「その中で悪人の魂が集まり最初のジャネンバが誕生した！」

孫悟飯

「ジャネンバが？」

老界王神

「当時の死神は今よりは強くなく、

ジャネンバによってあの世は完全に支配された！」

その後あの世とこの世を繋ぐトンネルが開通しジャネンバは

この世にもやって来て、一気に第7宇宙はジャネンバに支配されてしまう！」

ジャネンバは悪のエネルギーと負のエネルギーを取り込み姿を変えて

ダークマターになったと言われている！」

つまり、ジャネンバとはダークマターの分身にすぎんのじゃ！」

ベジータ

「そうか！」

だから新たなダークマターのパワーアップを恐れ、
閻魔や死神はジャンバを倒すようにオレたちに頼んだわけか！」

老界王神

「第7宇宙のほぼ全域がダークマターによって支配され、

残っていたのは界王神界と破壊神界だけだった！」

そこで初代界王神と初代破壊神は力を合わせ、ダークマターを倒し封印する！

その後ダークマターが創った世界を宇宙の裏側に追いやり、

その場所が今では暗黒魔界と呼ばれているのだ！

力を失ったダークマターだが、それなりの魔力は持っていたらしく、

その後も色々と力を使い魔凶星を創ったりする！」

孫悟飯

「魔凶星だつて？」

界王神

「はい、悟飯さん！」

アナタが子供の頃に破壊した星です！

ですが、魔凶星は今でも存在します!

実はあの時、魔凶星は破壊されてなかったのです!」

孫悟飯

「なんだって?」

界王神

「悟飯さんの攻撃が当たりそうになった時、破壊から回避するため、地球から遠く離れた惑星フリーザの近くまで移動したのです!」

ベジータ

「なるほど!」

だからあの時クウラが魔凶星を攻めていたのか!」

界王神

「ベジータさんも魔凶星に行ったことがおありで?」

ベジータ

「ああ!」

15年ほど前にクウラと戦った星だ!」

孫悟空

「魔凶星っていったい何なんだ?」

老界王神

「魔族の故郷じゃ！」

孫悟空

「魔族の故郷？」

孫悟飯

「お父さん、ガーリックJrとかの故郷ですよ！」

孫悟空

「ガーリックJrだって？」

ああ、ガキの頃におめえを誘拐したアイツか！」

老界王神

「^ダークマターは魔凶星で悪のエネルギーを取り込み、

あの世では悪の閻魔を操り地獄の悪人の情報を集め、

完全復活を企んでいた！」

孫悟空

「^ダークマターはどこにいるんだ？」

界王神

「惑星^ダークです！」

少し前まで結界がされて場所を特定できませんでしたが、今は！」

老界王神

「その結界を解いたという事は、

恐らく完全復活を果たしたんじゃないだろう！」

第92話 『ダークマターとの決戦前夜! (前編)』

あらすじ

「界王神から神とダークマターとの因縁に

ついて聞かされていた悟空達。

そしてダークマターとの決戦が近づき悟空は仲間を集めていた。」

——惑星ダーク——

セル

「孫悟空達が来るまで、まだ時間があるんだ、

フリーザ、クウラ、あの時の決着をつけようじゃないか?」

フリーザ

「あの時の決着?」

クウラ

「何の話をしているんだ?」

セル

「お前達と初めて戦った戦いの話だ!」

フリーザ

「ああ、あれはボク達の勝ちですよ!」

セル

「何を言っている?」

私はゴールデンデスボールを耐えたのだぞ!」

クウラ

「耐えたという証拠でもあるのか?」

セル

「ならもう一度ゴールデンデスボールを試してみろ!」

クウラ

「なんだと?」

フリーザ

「随分、自信があるようですね?」

セル

「あの技は、もう私には効かん!」

フリーザ

「兄さんどうする?」

クウラ

(魔人ブウに耐えられた以上ゴールデンデスボールは、封印だ！)

クウラ

「断る！」

セル

「なんだと？」

フリーザ

「まあ、そうだね！」

あんな技を使わないで実力で勝ってみせるよ！」

セル

「そうか！」

なら先にゴールデンになれ！」

フリーザ

「では！」

フリーザ&クウラ

「はぁー！」

フリーザとクウラはゴールデンに変身

クウラ

「お望みどおりゴールデンになってやったぞ!」

フリーザ

「今度は貴様の番だ!」

セル

「はぁー!」

セルはゴールデンを超えたクリスタルセルに変身

フリーザ

「なんですか?」

その変身は?」

セル

「このクリスタルの事か?」

これはフリーザとサイヤ人の細胞を合わせ持つ私にしかできない変身だ!

簡単に言うゴールデンの力に超サイヤ人ブルーの神の気を上乗せした変身だ!」

クウラ

「なるほど!」

それは面白い戦いになりそうだな!」

——地球のブルマの家の庭——

孫悟空

「集まったのはこれだけか！」

ピッコロ、17号、18号が来ていた

孫悟飯

「今回の戦いは、殺し禁止だった力の大会と違って、

ダークマターとの命を懸けたものになり、

武天老師さんやクリリンさん達には声をかけてません！」

孫悟空

「確かにクリリン達には荷が重いかもな！」

ピッコロ

「オレはダークマターに借りがあるからな！」

孫悟飯

「まさか、17号さんと18号さんが来てくれるとは思いませんでした！」

17号

「今回もお前達の息子たちに仕事を任せました！」

18号

「私はブルマから賞金を約束してもらった!」

※17号と18号は力の大会の服装である

ブルマ

「地球や宇宙の運命がかかっているもんね!

こんなの安いもんよ!」

孫悟空

「よし、皆、オラに捕まれ!

まずは界王神界に瞬間移動する!」

17号

「直接行かないのか?」

孫悟空

「ダークマターの居るところ、

こっからじゃ遠くて気を探れねえんだ!」

17号

「なるほど!

そういうことか!」

孫悟空

「よし、皆行くぞ！」

魔人ブウ（善）

「待ってくれー！」

孫悟飯

「ブウさん！」

ベジータ

「何しに来た？」

魔人ブウ（善）

「お前達、悪いヤツのところ行くだろ？」

ブウも行く！」

ベジータ

「な、なに？」

魔人ブウ（善）

「オレ、ブウは悪いと戦うんだ！」

孫悟空

「そうか、わかった！」

「ならオラに捕まれ！」

ベジータ

「まてカカロット正気か？」

魔人ブウ（悪）はコイツを吸収しようとしたんだぞ！

もしも、吸収されて厄介な魔人ブウになったらどうするんだ？」

孫悟空

「心配するな、大丈夫だって！」

それにその時はその時に何とかすれば良いじゃねえか！」

ベジータ

「どうなっても知らんぞ、勝手にしろ！」

悟空達は瞬間移動で界王神界に行く

——惑星ダーク——

クウラ

「馬鹿な？」

俺たちがこんな奴に！」

フリーザ

「おのれ——！」

セル

「わかっただろ！」

私はお前達より強いという事を！

殺しても良いがお前達には利用価値がありそうだ！

殺さないでおく！」

クウラ

「その甘さはフリーザの細胞によるものか？」

セル

「さあな！孫悟空の甘さも混じっているかもな！」

ダークマター

「力比べは終わったか！」

お前達の仲間となるメンバーを紹介しよう！」

第93話 『ダークマターとの決戦前夜! (後編)』

あらすじ

「悟空達はダークマターの戦いに向けて仲間を集めてきた。

そしてダークマターもフリーザ、セル、魔人ブウ以外にも悪人を色々と用意していた。」

——惑星ダーク——

セル

「仲間だと?」

ダークマター

「そうだ!」

既に顔見知りも居るだろうがな!

まずは、ヘラー一族のボージャック!」

クウラ

「ボージャック生きていたのか?」

ボージャック

「ああ、いきなり現れた謎のサイヤ人に虫の息にされたが生きている！
今度こそ孫悟飯と決着をつける！」

セル

「ほう！」

私以外にも孫悟飯に殺られた奴が居たのか！」

ダークマター

「続いては、暗黒魔界の王ダーブラ！」

ダーブラ

「まさか、ダークマター様に復活させていただけるとは思いませんでした！」

ダークマター

「お前が地獄ではなく天国にされているとは、悪の閻魔大王を操るまで知らなかったぞ
！」

フリーザとセル

「なにー、天国だと？」

ダーブラ

「あれが天国だと？」

私にとっては地獄その物だった！

自分が自分じゃなくなるところだった!」

ダークマター

「続いては宇宙の帝王と恐れられたフリーザと兄のクウラ!」

ダーブラ

「お前らが宇宙の帝王か!」

ダークマター

「続いては魔人ブウシリーズから悪ブウと純粋ブウ!」

ダーブラ

「ん? 魔人ブウだと?」

私の知っている奴と違うな!」

魔人ブウ (悪)

「お前、弱い時の俺にクッキーにされた奴だな!」

ダーブラ

「やはりあの魔人ブウか!」

魔人ブウ (純粋)

「ウギャギャギャギャー!」

ダークマター

「続いては地球の人造人間セル！更には21号！
セル

「なんだと？」

魔人ブウ（悪）

「オレと同じ感じがするな！」

魔人ブウ（純粹）

「ウギャギャギャギャー！」

21号

「皆、美味しそう！」

でも今はお腹いっぱい！」

※21号は魔人21号の姿です

ダークマター

「続いてサイヤ人シリーズからターレス、ナツパ、そして孫悟空の兄ラディッツ！
フリーザ

「な、なんだと？」

ラディッツお前はあの孫悟空の兄だったのか？」

ラディッツ

「はい！」

一応カカロットいえ孫悟空は私の弟でした！

フリーザ様！」

ナツパ

「ベジータをぶつ殺せるチャンスが来るとはな！」

ラディッツとナツパはダークマターの強化によりスーパーサイヤ人3に変身可能
ターレス

「ベジータに復讐するのはこのオレだ！」

クウラ

「いや、ベジータはこのクウラの獲物だ！」

ダークマター

「続いてツフル人のサイヤ人絶滅兵器の融合戦士ハッチヒヤックベビー！
ハッチヒヤックベビー

「サイヤ人に復讐してやる！」

まずはその猿3匹を！

ラディッツとナツパとターレス

「なんだと？」

ダークマター

「ハッチヒヤックベビー勝手な事は許さんぞ！」

ダークマターはハッチヒヤックベビーに金縛りをかける

ハッチヒヤックベビー

「おのれー！」

※ハッチヒヤックベビーは第3章でトワがブロリー（悪魔）、カンバーと共に別の歴史から連れて来た戦士

ダークマター

「続いて地獄から産まれたジャネンバ！」

ジャネンバ

「イギヤギヤギヤギヤー！」

ダークマター

「そして、最後にヒルデガンだ！」

一同

「デカイ？」

フリーザ

「サイヤ人の大猿には匹敵するデカさだ！」

ダークマター

「以上が我ダーク軍のメンバーだ！」

ダーク軍のメンバー

ラディッツ、ナツパ、ターレス、ハッチヒヤックベビー、ボージャック、フリーザ、クウラ、セル、21号、魔人ブウ（悪）、魔人ブウ（純粹）、ジャネンバ、ヒルデガーン

—— 界王神界 ——

界王神

「お待ちしてました！」

孫悟空

「ああ！」

老界王神

「あれからわかった事だが、

ダークマターは色んな悪人を復活させ仲間にしておるようじゃ！」

ベジータ

「やっぱりな、クウラにセルに魔人ブウ！」

界王神

「ご存知でしたか！」

ベジータ

「当然だ！」

「今だつて遠い場所から気を感じてる！」

界王神

「ですがクウラはダークマターの力の無しで自力で復活しました！」

孫悟空

「へえそんなんか！」

「ところでこのままでダークマターに勝てると思うか？」

界王神

「それは難しいですね！」

「ダークマターは未知数ですから！」

老界王神

「と思ったから助っ人を用意しといた！」

キャベ

「お久しぶりです師匠！」

ベジータ

「キャベ？」

カリフラ

「よー孫悟空!」

ケール

「あの一!」

孫悟空

「よーカリフラにケールじゃねえか!

それにヒットまで!」

ヒット

「第6宇宙の界王神と破壊神からダークマターを殺す事を依頼されたんだなあ!」

トツポ

「第11宇宙からは私とジレンが来てやった!」

ジレン

「まさか、孫悟空と共闘する日が来るとはな!」

孫悟飯

「まさか、第11宇宙の人まで来てくれるとは!」

悟空チームのメンバー

孫悟空、孫悟飯、ベジータ、ピッコロ、17号、18号、魔人ブウ(善)、キャベ、カ

リフレ、ケール、ヒット、トツポ、ジレン

第94話『惑星ダークそれぞれの戦い! (前編)』

あらすじ

「戦いの準備を終えた悟空達は界王神界に行き、

惑星ダークに向おうとしていた。」

——界王神界——

孫悟空

「ここならダークマターの気が感じられるぞ!」

ベジータ

「フリーザやセルや魔人ブウ以外にも居やがるな!

死人を何人も蘇らせてイライラするぜ!」

孫悟空

「よし皆、オラに捕まれ!」

——惑星ダーク——

悟空達は界王神界から惑星ダークに瞬間移動でやって来る

孫悟空

「ここがダークマターがいる惑星か！」

孫悟飯

「お父さんすごい気を感じます！」

ベジータ

「ダークマターか？」

孫悟空とピッコロ

「ああ！」

ベジータ

「そういえば、

ピッコロお前もダークマターに操られたんだったな！」

ダークマター

「惑星ダークへようこそ！」

孫悟空

「誰だ？」

もしかしてダークマターか？」

ダークマター

「そうとも、我はダークマターだ！」

我の元にたどり着くために何人かの悪の戦士と戦う必要がある！

別れ道は10個ある好きに選ぶか良い!では健闘を祈る!」

孫悟飯

「皆さんどうしましょ!」

孫悟空

「バラバラで良いんじゃないか?」

ピッコロ

「1つに固まるよりバラけた方が良いかもな!」

悟空達はそれぞれ別行動をする

—— 惑星ダークルート① ——

孫悟空

「オラの相手はまさかおめえとはなフリーザ!」

フリーザ

「まさか、アナタと戦えるとは私も嬉しいです!」

悟空はスーパーサイヤ人ブルーに変身して、フリーザはゴールデンに変身する

孫悟空

「いくぞフリーザ！」

フリーザ「来い孫悟空！」

——惑星ダークルート②——

ベジータ

「相変わらずしぶといなクウラ！」

クウラ

「今度こそ息の根を止めてみせる！」

ベジータ

「やれるもんならやってみろ！」

ベジータはスーパーサイヤ人ブルーに変身して、クウラはゴールドデンに変身する

クウラ

「サイヤ人は皆殺しだ！」

ベジータ

「いつまでも自分達は頂点だと思ってるんじゃないぞ！」

——惑星ダークルート③——

ボージャック

「待っていたぞ孫悟飯！」

孫悟飯

「ボージャック、復活したのか!」

ボージャック

「いや、オレはあの謎のサイヤ人(ブロリー)に倒されたが、かろうじて生きていた! 孫悟飯に復讐するまでは死んでも死にきれん!」

孫悟飯

「執念深いんだな!」

悟飯は悟飯ビースト化して、ボージャックはフルパワーボージャックに変身する
ボージャック

「今度は誰からも邪魔されん!」

思いつきりこの戦いを楽しもうじゃないか!」

——惑星ダークルート④——

ピッコロ

「オレの相手は貴様だったとはな!」

ラディッツ

「正直、オレは貴様に復讐したいと思っていた!

貴様の後はカカロットにも復讐してやる!」

ピッコロ

「オレはあの時より強くなってるぞ！」

ラディッツ

「強くなってるのは自分だけと思うなよナメック星人！」

はあー！

ピッコロ

「何をする気だ？」

まさか？」

ラディッツはスーパーサイヤ人3に変身する

ピッコロ

「馬鹿な？」

なぜ貴様がスーパーサイヤ人3に？」

ラディッツ

「驚いたか？」

親父やカカロットもできる変身できるんだ！

弟にできて兄のオレにできないことはない！」

セル

「久しぶりだな兄弟達よ!」

17号

「誰だお前?まさかセルか?」

18号

「その姿のセルを見るのは初めてだね!」

セル

「どうだ?」

「また私の一部にならないか?」

17号

「誰がお前の中に入るもんか!」

18号

「全くだ!」

17号

「俺はあの時よりパワーアップしてるんだぞ!」

セル

「なら見せてみろ!」

17号

「はぁー!」

17号はセルに攻撃する

セル

「なるほど!」

確かに以前の完全体の私をはるかに超えてるな!

だが、強くなったのはお前達だけではない!」

17号と18号

「なんだと?」

セル

「はぁー!」

セルはクリスタルに変身する

17号

「なんだその変身は?」

セル

「これはサイヤ人とフリーザの細胞を合わせ持つ私にしかできない変身だ!」

17号

「バケモノが!」

第95話 『惑星ダークそれぞれの戦い! (中編)』

あらすじ

「惑星ダークに着いた悟空達だったが、
ダークマターにより別れ道を用意され、
バラバラに行動するのであった。」

——惑星ダークルート⑥——

魔人ブウ (悪)

「まさか、オレの相手がお前だったとはな!」

魔人ブウ (善)

「ブウはお前なんかに取り込まれないぞ!」

魔人ブウ (悪)

「今となつてはお前などいらぬ!」

魔人ブウ (善)

「なんでだ?」

「この前ブウの事を欲しがってたじゃないか?」

魔人ブウ (悪)

「いらなくなつたからいらぬのだ!」

魔人ブウ (悪) の回想シーン

魔人ブウ (悪)

「ダークマター、何回デブのブウを切り離しオレを殺す?」

ダークマター

「我はお前を殺しているわけではない!

お前を強化しようと思つてな!」

魔人ブウ (悪)

「なに?」

ダークマター

「チビのブウは魔人ブウの起源である!

そのブウをお前が吸収しまくるのだ!

そうなれば、デブのブウを取り込むより大幅パワーアップできる!」

魔人ブウ (悪)

「そういう事か!」

魔人ブウ (悪)

（その後オレは純粋ブウと言われるチビのブウを8体吸収して大幅パワーアップをした！）

魔人ブウ（悪）の体内には元からある魔人ブウ（善）1体と魔人ブウ（純粋）8体の合計9体の魔人ブウが入っています。

回想シーン終わる

魔人ブウ（善）

「前より強くなってる困った!」

魔人ブウ（善）はシェイプアップの姿になる

魔人ブウ（悪）

「そんな姿になろうが今のオレには勝てんぞ!」

——惑星ダークルート⑦——

キャベ

「その尻尾？アナタはサイヤ人？」

ナツパ

「何だてめえは？ちっ、ベジータじゃないのか!」

キャベ

「ベジータ師匠を知ってるんですか？」

ってサイヤ人なら当然ですよね!」

ナツパ

「ベジータ師匠だと?」

てめえ、ベジータの弟子か?」

キャベ

「はい!第6宇宙のサイヤ人のキャベです!」

「あなたはベジータ師匠とどんな関係で?」

ナツパ「オレたち以外にサイヤ人の生き残りが居たのか?」

まあ、カカロットに似たターレスの件もあるし、どうでも良いことだが!

オレの名はナツパ!オレはベジータに殺された!

今思い出しても腹が立ってくるぜ!

オレはアイツがガキの頃から面倒見てきたっていうのに!

傷ついて体が動けなくなったからって、仲間のオレを殺しやがった!」

キャベ

「ベジータ師匠がそんなことを?」

ナツパ

「今じゃカカロットの甘さが移り、昔と随分変わったらしいがな!

お喋りは終わりにして始めようか？」

キャベ

「よろしくお願ひします！はあー！！」

キャベはスーパーサイヤ人2に変身

ナツパ

「マジでサイヤ人だったのか？」

ならオレも！はあー！！」

ナツパはスーパーサイヤ人3に変身

※ナツパは髪の毛の代わりに髭がフサフサ状態になる

キャベ

「なんてパワーだ？」

—— 惑星ダーククルート⑧ ——

カリフラ

「それにしても誰もいねえな！」

ケール

「何だか不気味です！」

ターレス

「貴様らがオレの相手か？」

カリフラ

「孫悟空？」

ターレス

「残念ながら人違いだ！」

オレの名はターレス！」

カリフラ

「ターレス？」

ホント、孫悟空に似てるよな！」

ターレス

「オレもカカロットも使い捨てるサイヤ人だからタイプが少ないのさ！」

カリフラ

「使い捨てだ？」

ターレス

「そうか、この宇宙と第6宇宙ではサイヤ人の文化が違うのか！」

カリフラ

「わけわかんないこと言わないで始めようじゃねえか！」

いくぞケール！」

ケール

「はい姉さん！」

カリフラ&ケール

「はぁー！」

カリフラはスーパーサイヤ人2、ケールはスーパーサイヤ人に変身

ターレス

「当然、その変身ができるという事か？」

はぁー！」

ターレスはスーパーサイヤ人3に変身

カリフラ

「それはスーパーサイヤ人3じゃねえか？」

アタシも早くその変身になりたいぜ！」

第96話『惑星ダークそれぞれの戦い! (後編)』

あらすじ

「惑星ダークは今では戦場になっていた。

悟空達は果たして勝つことができるのか？」

—— 惑星ダークルート⑨ ——

21号

「何だか美味しそうな気ね？」

ヒット

「何となくセルに似てるな！」

21号

「セルに会ったことあるんだ！」

まあ、似てて当然かな？

だって私もセルと同じ人造人間だからね！」

ヒット

「なるほど！」

界王神から依頼の邪魔する奴も殺して良い言われている！
悪いが死んでもらう！」

21号

「おやつには早いけど、

小腹がすいてきたからアナタを食べてあげる！」

ヒット

「悪趣味な奴だ！」

—— 惑星ダークルート⑩ ——

トツポ

「何だこのバケモノは？」

ジレン

「少しは楽しめそうだな！」

ヒルデガン

「ガオオオオオ！」

トツポ

「ジャステイスフラッシュ！」

ヒルデガン

「ガオオオオオ!」

トツポ

「な、なんだと? 不死身か?」

ジレン

「トツポ、オレがやる!」

ジレンの重い一撃を食らったヒルデガーンが倒れる

トツポ

「いつもすまんなジレン!」

——惑星ダーク最深处——

ダークマター

「流石は第一宇宙の最強の戦士ジレンか!

ヒルデガーンをあっさり倒しやがる!

ん? ボージャックも敗れたか!

ダーブラ、お前が孫悟飯と戦え!」

ダーブラ

「あいつは魔人ブウ復活を邪魔した奴か!

かしこまりました!」

ボージャック

「おのれー！私はまた孫悟飯に敗れるのか！」

孫悟飯

「アナタの負けです！」

悟飯は悟飯ビースト状態です

ボージャック

「ぎゃあああああ！」

突如謎の攻撃がボージャックにトドメをする

孫悟飯

「な、なんだ？」

ダーブラ

「少しは腕を上げたようだな？」

孫悟飯

「お前はダーブラ？」

「そうか、お前もダークマターに？」

ダーブラ

「ダークマター様は暗黒魔界の創造主!」

暗黒魔界では魔界王神様より上の存在!

小僧覚悟するんだな!」

孫悟飯

「ボクはあの時のボクじゃないぞ!」

ダーブラ

「強くなつたのは自分だけと思うなよ!」

孫悟飯

「今度こそ決着つけてやる!」

——暗黒魔界——

ダークマターに倒されたトワとミラが目を覚ます

トワ

「私はいったい?」

「そうだ、ダークマター様にやられて!」

ミラ

「オレはまだまだ弱い!」

トワ

「このパワーはお兄様？」

ミラ

「な、なに？」

「死んだのではなかったのか？」

トワ

「恐らくダークマター様いえダークマターが復活させたんでしょ！」

でも、暗黒魔界を捨てたダークマターにお兄様を良いようには利用させないわ！」

——惑星ダークルト③——

ダーブラ

「やるな、このダーブラ様と互角とはな！」

孫悟飯

「ボクも随分とパワーアップしたんだけどな！」

ダーブラ

「続きを始めるか！…ん？」

トワがテレパシーでダーブラに会話する

孫悟飯

「どうした？なんで来ない？」

ダーブラ

「トワ、それはホントか!」

ならダークマター様いやダークマターに従う意味は無いな!」

孫悟飯

「いつたい、誰と話してるんだ?」

ダーブラ

「すまん! 身内と話していた!」

ダークマターに従う意味が無くなった!

つまり、お前と戦う意味もない!」

孫悟飯

「なんだと? 逃げるのか?」

まるであの時と同じじゃないか?

また、誰かを操るのか?」

ダーブラ

「操る? その必要はない!」

この時代は用済みという事だ!」

孫悟飯

「時代だと？」

トワ

「お兄様、向かいに来たわ！」

孫悟飯

「お前は？並行世界であつた謎の女！」

何しに来た？」

トワ

「孫悟飯ね？」

暗黒魔界を捨てたダークマターに私のお兄様が良いように

利用されてるのが見てられなくてね！

だからお兄様を迎えに来たの！

孫悟飯、アナタにはダークマター退治を任せるわ！それじゃ！」

トワはダークマターを連れて自分の世界に帰っていく

—— 惑星ダーク最深处 ——

ダークマター

「ダーブラを持っていかれたか！」

まあ良い！あれは捨て駒だったしな！」

——ビルスの星——

ビルス

「おい! 惑星ダークに向かうぞ!

ボクに喧嘩を売ったダークマターを破壊しに行くんだ!

ウイス

「かしこまりました!」

第97話 『惑星ダークの戦いサイヤ人戦!』

あらすじ

「惑星ダークではそれぞれの場所で悟空達が戦っていた。そしてビルス様が惑星ダークに向おうとしていたのだった。」

——惑星ダークルート①——

孫悟空

「このままだと決着つきそうにねえな!」

フリーザ

「まったくあなたは数時間で強くなってホント気に入りませんね!」

ですが、必ずあなたをぶつ殺して差し上げます!

ホーホホホ!」

孫悟空

「仕方ねえ!

界王拳100倍だー!

いくぞフリーザ!」

—— 惑星ダーククルト② ——

ベジータ

「カカロットの奴、界王拳を使ったな!

なら、オレも!

はあー!」

ベジータはスーパーサイヤ人ブルー（進化）に変身

クウラ

「何だか少し雰囲気が変わったか?」

ベジータ

「少しじゃない!

さっきよりパワーアップしたのだ!」

クウラ

「まだ隠し玉があったのか!」

やはりサイヤ人は危険な種族だな!」

—— 惑星ダーククルト③ ——

ラディッツ

「おい貴様、さっきからどこを狙っている?」

ピッコロ

「周りをよく見たらどうだ？」

ラディッツ

「なに？なんだこれは？」

ラディッツは無数の気弾に囲まれ身動きが取れなくなる

※ドラゴンボールZ時代にピッコロが神様と同化した後の17号との戦いに使った技である

ピッコロ

「今頃気付いたか！馬鹿め！」

少しでも動けばダメージは免れんぞ！」

ラディッツ

「おのれ雑魚の分際で舐めた真似を！」

ピッコロ

「魔貫光殺砲！」

ラディッツ

「そ、それはカカロットごとオレを殺した技！

やめろ、オレが悪かった！」

「ダークマターから手を引く!許してくれ!」

ピッコロ

「オレは孫悟空いやお前の弟カカロットのようには甘くないぞ!」

ラディッツ

「おのれ!

何故スーパーサイヤ人3なのにこんな雑魚に負ける!」

ピッコロ

「それがスーパーサイヤ人3だと?」

見た目はスーパーサイヤ人3でも、まだお前の弟の方が強いぐらいだぜ!」

ラディッツ

「なんだと?」

オレはバーダックの息子でカカロットの兄のはず何故勝てない!」

ピッコロ

「覚悟するんだな!

魔貫光殺砲!」

ラディッツ

「ちくしょう!

うああああ！

またこんな雑魚のナメック星人ごときに負けるとは！」

惑星ダークルート⑦

ナツパ

「確かにベジータの感じがしやがるぜ！

だがオレの敵じゃないぜ！ハハハハハ！

おめえをぶつ殺したら、お前の家族もぶつ殺してやる！」

キャベ

「なんだと？」

ボクの家族は関係ないだろ？」

ナツパ

「恨むんならベジータを恨むんだな！」

キャベ

「お前だけは絶対に許さない！」

波——」

ナツパ

「それはベジータのギャリック砲！」

こんなものオレには通じんぞ!

な、なにー?

馬鹿な、奴のギャリック砲を押し返せないだど?

おのれー!

うああああ!」

キャベ

「ボクの勝ちです!」

—— 惑星ダークルート⑧ ——

ターレス

「その程度か?」

ターレスは神精樹を食べ続けパワーアップを繰り返しています

カリフラ

「このままだと不味いな!」

ケール

「姉さんコレを!」

カリフラ

「ケール持ってきてたのか!」

ターレス

「なんだ？」

ケフラ

「ケールとカリフラでケフラ！」

ターレス

「合体だど？そんなの反則だ！」

ケフラ

「反則はお前だ！」

さつきからおかしな果実でドーピングなんぞしやがって！

そのスーパースイヤーもドーピングで手に入れた力なんだろう？」

ターレス

「ぐああ！」

おのれメス猿が！

この手は使いたくなかったが仕方ない！

尻尾が無いことを後悔するんだな！

弾けて混ざれ！」

ケフラ

「な、なんだ?」

大猿ターレス

「ガオオオオオ!」

ケフラ

「なんだ?」

アイツ、理性飛んでるぞ!

仕方ねえな! 波ー!」

大猿ターレスはケフラの攻撃により倒れる

ケフラ

「合体するまでもなかったかもな!

まあ、いつか!」

——惑星ダーク最深部——

ダークマター

「サイヤ人全滅か!

スーパーサイヤ人3に変身できるからといってノーマル状態の

戦闘力があまり強くなければ意味は無い!」

第98話 『惑星ダークの戦い宇宙の帝王！』

あらすじ

「ダークマター軍のサイヤ人を倒したピッコロと第6宇宙のサイヤ人達。

そして今、悟空とフリーザ、

ベジータとクウラの戦いも決着しようとしていた。」

——惑星ダーク最深处——

ハッチヒヤックベビー

「孫悟空とベジータから気を感じなくなったぞ！」

ダークマター

「あれはスーパーサイヤ人ブルーだ！」

ハッチヒヤックベビー

「スーパーサイヤ人ブルー？」

「なんだその変身は！」

ダークマター

「サイヤ人が神の力を手に入れた変身だ！」

お前の世界のスーパーサイヤ人4に匹敵するパワーの変身だ!」

ハッチヒヤックベビー

「なんだと?」

憎きサイヤ人め! 厄介な変身ばかりしやがって!」

——惑星ダークルート①——

孫悟空

「やべえなそろそろ体が!」

フリーザ

「どうやらその力が倍增する力は体に相当な負担があるようだね!」

孫悟空

「バレちまったか!」

そうだよ!

ただどおめえを倒せるぐらいの力はあるぞ!」

フリーザ

「へえー!」

ならその力を見せてもらおうか!」

孫悟空

「体もつてくれよ！」

界王拳20倍だー！」

フリーザ

「ぐああ！おのれー！」

孫悟空

「はあはあはあ！」

「どうだ？」

フリーザ

「今のは痛かったぞ！」

痛かったぞ！死ねー！」

孫悟空

「うああ！」

フリーザ

「遂に孫悟空を倒したぞ！ホーホホホホ！」

おっと、トドメをささないとー！ん？」

孫悟空

「…」

孫悟空は悟空は身勝手の極意(兆)になる

フリーザ

「まさか？」

「そ、それは身勝手の極意では？」

孫悟空

「ああ！」

フリーザ

「おのれー！」

「やはり攻撃が当たらない！」

孫悟空

「かめはめ波ー！」

フリーザ

「うああああ！」

孫悟空

「はあはあはあ！」

フリーザ

「今回はボクの負けにしときますよ！」

身勝手の極意がこれほど恐ろしいとは！」

フリーザはその場で気絶する

孫悟空

「皆のところに合流するか！」

ん？あつちにセルの気？

行ってみるか！」

—— 惑星ダークルート② ——

ベジータ

「ちっ！しぶとい野郎だ！」

クウラ

「お互いにな！」

ベジータ

「そろそろ戦いを終いにしようじゃないか！」

クウラ

「良かろう！」

初めに言っておこう！

今のオレはゴールデンデスボールを使えん！

あれはオレと同じぐらいの強さを持つ者が2人居なければできんからな!

だが、オレの全エネルギーを注いだデスボールなら貴様など倒せるはずだ!

ベジータ

「なら見せてみる!」

クウラ

「波!」

ベジータ

「ギャリック砲!」

クウラ

「なんだ?」

その程度か?」

ベジータ

「簡単には押し返せないか!」

波!」

ギャリック砲とデスボールの撃ち合いはクウラ優勢だった

ベジータ

「オレはこんな所では負けられんだ!」

波——」

クウラ

「な、なに？ 押されてるだど？」

あ、ありえん！

さつきまでと違う！ おのれ——」

ベジータ

「サイヤ人を舐めるな——」

クウラ

「おのれ——サイヤ人！ ちくしょう！」

ベジータ

「ふん！ 二度と蘇るなよ！」

波——」

クウラ

「うああああ！」

—— 惑星ダーク最深部 ——

ハッチヒヤックベビー

「トランクス！」

地球に行き究極のドラゴンボールを奪って来い!」

トランクス(ゼノ)

「はい!へビー様!」

ハッチヒヤックベビー

「世界は違うが再びサイヤ人に復讐の機会をくれたダークマターには感謝する!」

ダークマター

「我也サイヤ人が嫌いだね!」

ハッチヒヤックベビー

「だが、このオレの全宇宙ツフル化計画の邪魔をしたら容赦はしない!」

魔人ブウ(純粹)

「ギャーギャー!」

ハッチヒヤックベビー

(なに、卵が吐き出されただと?)

コイツには寄生ができないのか?

そういうえば、元いた世界でもあのピンクのデブの奴もツフル人化を失敗していたな!

確か魔人ブウだったか!」

ダークマター

「ベビーよ魔人ブウには寄生術は効かん！」

残念だったな！」

ハッチヒヤックベビー

（厄介な生物だ！）

第99話 『惑星ダークの戦い人造人間!』

あらすじ

「ダークマター軍のメンバーのフリーザとクウラを

倒した悟空とベジータ。

その頃、各宇宙の破壊神が動き始める。」

—— 第6宇宙のシャンパの星 ——

シャンパ

「おいヴァロス第7宇宙の惑星ダークに向かうぞ!」

ヴァロス

「シャンパ様直々に行こうとするなんて珍しいですね!」

シャンパ

「当たり前だ!」

ダークマターの奴がオレに喧嘩を売ってきたから、

おしよきようと思つてな!」

ヴァロス

「おしおきつて、その為にヒットさん達を行かせたんでしょ！」
シヤンパ

「オレ自身が殺らないと気がすまん！」

ヴァロス

「わかりました！」

では第7宇宙に行きますよ！

おや？他の宇宙の破壊神達も動いてるみたいですね！」

シヤンパ

「な、なに？」

——惑星ダークルート⑧——

21号

「結構やるわね！」

ヒット

「お前もな！」

だが、遊んでいる暇が無いんでそろそろ本気で殺らせてもらう！」

21号

「な、なに？」

ヒット

「波ー!」

21号

「なんだ？」

何処から攻撃が？」

ヒットは時飛ばしを使い見えない衝撃波を繰り出す

ヒット

「オレは殺し屋だ！」

時飛ばしを喰らうのは初めてか？

オレは時飛ばしと見えない殺しの技を使える！」

21号

「なんだと?!」

ヒット

「いくら再生能力があろうと無駄だ！」

そしてこれでトドメだ！」

21号

「おのれこんな奴に！」

おのれーおのれー！」

魔人ブウ（純粹）

「ウイーー！」

21号

「なんだお前？やめろー！」

突如現れた魔人ブウ（純粹）が死にかけの21号を吸収する

※なお、姿はあまり変わらず、21号の特徴である尻尾が生えただけである

ヒット

「なんだアイツは、吸収したのか？」

消えた！瞬間移動か！」

魔人ブウ（純粹）は瞬間移動でその場を去る

—— 惑星ダーククルート⑤ ——

17号

「はあはあはあ、化け物め！」

18号

「クソタレー！」

セル

「そろそろお前たちの戦いに飽きてきたから終わりにしよう!」

17号

「なんだと?」

セル

「くたばれー!」

セルはかめはめ波を放つ

孫悟空

「波ー!」

17号

「お前?」

孫悟空

「大丈夫か?」

セル

「孫悟空か?」

フリーザはやられたようだな!

孫悟空

「17号、18号、こっからはオラも戦うぞ!」

17号

「その方が良さそうだな！」

セル

「来いお前たち！」

悟空を含んだ17号、18号とセルの戦いが始まる

孫悟空

「やっぱ強いなセル！」

セル

「孫悟空も相当腕を上げたな！」

孫悟空

「だけどオラ達は負ける訳にはいかない！」

17号、18号、オラが前に出る！

おめえ達は援護を頼む！」

17号と18号

「わかった！」

セル

「作戦会議は終わったか！」

孫悟空

「いくぞセル!」

悟空が前に出てセルと戦い、17号と18号は攻撃、そして、セルに隙ができる

孫悟空

「今だ、皆で一斉攻撃するぞ!」

かめはめ波!」

17号と18号

「波!」

セル

「こんな物で私を倒せると思うなよ!波!」

セルは悟空達の技を返そうとするが返せない

セル

「何故だ、何故押し返せない!

ちくしょう!ちくしょう!

うああああ!」

17号

「やったのか?」

18号

「遂にあのセルを倒したんだね！」

孫悟空

「ああ！」

よしベジータの所に合流するぞ！」

——惑星ダークルート②——

ハッチヒヤックベビー

「久しぶりだなベジータ！」

ベジータ

「何者だ貴様？」

オレに会ったことがあるのか？」

ハッチヒヤックベビー

「そうかこの世界では会うのは初めてだったな憎きサイヤ人王子よ！」

ベジータ

「どうやらサイヤ人に相当恨みがあるようだな！」

ハッチヒヤックベビー

「例えどこの世界であろうとどこの宇宙であろうとサイヤ人への復讐は変わらん！」

死ねーサイヤ人!

第100話 『惑星ダークの戦いハッチヒヤックベビー！』

〔前編〕

ナレーション

「ダークマター軍のメンバーの

セルと21号を倒した悟空達。

その頃、ベジータの前にハッチヒヤックベビーが現れる。」

—— 惑星ダークルート⑥ ——

魔人ブウ（善）

「波——！」

魔人ブウ（悪）

「波——！」

かめはめ波対決は魔人ブウ（善）が押され気味だった

魔人ブウ（善）

「ギャ——！」

魔人ブウ（善）は粉々になる

魔人ブウ（悪）

「トドメだ！」

孫悟飯

「波ー！」

魔人ブウ（悪）

「な、なに？」

孫悟飯

「お前だったか魔人ブウ（悪）！」

魔人ブウ（悪）

「貴様はあの時の？」

魔人ブウ（善）は再生する

魔人ブウ（善）

「ブウー！」

死ぬかと思った！」

孫悟飯

「大丈夫ですかブウさん？」

魔人ブウ（悪）

「孫悟飯、あの時はゴテンクスとか言う奴を吸収したが
今回は誰も吸収しないで戦ってやる！」

孫悟飯

「な、なに？」

—— 惑星ダークルーツ② ——

ベジータ

「貴様、何者だ？」

ハッチヒヤックベビー

「ベジータ貴様本当にこのオレが誰なのか忘れたのかい？」

まあ良い！猿はどんなに進化しても猿だということだ！

そうだろサイヤ人！」

ベジータ「何？」

ハッチヒヤックベビー

「頭の悪い奴だ！」

貴様の親父ベジータ3世もそうだったようにな！」

ベジータ

「フフフフ！」

なるほど思い出してきたぞこのみじめな気を！

ベジータ王に追い出されたツフル人だな？」

ハッチヒャックベビー

「そういう事だ！オレ名はベビー！」

サイヤ人に復讐する為、ツフル王の遺伝子を組み込み誕生した
マシンミュータントだ！

滅びろサイヤ人は皆殺しだ！復讐してやる！」

ハッチヒャックベビーはファイナルリベンジャーカノンを放つ

※ ハッチヒャックのリベンジャーカノンの構えからベビーのリベンジデスポール
の様な緑色の球体を発射する

ベジータ

「なんだ？今の攻撃は？」

ハッチヒャックベビー

「やはり、この体は今まで寄生した戦士の中で一番使いやすいな！」

ベジータ

「寄生だと？」

「貴様、他人の体に乗ったのか？」

ハッチヒヤックベビー

「そうだよ！」

並行世界の未来ではベジータお前にも寄生していた事もあった！」

ベジータ

「なにー？」

ハッチヒヤックベビー

「オレはお前を乗っ取りサイヤ人絶滅と全宇宙ツフル化計画は

あと一歩で達成できるはずだった！」

それを孫悟空に邪魔されオレの計画は失敗に終わると思われた！」

その時、ハッチヒヤックがオレの前に現れ、

オレはこの体に寄生したというわけだ！」

ベジータ

「なるほど！」

で、そのあとオレ達はどうかした？」

ハッチヒヤックベビー

「知りたいか？」

ベジータお前と孫悟空を殺し全てのサイヤ人は絶滅させた！」

だが、目的を達成すると世の中がつまらなくなり、

そんな時にある女から並行世界には別の孫悟空とベジータが居ることを聞かされた！その時、オレは全ての並行世界のサイヤ人を絶滅させる事を決意したのだ！」

ベジータ

「随分と執念深いんだな！」

ハッチヒヤックベビー

「オレもこの体のハッチヒヤックもサイヤ人に復讐する為に造られた戦士だ！」

ベジータ

「ふん！」

お前らツフル人こそオレ達の先祖を奴隷のようにこき使って許されない存在だったのだ！」

ハッチヒヤックベビー

「死ねーサイヤ人！」

孫悟空

「波——！」

ハッチヒヤックベビー

「ん？お前は孫悟空か？」

孫悟空

「なにもんだおめえ？何故オラの名を知っている？」

ベジータ

「アイツの名はベビー！」

未来からやって来た戦士だ！」

ハッチヒヤックベビー

「サイヤ人は滅びろ！サイヤ人は皆殺しだ！」

孫悟空

「アイツ、サイヤ人を嫌ってるみたいだけど何があつたんだ？」

ベジータ

「アイツは昔、オレ達サイヤ人が滅ぼした種族

ツフル人の生き残りがサイヤ人に復讐する為に作り出した戦士だ！」

孫悟空

「オラ達の先祖も随分とひでえ事したんだな！」

ハッチヒヤックベビー

「惑星プラントにはツフル人と先住民のプラント星人が平和に暮らしていた！

そんな時にサイヤ人が惑星プラントに漂着する！」

ツフル人は皆反対したが先住民のプラント星人はサイヤ人を住まわすことを許可し、惑星プラントには3つの種族が暮らすようになった！

だが、ベジータお前の親父ベジータ王3世は

プラント星人とツフル人を滅ぼし、惑星プラントを奪った！

ベジータ

「親父の事なんて知ったことか！」

第101話 『惑星ダークの戦いハッチヒヤックベビー！』

〔中編〕

あらすじ

「ベジータの前に現れたハッチヒヤックベビーは

サイヤ人への復讐に燃えるのだった。

悟空とベジータは勝つ事ができるのか？」

—— 惑星ダークルート② ——

トランクス（ゼノ）

「ベビー様、地球からドラゴンボールを持ってきました！」

ですが、残念ながら究極のドラゴンボールは見つかりませんでした！」

ハッチヒヤックベビー

「そうか！」

だが、惑星ツフルを作れるなら何でも良い！」

ベジータ

「トランクス？」

孫悟空

「どうなってるんだ？」

トランクス（ゼノ）

「馴れ馴れしくオレの名前を呼ぶなサイヤ人！

オレはツフル人トランクスだ！」

ベジータ

「貴様、トランクスに何をした？」

ハッチヒャックベビー

「トランクスはツフル人へと生まれ変わったのさ！」

キヤベ

「ベジータ師匠！」

ケフラ

「孫悟空！」

孫悟空

「キヤベ、それにケフラじゃねえーか！

カリフラとケールは合体したんか？」

ピッコロ

「なんだアイツは？」

キャベ、ケフラとピッコロが合流する

ベジータ

「奴は未来からサイヤ人を皆殺しにするためにやって来た戦士だ！

トランクスが洗脳されている！」

ピッコロ

「なに？」

ハッチヒヤックベビー

「お前はスーパーナメック星人のピッコロ、それにその2人はサイヤ人か？

まだ、生き残りが居たのか？サイヤ人全て皆殺しだ！」

ケフラ

「おい、そこのお前！」

サイヤ人を皆殺しに言うがアタシらは関係ないぞ！

アタシらは第6宇宙のサイヤ人だ！」

ハッチヒヤックベビー

「ダークマターから聞いたさ！」

第6宇宙は正義のサイヤ人、この第7宇宙は悪のサイヤ人と！

だが、どこのサイヤ人だろうと、サイヤ人は全て皆殺しの対象だー!」
ケフラ

「ちっ! いかれてやがる!」

ハッチヒャックベビー

「サイヤ人は皆殺しだ!」

サイヤ人に復讐してやる!」

ハッチヒャックベビーはファイナルリベンジャーカノンを放つ

キャベ

「なんだ? 今の攻撃は!」

ピッコロ

「どうやら奴は攻撃の瞬間に隙ができるようだ!」

後はタイミングだな!」

ベジータ

「また奴の攻撃が来るぞ!」

しまった! 離せトランクス!」

トランクス(ゼノ)は背後からベジータの手足を縛る

トランクス(ゼノ)

「油断したなベジータ！」

ベビー様、憎きサイヤ人の王ベジータをオレごと倒してください！」

ハッチヒヤックベビー

「良くやったトランクス！」

な、なに？」

トランクス（ゼノ）

「ぐはあ！」

ベジータ（ゼノ）

「目を覚ませトランクス！」

ベジータ（ゼノ）はトランクス殴り、トランクスは気絶する

ハッチヒヤックベビー

「何が起きた？」

ん？ベジータと孫悟空が2人だと？」

孫悟空

「おめえ達はタイムパトロールの？」

孫悟空（ゼノ）

「トランクス超神水だ！飲め！」

ベジータ

「何を飲ませてる！」

ベジータ（ゼノ）

「超神水だ！」

体内にあるベビーの卵を消す薬だ！」

トランクス（ゼノ）

「と、父さん、悟空さん、それにこっちの世界の父さんに悟空さんまで！」

ベジータ（ゼノ）

「世話を妬かせる野郎だ！」

トランクス（ゼノ）

「すいません！」

ハッチヒャックベビー

「何故、ベジータと孫悟空が2人もいる？」

そうか、トランクスの世界の者か！

それにどうやったか知らんがトランクスの洗脳も解いたようだな！」

ベジータ（ゼノ）

「ベビー、トランクスをいい良いに利用しやがって許さんぞ！」

はあー！」

孫悟空（ゼノ）

「はあー！」

ハッチヒヤックベビー

「ベジータ？ 貴様もスーパーサイヤ人4になれるのか？」

ケフラ

「スーパーサイヤ4？」

そんな変身もあるのか？」

カリフラとケール

「つて、あれ？」

孫悟空

「どうやらおめえ達、力を使い果たしたみたいだな！」

ピッコロ

「おい、お前からアイツは攻撃の時に隙ができる！」

後はタイミングがわかれば突破口があるはずだ！」

ハッチヒヤックベビー

「サイヤ人は皆殺しだ！」

サイヤ人に復讐してやる！」

第102話 『惑星ダークの戦いハッチヒヤックベビー！』

〔後編〕

あらすじ

「ハッチヒヤックベビーとの戦いが激しさを増す中、

悟空達はピッコロやキャベ達と合流。

更にはタイムパトロールの悟空達と協力する事になる。」

—— 惑星ダークルート② ——

ピッコロ

「まずは奴に攻撃を仕掛けるぞ！」

一同

「波ー！」

ハッチヒヤックベビー

「サイヤ人は皆殺しだ！」

サイヤ人に復讐してやる！」

ハッチヒヤックベビーはファイナルリベンジャーカノンを放つ

孫悟空

「奴の攻撃が来たぞ！」

1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15！

皆！」

キャベ

「15秒ですね！」

孫悟空（ゼノ）

「よし、オレ達が囷になって奴にさっきの技を出させる！」

おめえ達は援護を頼む！」

ベジータ（ゼノ）

「奴を元の時代に戻すにはハッチヒャックからベビーを追い出す！」

時の界王神は既に準備に入っている！」

ハッチヒャックベビー

「2人だけで突っ込んでくるか！」

スーパーサイヤ人4潰してやる！」

サイヤ人は皆殺しだ！サイヤ人に復讐してやる！」

ハッチヒャックベビーはファイナルリベンジャーカノンを放つ

孫悟空（ゼノ）

「あの技が来るぞ皆！」

孫悟空

「1、2」

ベジータ

「3、4」

トランクス（ゼノ）

「5、6」

キャベ

「7、8」

カリフラ

「9、10」

ケール

「11、12」

孫悟空

「かめはめ波ー！」

ベジータ

「ファイナルフラッシュュー!」

ピッコロ

「魔貫光殺砲!」

17号&18号

「波!」

トランクス(ゼノ)

「ギャリック砲!」

キャベ&カリフラ&ケフラ

「波!」

ハッチヒャックベビー

「そんなものでオレは倒せんぞ!」

皆の技とファイナルリベンジャーカノンがぶつかり合う

孫悟空(ゼノ)

「隙だらけだぞ!」

ベジータ(ゼノ)

「ベビー!」

孫悟空(ゼノ) & ベジータ(ゼノ)

「龍拳爆発！」

ハッチヒヤツクベビー

「馬鹿なー！」

ハッチヒヤツク

「サイヤ人め、サイヤ人め、サイヤ人め、サイヤ人めー！」

ハッチヒヤツクは消滅してベビーが現れる

ベビー

「ハッチヒヤツクの体が消滅した！」

おのれーサイヤ人！」

孫悟空

「あれがベビーの正体か！」

ベビー

「今度は貴様に寄生してやる！」

ベビーはキャベに寄生しようとする

キャベ

「うああー！」

カリフラ

「キャベー!」

ベビー

「体が動かない!」

ベビーは時の界王神の技を受けて動けなくなっていた

ベジータ(ゼノ)

「お前は今からハッチヒャックに寄生する前の世界に戻るんだよ!」

ベビー

「なんだと?」

ベビーは元の世界に消えていく

—— 惑星ツフル (GTの世界) ——

ベビー

「ここは、まさか元の時代に?」

その後、宇宙で新ツフル星を脱出するが、悟空のかめはめ波により太陽に落ちてベ

ビーは消滅する

—— 惑星ダーク (現在) ——

ダークマター

「時の界王神め!」

まあ良い、ベビーも捨て駒だ！

だが、ドラゴンボールを置き土産に置いてくるとはな！
感じるぞマイナスエネルギーを！」

——惑星ダークルーツ②——

トランクス（ゼノ）

「ドラゴンボールは僕が地球に返して来ます！」

あれ？ドラゴンボールが消えた？」

ダークマター

「ドラゴンボールは我が頂いた！」

返してほしければここまで来い！」

——惑星ダークルーツ⑥——

孫悟飯

「魔人ブウ（悪）のパワーが桁違いにアップしている！」

魔人ブウ（悪）

「これで終わりだ！トドメだ！」

ヒット

「苦戦しているようだな！」

孫悟空の息子！」

孫悟飯

「ヒットさん、それにトツポさん、ジレンさんまで！」

魔人ブウ（悪）

「強そうなのが来たな！」

だが、これで終わりだ！」

ヒット

「終わるのは！」

ジレン

「お前だ！」

魔人ブウ（悪）

「な、なに？」

馬鹿な再生が追いつかない！ちくしょう！

お、お前は？」

魔人ブウ（純粹）

「ウギャギャギャギャー！」

孫悟飯

「なんだあの魔人ブウは？」

ヒット

「アイツはまた吸収するの？」

孫悟飯

「吸収？」

ヒット

「さっきオレが戦っていた人造人間21号って奴をアイツは吸収したんだ！」

孫悟飯

「なんだって？」

魔人ブウ（純粹）は魔人ブウ（悪）を吸収して瞬間移動して消える

孫悟飯

「しまったー！」

ヒット

「また姿をくらませたか！」

第8章 『惑星ダークの戦い 邪悪龍編』 第103話 『惑星ダークの最深部!』

あらすじ

「悟空達はハッチヒヤックベビーを倒した。

しかし、悟飯達は目の前で魔人ブウ（悪）が

魔人ブウ（純粹）に吸収されてしまうのだった。」

—— 惑星ダークルート② ——

トランクス（ゼノ）

「ボクはなんて事をしてしまったんだ？

操られていたとはいえドラゴンボールを！

悟空さん、父さん、オレもダークマターからドラゴンボールを取り返す手伝いを…

ん？」

サイヤ人達は皆、通常状態に戻ってます

孫悟空

「どうしたトランクス？」

ベジータ

「もしや時の界王神とかいうやつと会話しているのか？」

ベジータ（ゼノ）

「ああ！」

トランクス（ゼノ）

「それは本当ですか？」

孫悟空

「どうしたんだよトランクス？」

トランクス（ゼノ）

「実はハッチヒヤックベビーは歴史改変で本来戦わない敵だったのですが、

本当の歴史でも入手方法は違いますがダークマターは

ドラゴンボールを手に入れるみたいで！

つまり、僕たちタイムパトロールの仕事はここまでという事になります！」

孫悟空（ゼノ）

「すまねえな！」

オラ達はあくまで歴史で悪さをする奴を倒すのが仕事だ！」

孫悟空

「そういう事なら仕方ねえーな!

元気だなそっちのオラ!」

孫悟空

「ああ、こっちのオラも元気だな!」

ベジータ(ゼノ)

「ドラゴンボールには気をつけろよ!」

孫悟空

「へえ?」

タイムパトロールの悟空達は帰っていく

—— 惑星ダークルート⑥ ——

孫悟飯

「敵はあらかた倒したと思います!

お父さん達に合流しましょ!」

ヒット

「そうだな!」

ジレン

「ああ!」

孫悟飯

「あつちから邪悪な気を感じます！」

トツポ

「恐らくダークマターとやらの者だろう！」

孫悟飯

「急ぎましょう！」

——惑星ダーク最深部——

ダークマター

「純粹ブウが21号や悪ブウを吸収してかつてないほどパワーアップしている！」

更にジャネンバはドラゴンボールのマイナスエネルギーを使いパワーアップさせた

！

ドラゴンボールのマイナスエネルギーは素晴らしい物だ！」

魔人ブウ（純粹）

「ウギャギャギャギャー！」

スーパージャネンバ

「イギャギャギャギャー！」

——惑星ダーク最深部手前——

孫悟空

「近くにダークマターの気を感じるぞ！」

ピッコロ

「ああ、確かにピンピン感じる！」

ベジータ

「ダークマターはどこにいるんだ？」

孫悟飯

「お父さん！」

孫悟空

「悟飯！」

それにヒットにジレンも！

これでみんな合流かな？」

魔人ブウ（善）

「悟空にベジータ達怪我してるのか！」

ブウが治してやる！」

ブウは皆の傷を治す

孫悟空

「助かったぞブウ！」

ベジータ

「まさか、お前に助けられるとは思わなかったな！」

——トキトキ都——

時の界王神

「さつきまで正常に戻ったのにまた歴史改変が起きてるわ！

本来の歴史ではダークマターは、

ドラゴンボールからマイナスエネルギーを吸収していただけだったのに、
改変の歴史では邪悪龍が！」

——惑星ダーク最深部——

ダークマター

「ようこそ勇敢なる戦士たちよ！」

孫悟空

「どこだ？」

ベジータ

「どこに隠れてる？」

ダークマター

「我は隠れてなどおらぬ！」

我はお前らの目の前にいるぞ！」

ピッコロ

「まさか？」

この巨大な黒い球体がダークマターの正体か？」

ダークマター

「その通りだよピッコロ大魔王！」

我は全ての悪、全ての負の感情が集まりし存在！」

ベジータ

「どんな凄惨な奴かと思って来てみれば、ふざけやがって！」

肉体も無いただの球体だとはな！」

ベジータ様が消し飛ばしてやる！」

喰らえピッコバンアタック！」

ベジータはスーパーサイヤ人ブルーでダークマターに攻撃

ダークマター

「何かしたか？」

ベジータ

「な、なに？馬鹿な？」

ダークマター

「戦いはまだ早いぞベジータ！

君たちにピッタリな戦士を用意してやる！」

ピッコロ

「あれはドラゴンボール？

何をする気だ？」

ダークマター

「邪悪龍を呼び出すのさ！」

ピッコロ

「な、なんだと？」

ダークマター

「やはり知っていたか！

ピッコロ大魔王いや先代地球の神よ！」

第104話 『ドラゴンボールの邪悪龍誕生!』

あらすじ

「ダークマター」の元に着いた悟空達。

ダークマターはドラゴンボールを使い何かをしようとしていた。

——惑星ダーク最深部——

ピッコロ

「ドラゴンボールを玩具にしやがって!」

孫悟空

「どうしたんだよピッコロ?」

ダークマター

「ピッコロいや先代の地球の神以外は知らんようだな!

ドラゴンボールは災いを招くものだ!」

孫悟空

「そういえば老界王神のじっちゃんと同じような事を言ってたな!」

ダークマター

「界王神がビビるのも当然だ！」

大昔、ドラゴンボールから出てきた邪悪龍によってナメック星を中心に周辺の惑星が次々とに滅びかけた！

だが、ビルスの前の先代の破壊神が邪悪龍と戦ったのだ！」

孫悟空

「昔のドラゴンボールの龍は悪いやつだったんか？」

ピッコロ

「そうではない悟空！」

孫悟空

「へえ？」

ダークマター

「お前たちはここ数十年で何回願えを叶えた？」

ドラゴンボールは願いを叶える度にプラスエネルギーが減っていき代わりにマイナスエネルギーが増えるという性質があつた！

本来マイナスエネルギーつまり負のエネルギーを浄化されるのに

100年以上の時を要する！

だからドラゴンボールは100年おきに使う事がベストとされている！

だが、お前たちはここ数十年で何回も願いを叶えた!

だからマイナスエネルギーは限界を超えたのだ!ボールをよく見ろ!

孫悟飯

「ボールにヒビが?」

ダークマター

「この前叶えたピッコロ大魔王復活と永遠の命という願いを境に

マイナスエネルギーは限界を超えたのだ!

ボールの中には邪悪龍という戦士が眠っている!

今から呼び出してやる!」

ピッコロ

「な、なに?」

ダークマター

「いでよ神龍!

そして願いを叶たまえ!」

孫悟空

「なんだあの黒い龍?」

ピッコロ

「あれが邪悪龍か？」

黒煙の龍

「よく呼び出してくれたな！」

ダークマター

「出たそうだったからな！」

黒煙の龍

「マイナスエネルギーの神様ダークマター様に呼び出されるとは思わなかった！」

ダークマター

「ここでは狭かろう、広い場所にワープしてやる！」

—— 惑星ダーク広いエリア ——

孫悟空

「何処だここは？」

ピッコロ

「どうやら惑星ダークの別の場所にワープさせられたようだ！」

黒煙の龍

「さあ、邪悪龍達よ現れろ！」

孫悟空

「黒い龍が7体に分裂したぞ!」

ベジータ

「な、なんだアイツらは?」

※七星龍は既にモグラに寄生してる状態です!

一星龍

「こんなにも早く外に出れるとはな!」

ベジータ

（ん?あの3体強そうだな!）

孫悟空

（特にあの白いヤツはあの2人よりも強そうだ!）

悟空とベジータが強そうに思ったのは、一星龍、三星龍、四星龍の3体である

一星龍

「二星龍、まずはお前から戦え!」

二星龍

「相変わらずリーダーらしくやがってまあいい!」

孫悟空よ、お前はウパというガキの事を覚えているな?」

孫悟空

「ウパ？ ああ覚えてるさ！」

二星龍

「オレは桃白白に殺されたウパの父親を生き返らせる願いによる
マイナスエネルギーで誕生した邪悪龍だ！」

孫悟空

「なんだって？」

「おめえたち邪悪龍は願いと同時に生まれたんか？」

一星龍

「その通りだ孫悟空！」

二星龍

「孫悟空、ベジータそれと他の雑魚ども、

この二星龍が最初の相手とは運が悪かったな！ ハハハハハ！」

カリフラ

「アタシらが雑魚だと？ 舐めやがって！」

孫悟空、ベジータ、コイツはアタシがやる！」

ベジータ

「ちっ、奴の挑発に乗りやがって！」

勝手にしろー!」

二星龍

「女の雑魚が相手か!」

カリフラ

「はぁー!」

カリフラはスーパーサイヤ人2に変身

カリフラ

「波ー!」

カリフラと二星龍の戦いが始まり、最初カリフラが圧倒していたが、徐々に押され始

める

カリフラ

「どうなってやがる?」

急に強くなってるのか?」

二星龍

「やっぱり雑魚じゃないか!ハハハハハ!」

ケール

「波ー!」

二星龍

「痛いなもう！」

雑魚が雑魚を助けに来たか？」

ケール

「姉さん大丈夫ですか？」

カリフラ

「すまねえケール！」

第105話 『ドラゴンボールの二星龍と五星龍!』

あらずじ

「ダークマターによって目覚めた

ドラゴンボールのマイナスエネルギーから生まれた邪悪龍。

果たして邪悪龍を倒せるのか？」

—— 惑星ダーク広いエリア ——

ケール

「はあー！」

カリフラ

「はあー！」

二星龍

「どんだけパワーを上げても無駄だ！」

五星龍

「二星龍、オレも力をかそう！」

カリフラ

「なんだお前は？」

五星龍

「オレは五星龍だ？」

孫悟空

「なあ、おめえ？おめえは何の願いで生まれたんだ？」

五星龍

「オレは、お前の兄ラディッツに殺された

孫悟空貴様を生き返らせるといふ願いで生まれた邪悪龍だ！」

孫悟空

「そうか！」

おめえはオラの命の恩人ちゆうわけか！」

カリフラ

「孫悟空コイツらの話は終わったか？」

孫悟空

「すまねえなカリフラ！」

オラの話は終わった！続けてくれ！」

カリフラ&ケール対二星龍&五星龍の戦いが始まるが、やはり押されていた

五星龍

「ドラゴンサンダー!」

カリフラ&ケール

「うああー!」

ベジータ

「カカロット!」

孫悟空

「ああ、やっぱ、何かがおかしい!」

五星龍

「サイヤ人というのは間抜けな種族だな!」

ベジータ

「それはどういう意味だ?」

五星龍

「二星龍は邪悪龍の中でも一二を争うほど最弱戦士だ!

あの小娘達が遊ばず本気で戦っていれば簡単に倒す事ができたはずだ!

だが、ある能力で相手との力の差を変えるのさ!」

孫悟飯

「どういう事ですか？」

五星龍

「二星龍は毒素を操り周辺の空気を毒で充満させ相手の気のコントロールを悪くさせるのさ！」

孫悟飯

「なんだって？」

二星龍

「五星龍、オレの能力をペラペラと！」

「まあ良い！そのメス猿は電池切れだ！」

キャベ

「カリフラさん、ケールさん、大丈夫ですか？」

二星龍

「お前たちは変身はできてもオレには勝てん！ハハハハハ！」

孫悟飯

「はあー！」

悟飯はアルティメット化に変身

孫悟空

「はあー!」

ベジータ

「はあー!」

悟空とベジータはスーパーサイヤ人に変身

悟空、悟飯、ベジータは二星龍&五星龍に攻撃するが

ベジータ

「馬鹿な?」

二星龍&五星龍

「無駄だ!」

ベジータ

(毒素は表面に出てる気のコントロールをおかしくする、

つまり内側に気を貯めるブルーなら?)

ベジータ

「おいカカロット、ブルーになれ?」

孫悟空

「ブルーに? だけど!」

ベジータ

「いいからなりやがれ！」

孫悟空&ベジータ

「はぁー！」

悟空とベジータはスーパーサイヤ人ブルーに変身する

一星龍

「それが最近噂に聞くスーパーサイヤ人ブルーか？」

四星龍

「なかなか楽しめそうだな！」

ベジータ

「思った通りだ！」

孫悟空

「なんでブルーになれたんだ？まあ良いか！」

ベジータ

「いくぞカカロット！」

孫悟空

「ああ、ベジータ！」

悟空とベジータはブルーとなり毒素の影響を受けず、二星龍と五星龍に攻撃

五星龍

「ドラゴンサンダー!」

孫悟空

「そんなもんオラ達には効かねえ!」

孫悟空&ベジータ

「波ー!」

悟空とベジータは二星龍と五星龍を倒す

一星龍

「二星龍と五星龍は邪悪龍の中でも最弱組だったからな!」

一星龍は、二星球と五星球を取り込む

孫悟空

「な、何をした?」

一星龍

「二星龍と五星龍を吸収したのさ!」

次は六星龍と七星龍、お前達が戦え!」

七星龍

「オレはベジータ貴様が天下一武道会で殺した観客を

生き返らせるといふ願いで生まれた邪悪龍だ！」
ベジータ

「ちっ、あの時か！」

孫悟空

「おめえは何の願いで生まれたんだ？」

六星龍

「教えるつもりは無い！」

孫悟空

「そんなこと言わずに教えろよ！」

六星龍

「ギャル、ギャルのパンティー！」

一同

「はあ？」

孫悟空

「そりあ、ウーロンの願いやねえか！」

「ハハハハ懐かしいな、その願い！」

六星龍

「ぐたらん願いでドラゴンボールを使いやがって!」

七星龍

「ベジータ、オレと戦うか?」

ベジータ

「待て、オレは貴様のような雑魚ではなく一星龍お前と戦いたい!」

一星龍

「オレと戦いたいか? 断る!」

ベジータ

「なに?」

三星龍

「そんなに強い奴と戦いたいなら私が相手になってやろうベジータ!」

四星龍

「なら私は孫悟空貴様と戦おう!」

「オレは他の邪悪龍より貴様の事を知っているつもりだ!」

第106話 『ドラゴンボールの六星龍と七星龍!』

あらすじ

「残された邪悪龍はあと5体。

今、4体の邪悪龍との戦いが始まるうとしていた。」

——惑星ダーク広いエリア——

孫悟空

「オラの事を知ってるだど?」

四星龍

「私は四星球の邪悪龍だからな!」

孫悟空

「じっちゃんの形見か!」

四星龍

「孫悟空もう一度スーパーサイヤ人ブルーとやらを見せてみろ!」

孫悟空

「おめえや、おめえに似たアイツと一星龍って奴が強そうだからな!」

四星龍

「やはり気付いていたか!」

孫悟空

「なら見せてやる!はあー!」

悟空は再びスーパーサイヤ人ブルーに変身

場面変わり

六星龍

「烈風真空斬!

旋風回転刃!」

ピッコロ

「風で攻撃だと?」

六星龍

「ピッコロいやお前の中の神には感謝している!

アンタは私たちの生みの親のものだからな!」

ピッコロ

「だが、お前はウーロンさんの願いで生まれた邪悪龍なんだろう?

生みの親はウーロンじゃないのか?」

六星龍

「黙れ！」

くだらん願いでドラゴンボールを使いやがってー！」

六星龍は女神のような姿からドラゴンのような姿に変身

ピッコロ

「それが貴様の正体か？」

七星龍

「六星龍の奴、気合が入ってるな！」

で、オレとは誰が戦うんだ？」

孫悟飯

「ボクが相手だ！」

七星龍

「孫悟飯貴様か！」

孫悟飯

「お前を生み出した原因はボクに責任がある！」

七星龍

「どういう事だ？」

孫悟飯

「あの時セルの戦いで死んだお父さんが1日だけ

この世に戻って来る日で天下一武道会に参加していた!

ベジータさんはお父さんとの戦いを楽しみにしていたが、

魔導師バビディの魔人ブウ復活の騒ぎで大会は中断して敵のアジトにやって来た!

お父さんとベジータさんは次々と敵を倒していった!

しかし、ボクはセルの戦いから7年間勉強の日々で

あまりトレーニングをせず、戦いのカンを失っていた!

なかなか敵を倒せないボクの戦いにイライラしていたベジータさんを

バビディは利用して、ベジータさんを操ろうとして、あの悲劇が起きた!

ボクがちやんとトレーニングをすれば、ベジータさんが操られることもなく、

天下一武道会の会場の人達が死ぬ事も、

魔人ブウ復活だって阻止できたかもしれない!今でも後悔している!」

ベジータ

「: : !」

七星龍

「それがなんだと言うんだ?」

孫悟飯

「せめてお前をこのボクが倒すのさ！」

「はあー！」

悟飯は最大限にパワーを上げ七星龍をあつさり倒す

七星龍

「オレが殺られるとはあー！」

一星龍は七星球を取り込む

場面変わり

ピッコロ

「コロコロと姿を変えやがって」

六星龍

「烈風真空斬！旋風回転刃！」

ピッコロ

「うあああ！」

17号

「苦戦しているようだな！」

18号

「私たちも手を貸すよ!」

ピッコロ

「すまない!」

ピッコロ&17号&18号

「波——!」

ピッコロ、17号、18号は同時に六星龍に攻撃する

ピッコロ

「なんだと?」

3人同時攻撃でも効かないのか?」

17号

「ん?おい2人とも聞いてくれ!」

18号

「何かわかったのかい?」

17号

「ああ、奴の竜巻技、奴の頭上だけ無防備だったぞ!」

ピッコロ

「なんだと?」

ならそこに攻撃を撃ち込めば！」

六星龍

「何を話している？」

17号

「ピッコロお前は奴の頭上に大きな一撃をぶつけろ！」

オレと18号は奴の注意を引く！」

ピッコロ

「わかった！」

ピッコロは六星龍の頭上に行き気を貯める

ピッコロ

「魔貫！」

17号&18号

「波——！」

六星龍

「無駄だと言っているのかわからんのか？」

17号

「それはどうかな？」

188号

「アンタはもう終わりだ!」

六星龍

「なんだと?」

「い、いつの間に頭上に?」

ピッコロ

「覚悟は良いか?」

魔貫光殺砲!」

六星龍

「馬鹿なあー!」

「私が殺られるとは!」

一星龍

「六星龍も敗れたか!ふん!」

一星龍は六星球を取り込む

第107話 『ドラゴンボールの三星龍と四星龍!』

あらすじ

「ダークマターによってドラゴンボールから出現した邪悪龍。

7体のうち4体を倒した悟空達、残るは3体の邪悪龍だった。」

——惑星ダーク広いエリア——

孫悟空

「やっぱり強いな、おめえ!」

四星龍

「お前もな孫悟空!」

孫悟空

「こりゃ、力の温存は難しそうだな!」

四星龍

「そういう事だ孫悟空!」

ベジータ

「何よそ見してやがる!」

三星龍

「せっかちですね！」

まあ、私もなんですが！波ー！」

ベジータ

「なんだこれは？」

三星龍はベジータを氷漬けにする

三星龍

「さてと弟を援護するか！」

一星龍

「三星龍の奴、四星龍にトドメをさせるつもりだな！」

面白いハハハハ！

ジレン

「で、貴様はずっと高みの見物か？」

トツポ

「お前からは三星龍と四星龍以上の力を感じる！」

更に仲間を吸収してパワーアップしたか？」

一星龍

「第1宇宙のジレンとトツポだったか？」

何の用だ？」

トツポ

「孫悟空とベジータはあの邪悪龍相手に手一杯だから

私達が相手をしようと思ってな！」

今、お前とまともに戦えるのは私とジレンだけだ！」

フリーザ

「なんだか、私が気絶している間に随分面白そうなことになってるじゃないか？」

孫悟飯

「フリーザなぜお前が？」

孫悟空

「フリーザだって？」

三星龍

「隙あり！」

孫悟空

「何だこれは？」

三星龍は悟空を氷漬けにする

フリーザ

「おやおや、孫悟空が氷漬けになるとは？」

「でアナタが親玉のようですね！」

一星龍

「まさかお前に会えるとは思わなかったぞフリーザ！」

フリーザ

「私を知っているようですね？」

四星龍

「兄貴、何の真似だ？」

「オレと孫悟空の戦いを邪魔をしやがって！」

三星龍

「兄に向かってなんですかその口の利き方は？」

四星龍

「オレは自分の実力で自分の技で孫悟空を倒したかったんだ！」

三星龍

「相変わらず甘いことを！」

ベジータは既に氷漬けにしています！

あとは四星龍アナタのバーストアタックで粉々にしなさい！」

孫悟飯

「三星龍なんて奴なんだ？」

四星龍

「オレはこんな勝ち方はしたくない！」

三星龍

「アナタは甘いんですよ！」

勝ち方に綺麗も汚いもありませんよ！

ようは、勝てばなんでも良いんですよ！

さあ、早くトドメをさしなさい！」

場面変わる

一星龍

「オレは地球のドラゴンボールでフリーザ一味に殺された者たちを

生き返らせるといふ願いのマイナスエネルギーから生まれた邪悪龍だ！」

フリーザ

「なるほど、つまり私が産み親のようなものですか？」

一星龍

「そういう事だ!」

フリーザ

「なら私がアナタと殺してさしあげます! はあー!」

一星龍

「それがスーパースイヤ人ブルーに匹敵するゴールデンフリーザか?」

フリーザ

「喰らいなさい! 波ー!」

一星龍

「くだらん攻撃だ!

フルパワー状態なら楽しめたな!

烈風真空斬! 旋風回転刃!」

フリーザ

「ぎゃあああああああああ!」

フリーザは一星龍の攻撃で宇宙に飛ばされた

孫悟飯

「あのフリーザがあつさり倒されるとは!」

——惑星ダーク付近——

フリーザ

「ぎゃあああああああああ！」

ビルスとウイスを横切る形でフリーザは遠くに飛ばされていた
ビルス

「な、なんだ？」

今のは！」

ウイス

「どうやら、今のはフリーザさんのようです！」

何者かに飛ばされたようですね！」

ビルス

「なにー！」

ウイス

「まあ、フリーザさんならあれでも生きてるでしょうね！」

——宇宙のどこか——

フリーザ

「はあはあはあ！なんてパワーだ？」

死ぬかと思った！

だが、孫悟空の身勝手の極意に一星龍との戦いでダメージを受けすぎた!

惑星フリーザに戻って体を回復しないと!」

——惑星ダーク広いエリア——

四星龍

「バーストアタック!」

三星龍

「ハハハハハ!」

これで孫悟空とベジータは死んだ! な、何?」

孫悟空

「やっとな動けるぜ!」

ベジータ

「覚悟は良いか?」

三星龍

「四星龍これはどういう事ですか?」

私はトドメをさせと!」

四星龍

「...!」

孫悟空

「三星龍、さつきから四星龍に甘い甘いつて！」

おめえの方が甘くないか！」

ベジータ

「トドメは自分でさすんだな！」

第108話『ドラゴンボールの超一星龍!』

あらすじ

「三星龍の攻撃を受けピンチかと思われた

悟空とベジータであったが、果たして三星龍、そして四星龍と

一星龍を倒す事ができるのか?」

——惑星ダーク広いエリア——

三星龍

「なら、今度は誰にも頼らず私自らの技でお前達にトドメをさそう!

もう一度喰らうが良い!」

三星龍は悟空とベジータを氷漬けにする

孫悟飯

「お父さん、ベジータさん!」

ピッコロ

「あの馬鹿どもがまともに技を喰らいやがって!」

三星龍

「さて、お望み通り、自らの攻撃でトドメをさしてやる！死ねー！」

三星龍は氷漬けの悟空とベジータに攻撃

三星龍

「ハハハハ遂に孫悟空とベジータは死んだ！

な、何？そ、そんな？」

孫悟空

「残念だったな！」

オラには1度見たり喰らった技は2度通用しないんだ！

おめえの技を喰らう前にとっさに気のバリアを使った！」

ベジータ

「サイヤ人を舐めるかよ！」

ピッコロ

「おどかしやがって！」

少しヒヤツとしたぞ！」

孫悟空

「おめえ、四星龍より弱いだろ？」

ベジータ

「カカロット!」

コイツはオレの獲物だ!

貴様はさつさと四星龍と決着をつけやがれ!

三星龍

「私も舐められたものですね!」

ベジータ

「このクソ野郎が!」

ファイナルフラッシュ!」

三星龍

「そんなこの私がぎゃああああああああ!」

場面かわる

一星龍

(流石に強いな!このままでは!

ん?三星龍がやられたか!なら!)

一星龍は三星龍を取り込む

ジレン

「また、取り込んだか!」

場面かわる

孫悟空

「やっと邪魔が居なくなつたな！」

四星龍

「ああ！」

孫悟空

「邪悪龍にも良い奴が居るんだな！」

四星龍

「私はただ自分の力で勝ちたかっただけだ！」

孫悟空

「よし、決着つけるぞ！」

四星龍

「ああ！ぐああ！」

四星龍は背後から謎の攻撃を受ける

一星龍

「ふん！」

四星龍

「一星龍、貴様!」

孫悟空

「おめえ、四星龍をまるで虫けらのように!」

一星龍

「四星龍は邪悪龍の中でマイナスエネルギーが不完全だったからな!

だが、おかげで私は全ての邪悪龍の力を手にしたわけだ!」

一星龍は全ての邪悪龍を取り込み超一星龍に覚醒

孫悟飯

「凄い気だ!」

トツポ

「邪悪龍の力を全て吸収してジレンと互角になったか!」

超一星龍

「喰らえ、邪悪龍のマイナスエネルギーを凝縮したパワーボールだ!」

超一星龍はマイナスエネルギーパワーボールを放つ

ジレン

「波!」

超一星龍

「やはり、この俺の攻撃を受け止めるかジレン！」

トツポ

（ん？ 奴の気が少し上がった！

なんだあの黒いオーラは？

オーラはあつちからダークマターの仕事か！）

孫悟空

「今はジレンが攻撃を耐えてるけど、このままだとやべえぞベジータ！」

ベジータ

「そんな事言われんでもわかってるカカロット！」

ジレン

「波——！」

超一星龍

「パワーボールを跳ね返したか！

流石だなジレン！」

トツポ

「ジレン——！」

トツポはジレンに耳元で話す（作戦会議）

超一星龍

「何をコソコソ話している!」

ジレン

「わかった!

だが無理はするなよ!」

トツポ

「ああ、ジレンも気を付けろ!」

トツポは別行動をする

超一星龍

「どこに行く!」

ジレン

「お前の相手はオレだ!」

ジレンと超一星龍の戦いは始まるが互角の戦いを繰り広げ決着がつかない

孫悟空

「ベジータこのままだとジレンと一星龍は決着がつかないぞ!」

ベジータ

「ああ!ちつ、仕方ない!

カカロット、フュージョンするぞ！」

孫悟空

「え？」

ベジータ

「フュージョンするのか？しないのか？はつきりしやがれ！」

孫悟空

「まさか、おめえの口からフュージョンすると聞けるとは思わなかったぞ！」

ベジータ

「ちっ、そんな事か！さっさと準備しやがれ！」

孫悟空

「ああ！」

悟空とベジータはブルーからノーマル状態に戻る

孫悟空&ベジータ

「フュージョン波ー！」

ズレン

「パワーが互角だとなかなか決着がつかないな！」

ゴジータ

「ジレン、後はオレに任せろ！」

超一星龍

「貴様、何者だ？」

第109話 『ゴジータブルーvs超一星龍!』

あらすじ

「全ての邪悪龍を吸収した一星龍は、ジレンと互角の力を手に入れた。

だが、影でダークマターが一星龍にマイナスエネルギーを送っていた。そんな中、悟空とベジータはフュージョンする。」

——惑星ダーク広いエリア——

ゴジータ

「オレか？オレは悟空でもベジータでもない！」

オレは貴様を倒す者だ！

そしてこれがゴジータブルーだあー！」

ジレン

「お前達合体したのか！」

超一星龍

「合体したところでオレの敵ではないがな！」

ゴジータ

「それはどうかな!」

超一星龍

「な、なんだ?」

ゴジータ

「オレのパンチに耐えたか、流石だな!」

超一星龍

「パンチ?何のことだ?」

ゴジータ

「そうか!貴様には見えなかったか!

なら、今度はゆつくりとパンチをお見舞いしてやる!」

超一星龍

「ふざけるな!」

——惑星ダーク最深部——

ダークマター

「ゴジータと一星龍か!」

「奴らには見えない因縁がある!」

ベビーを連れてきた並行世界の少し未来でもドラゴンボールから邪悪龍が現れる!

そして一星龍はスーパーサイヤ人4のゴジータと戦うことになる！
結果は一星龍が負けたが、

この世界のスーパーサイヤ人ブルーのゴジータには通用するか？」

トツポ

「やっと思つけたぞ！」

孫悟空達には悪いが、私がお前を倒す！」

ダークマター

「第一宇宙の破壊神見習いか！」

トツポ

「私を知っていたか！」

ダークマター

「我は全ての神を消去した暗黒世界創造を目指しているからな！」

トツポ

「暗黒世界とは物騒な名前だな！」

—— 惑星ダーク広いエリア ——

超一星龍

「馬鹿な！」

ゴジータ

「おめえは、もう終わりだ!」

超一星龍

「オレは終わらん!」

全ての邪悪龍達をオレに力を貸してくれーパワーボール!」

一星龍は超特大パワーボールを放つ

ゴジータ

「ビックバンかめはめ波!」

ビックバンかめはめ波とパワーボールが撃ち合う

超一星龍

「な、なに?」

押されるだど!」

ゴジータ

「波!」

6つのドラゴンボールは散らばる

孫悟飯

「これはドラゴンボール?」

ピッコロ

「やったのか？」

ジレン

「いや、まだだ！」

一星龍

「おのれ！」

ゴジータ

「しぶとい野郎だ！

だが、これで貴様も終わりだ！

ビックバンかめはめ……」

孫悟空

「あれ？」

ベジータ

「どうなってやがる？」

孫悟空

「おかしいな、ブロリーの時は30分続いたのになんでだ？」

ベジータ

「どうやら、かめはめ波と違ってビツクバンかめはめ波は
体力の消耗が激しいようだな!」

孫悟空

「ああ、それにあの時はスーパーサイヤ人から徐々に体を慣らしたが、
今回はいきなりスーパーサイヤ人ブルーになったからな!」

ベジータ

「なるほど、それで体力が持たず15分ほどでフュージョンが解けたのか!」

一星龍

「あと一步のところまで合体が解けるとは残念だったな!」

ベジータ

「随分と余裕そうだな!」

「だが、貴様はかなりダメージを受けている!」

孫悟空

「今なら合体しなくても勝てるぜ!」

ヒット

「油断するな孫悟空!」

孫悟空

「油断なんてしてないさ！」

一星龍

「再び集まれ邪悪龍達よ！」

一星龍は再びドラゴンボールを吸収

孫悟空

「おっと、コイツだけは渡せないぜ！」

これはじつちゃんの形見だからな！

おめえに取られるぐらいならオラが食ってやる！」

悟空は四星球を食べる

ピッコロ

「あの馬鹿が！」

魔人ブウ（善）

「あれ美味しいのか？」

—— 惑星ダーク最深处 ——

ダークマター

「歴史は違うが展開は似ているな！」

破壊神トツポ

「体が動けない!」

ダークマター

「神封じの呪いの効果はどうだ?

トツポよ残念だったな!

我には神の技は効かんのだ!」

破壊神トツポ

「おのれ!」

——惑星ダーク広いエリア——

超一星龍

「四星球を食べたか!」

孫悟空

「あいつダメージが回復してるぞ!」

ヒット

「ボールを取り込んだ事で回復したんだろ!」

ベジータ

「クソツタラー!」

ジレン

「だがアイツは不完全体だ！」

第110話 『孫悟空と四星龍の作戦!』

あらすじ

「圧倒的な力で一星龍を追い詰めたゴジータであつたが、

あと1歩のところまでフュージョンが解けてしまう。

一星龍と互角に戦えるのはジレンしかないのか?」

——惑星ダーク広いエリア——

一星龍

「たとえ、不完全であろうと、私と互角に戦えるのは、ジレンお前だけだ!

だが、ここはたくさんのマイナスエネルギーが流れ、私は無敵だ!」

ベジータ

「どいつもこいつも宇宙最強のサイヤ人をあつさり超えやがつて!」

一星龍

「ドラゴンサンダー!」

一星龍はジレン以外の戦士を吹き飛ばす

孫悟空

「このままじゃ勝てねえ!…ん?」

—— 悟空の精神世界 ——

孫悟空

「おめえは?」

カカロット

「お前なんでオレの中にいる?」

四星龍

「お前にもマイナスな存在が居るとはな!」

孫悟空

「まあ、色々あつてな!」

カカロット

「オレはコイツを追い出したくてウズウズしてるがな!」

四星龍

「まあ良い!それより、このままだと一星龍には勝てないぞ!」

孫悟空

「ああ!」

カカロット

「誰が死のうが俺には関係ない！」

四星龍

「お前うるさいな！」

カカロット

「なんだと？」

四星龍はカカロットをぶっ飛ばす

カカロット

「うあああああ！」

四星龍

「やっと静かになったか！」

孫悟空

「ああ、静かになった！」

もう1人のオラ、静かにしてくれ！」

四星龍

「オレも邪悪龍だからわかるんだこの惑星はマイナスエネルギーの宝庫だ！

このままだと、あのジレンという戦士も一星龍に勝てなくなる！」

孫悟空

「ああ！」

四星龍

「一星龍は私が倒す！」

孫悟空

「なんだって？」

四星龍

「奴に取り込まれた時、奴はオレの能力を使いこなせたわけではなかった！

だから、奴はオレの究極技「バーニングスピーン」の存在を知らない！」

孫悟空

「オラは何をしたら良い？」

四星龍は悟空に作戦を話す

孫悟空

「わかった！」

—— 惑星ダーク広いエリア ——

一星龍

「これでトドメだ！」

四星龍

「待て、一星龍!」

悟空から四星龍が現れる

一星龍

「四星龍?」

四星龍

「一星龍、孫悟空達はオレが始末する!」

一星龍

「良いだろう!」

孫悟空

「四星龍、なんで一星龍の味方するんだ?」

「アイツはお前を倒したんだぞ!」

一星龍

「残念だったな!」

四星龍はオレの中でたくさんマイナスエネルギーを浴び、

兄の三星龍同様に冷酷な邪悪龍になったのだ!」

四星龍

「そういう事だ!」

孫悟空、ベジータ、そして他の宇宙の戦士達よ、オレが始末してやる！」

四星龍は、悟空、悟飯、ベジータ、ケール、カリフラ、ヒットを吹き飛ばすがジレンは耐える

ジレン

(四星龍のスピードはかなりのものだ！)

だが、攻撃が弱いのはなぜだ？

ん？孫悟空から現れた！まさか？そういう事か！)

ジレンはその場に座りめいそうを始める

一星龍

「どうやら完全に甘さは無くなったようだな！」

一星龍はその場に座る

ベジータ

「ふざけやがって！」

ベジータと四星龍がスピード対決をするがベジータ配信負ける

四星龍

「お前にはオレのスピードには着いていけない！」

ベジータ

「クソツタレー！」

一星龍

(四星龍の奴、なにを遊んでやがる)

四星龍

「これで終わりにしてやる！」

一星龍

「やつと終わりか！」

四星龍&孫悟空

「お前がな！一星龍！」

一星龍

「なんだと？」

四星龍

「お前を倒すには、お前を油断させ隙を作る必要があつた！」

一星龍

「何故だ？」

お前はオレの中でマイナスエネルギーをたくさんの浴びたはず？」

四星龍

「孫悟空が目覚めさせてくれたのさ！」

一星龍

「なんだと？」

孫悟飯

「そうか、お父さんの中に流れるプラスパワーが四星龍を元に戻したんだ！」

四星龍

「一星龍、これで終わりだ！」

バーニングスピーン！」

四星龍はバーニングスピーンを使い、灼熱の結界に一星龍を自分が入る

第111話『身勝手の極意発動、一星龍の最後!』

あらすじ

「悟空から現れた四星龍は究極技の

バーニングスピンを一星龍に放ち、

一星龍に決着をつけようとしていた。」

——惑星ダーク広いエリア——

一星龍

「ほう、まだこんな技が残っていたのか?」

四星龍

「お前は取り込んだ邪悪龍の能力を全て使いこなせていなかった!

現にオレのこの技の存在を知らない!」

一星龍

「四星龍、調子に乗るなよ!

こんな結界に閉じ込めたぐらいで勝ったつもりか?

結界をぶち破ってやる!」

場面かわり

ベジータ

「どうなつてやがる！」

孫悟空

「アイツは一星龍を倒すつもりだ！」

ベジータ

「なんだと？」

だが、パワーでは一星龍の方が上だぞ！」

孫悟空

四星龍は言つてた！

一星龍は邪悪龍の全ての力を使いこなせてるわけではないと！」

ベジータ

「なるほど、そこに勝機があるというわけか！」

灼熱の結界が爆発する

ベジータ

「な、なんだ？」

「やったのか？」

カリフラ

「すげえ爆発がしたぞ？」

「これじゃ、どっちも！」

ケール

「姉さん、アレを？」

ケールは赤いバリアに指を指す

カリフラ

「ん？アレは？」

ベジータ

「ちっ、しぶとい野郎だ！」

孫悟空

「まて、ベジータ！」

「アレは四星龍だ！」

「四星龍の奴がやりやがったんだ！」

ピッコロ

「終わったのか？」

孫悟空

「四星龍、やったな！」

四星龍

「すまん、孫悟空！」

孫悟空

「ん？なんで謝るんだ？」

四星龍の体が割れ始め超一星龍が現れる

孫悟空

「どうなってるんだ？」

超一星龍

「中で何が起きたか教えてやろう！」

——「一星龍の回想シーン」——

四星龍

「この結界から出たいなら、結界に攻撃するが良い！」

だが、少しでも衝撃を与えたら、

結界は大爆発を起こし、いくら貴様でも無事ではすまんぞ！」

一星龍

「なんだと？」

四星龍

「私はお前を許さない!」

お前は1度私を殺した!

今度は私が貴様を倒す番だ!」

四星龍はバーストアタックの体制をする

一星龍

「貴様こそ、結界の大爆発に巻き込まれたら、無事ではすまんぞ!」

四星龍

「何故私がお前なんかと、粉々になるのはお前だけだ!覚悟!」

一星龍

「そうか、お前の体は無事なのか!なら」

一星龍は七星龍の能力を使い、四星龍の体に寄生する

四星龍

「な、なにをする!」

一星龍

「残念だったな!」

四星龍

「おのれー！」

回想シーン終わる

超一星龍

「とうわけで七星龍の力で四星龍の体に寄生したのさ！」

孫悟空

「おめえ、1度ならずも2度も四星龍を殺しやがって！」

孫悟空は身勝手の極意：完成形が発動する

※まだ、自由自在に使える訳では無い

超一星龍

「なんだ？ 雰囲気が変わった！」

ベジータ

「あれ？ 身勝手の極意！」

カリフラ

「キター、勝手にナントカ！」

ジレン

「孫悟空、再び限界を超えたか！」

孫悟空

「おめえは、謝っても許さないぞ!」

超一星龍

「今更、どんな変身をしようがオレには勝てん!ぐおああ!」

悟空は強烈な一撃を超一星龍に喰らわす

超一星龍

「なんだ、今のは?」

超一星龍は悟空に攻撃しますが、全て交わされる。

超一星龍

「何故当たらない!おのれ!」

邪悪龍達よ、オレに力を!」

孫悟空

「かめはめ波!」

超一星龍はパワーボールを放ち悟空のかめはめ波と撃ち合いになる

超一星龍

「押される!馬鹿な!このオレが!」

一星龍が消滅しドラゴンボールは浄化される

ビルス

「かなり苦戦していたようだな孫悟空！」

孫悟空

「ビルス様来てくれたのか！」

身勝手の極意が解け、ノーマル状態に戻る

ビルス

「ダークマターがボクに喧嘩を売ってきたから、破壊神直々に出向いたのさ！」

孫悟空

「そうなんか！」

浄化されたドラゴンボールはどこかに消える

孫悟飯

「ドラゴンボールが消えた！」

ピッコロ

「恐らく地球に戻ったのだろう！あるいは？」

魔人ブウ（善）

「悟空、ブウ、傷治してやる！」

孫悟空

「サンキュー、ブウ！」

他のみんなも治しをしてやってくれ!

魔人ブウ(善)

「オツケー!」

ブウは、悟飯、ベジータ、ピッコロ、17号、18号、キャベ、カリフラ、ケール、ヒツト、ジレンを治す

——惑星ダーク最深部——

孫悟空

「あれ?」

ダークマター

「邪悪龍を倒したか、だが、おかげで邪悪龍から負のエネルギーをたくさん吸収した! ドラゴンボールは龍王神界に消えたようだがな!」

第9章 『最終決戦ダークマターとの戦い編』（最終章）
第112話 『破壊神vsダークマター（前編）！』

あらすじ

「邪悪龍を全て倒し、残る敵はダークマターのみであった。

果たしてダークマターを倒し、

第7宇宙の平和を守る事ができるのか？」

——惑星ダーク最深部——

ピッコロ

「やはり、龍王神界に！なんて事だ！

ドラゴンボールは地球に戻らないのでこれでは二度と願いを叶えられん！」

ダークマター

「そういう事だ！

お前たちはドラゴンボールに頼りすぎた！」

ビルス

「そんな事はどうでも良い！」

キミがダークマターだね!

破壊神に喧嘩を売ったんだ!

覚悟してもらおうよ!」

孫悟空

「待ってくれよビルス様!

ダークマターはオラ達が倒す!」

ビルス

「ダメだ!ダークマター退治は破壊神の仕事だ!ボクが破壊する!」

ジレン

「ダークマター、トツポはどうした?」

ダークマター

「コイツか?」

トツポは意識を失っていた

ジレン

「トツポ...」

孫悟空

「どういう事だよ?」

ジレン

「トツポはマイナスエネルギーの影響で強くなりまくる一星龍を不審に思い、その現況であるダークマターを破壊しようと、

お前たちに黙ってダークマターに戦いを挑みに行っていた！」

孫悟空

「あのトツポが簡単にやられるとは！」

ベジータ

「只者ではないな！」

ビルス

「ダークマターが危険な存在だというのがわかっただろ！」

ボクが破壊する！」

孫悟空

「しようがねえーな！」

ビルス

「ダークマター、キミはボクの昼寝の邪魔や楽しみに取っていた

デザートを何度も何度も盗み、ちよっかいを出した！」

「これは神に対する侮辱に過ぎない！」

ダークマター

「神の分際で偉そうに！」

ビルス

「創造の前に破壊あり！」

ダークマターの球体にビルスは破壊をする

ダークマター

「ぎゃあああああああああ！」

ベジータ

「終わったのか？」

ビルス

「ウイス帰るぞ！」

ウイス

「はい、ビルス様！」

ビルス

「ん？」

ダークマター

「破壊神らしい仕事をして満足したか？」

ビルス

「どうなってる？」

ボクは破壊したはずだぞ！」

ダークマター

「残念だったな！」

我には私には俺には神の技は効かない！そして！」

ビルス

「う、動かない！体が！」

ピッコロ

「い、いかん！」

ダークマターは神封じの呪いを使ったんだ！」

ベジータ

「なんだと？」

孫悟飯

「だからトツポさんも！」

ダークマター

「我は魔族の神だ！」

破壊神ビルスは終わった！フハハハハ！」

ビルス

「おのれー！」

ビルスは意識を失う

ウイス

「…」

ダークマター

「支える神がいなくなれば天使も機能停止、そして界王神も！」

—— 界王神界 ——

界王神

「うあああああああ！」

界王神は悲鳴をあげ意識を失う

老界王神

「お、おい？」

界王神どうしたんじや？」

キビト

「界王神様、大丈夫ですか？」

老界王神

「これはまさか？」

丸い玉で惑星ダークの様子を確認する

老界王神

「なんとという事じゃ、ビルス様が神封じの呪いに…」

—— 惑星ダーク最深部 ——

孫悟空

「まさか破壊神にも神封じの呪いは効くんか？」

ジレン

「神封じの呪いとはなんだ？」

孫悟空

「え、えーと！」

ピッコロ

「オレが説明してやる！」

神封じの呪いは名前の通り、神を封じる封印技だ！

人間相手には効かんが、神の力を持った人間には有効だ！」

ジレン

「なるほど、それでトツポも神封じの呪いを受けたのか!」

シヤンパ

「な、なんだ?」

ビルスの奴が気絶してるじゃないか!」

孫悟空

「シヤンパ様、それに他の破壊神様まで!」

ダークマター

「破壊神が勢揃いか!」

これで神無き世界ができる!

暗黒世界の誕生だ!」

ベルモツド

「トツポがやられるとは! いったい何があつた! ビルスまでも!

状況は思っていたより悪いようだ!

ダークマター貴様は破壊神いや神にとって脅威だ!」

キテラ

「ちやつちやつと片付けようぜ!」

ジン

「待てキテラ、油断していたとはいえ、あのビルスがやられている！

ベルモツドの言う通りダークマターは危険な存在だ！慎重に行くぞ！」

イワン

「では、破壊神全員でいっせいに破壊したらどうか？」

シドラ

「なるほど！」

破壊神一同

「破壊！」

孫悟空

「破壊神の皆、破壊の技を止めてくれ！」

ダークマター

「もう遅い！破壊神は終わりだ！」

第113話 『破壊神vsダークマター（後編）！』

あらすじ

「遂にダークマターとの戦いが始まる中、

ビルスが神封じの呪いを受け、そして、他の宇宙の破壊神が集まる。

果たしてダークマターを倒せるのか？」

——惑星ダーク最深部——

ジーン

「これは？」

シヤンパ

「な、なんだ？」

キテラ

「体が動かないぞー！」

ベルモッド

「まさか？」

リキール

「神封じの呪い！」

ダークマター

「その通りだ！」

ベルモツド

「なるほど、それでトップやビルスの野郎がやられていたのか……」

ダークマター

「間抜けな破壊神どもが！フハハハハ！」

破壊神は全員は神封じの呪いにより意識を失い、全ての界王神も意識を失い倒れ、仕えの天使も機能停止

—— 第7宇宙の界王神 ——

老界王神

「まさか、ビルス様に続き他の宇宙の破壊神まで！」

つまり、界王神も神封じに落ちた！」

キビト

「何故、私たちは神封じの呪いにかからないのですか？」

老界王神

「お前さんは、界王神の弟子であり、正式な界王神ではないため、

ビルス様とも界王神とも命を共有していないため、
どちらかが倒れてもお前さんには影響は無い!」

キビト

「なるほど!」

では何故アナタは倒れないのですか?」

老界王神

「確かに、ワシもかつては界王神同様にビルス様と命を共有していた!」

だが、前にお前さんが界王神と合体していた時に話したと思うが、

ビルス様にゼットソードに封印された時点でワシは界王神を引退したことになった

!

だから、今のワシはビルス様とは命を共有しておらん!」

——惑星ダーク最深部——

ヒット

「まさか、破壊神全員が倒されるとは!」

ベジータ

「オレたちに勝ち目があるのか?」

孫悟空

「そんなのやってみねえーとわかんねーだろ！」
カリフラ

「孫悟空の言う通りだ！」

ダークマター

「なら、やってみるか？」

孫悟空

「ああ！いくぞ！はあー！！」

悟空はスーパーサイヤ人ブルーに変身

ピッコロ

「まて、悟空！」

神の力は使うな！」

孫悟空

「へえ？」

ジレン

「お前は馬鹿か？」

トッポや破壊神は神の力を使いやられた！」

孫悟空

「そうだったな!」

悟空はスーパーサイヤ人ブルーを解除する

ダークマター

「神の力に頼りすぎたなサイヤ人よ!

フハハハハ!」

孫悟空&ベジータ

「はぁー!」

悟空とベジータはスーパーサイヤ人3に変身する

※第118話までスーパーサイヤ人3状態

孫悟飯

「はぁー!」

悟飯は悟飯ビーストに変身する

キヤベ&カリフラ&ケール

「はぁー!」

キヤベとカリフラはスーパーサイヤ人2に、ケールは伝説のスーパーサイヤ人に変身

ピッコロ、17号、18号、ヒット、ジレンも気を限界まで解放する

ダークマター

「これはこれは、すごいパワーだ！」

だが、それでは我には私には俺には勝てない！絶対にな！」

ベジータ

「球体の分際で舐めやがって！」

ダークマター

「では戦いを始めよう！」

孫悟空

「皆、いくぞ！」

魔人ブウ（善）

「ZZZZZZ！」

孫悟飯

「ブウさん、寝ちゃってます！」

ベジータ

「ちっ、役に立つのか立たないのか！」

孫悟飯

「仕方ありません！」

「ブウさん抜きで行きましょう！」

孫悟空

「そうだな!」

悟空、悟飯、ベジータ、ピッコロ、17号、18号、キャベ、カリフラ、ケール、ヒット、ジレンはダークマターを囲い、攻撃を繰り返す

孫悟空&孫悟飯

「かめはめ波——!」

ベジータ&キャベ

「ギャリック砲——!」

ピッコロ

「魔貫光殺砲——!」

17号&18号

「波——!」

カリフラ

「波——!」

ケール

「波——!」

ヒット

「波——！」

ジレン

「波——！」

悟空達は、ダークマターにいつせい攻撃するが、球体にはヒビすらできない

孫悟空

「なんて硬さだ！」

大神官

「皆さん、苦戦しているようですね！」

孫悟空

「大神官様！」

それに全ちゃんも！」

ダークマター

「現れたか大神官と全王！」

全王（現代）

「キミ、好きかって暴れるから消す！」

全王（未来）

「キミ、ムカつくから消す！」

2人の全王

「ハイイ！」

全王はダークマターに消滅技を放つ

ダークマター

「うあああああああああああああああああ！」

第114話 『全王様 VS ダークマター!』

あらすじ

「ダークマターとの戦いに敗れた破壊神。

そして、悟空達の前に現れた大神官様と全王様、

果たしてダークマターとの戦いはどうなる？」

——あの世閻魔界——

死神様

「とうとうこの時が来たか！」

その前に、善閻魔と悪縁魔は揃っているな！」

閻魔大王

「はい、死神様！」

悪の閻魔大王

「死神様、大事な話とは？」

死神様

「恐らくお前たちと会うのは、これが最後になるだろう！」

閻魔大王

「それはどういう意味ですか？」

死神様

「私はダークマターとの過去の因縁にケジメをつけないといけない！」

2人の閻魔大王

「え？」

死神様

「その前にお前たちを1人の閻魔大王に戻す時が来た！」

もはや閻魔に善悪など要らん！

善閻魔、悪閻魔、お前たちは元々1人の真面目な事務人間だった！

ダークマターの事があり、1人の人間を2人に分裂させ、

お前たちの記憶をいじり双子の兄弟という設定にしたのだ！

だがどちらが双子の兄でどちらが弟かわからないだろ？」

閻魔大王

「確かに！」

悪の閻魔大王

「言われてみれば！」

死神様

「ではお前たちを一人の事務人間に戻す！」

見た目は今まで通り閻魔大王の姿のままだ！

記憶は両方の記憶を反映させるので、仕事に支障ないだろう！

では、始めるぞ！」

閻魔大王と悪の閻魔大王は一人の閻魔大王となった。

死神様

「これからのあの世はお前たちに託した！」

では、私が死んだら地獄ではなく大地獄に送ってくれ！」

死神様はこの世に瞬間移動する

閻魔大王

「死神様——！」

——惑星ダーク最深部——

全王（現在）

「疲れちゃったのね！」

全王（未来）

「疲れちゃったのね！」

ダークマター

「フハハハハ！」

耐えたぞ耐えたぞ！

そして、全王、アンタは神封じの呪いを受けた！」

孫悟空

「全ちゃんが負けた？」

ダークマター

「これは賭けだった！」

そもそも、神封じの呪いは相手の攻撃を喰らわなければ

仕掛けられないカウンター技！

強い生命力や永遠の命でもない限り使えない技だ！」

2人の全王は眠るように倒れる

大神官

「まさかこんな日が来るとは！」

大神官は機能停止

全王が倒れた事により、界王神見習い、元界王神、大界王、界王、惑星の神、ほぼ全ての神が意識を失い倒れる（死神様を除き）

——地球の神様の神殿——

デンド

「うあああああああああ！」

ミスターポポ

「神様大丈夫ですか——！」

神様——神様——！」

死神様が神様の神殿に瞬間移動に来る

死神様

「遂に全王様も神封じの呪いに！」

デンド

「あ、アナタは死神様！」

死神様は神様の神殿にバリアを放ち神封じの呪いを防いだ

デンド

「なんだか、楽になりました！」

死神様

「神封じの呪いを防ぐバリアをした！」

24時間は効果がある！

例え、私が死んでも24時間は大丈夫だ!

地球の神よアンタは彼らにとって必要な存在だ!

デンデ

「それはドラゴンボール?

でもドラゴンボールは龍王神界に?」

死神様

「私が龍王神界に移動したドラゴンボールを取り返してきた!」

デンデ

「あそこは外界と交流が切断された世界では?」

死神様

「確かにな!代償は大きかった!」

私がダークマターに敗れた時は、

ドラゴンボールでダークマターの1件で死んだ者を生き返らせるのだ!」

死神様

(だが私は生き返らない!)

死神様

「ダークマターとの決着の時が来た!」

——惑星ダーク最深部——

ピッコロ

「破壊神に続き、全王様まで神封じの呪いを喰らうとは！

オレが使っていた神封じの呪いとは次元が違うな！」

ダークマター

「当たり前だ！神封じの呪いは私が神に復讐する為に編み出した技だからな！」

ピッコロ

「なんだと？」

ダークマター

「ピッコロよ！お前がピッコロ大魔王に戻った時、

スラッグと同化させスパー悪のナメック星人になっていれば、

全王は無理でも破壊神は神封じの呪いをかける事は可能だった！

だが、ピッコロ大魔王とスラッグの同化計画は失敗に終わった！」

ピッコロ

「どういう意味だ？」

ダークマター

「おかしいとは思わなかったのか？」

何故、ピッコロ大魔王が復活したタイミングに

スラッグが地球に現れたか、疑問に感じなかったか？」

孫悟飯

「それは、ナメック星の最長老様が星を侵攻していた

スラッグを強すぎて倒せないから、

お父さんたちに倒してもらおうとポルンガでスラッグをワープさせたからだ！」

ダークマター

「確かにそうだが、私が最長老を操りポルンガに願いをさせた！」

地球のピッコロ大魔王とスラッグを同化させるためにな！」

だが、同化する前に孫悟飯お前にあっさり倒されてしまい計画は失敗した！

さつきも言ったが神封じの呪いは強い生命力や永遠の命でもない限り、

簡単に扱えない魔界の禁術！

我には2つの永遠の命がある！」

ピッコロ

「なんだと？」

まさか？オヤジやガーリックJrから永遠の命の能力を奪ったのか？」

ダークマター

「そういう事だ！これで神は消えた！」

第115話 『ザマスvsダークマター! (過去編)』

あらすじ

「全王がダークマターに敗れてしまい、

宇宙からほぼ全ての神が消えてしまった。

果たして悟空達はダークマターを倒せるのか？」

—— 惑星ダーク最深部 ——

ダークマター

「今ここに神様0計画完了だ！フハハハハ！」

ベジータ

「神様0計画か、まるでザマスとは真逆だな！」

ダークマター

「第10宇宙の見習い界王神か！」

孫悟空

「ザマスを知ってるんか？」

ダークマター

「ああ！」

奴が人間0計画に走るきっかけは我だといつても良い！」

ベジータ

「なんだと？」

ダークマター

「知つての通り、見習い界王神ザマスは、

人間は不要な存在と思っており、人間が嫌いだった！

これはお前たちや未来トランク스와似た並行世界のザマスの話だ！

スーパードラゴンボールで最強の肉体である孫悟空の体を手に入れたザマスは、

人間の悪の元凶とも言える存在、つまり我を倒せば、

人間から悪が消えれば人間を簡単に消せるのではないかと

考えザマスは、我に戦いを挑んできた！」

ダークマターの回想シーン

ゴクウブラック

「見つけましたよ！」

宇宙で最も醜い人間の悪の元凶とも言える存在ダークマター！」

ダークマター

「ただの海王神見習いではないと思っていたが、

界王神ゴワスを殺し、第10宇宙の界王神となるとはな!

更にスーパードラゴンボールで神の体を捨て人間である孫悟空の体を手に入れ、その力で、人間の悪の元凶である私を倒しに来たわけか!」

ゴクウブラック

「その通りだ!」

くだらん結界で神から隠れていたみたいだが、私は最強の体を手に入れた!

あとはダークマター貴様を倒すだけだ!」

ブラックはダークマターに攻撃するが球体にヒビが入らない

ゴクウブラック

「なんだと?」

この孫悟空のスーパーサイヤ人3の力でも倒せないのか?」

ゴクウブラック

(孫悟空のように神の力を使えばダークマターを倒せるというのに!)

ダークマター

「ザマスよ、残念ながら我には神の技は効かん!」

ゴクウブラック

(コイツ、私の声を！)

ダークマター

「我には神封じの呪いがある！

スパーサイヤ人ゴッドの力を使った瞬間にお前は神封じの呪いを受ける！

そして、人間が受ける神封じより、

元々神でいる貴様は更に強力な神封じを喰らう事になるだろう！」

ゴクウブラック

「どうやら、今の私ではダークマターには勝てないようだな！

だが、いつか必ず貴様を倒す！覚えていろ！」

ブラックは瞬間移動でその場を去る

ゴクウブラック

「こうなれば、全ての人間を消す「人間0計画」を実行する！

そうすれば、宇宙から人間が居なくなりダークマターも悪を吸い取れなくなり、弱体化するだろうー」

ゴクウブラック

(だが、この時代は危険だ！

派手に動き過ぎた！

まずは安全な時代に移動だ!」

ダークマターの回想シーン終わる

ベジータ

「ザマスが人間0計画に走ったのはただ人間を滅ぼすだけではなく、

ダークマターの弱体化も狙って居たのか!

だが、何故、別の歴史の事を知ってる?」

ダークマター

「簡単な話だ!

我は過去や未来はもちろん、並行世界にも行き来できるからだ!」

孫悟飯

「なんだって?」

ダークマター

「今、並行世界がいくつあるのかも知っているか?

この世界を含め7つ存在する!

だが、16年後には1つ世界が消滅するがな!」

ベジータ

「消滅? トランクスの世界か?」

ダークマター

「その通り！」

今は人造人間が暴れ孫悟飯が殺され、

トランクスがスーパーサイヤ人に覚醒したばかりの頃だ！

そうだろ、孫悟飯！」

孫悟空

「悟飯なんでおめえが未来の事を知ってるんだ？」

ベジータ

「そうか、あの時か！」

21号とかが動き出したあの時、セルと戦っていたはずの悟飯が、突然この世界から消えた！

その時に未来トランクスが居た並行世界に移動したんだな悟飯！」

孫悟飯

「は、い！」

あの時はびつくりしましたが、タイムパトロールのお父さんに

元の世界に帰してくれました！」

孫悟空

「だから、もう1人のオラの事を知ってたのか!」

ダークマター

「話はここまでにしようか!」

神無き今、あとは貴様らだけだ!

スーパーサイヤ人ゴッドも使えない!

神の力に頼りすぎたな!」

ベジータ

「クソツタレー!」

孫悟空

「だが、オラ達がやるしかねえ!」

ヒット

「そういう事だ!」

ジレン

「ああ!」

第116話 『オーツキ星と死神様！（過去編）』

あらすじ

「宇宙からほぼ全ての神が消えてしまった。

そして死神様とダークマターの因縁とは？」

——地球の神様の神殿——

死神様

（あれからどのくらい時間が経ったのか？）

デンデ

「死神様、どうしたんですか？」

死神様

「昔を思い出していた！」

デンデ

「昔ですか？」

死神様の回想シーン

死神様とある惑星で神の座を貰った頃

——惑星オーツキ神の神殿——

オーツキ星先代の神

「マシラウ、ウロタモモは揃っているな！」

ウロタモモ（後の死神様）

「はい！」

マシラウ

「揃っています！」

オーツキ星先代の神

「私の寿命はあと1000年ほどだろう！」

これより、2代目オーツキ星の神を発表する！

2代目神に相応しいのは「ウロタモモ」ソナタである！」

マシラウ

「お待ちください！神様いや父上！どういう事ですか？」

何故、私より劣る弟のウロタモモが神の座になるのですか？」

オーツキ星先代の神

「お前は確かに強い！」

だが、神は力だけでなれる者ではない！

力と愛を持った者が神の座に相応しい！

お前は神になる事に執着して大事な事を忘れた！

もう一度やり直しても遅くはない！」

マシラウ

「愛など不要！愛を失えば憎しみを生み出し、争いが生まれる！

私は愛無き力こそ全ての世界を作る！」

オーツキ星先代の神

「愚か者め！頭を冷やせ！」

数時間後

マシラウ

「おい、ウロタモモ今なら父上に頭を下げ神の座を辞退しろ！」

ウロタモモ

「それはできない！私は自分がどこまで神が務まるのか試してみたい！」

マシラウ

「お前には無理だ！辞退しろ！」

ウロタモモ

「いくら兄貴の頼みでも、これだけは譲れない！」

父上の期待に答えるつもりだ!」

マシラウ

「弟の癖に生意気な!」

謎の声 (後のダークマター)

「マシラウよ! ウロタモモを殺すんだ!!」

※謎の声はマシラウにしか聞こえませんが

マシラウ

「何だこの声は?」

オレがウロタモモを殺す?」

謎の声

「ウロタモモを殺せば、自動的にお前が神になれる!」

マシラウ

(そうか、弟が居なくなれば自動的に私が神になれる!

だが、そのためには時間と準備が必要だ!

しかし、なんなんだ? この謎の声は?)

謎の声

「我は私はダーク!

お前の味方だ！」

500年後

ウロタモモ

「兄貴、話とはなんだ？」

まだ、神の座を狙ってるのか？」

マシラウ

「いや逆だ！私は500年間お前の神の行いを見て、考えを改めた！

お前は2代目神にふさわ……」

ダーク

「そうだ！ウロタモモを殺すんだ！殺せばお前は神になれる！

新たな悪の神ダークマターとしてな！」

マシラウはウロタモモの不意をつき体を貫く

ロタモモ

「あ、兄貴なにを？」

マシラウ

(謎の声ダークに導かれ殺してしまったが、私はもう昔の私ではない！)

マシラウ

「2代目神に相応しいと言うと思っていたか、弟よ! 私は認めん!

弟が兄を差し置いて神になるなんて!

だから、さっさと死ね! アバよくそ弟よ! フハハハハ!

1時間後

マシラウ

「父上、何者かに弟が殺されました!」

オーツキ星先代の神

「なんだと?」

——あの世無法地帯——

ウロタモモ

「ん? ここはどこだ? そうか、私は現世で兄貴に! つまり、ここは黄泉の国?」

この時代には閻魔大王も居なく、天国も地獄も存在せず悪人が善人を支配していた

ウロタモモ

「なんだ、この世界は? まるで、酷い世界だ! 黄泉の国は楽園じゃなかったのか? なら、私が死人が平和に暮らせる世界を作る!」

そして、ウロタモモは初代界王神様から死神様の地位をもらい、今のあの世の仕組みを作り出す

死神様の回想シーン終わる

死神様

「兄貴！」

デンデ

「悟空さん達はダークマターを倒せるでしょうか？」

死神様

「恐らく難しいだろう！」

今から孫悟空達の応援に向かう！

もう二度と会うことはないだろう！」

死神様は瞬間移動で移動

——惑星ダーク最深部——

ダークマター

「もう終わりか？」

孫悟空

「やつにはダメージが入らないのか？」

ベジータ

「いや、永遠の命があろうがダメージは受けるはずだ！」

だが、オレたちの攻撃が弱すぎる！」

ヒット

(ベジータの言う通り奴にもダメージ？ん？そうか！)

ヒット

「おい、お前たち奴にダメージを与える方法がわかったぞ！」

ベジータ

「なんだと？」

ヒット

「さっきまでは奴を囲んで攻撃してたが、攻撃を1箇所を集めるんだ！」

ベジータ

「ん？なるほど、そういう事か！」

孫悟空

「どういう事だ？」

ベジータ

「とにかくヒットの言う通りにやれ！」

第117話 『ダークマターのカラクリ!』

あらすじ

「ダークマターに苦戦していた悟空達だったが、

ヒットの作戦とは?

果たしてダークマターにダメージを与えることができるのか?」

——惑星ダーク最深部——

ダークマター

「何をしようが我を倒すこともダメージを与える事も不可能だ!」

ベジータ

「そうやって余裕ぶつてるのも今のうちだ!」

悟空、ベジータ、悟飯、ピッコロ、17号、18号、キャベ、カリフラ、ケール、ジレンはダークマターの球体の1箇所集中攻撃を始める

ダークマター

「何をしようが無駄だ!」

ん? な、なに?」

ベジータ

「奴の球体にヒビが入ったぞ!」

孫悟空

「何が起きたんだ?」

ベジータ

「ヒットの作戦は奴の球体の全体ではなく1箇所

攻撃を集中すればダメージが入ると考えたんだ!」

孫悟空

「なるほど!」

ヒットすげえーなあ!」

ヒット

「はあはあはあ!」

ベジータの回答は半分正解だ!」

ベジータ

「なーに?」

ヒット

「はあはあはあ！」

奴はこれまでの攻撃は効かなかったのは、オレたちが弱いのではなく、当たっていなかった！」

ベジータ

「なんだと？」

ヒット

「はあはあはあ！」

奴は攻撃が当たった瞬間に攻撃を別空間に飛ばしていた！

空間飛ばしと言ったところか！

奴の不死身なカラクリはそういう事だ！」

ダークマター

「確かに殺し屋ヒットの言う通り、

我はお前たちや破壊神は勿論、全王の攻撃も別空間に飛ばしていた！

だが、我が永遠の命があるのは事実！

ヒットよ、どこで我のカラクリを見破った？」

ヒット

「はあはあはあ！」

おかしいと思ったのは、孫悟空やジレン達の攻撃には

球体にひとつも傷が付かなかった事、

だが俺の時飛ばしによる攻撃では一瞬だけ傷がついた事!

最初は貴様の言う通り、永遠の命の力でダメージを回復していたと思っただ、
何度も攻撃してうちにある仮説ができた!

それは、ダークマターには、防げる攻撃と防げない攻撃があるという事だ!

孫悟空

「どういう事だよヒット!」

ヒット

「はあはあはあ!」

つまり、ダークマターはオレの時飛ばしの攻撃は

別空間に飛ばすせないという事だ!

ベジータ

「なるほど、今回、ダークマターの球体にダメージを与えられたのは、
オレたちの攻撃をヒットが時飛ばしで飛ばし続けたという事か!」

孫悟飯

「それでヒットさんの息が急に荒くなったんですね!」

ん?なんかオラが最後に倒した魔人ブウに似てるが少し姿が違うぞ!
シッポなんてあるし!」

孫悟飯

「あの魔人ブウはボクやゴテンクスを吸収した魔人ブウと
人造人間21号を吸収してあの姿になったんですよ!」

孫悟空

「それ確か!」

ベジータ

「今更、魔人ブウにジャネンバとは笑わせるぜ!」

孫悟空

「おいベジータ!」

あれはポタラじゃないのか?」

ベジータ

「なんだと?」

魔人ブウ（純粋）とジャネンバはポタラにより、ジャネンブウに合体した

孫悟飯

「魔人ブウとジャネンバが合体した!」

ベジータ

「ダークマター貴様、何故ポタラを？」

ダークマター

「これはポタラではない！」

スーパーポタラだ！」

孫悟空

「スーパーポタラ？」

ダークマター

「スーパーポタラは通常ポタラと違って

人間でも永遠に合体を維持できるアイテムだ！

そして、ジャネンブウは我の器だ！

ジャネンバとひとつに戻る時が来たようだ！」

ダークマターは球体ごとジャネンバブウの中に入っていく。

ダークマターが入ったことでジャネンブウの姿が黒くなった。

ダークジャネンブウ

「どうやら、上手く入れたようだ！」

ジャネンバはダークマターであり、ダークマターはジャネンバでもある！

あるべき姿に戻った!

そして、魔人ブウの能力も手に入れた最強の魔人であり魔神でもある!」

第118話 『死神様とダークマター！』

あらすじ

「ジャネンブウと1つとなったダークマター。

永遠の命と空間飛ばしを持つダークマターに

果たして悟空達は勝てるのか？」

——惑星ダーク——

ダークジャネンブウ

「お前たちから私に相応しい相手を選抜してやる！」

ベジータ

「なーに？」

ダークジャネンバは強烈な光を放つ

ベジータ

「何が起きた？」

な、なんだと？」

孫悟空

「みんな石になってんぞ!」

孫悟飯

「ダーブラの石化に似ている!」

周りを見ると、ピッコロ、17号、18号、キャベ、カリフラ、ケールが石化していた

ヒット

「はあはあはあ!」

危ないところだった!」

ダークジャネンブウ

「時飛ばしで回避したか!」

孫悟空

「ブウ、ヒットを回復してやってくれ!」

魔人ブウ(善)

「OK!」

魔人ブウ(善)はヒットを回復させる

ダークジャネンブウ

「魔人が人助けか笑わせらる!」

魔人ブウ（善）

「ん？お前嫌い、ブウお前倒す！」

ダークジヤネンブウ

「雑魚が！」

我に勝てると思ったか！

魔人ブウ（善）

「ぎゃあああああああああ！」

魔人ブウ（善）は倒れてしまう

孫悟飯

「ダークマターのパワーが格段と上がっている！」

孫悟空

「神封じの呪いが無ければ、スーパーサイヤ人ゴッドを使えるんだけどな！」

ベジータ

「クソツタレが！」

ジレン

「お前たち、さっきの合体またできないのか？」

孫悟空

「フュージョンか、無理だ！」

合体にはフュージョンポーズを取らないといけない！」

さつきは誰の邪魔がなかったからフュージョンできたが、今回は！」

ベジータ

「オレはあんなみつともないポーズはしたくない！」

孫悟飯

「フュージョンポーズカッコイイじゃないですか！」

ベジータ

「どこがだ！」

カッコイイと思うならお前がカカロットとフュージョンしやがれ！」

孫悟飯

「そうか、ボクがお父さんとフュージョン！」

ダークジャネンブウ

「お前たちに合体などさせせん！」

例え我が99%勝ち目があるとな！」

ダークジャネンブウは、悟空、悟飯、ベジータ、ヒット、ジレンを吹き飛ばす

孫悟空

「このままだと勝ち目がない！」

ベジータ

「おのれ！」

悟空とベジータはスーパーサイヤ人3が解けてノーマル状態になる

孫悟飯

「お父さんたちのスーパーサイヤ人が解けた！」

ダークジャネンブウ

「これで終わりだ！波——！」

ダークジャネンブウは悟空達にトドメをさそうとする

ダークジャネンブウ

「これで邪魔者が消えた！」

ん？お、お前は？」

孫悟空

「あ、あれ？オラ達助かったんか？」

ん？アンタは？」

孫悟飯

「死神様、どうしてここに？」

ベジータ

「どういう事だ！」

宇宙から神が消えたんじゃないのか？」

死神様

「確かに全王様が倒れた今、宇宙から神が居なくなつた！」

だが、私にはダークマターの神封じの呪いは効かない！」

そうだろ？ダークマターいやマシラウ？」

ダークジャネンブウ

「マシラウか！フハハハハ！」

懐かしい名前だな！ウロタモモよ！

確かに我はお前の兄をベースにジャネンバとしてダークマターとして覚醒した！」

今の我はマシラウではない！」

我は魔人であり魔神ダークマターである！」

死神様

「ああ！ダークマター貴様は兄貴ではない！」

だが、兄貴をベースに生まれたのなら弟としてケジメをつけに来た！」

ダークジャネンブウ

「ほう！我を本気で倒せると思っているのか？

面白い！かかってこい！」

死神様

「はぁー！」

孫悟空

「すげえー気だ！だが！」

死神様とダークジャネンブウとの戦いが始まるもやはり、力の差は歴然だった

死神様

「やはり、勝てんか！

だが！」

ダークジャネンブウ

「貴様、我の空間飛ばしを封じたな！」

死神様

「孫悟空、ベジータ、コレを？」

孫悟空

「これは、ポタラ？」

死神様

「いやスーパーポタラだ！」

それでベジットとなり、ダークマターを倒して…く…れ！」

死神様は力を使い果たし死す

孫悟空

「ベジータ！」

ベジータ

「何も言うな！」

悟空とベジータはスーパーポタラを使いベジットに合体

ベジット

「死神様、後はオレたちに任せてくれ！」

第119話『ベジットVSダークジャネンブウ(前編)！』

あらすじ

「なんと死神様とダークマターは元兄弟であった。

そして、ダークマターの空間飛ばしを封じる事に成功するも
悟空達にスーパーポタラを託し、死神様は倒れるのだった。」

——惑星ダーク最深部——

ダークジャネンブウ

「言ったはずだ合体しようが無駄だ！」

ベジット

「やってみないとわからないだろ！」

はあ——！」

ベジットはスーパーサイヤ人ブルー変身

孫悟飯

「お父さん、ベジータさんそれは？」

ベジット

「悟飯、まあ、黙って見ててくれ!」

ダークジャネンブウ

「神の技を使うとは身の程知らずが!」

ベジットはダークジャネンブウに攻撃する

ダークジャネンブウ

「馬鹿め!」

「これで貴様も神封じの呪いを?なに?」

ベジット

「神封じの呪い?何のことだ?」

ダークジャネンブウ

「馬鹿な?神封じの呪いを仕掛けたはずだ!」

ベジットは再びダークジャネンブウに攻撃する

ダークジャネンブウ

「どうなっている!」

奴はゴッドになつたはず!

なぜ、神封じの呪いを受けない!」

ベジット

「ファイナルかめはめ波ー！」

ダークジャネンブウは体が粉々になる

ベジット

「当然、再生能力はあるか！」

その回復能力は魔人ブウの物か？

それとも永遠の命による回復か？」

ダークジャネンブウ

「どっちだと思うー！」

ベジット

「20倍界王拳！」

ベジットはダークジャネンブウに攻撃を続ける

ダークジャネンブウ

「我は不死身だ！」

それと、貴様に神封じの呪いを受けないカラクリがわかった！」

ベジット

「なに？」

ダークジャネンブウ

「今度は神封じの呪いを仕掛けてやる！」

ベジット

「そうか！はあー！」

ベジットはダークジャネンブウに攻撃を仕掛けが、突然ベジットは攻撃を辞めた
ベジット

（ん？オレが後ろに下がった？）

ダークジャネンブウ

「ほう！神封じの呪いを交わしたか！

感の良い奴だな！」

ベジット

「なに？」

ダークジャネンブウ

「さつきも言ったはずだ！

貴様のカラクリがわかったと！

自分に神封じの呪いの鎧を纏ったのだ！

あのまま攻撃していれば確実に神封じの呪いを受けていた！」

ベジット

「そうか、やつぱり見破ったか！」

孫悟飯

「いったい何が？」

ヒット

「孫悟空の息子よ、

アイツらはダークマターに攻撃と同時にブルーを解き神封じの呪いを交し、
再びブルーに変身しては攻撃して変身を解いてを繰り返しながら戦っていたのだ！」

ジレン

「器用なヤツらめ！」

ヒット

「だが、それを見抜いたダークマターは

自分の体に神封じの呪いの鎧を纏った！」

孫悟飯

「それじゃ、お父さん達のブルーはもうダークマターに効かないんじや？」

ヒット

「そういう事だ！」

——地球の神様の神殿——

神龍

「さあ、願いを言うが良い！」

「どんな願いも可能な限り3つ叶えてやろう！」

ミスターポポ

「ピッコロがピッコロ大魔王に戻った頃から

ダークマター絡んだ事件によって死んだ者達を悪人を除き生き返らせて欲しい！」

神龍

「容易い事だ！」

神龍は、魔族3勢力、悪のサイヤ人ターレス等によって殺された人達を生き返らせる

——あの世の閻魔界——

死神様

「どうやら、ドラゴンボールで死者が蘇ったようだな！」

閻魔よ、私は死人でありながらあの世の掟を破り今から再びこの世に行く！

だから、戻った時はあの時言ったように私を〇〇に送れ！」

閻魔大王

「何故ですか？」

死神様

「今のダークマターを生み出したのは私に責任がある！」

「これ以外に理由があるか？」

——惑星ダーク最深处——

ベジット

「ブルーが無理なら、はあー！！」

ベジットはスーパーサイヤ人ブルーを解き、スーパーサイヤ人3に変身する
ベジット

「今のオレはこれが限界だ！」

だが、単体戦士のスーパーサイヤ人4を超えたはずだ！」

ダークジャネンブウ

「どんな変身をしようが無駄だ！」

ベジット

「それはどうかかな？」

ベジットはダークジャネンブウに攻撃する

ダークジャネンブウ

「なんだと？」

ダークジャネンブウにダメージが入る

ベジット

「お前は神の力に怯えるあまり、サイヤ人の事を何もわかっていない!

単体のスーパーサイヤ人3とは比べ物にならない強さになっている!

スーパーサイヤ人ブルーに匹敵する力があるはずだ!

ダークジャネンブウ

「やはり、サイヤ人は危険な種族だな!」

第120話『ベジットVSダークジャネンブウ（後編）！』 最終回

あらすじ

「ベジットとダークマターの戦いが続く中、

地球ではドラゴンボールにより、死者が蘇っていた。

果たしてダークマターをたおせるのか？」

——惑星ダーク最深部——

ベジット

「永遠の命があろうとダメージは受ける！」

なら、回復しきれないダメージを受ければお前も死ぬはずだ！」

ダークジャネンブウ

「そんなに上手くいくかな！」

確かにパワーだけならお前が上だろう！

空間飛ばしを封じられ不利なように見えるかもしれないが我は

今の間も全宇宙から悪のエネルギーと負のエネルギーを吸収している！」

ベジット

「確かにパワーアップしているな！」

「なら、一気にカタをつけてやる！」

「20倍界王拳のファイナルかめはめ波ー！」

スーパーサイヤ人3に20倍界王拳を上乗せしたファイナルかめはめ波をダークジャネンブウに放つ

ベジット

「はあはあはあ、どうやらパワーを使い果たし変身が解けてしまったようだ！」

ベジットはノーマル状態に戻る

ダークジャネンブウ

「危なかったぞ！」

「5分前の我なら倒されていただろう！」

「だが残念だったな！」

ベジット

「なんだと？万事休すか？」

デンデ

「悟空さん、ベジータさん聞こえますか？」

デンデがテレパシーでベジット達に会話

※ダークジャネンブウには聞こえてません

ベジット

「ああ、聞こえている！」

デンデ

「合体した状態で孫悟空さんの元気玉は可能ですか？」

ベジット

「多分、できるはずだ」

孫悟飯

「ボクたちが時間を稼ぎます！」

ヒットさん、ジレンさんお願いします！」

ベジット

「聞いていたのか！」

ダークジャネンブウ

「なんだ？ 作戦会議か？」

孫悟飯

「ダークマター、ボクたちが相手だ！」

悟飯、ヒット、ジレンは時間稼ぎの為、
ベジット
ダークジャネンブウに挑む

「宇宙の皆、オレたちに限界近くまで元気をわけてくれ！」

—— 第7宇宙地球 ——

デンデ

「悟空さん、ベジータさんお願いします！」

天津飯

「孫オレたちの力を使ってくれ！」

—— 第7宇宙ナメック星 ——

ムーリ最長老

「私たちのパワーを使いなされ！」

—— 第6宇宙ナメック星 ——

サオネル

「この気は第7宇宙の？」

ピリナ

「オレたちの力を使うが良い！」

—— 第11宇宙 ——

デイスポ

「どうやら、ジレン達は苦戦しているようだな！」

オレたちのパワーを控え！」

ベジットは様々な宇宙から元気を集める

——惑星ダーク最深部——

孫悟飯

「お父さん達の邪魔はさせない！」

ダークジャネンブウ

「邪魔だ！波——！」

孫悟飯

「アナタは？」

ダークジャネンブウ

「お前は死んだはずだ！」

死神様

「あの世から時間稼ぎに来た！」

ダークジャネンブウ

「雑魚の分際で！」

もう一度死ねー!」

ダークジャネンブウが攻撃を繰り返そうとした時、謎の攻撃を受ける
ダークジャネンブウ

「今度はなんだ? お前は?」

魔人ブウ（善）

「お前危険!」

お前ブウが倒す!」

魔人ブウ（善）はシェイプアップの姿をしている

ダークジャネンブウ

「どいつもこいつも邪魔しやがって! くたばれー!」

孫悟飯

「強い、だけど!」

ダメージが少ない!」

ダークジャネンブウ

「死神、皆にバリアをして死なせないようにしてるな!

無駄な事を!」

死神様

「時間稼ぎにはなるはずだ！

それに元氣玉は完成した頃だ！」

ベジット

「皆、待たせたな！」

超特大元氣玉の完成だ！

喰らえー！」

ベジットは元氣玉を放つ

ダークジャネンブウ

「なんだ！こんな物！」

しまった、我は悪その者、我が溶けていく！

おのれ、永遠の命が発動しないだとー！！」

死神様

「悪いがお前の永遠の命は私が没収した！」

ダークジャネンブウ

「なんだと？」

死神様

「私は死神だ！死を操る神！」

永遠の命を与えたり回収したり可能だ！」

ダークジャネンブウ

「おのれーおのれー！」

だが、私が私がオレが死のうが悪の化身ダークマターは不滅だー！」

ダークマターは元氣玉に浄化され消滅

全王様（現在）

「ぐっすり寝てたのね？」

全王様（未来）

「ぐっすり寝てたのね？」

2人の全王様

「帰るのねー！」

ダークマターが倒された事で全ての神が目覚め、石化した仲間も復活。ダークマターを倒したベジット達はそれぞれの宇宙に戻ったのだった。

そして、死神様はあの世に戻り大地獄に行き、ダークマターも大地獄に行ったのであった。

——あの世の大地獄——

マシラウ

「地獄には私しか居ないと思つたが！」

ウロタモモ（二元死神様）

「兄貴一人だけにしたくなかつた！」

マシラウ

「すまなかつた！」

ウロタモモ

「兄貴？」

マシラウ

「私は愚かだつた！」

だが、また次のダークマターがいつか現れる！」

ウロタモモ

「その時は下界の人間がなんとかするだろう！」

——トキトキ都——

時の界王神

「これでダークマターの戦いも終わったね！」

悟空くん達からスーパーサイヤ人4や邪悪龍に関しての記憶も消さないとね！

あと、悟飯君には悪いけど悟飯ビーストは、

セルマックスが出現まで変身できないように術を掛けないとね!

歴史修正作業のやるが多すぎるよ!」

——地球の神様の神殿——

ベジット

「神龍、オレ達を元の2人に戻してくれー!」

神龍

「容易い事だ!」

ベジータ

「やっと思えたぜ!」

孫悟空

「ああ!」

ベジータ

「ところでなんでオレたちはベジットに合体してたんだ?」

孫悟空

「オラ全然覚えてないぞ!」